

REGZA

地上・BS・110度CS

デジタルハイビジョン液晶テレビ

形名 43J10X／49J10X／55J10X



ルームトウシバ

お客様登録サービス「Room1048」に登録をお願いします!

Room1048は東芝デジタル商品のお客様登録サービス※です。

ご登録いただくと、さまざまなサービスやサポートが受けられます。

※お客様登録は、Web限定のサービスです。

※キャンペーン情報も
こちらをご覧ください。

>>>ご登録はこちらから!<<<

<http://toshibadirect.jp/room1048/>

：必ず最初に「安全上のご注意」**10**をご覧ください。

：映像や音声が出なくなった、操作ができなくなったなどの場合は、「困ったときは」をご覧ください。

このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

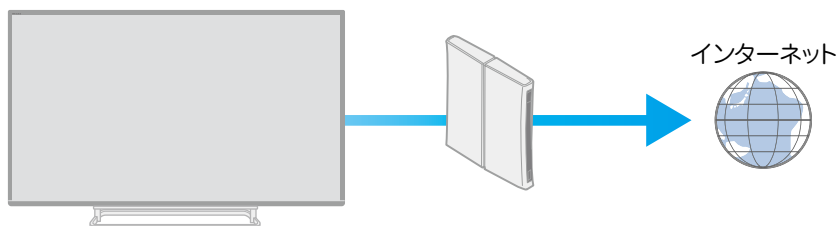
お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。

お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

本機の特長 ～こんなことができます～

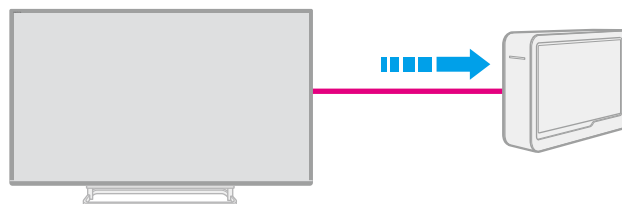
★ クラウドサービスを楽しむ → 136～144 ページ

ネットワークを使って番組情報を友人と交換したり、お好みの動画やショッピングを楽しんだりすることができます。



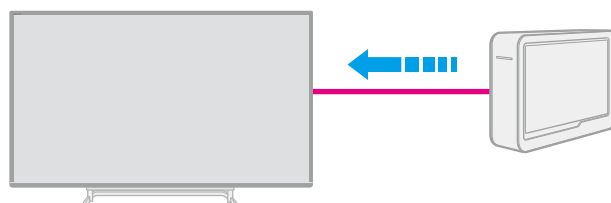
★ 録画する → 70～81 ページ

市販のUSBハードディスクにデジタル放送の録画・予約ができます。



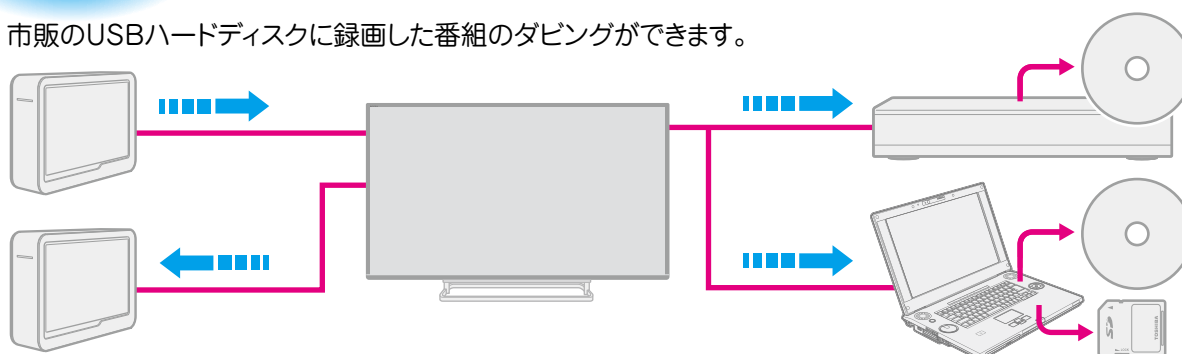
★ 見る ⇄ 82～88 ページ

市販のUSBハードディスクに録画した番組の再生ができます。



★ 残す(ダビングする) → 92～95 ページ

市販のUSBハードディスクに録画した番組のダビングができます。



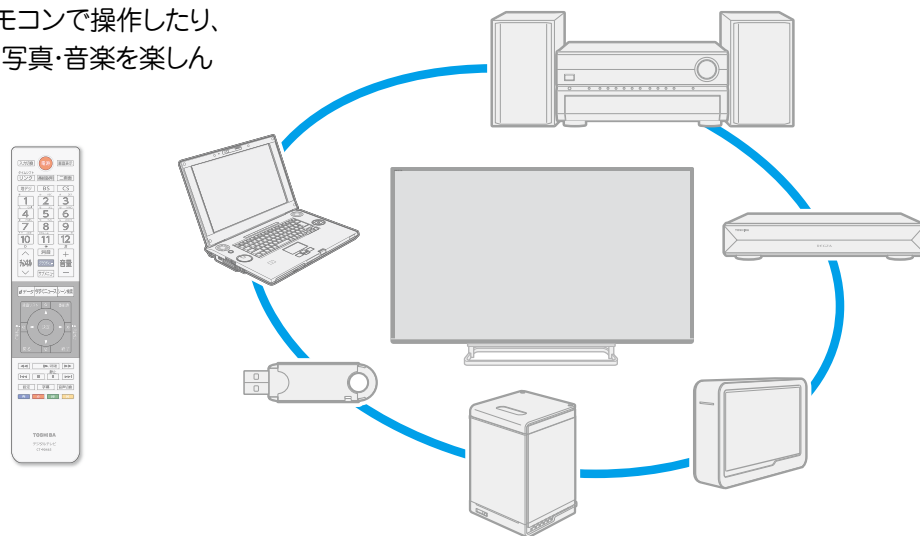
★ 4K画質を楽しむ

フルHD映像を4Kパネルと4K高画質化機能で、よりきれいな画質で楽しむことができます。市販の4K画質対応機器※を接続して、より高精細な映像・画質を楽しむことができます。

※ すべての4K画質対応機器を接続して視聴できることを保証するものではありません。

★ 接続機器の映像・音声を楽しむ(レグザリンク)

HDMI連動機器を本機のリモコンで操作したり、接続機器の録画番組・動画・写真・音楽を楽しんだりすることができます。



★ タイムシフトリンク機能で楽しむ → 110 ページ

タイムシフトリンク機能を使うと、ネットワーク接続した別の部屋のテレビのタイムシフトマシンの番組も再生して楽しむことができます。

※ タイムシフトリンク機能を使用するには、同一ネットワーク上にホームサーバー機能が搭載されている他のタイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーや東芝レグザを接続する必要があります。

★ アラーム、オフタイマー機能 53 ☞ ~ 54 ☞

- アラーム機能では、設定した日時にお知らせをしたり、オフタイマーでは、設定した時間後に電源を「切」にしたりできます。

★ 多彩な映像メニュー

- 周囲の明るさと見ている映像に合わせて、常に見やすい画質で表示される「おまかせ」のほかに、周囲の環境や映像に合わせて選択できる「あざやか」、「標準」、「ライブプロ」、「映画プロ」、「ゲーム」、「モニターD93」などの多彩な映像メニューが用意されています。145 ☞
- お好みに合わせて調整することもできます。145 ☞ ~ 154 ☞

★ 節電機能

- 「節電1」、「節電2」の二つの節電モードが用意されています。

ご使用の前に

付属品を確認する	9
安全上のご注意	10
使用上のお願いとご注意	15
取扱いについて	15
電源プラグをコンセントから抜く際のご注意	15
録画・録音について	15
本機の無線LANを使う際のお願い	16
無線LAN製品ご使用におけるセキュリティに関するご注意	17

3Dコンテンツの2D表示について	17
4K映像の表示について	17
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき	17
免責事項について	17
各部のなまえ	18
前面	18
背面	18
本体操作ボタンと入出力端子	19
リモコン	20

テレビを見る

準備をする

21

スタンドを取り付ける	21
テレビを設置する	22
正しい置きかた	22
転倒・落下防止のしかた	22
miniB-CAS (ミニビーカス) カードを挿入する	24
同梱のminiB-CASカードについて	24
挿入のしかた	24
取り出しかた	24
デジタル放送の種類と特徴	25
アンテナを接続する	25
お願いとご注意	25
地上放送と衛星放送が個別のアンテナの場合	26
地上放送と衛星放送が混合のアンテナの場合 (マンションの共聴アンテナなど)	26
録画機器を経由する場合	26
リモコンの準備をする	27
乾電池を入れる	27
リモコンコードについて	27
リモコンの使用範囲について	27
電源を入れる	28
電源を入れる	28
電源を「待機」にする／切る	28
お願い…電源プラグの取扱いについて	28
メニュー操作手順の表記について	28
「はじめての設定」をする	29
「はじめての設定」について	29
「はじめての設定」の流れ	29
① 地上デジタルチャンネル～③映像メニューの設定をする	29
④ ネットワーク設定	29
⑤ ネットワークサービス利用設定	32
「はじめての設定」をやり直すとき	32
地デジ難視対策衛星放送を受信する場合	32

テレビを楽しむ

33

テレビ番組を楽しむ	33
リモコンで番組を選ぶ	33
本体の「機能切換」ボタンについて	34
音量を調節する／音を一時的に消す／字幕を表示させる	34
本体の「機能切換」ボタンについて	34
操作ガイドについて	35
サブメニューについて	36
番組情報や番組説明を見る	37
番組情報を見る	37
番組説明を見る	37
番組表で番組を探す	38
番組表を使う	38
番組を見ながら他の番組を探す (ミニ番組表)	39
番組表を便利に使う	39
条件を絞って番組を探す	42
データ放送やラジオ放送を楽しむ	44
連動データ放送を楽しむ	44
独立データ放送やラジオ放送を楽しむ	44
「もっとTV」で番組を楽しむ	45
「もっとTV」の利用に必要な準備	45
「もっとTV」を起動する	45
シーン検索機能について	45
シーン検索機能の利用に必要な準備	45
外部入力の画面に切り換える	46
二画面で楽しむ	47
便利な機能を使う	48
画面サイズについて	48
画面サイズを切り換える	50
画面の位置や幅を調整する	50
降雨対応放送について	50
他の映像・音声・データを切り換える	50
映像を静止させる	51

映像の詳細情報を表示させる	51
3D2D変換確認表示の設定をする	51
節電モードを切り換える	52
ヘッドホーンで聴く	52
外部スピーカーで聴く	53
デモンストレーションを見る	53

デカ文字時計を表示する	53
アラームを使う	53
アラームの動作について	54
アラームを一時的に解除する	54
オフタイマーを使う	54
文字を入力する	55

録画機器やネットワーク機器の準備をする

録画機器の準備をする 56

録画・予約機能について	56
録画できる機器と番組	56
接続・設定と録画前の準備	56
録画用USBハードディスクの接続をする	57
USBハードディスクを接続する	57
USBハードディスクの設定をする	58
USBハードディスクを本機に登録する	58
USBハードディスクの設定をする	58
録画の基本的な設定をする	60
録画に使用する機器を設定する	60
チャプター分割のしかたを設定する	60
「今すぐニュース」の機能を使うための設定をする	60

録画機器やネットワーク機器の準備をする 62

レグザリンクダビングの接続・設定をする	62
東芝レコーダーと本機を接続する	62
東芝レコーダーと本機を設定する	62

ホームネットワーク機器の準備をする 64

ホームネットワークについて	64
ホームネットワークの接続をする	65
機器を接続する	65
機器のネットワーク設定を確認する	65
ホームネットワークの設定をする	66
LANハードディスクを本機に登録する	66
接続機器から本機を操作するための設定をする ～外部連携機能～	67
接続機器と本機の相互間で起動するための設定をする ～リモート電源オン機能～	69

録画・予約をする

見ている番組を録画する	70
番組表で予約をする	71
メッセージが表示された場合	71
マルチ表示の番組表で予約するとき	71
連続ドラマを予約する	72
日時を指定して予約をする／番組を検索して録画・予約をする	73
日時を指定して予約をする	73
番組を検索して録画・予約をする	73
携帯電話やパソコンから録画予約できるように設定する	74
基本設定	74
Eメール録画予約機能	75
録画先	75
メール予約パスワード	75

予約設定結果通知	75
指定メールアドレス	75
予約アドレス登録	75
確認テスト	75
携帯電話やパソコンから録画予約をする	76
Eメールを作成し、送信する	76
返信メールを確認する	76
録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき	78
予約の確認・変更・取消しをする	79
予約・録画の優先順位と予約の動作について	80
予約・録画の優先順位について	80
予約の動作について	80
おまかせ録画	81
おまかせ録画に必要な準備	81
おまかせ録画について	81

再生・編集・ダビングをする

再生する 82

録画した番組を再生する	82
再生の基本操作とさまざまな再生のしかた	82
録画番組の再生中にできるリモコン操作	83
録画番組の情報や番組説明を見る	84
録画番組を修復する	84
タグリストについて	84

見たい録画番組を探して再生する	85
今すぐニュース ～ニュースを見る～	86
不要な録画番組を消す／誤って消さないように保護する	87
一つの録画番組を消す	87
複数の録画番組を消す	87
グループ内の録画番組をすべて消す	87

自動的に消す(自動削除設定)	87
誤って消さないように保護する	87
録画リストのさまざまな機能を使う	88
繰返し再生の設定を変える	88
番組を並べ替える	88
ほかの機器を選択する	88
連ドラ予約をする	88
機器の情報を確認する	88
ハードディスクの残量を確認する	88
編集・ダビングする	89
チャプター編集をする	89
録画リストから番組を選んで編集する	89

接続機器の映像・音声を楽しむ

外部機器を接続する	96
外部機器を接続する	96
映像機器接続例	96
アナログ音声入力端子付のオーディオ機器で 聴くとき	97
デジタル音声(光)端子付のオーディオ機器で 聴くとき	98
レグザリンク対応のオーディオ機器で聴く とき	98
外部入力の機能を設定する	99
外部入力設定メニューで設定する	99
HDMIモードを変更する	100
SDメモリーカードやUSB機器を接続する	101
機器の接続時に操作メニューが表示される ようにする	101
MHL対応機器を操作する	102
MHL連動機器の設定をする	102
MHL連動機器を操作する	102
接続機器の映像・音声を楽しむ(レグザリンク)	103
レグザリンクについて	103
レグザリンク機能でできること	103
HDMI連動機能について	104
本機のリモコンでHDMI連動機器を操作する ための設定をする	105
本機のリモコンで対応機器を操作する	106
機器を操作する	106
本機のリモコンでできるおもな操作	108
オーディオ機器で聴く	109
オーディオ機器のスピーカーで聴く	109
オーディオ機器の音声を設定する	109
タイムシフトリンク機能を使う	110
機器を接続する	110
タイムシフトリンク機能を使う設定をする	111
タイムシフトリンクメニューを 表示する(基本操作)	111

録画済番組の再生中に編集する	90
グループ名を変更する	90
ほかのグループに移動する	91
録画番組を他の録画機器にダビングする	92
東芝レコーダーにダビングしてディスクに 保存する	93
ネットワーク接続でダビングする	93
ブルーレイディスクに手間なくダビングする	93
東芝PCにダビングしてブルーレイディスク やSDメモリーカードに保存する	95
準備	95
ダビングの操作	95

タイムシフトマシン録画番組を見る	111
番組情報やタイムバーを表示させる	114
タイムシフトマシン再生中にできるリモコン の基本操作	114
タイムシフトマシン録画番組をざんまいス マートアクセスで楽しむ	115
始めにジャンプを使う	118
機器操作を使う	118
システムをメンテナンスする	118
おすすめ履歴を初期化する	118
動画を再生する	119
動画再生の操作	119
動画再生時にできるリモコン操作	120
動画の再生方法を設定する	120
時間を指定して再生する(タイムサーチ)	120
動画を並べ替える	120
機器を選び直す	120
動画再生リストの操作ガイドについて	120
写真を再生する	121
写真再生の操作	121
マルチ表示画面の表示モードを切り換える	122
再生を繰り返す	122
スライドショーの表示間隔を設定する	122
マルチ表示画面の写真の並び順を変える	123
機器を選び直す	123
音楽を再生する	124
音楽再生の操作	124
音楽再生時にできるリモコン操作	125
音楽の再生方法を設定する	125
機器を選び直す	125
スカパー！プレミアムサービスLink(録画) の番組を再生する	126
基本操作	126
視聴制限について	126
ネットワークメディアコントローラーで操 作する	127

インターネットを楽しむ

インターネットに接続する 128

インターネットを利用するための接続をする	128
本機をインターネットに接続したときにできること	128
接続のしかた(有線LANの場合)	128
インターネットを利用するための設定をする	129
かんたんネットワーク設定	129
接続タイプ	131
無線LAN設定	131
IPアドレス設定	132
DNS設定	133
プロキシ設定	133
MACアドレス	133
接続テスト	133
ネットワーク情報	133
ネットワークサービスを利用するための設定をする	133
IPTVの設定をする(ひかりTVの設定)	135

ネットワーク設定	135
サービスプロバイダー選択	135
基本登録	135
IPTVスキャン	135
接続テスト	135
システム情報	135

クラウドサービス・ネットワークサービスを楽しむ 136

クラウドサービスとネットワークサービスについて	136
クラウドサービスやネットワークサービスに必要な準備	136
クラウドサービスの基本操作	136
家電コンシェルジュサービスについて	137

ネットサービスを楽しむ 138

「インターネット」で情報を見る	138
基本操作	138
便利機能を使う	139
その他のネットサービス	144

映像・音声を調整する

映像を調整する 145

お好みの映像メニューを選ぶ	145
お好みの映像に調整する	145
明るさ調整	146
バックライト	146
黒レベル	146
色の濃さ	146
色あい	146
精細感・ノイズ調整	146
コントラスト感調整	148
色詳細調整	150
プロ調整	151

お好み調整の初期化／映像調整の初期化	152
その他の映像設定	152
テレビの電源ランプを消灯する	154

音声を調整する 154

お好みの音声メニューを選ぶ	154
お好みの音声に調整する	155
イコライザー	155
サラウンド	155
低音強調	155
お好み調整の初期化／音声調整の初期化	155
その他の音声調整・設定	155

調整・設定をする

アンテナを調整する	158
電波の強さ(信号強度)を確認する	158
アンテナを調整する	158
BS・110度CS用アンテナの電源供給の設定を変更する	158
チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき	159
地上デジタルチャンネルを自動で設定する	159
チャンネルをお好みに手動で設定する	160
視聴しないチャンネルをスキップする	161
チャンネル設定を最初の状態に戻すには	161
データ放送の設定をする	162
郵便番号と地域を設定する	162
災害発生時に文字情報を表示させる	162
ルート証明書の番号を確認する	162

データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら	163
視聴できる番組を制限する	164
制限するために暗証番号を設定する	164
番組の視聴を制限する	164
インターネットの利用を制限する	165
リモコンの設定を変更する	166
2台のREGZAをそれぞれのリモコンで操作する	166
使わない放送選択ボタンの操作を無効にする	166
BS・CSワンタッチ選局ボタン付リモコンで選局できるようにする	166
お買い上げ時の設定に戻すには(設定内容を初期化するには)	167
設定メニュー 一覧	168

困ったときは

こんな場合は故障ではありません 170

症状で調べる 170

症状に合わせて解決法を調べる 170

テレビが操作できなくなったとき—テレビを

リセットする 170

操作 171

映像 171

音声 172

地上デジタル放送 172

BS・110度CSデジタル放送 173

番組表 173

お知らせアイコン  が消えない 173

録画・再生 173

レグザリンク機能(HDMI連動) 175

クラウドサービスやネットワークサービスが

利用できない 176

エラーメッセージが表示されたとき 178

全般 178

USBハードディスクに関するエラー表示 179

東芝レコーダーに録画・予約をするときの

エラー表示 179

LAN端子を使った通信に関するエラー表示 180

ホームネットワークに関するエラー表示 180

インターネットに関するエラー表示 181

その他

ソフトウェアを更新する 182

ソフトウェアの更新機能について 182

放送電波で送信されるソフトウェアを

自動ダウンロードする 182

東芝サーバーからダウンロードする 182

ソフトウェアのバージョンを確認するには 182

お知らせを見る 183

miniB-CASカード情報を確認する 183

お手入れについて 184

お手入れの際のご注意 184

キャビネットと画面のお手入れ 184

Basic Operations 185

仕様 187

ライセンスおよび商標などについて 189

対応フォーマット 190

本機で対応しているHDMI入力信号フォー

マット 190

本機で再生できる動画のフォーマット 190

本機で再生できる写真(静止画ファイル)の

フォーマット 191

本機で再生できる音楽のフォーマット 191

アイコン一覧 192

番組についてのアイコン 192

お知らせ、予約、その他についてのアイコン 192

資料

東芝デジタルテレビJ10Xで使われるソフト

ウェアのライセンス情報 193

さくいん 200

この取扱説明書内のマークの見かた



機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。



用語の説明をしています。(分野によっては、同じ用語を別の意味で使用していることがあります)



関連する内容が記載されているページの番号を示しています。



取扱上のお願いを記載しています。



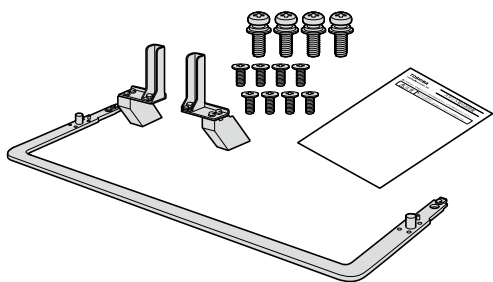
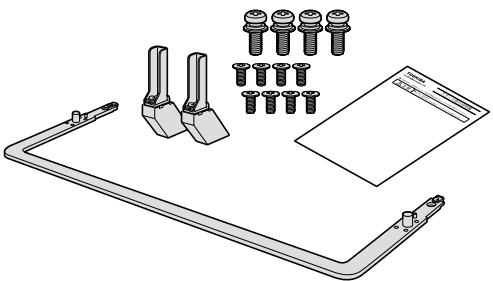
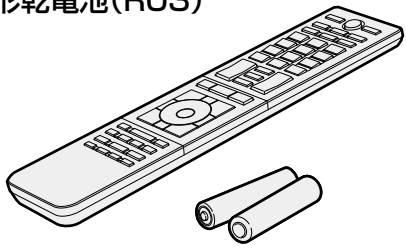
取扱上のご注意を記載しています。

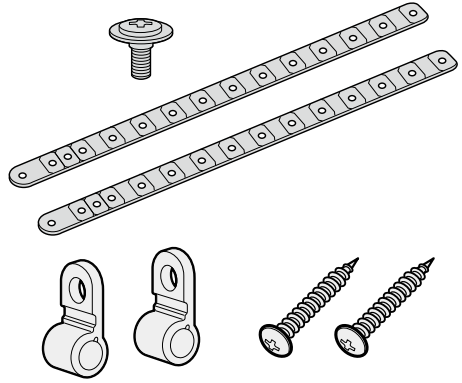
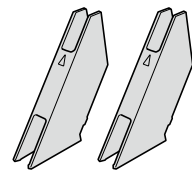


● この取扱説明書は、43J10X、49J10X、55J10Xで共用です。記載しているイラストは49J10Xのもので、他の機種はイメージが多少異なります。

付属品を確認する

- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- アンテナや外部機器などに接続するためのケーブルやコード、器具・機器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

付属品/名称	付属数
スタンド ● テレビ本体に取り付けます。  21 43J10X、49J10X  55J10X 	1 式 (ネジ12本*)
* 付属のネジは以下になります。 皿ネジ M4 小ねじ、長さ 14mm (8 本) ワッシャー付き M5 小ねじ、長さ 14mm (4 本)	
リモコン(CT-90463) 単四形乾電池(R03) 	リモコン 1 個 乾電池 2 個

付属品/名称	付属数
ネジ (短)、転倒防止用バンド、ネジ (長)、クリップ ● テレビの転倒・落下防止に使用します。  22 	ネジ (短) 1 本 転倒防止 バンド 2 本 ネジ (長) 2 本 クリップ 2 個
ケーブルカバー ● 電源コードや接続ケーブルをまとめるときに使用します。  23 	2 個
miniB-CAS (ミニビーカス) カード ● miniB-CASカードはテレビ本体の背面に貼付された袋の中にあります。テレビ本体に挿入します。  24	1 枚
取扱説明書(本書) かんたんガイド ファーストステップガイド 「お客様登録サービス」のチラシ	各 1 部

※ 付属品紛失の際は弊社部品をお求めください。

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表 示	表示の意味
 警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷を負うことが想定されること”を示します。 ^{*1}
 注意	“取扱いを誤った場合、人が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定されること”を示します。 ^{*2} ^{*3}

* 1： 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。

* 2： 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

* 3： 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

図記号	図記号の意味
 禁 止	“⊘”は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指 示	“●”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注 意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。



異常や故障のとき

- 煙が出ている、変なおいが出るときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

- 内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

- 落したり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したまま取り扱っていると、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

警告

異常や故障のとき つづき

- 電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

- 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する



指 示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

- 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない



風呂、シャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

- ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない



禁 止

テレビが落ちて、けがの原因となります。

水平で安定したところに据え付けてください。

テレビ台を使用するときは、その取扱説明書もよくお読みください。

- 振動のある場所に置かない



振動禁止

振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

- 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む



指 示

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- 上に物を置いたり、ペットをのせたりしない



上載せ禁止

- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体、ペットの尿・体毛などが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。

- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

- 壁に取り付けて使用する場合、壁掛工事は、お買い上げの販売店に依頼する



指 示

工事が不完全だと、けがの原因となります。

- 転倒・落下防止の処置をする



指 示

転倒・落下防止の処置をしないと、テレビの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなります。

転倒防止のしかたは「[22](#)」をご覧ください。

- miniB-CASカードを乳幼児の手の届く所に置かない



放置禁止

- 誤って飲み込むと窒息またはけがのおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談ください。

- miniB-CASカードは、台紙(説明書)から取り出し、すみやかに本機のminiB-CASカード挿入口に挿入してください。「[24](#)」

使用するとき

- 修理・改造・分解はしない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。

内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

- 電源コード・電源プラグは、



禁 止

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり(熱器具に近づけるなど)しない

- 引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない

- 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない

火災・感電の原因となります。

安全上のご注意 つづき

警告

■ 異物を入れない



異物挿入禁止

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。特にお子様にはご注意ください。

■ 包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する



指 示

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

■ 雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線および本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない



禁 止

感電の原因となります。

お手入れについて

■ とくとき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する



指 示

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

注意

設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない



禁 止

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ 通風孔をふさがない



禁 止

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 壁に押しつけないでください。(10cm以上の間隔をあける)
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない



禁 止

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、



指 示

● 包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う

ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、テレビを落としてけがをしたりする原因となることがあります。

● 離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および転倒防止をはずす

はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。

● 車(キャスター)付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、キャスターの固定を解除し、テレビを支えながら、テレビ台を押し

テレビを押したり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。

● 衝撃を与えないように、ていねいに扱う

テレビが破損してけがの原因となることがあります。

■ 車(キャスター)付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する



指 示

固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。

畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずしないと、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

注意

使用するとき

■ テレビ台を使用するときは、



禁止

- 不安定な台を使わない
- 片寄った載せかたをしない
- テレビ台のトビラを開けたままにしない
- 耐荷重が本機の質量より軽いテレビ台を使わない

倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない



禁止

タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない



引っ張り禁止

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ テレビやテレビ台にぶら下ったり、上に乗ったりしない



禁止

落ちたり、倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ ヘッドホンやイヤホンを使用するときは、音量を上げすぎない



禁止

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ リモコンに使用している乾電池は、



禁止

- 指定以外の乾電池は使用しない
- 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない

- 火や直射日光などの過激な熱にさらさない
- 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない
- 長期間使用しないときは、乾電池をリモコンに入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない

これらを守らないと、液もれ・発熱・発火・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。

もれた液が目にはいたり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいたり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。

衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。

器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

■ 液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない



禁止

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。

もしも、ガラスが割れて液晶(液体)がもれたときは、液晶に触れないでください。

もれた液が目にはいたり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいたり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。

衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。

床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

安全上のご注意 つづき



■ テレビの周囲に薬品、芳香剤、消臭剤、化粧品、洗剤などを置かない



禁止

薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などの中には、プラスチックに付着すると劣化やひび割れを生じさせるものがあります。(詳しくは、下の「お知らせ」をご覧ください)

テレビのキャビネットやスタンド部分が破損すると、感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。

薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などがテレビに付着したときは、すぐにきれいにふき取ってください。

テレビのキャビネットやスタンド部分などにひび割れなどの破損が生じたときは、すぐにお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。



● 本機のキャビネット、スタンドなどにはプラスチックが多く使われています。薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などの中にはプラスチックに付着したままにしておくと、プラスチックの劣化・ひび割れ(ケミカルストレスクラック)の原因となる物もあります。

「ケミカルストレスクラック」とは、製品荷重などの応力が加わっているプラスチック部分に、薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などが付着すると、付着物がプラスチック内部に浸透して応力との相互作用でひび割れや破損が発生する現象です。こぼれたこれらの液体などが、製品底面のプラスチック部分と設置台のすき間にしみ込んだ場合でも、放置すると発生することがあります。

■ お手入れについて

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

感電の原因となることがあります。お手入れのしかたはの「184」をご覧ください。

(電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」「15」をお読みください)

■ 1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください



指示

本体の内部にほこりがたまったらそのまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。

特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

- 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動を与えないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。(番組情報を取得するためです)
- 畳の上に置かないでください。金属部が直接畳に触れていると、さびが出たり、畳表に穴があいてしまう可能性があります。
- 本機の近くにキャッシュカードなどの磁気カードやビデオテープなどを置かないでください。本機から出る磁気の影響でデータや録画内容などが損なわれる可能性があります。
- 本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。
- 外部入力(ビデオ入力、HDMI入力1~4)の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感を感じることがあります。
 - ・ ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
 - ・ 外部機器の音声を直接オーディオ機器に接続して視聴する場合

電源プラグをコンセントから抜く際のご注意

- 電源プラグをコンセントから抜いたり、コンセントの元につながっているブレーカーを落としたりする際は、以下の手順で行ってください。
- 1 本機に接続したUSBハードディスクで録画やダビングをしている場合は終了させる
 - 「予約の確認・変更・取消しをする」**[79]**の手順で確認してください。
 - 2 録画予約が設定されていないか確認する
 - 「予約の確認・変更・取消しをする」**[79]**の手順で、電源プラグを抜いている間に始まる予約がないか確認してください。電源プラグが抜かれていると、予約した番組は録画されません。
 - 3 本体の電源ボタンを押して電源を切る
 - 4 電源プラグをコンセントから抜く

録画・録音について

- 本機に接続した機器に録画・録音する際は、事前に試し録画・録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
 - 本機に接続した機器に録画・録音した内容の長期保存は保証できません。あくまでも一時的な保存・再生機能としてご使用ください。
 - 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は録画することはできません。また、著作権保護のため、1回だけ録画が許された番組は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。
 - あなたが録画・録音したものは、個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむ以外に、著作権法上、権利者に無断では使用できません。録画・録音したものを個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむ以外に権利者の許諾なく、複製・改変したり、インターネットなどで送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。以下の行為なども、原則として著作権法上保護された権利を侵害することになりますのでご注意ください。
 - ・ 録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。
 - ・ 録画した番組をメールやメッセージサービスなどで他人に送る。
 - ・ 番組を録画したビデオテープやディスクなどの媒体を営利の目的で、または不特定もしくは多数の人に貸す。
- 著作権法に違反すると刑事処罰を受ける場合もありますので自己責任のもとでご利用ください。なお、著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

使用上のお願いとご注意

つづき

本機の無線LANを使う際のお願い

- 本機は、日本国の電波法に基づく無線設備(無線LAN)を内蔵しています。
- 本機に搭載されている無線LAN設備は、日本国内専用です。海外で使用することはできません。
- 本機の無線LANが使用する周波数帯は2.4GHz帯と5GHz帯ですが、他の無線機器も同じ周波数を使用している場合があります。本機の内蔵無線LANを使用する際は、他の無線機器との間で電波干渉が発生しないように、以下の注意事項に留意してください。

本機の無線LANが使用する周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

無線LANを使用する場合は、以下をお読みください。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを、ご確認ください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに無線LANの使用を停止し、以下に記載の連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、以下の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：東芝テレビご相談センター

受付時間 365日 9:00～20:00

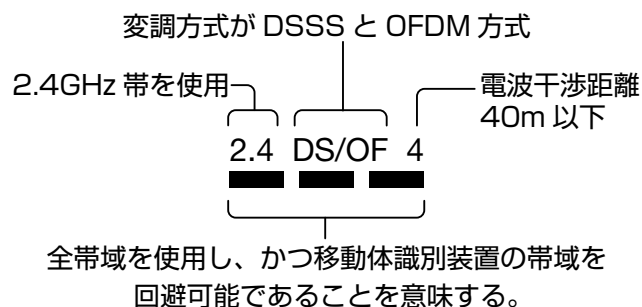
【一般回線・PHSからのご利用は】(通話料：無料)

フリーダイヤル 0120-97-9674

【携帯電話からのご利用は】(通話料：有料)

0570-05-5100

※ IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用にならない場合は、
03-6830-1048 (通話料：有料)



- 本機の無線LANは、以下の規格に対応しています。無線LANアクセスポイントも、この規格に対応した製品をお使いください。

IEEE802.11b/g/n			
IEEE802.11a/n			
J52	W52	W53	W56

規格	チャンネル	周波数帯 (中心周波数帯)
IEEE802.11 b/g/n	1～13	2.412～ 2.472GHz
IEEE802.11 a/n	W52	36,40,44,48 5.18～ 5.24GHz
	W53	52,56,60,64 5.26～ 5.32GHz
	W56	100,104,108, 112,116,120, 124,128,132, 136,140 5.50～ 5.70GHz

※ 本機は従来の無線規格であるJ52には対応していません。

- 無線LANの性能や環境条件による影響など。
 - ・ 無線LANのデータ転送速度は、通信距離・障害物などの環境条件、電子レンジ等の電波環境要素、ネットワークの使用状況などに影響されます。
 - ・ 本機はIEEE802.11a/b/g/nの規格に準拠していますが、すべての無線LAN機器との接続や通信を保証するものではありません。
 - ・ 5GHz帯に対応している無線LANアクセスポイントをお使いの場合は、5GHz帯でのご使用をおすすめします。

- 5GHz帯のW52、W53の電波を使用して、屋外で通信しないでください。5GHz帯のW52、W53の無線設備を屋外で使用する場合は、法令で禁止されています。屋外で本機の無線LANを使用する場合は、5GHz帯のW56を使用するか、または2.4GHz帯をご使用ください。
- 本機背面の定格銘板に記載されている周波数表示は、以下の内容を示しています。

無線LAN製品ご使用におけるセキュリティに関するご注意

- 無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りをするため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続ができるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定をしていない場合、以下のような問題が発生することがあります。
- **通信内容を盗み見られる**
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報メールの内容
などの通信内容を盗み見られるおそれがあります。
- **不正に侵入される**
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークにアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
などの行為をされてしまうおそれがあります。
- 本来、無線LAN製品は、セキュリティに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティの設定をしないで使用した場合の問題を十分に理解した上で、お客様自身の判断と責任でセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

3Dコンテンツの2D表示について

- 本機は、3D専用コンテンツを使用者の選択操作によって通常の映像(2D映像)として家庭内で視聴できるようにする変換機能を備えています。
- この変換は本機に搭載された当社独自の技術によって機械的に行われるものであり、3D専用コンテンツの提供者によって変換されたものではありません。
- この機能は、本機の利用者が個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむためのものです。個人が私的に撮影した3D映像以外のコンテンツを2D映像に変換して視聴する場合は、著作権その他の権利者に十分に配慮し、ご家庭内での個人的な使用の範囲を超えて、不特定または多数の人に視聴させることがないようにご注意ください。

4K映像の表示について

- 本機だけでは4K放送の受信はできません。別途4K放送受信チューナーなどが必要です。
- 本機はすべての4K放送受信チューナーと接続して4K放送の視聴ができることを保証するものではありません。
- HDMIの4K入力については、すべての4K入力映像の表示を保証するものではありません。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「すべての初期化」**167**で、暗証番号や双方向サービスの情報(住所・氏名、ポイント数などの利用者個人の情報)、ネットワークサービスの登録情報なども含めて、初期化してください。クラウドサービスをお使いのときに、「すべての初期化」を行わずに廃棄・譲渡をした場合、本機とリンクしている機器のカレンダー情報などが漏洩する可能性があります。
- **廃棄時にご注意ください**
家電リサイクル法では、ご使用済の液晶テレビを廃棄する場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金(リサイクル料金)をお支払いの上、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

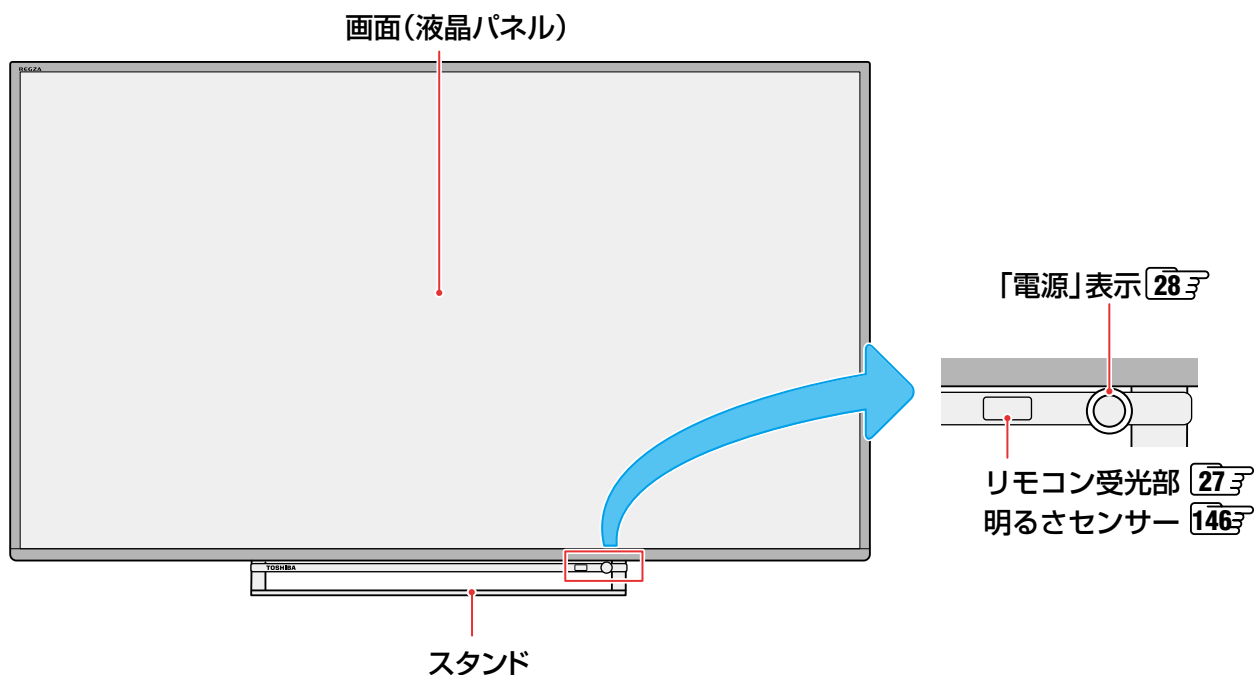
免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機に接続した機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容または変化・消失した内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。大切な番組の録画・録音には、本機との組合せによらない録画・録音機器を併用することをおすすめします。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービスなどで本機に記憶された利用者の登録情報やポイント情報などの一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

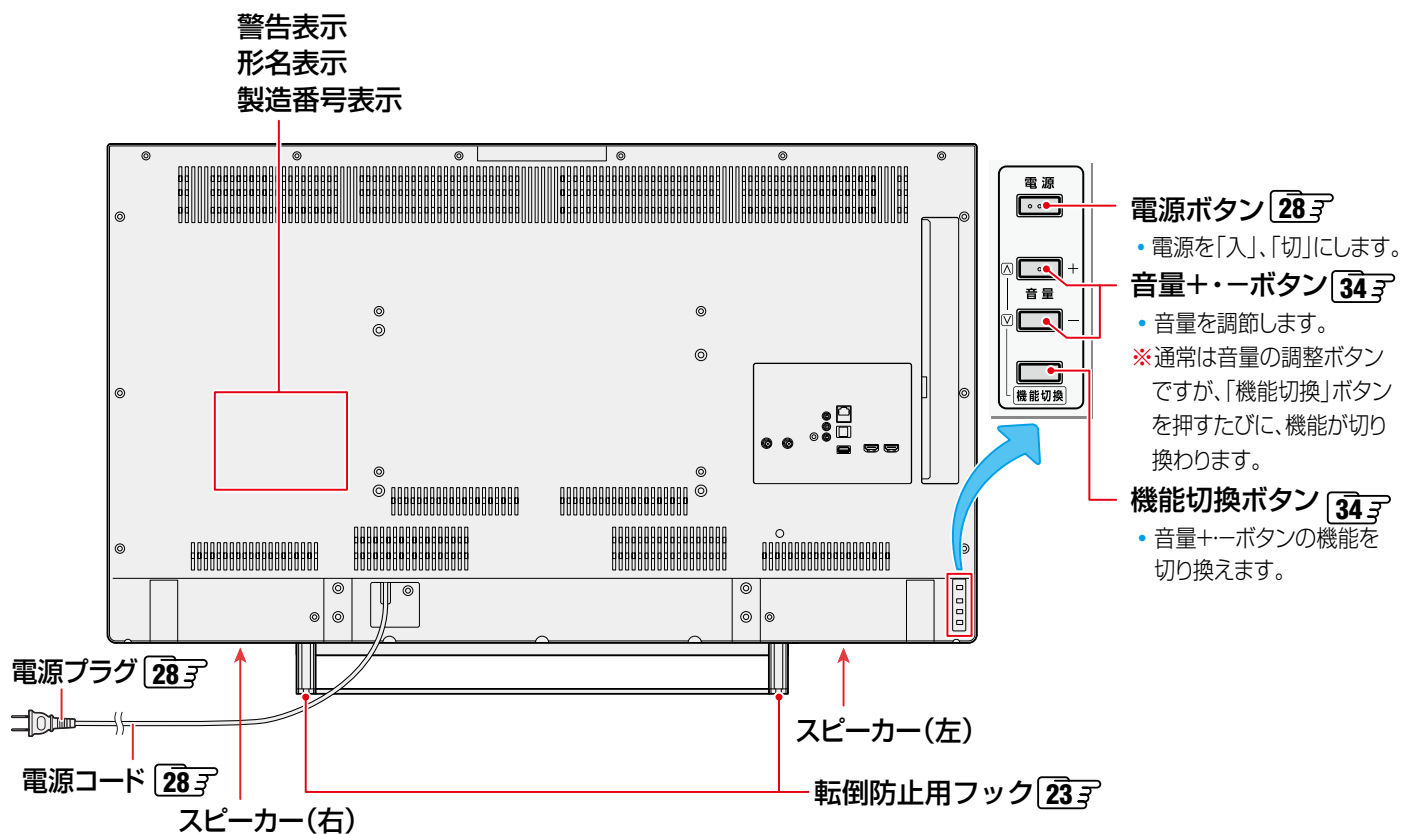
各部のなまえ

- 製品イラストは49J10Xです。他の機種はイメージが多少異なります。
- 詳しくは  内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

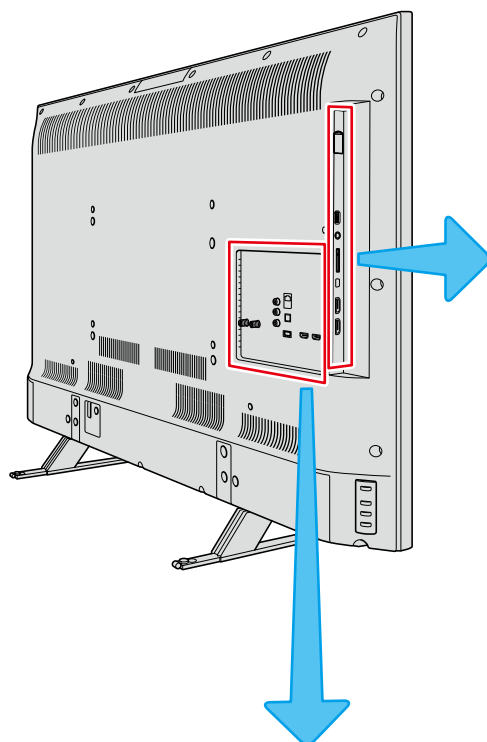
前面



背面



本体操作ボタンと入出力端子



BS・110度CSアンテナ入力端子 [26]

- 衛星放送を視聴する場合にBS・110度CS共用アンテナを接続します。

地上デジタルアンテナ入力端子 [26]

- 地デジ受信用のUHFアンテナを接続します。

ビデオ入力端子 [96]

- 映像機器を接続します。
- 音声入力端子をHDMI入力2のアナログ音声入力端子として使用できます。

LAN端子 [65] [128]

- ホームネットワークやインターネットに接続します。
- レグザリンクダビングに使用します。

miniB-CASカード挿入口 [24]

- カバーを開けてminiB-CASカードを挿入します。

USB端子 [101]

- USB機器を接続します。

ヘッドホン／音声出力端子 [96]

- ヘッドホンや外部スピーカーで聴くときに、プラグをここに差し込みます。

SD挿入口 [101]

- SDメモリーカードを差し込みます。

HDMI入力3(4K対応)、4(4K非対応)端子 [96]

- 映像機器やHDMI連動対応のオーディオ機器を接続します。
- MHL対応機器(スマートフォンなど)は、HDMI入力3端子に接続します。
- 著作権保護技術HDCP2.2に対応した4Kチューナーなどは、HDMI入力3端子に接続します。
- ポータブルタイプの映像機器などの接続に便利です。

光デジタル音声出力端子 [98]

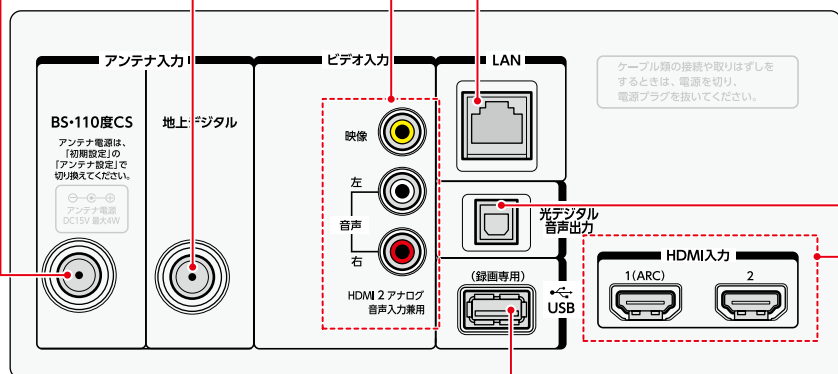
- 光デジタル音声入力端子を備えたオーディオ機器などに接続します。

HDMI入力1、2端子 [96] (4K対応)

- 映像機器やHDMI連動対応のオーディオ機器を接続します。

録画専用USB端子 [57]

- USBハードディスクを接続して録画・再生ができます。



各部のなまえ つづき

リモコン

- 本書に記載している操作で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。(ボタンによっては、通常の操作時と機能の異なるものがあります)
- 詳しくは  内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

- 外部入力機器の画面に切り換える…………… **46** 
- 電源を入れる/待機にする…………… **28** 
- 番組名や放送局名、放送時間などを見る…………… **37** 

- タイムシフトリンク機能を使う…………… **111** 
- 番組説明を見る…………… **37** 
- 二画面で楽しむ…………… **47** 

- 放送の種類を切り換える…………… **33** 

- チャンネルを選ぶ…………… **33** 
- 文字を入力する…………… **55** 

- チャンネルを順番に選ぶ…………… **33** 
- 音を消す…………… **34** 
- クラウドメニューを表示させる…………… **136** 
- サブメニューを使う…………… **36** 
- 音量を調節する…………… **34** 

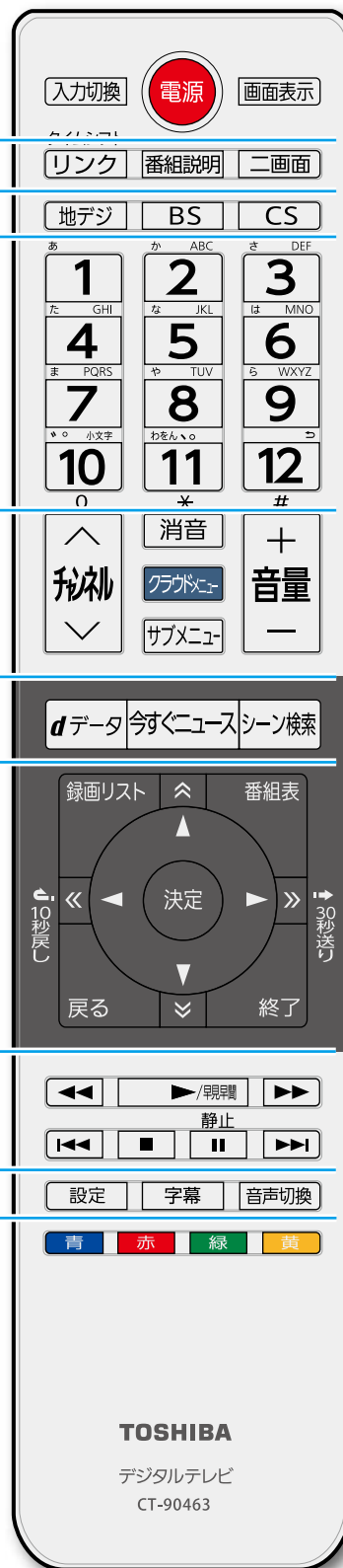
- データ放送を見る…………… **44** 
- 自動録画されたニュース番組を見る…………… **86** 
- 「シーン検索」機能を楽しむ…………… **45** 

- 録画リストを表示させる…………… **82** 
- 番組表で番組を選ぶ…………… **38** 
- 番組表などでページを切り換える
- メニューから選ぶ、決定する
- メニュー操作で一つ前の画面に戻る
- 操作を終了する
- ワンタッチリプレイ(10秒戻す)…………… **83** 
- ワンタッチスキップ(30秒飛ばす)…………… **83** 

- 再生、早見早聞再生をする…………… **83** 
- 早送り、早戻しをする…………… **83** 
- チャプタースキップをする…………… **83** 
- 録画や再生を停止させる…………… **70** 
- 再生を一時停止させる…………… **83** 
- 映像を静止させる…………… **51** 

- 設定メニューを表示させる
- 字幕を表示させる…………… **34** 
- 音声を切り換える…………… **50** 

- カラーボタン……………多様な用途があります



スタンドを取り付ける



注意

■ 二人以上で作業する

ひとりで作業をすると、身体を痛めたり、けがをしたりする原因になります。

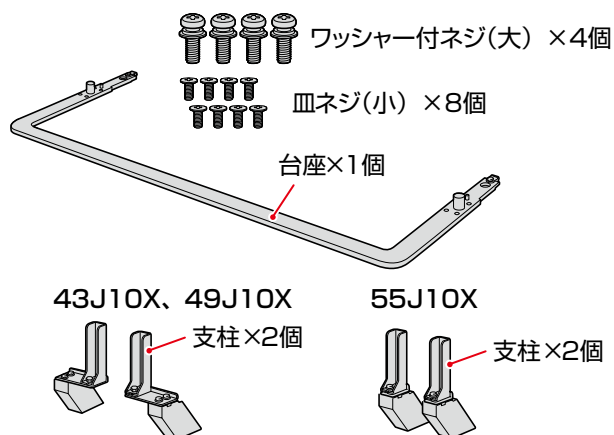
- スタンドの取り付けかたについては、付属の別紙「スタンド取付説明書」にも記載しています。



- スタンドを取り付けるまでの間、テレビ本体は包装箱の中で立てた状態にしておいてください。倒した状態で置くと、誤ってテレビの上に物を落としたときなどに、破損するおそれがあります。
- プラスドライバー（JIS 2番、直径6mm）をご用意ください。電動ドライバーをご使用の場合、トルクはおよそ1.0N・m（10kgf・cm）に設定してください。
- ※ 製品についている保護フィルムやテレビ本体に固定されている電源コードは、テレビの設置作業が終わってから取りはずすようにしてください。（図では省略しています）

1 スタンド組立用部品を確認する

- 以下の部品がそろっているか、ご確認ください。
 - 皿ネジ（小）×8、ネジ（大）×4

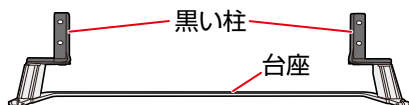


2 スタンドを組み立てる

- 皿ネジ（小）8個で支柱を台座に取り付けます。
- 梱包箱に入っている図のような発泡スチロール（または毛布などの柔らかい布）を敷いて、スタンドにキズがつかないようにします。

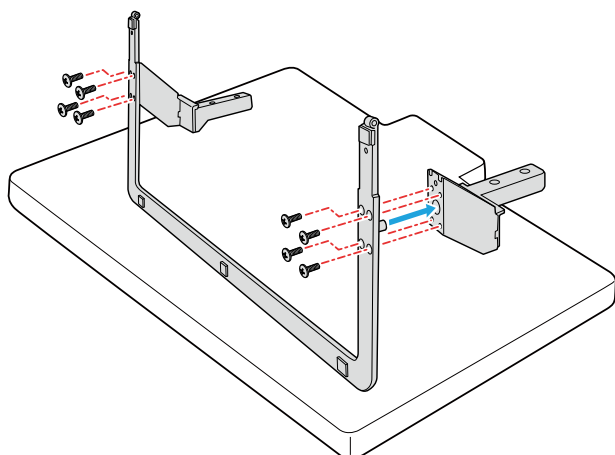
43J10X、49J10X

- 支柱の黒い柱が台座の内側になるように取り付けます。



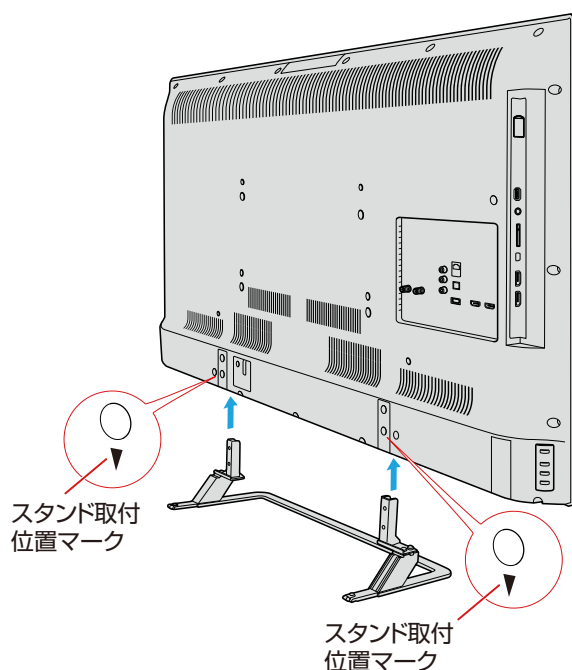
55J10X

- 支柱に左右の区別はありません。



3 本体をスタンドに載せる

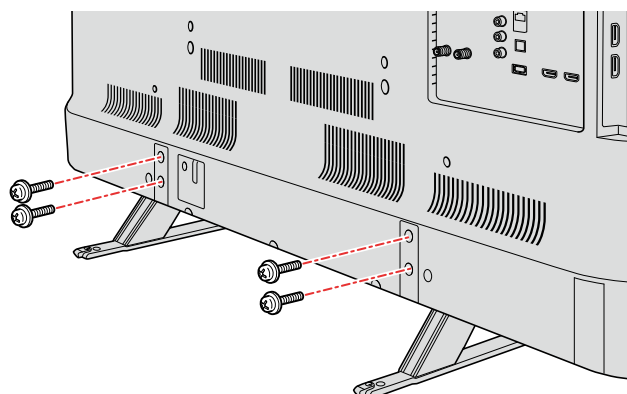
- 本体下部の溝に支柱が差し込まれるようにして載せます。
 - ※ 本体下部の通風孔に載せないように注意してください。
- ネジで固定するまでの間、不意の転倒・落下を防ぐために本体を支えてください。



- 製品イラストは49J10Xです。他の機種はイメージが多少異なります。

4 本体とスタンドをワッシャー付ネジ(大)4個で固定する

- ネジはしっかりと締めてください。

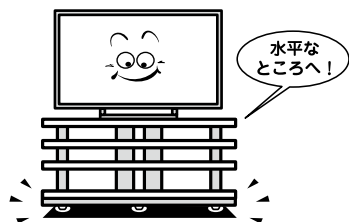


テレビを設置する

- 設置の前に「安全上のご注意」10頁～14頁を必ずお読みください。
- 製品イラストは49J10Xです。他の機種はイメージが多少異なります。

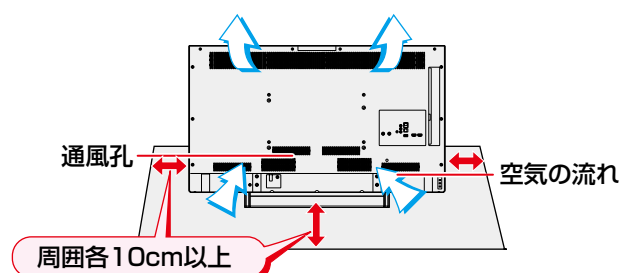
正しい置きかた

- 丈夫で水平な安定した所に設置してください



- 周囲からはなして置いてください

- 通風孔をふさがないように本機の上および周囲に10cm以上の空間を設けてください。



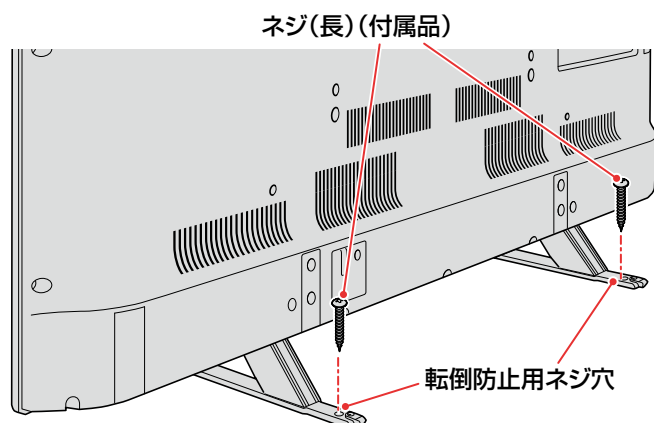
- テレビ台を使用する場合

- テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

転倒・落下防止のしかた

- 転倒・落下防止器具を取り付ける台や壁の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したのですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。

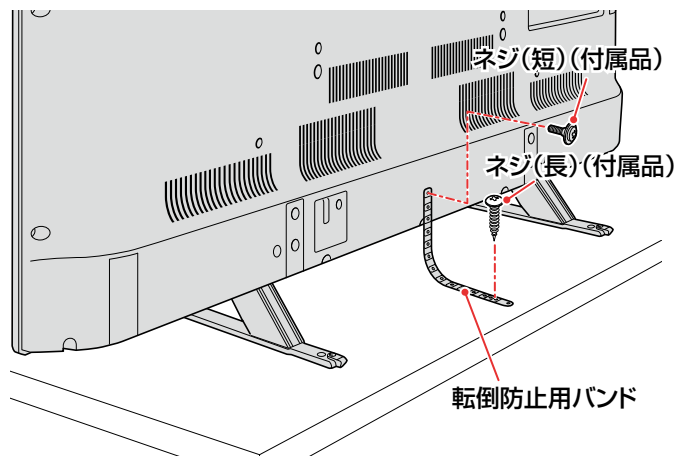
- ※ 固定後は、本機を押したり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。



その他の転倒・落下防止方法

転倒防止用バンド1本を使用して固定するとき

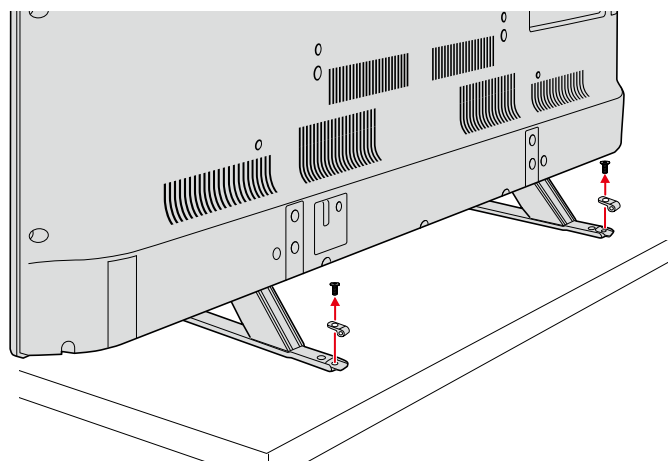
- 付属の転倒防止バンド1本を、本体背面の図の位置に付属のネジ(短)でしっかりと取り付け、設置する台の確実に支持できる天面に付属のネジ(長)で固定します。
- ※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近づけて設置し、お子様はいれないようにしてください。



転倒防止用バンド2本を使用して固定するとき

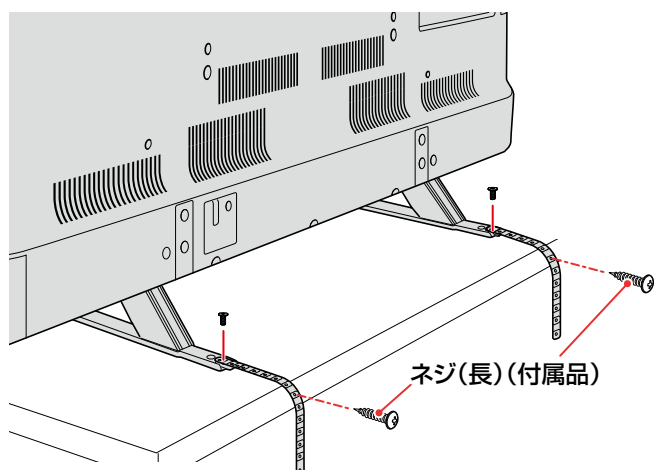
- 付属の転倒防止用バンド2本を使用して、設置する台の確実に支持できる背面に付属のネジ(長)で固定します。
- ※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近づけて設置し、お子様はいれないようにしてください。

- ① スタンド後側の転倒防止用フックを取りはずす
ネジをはずして転倒防止用フックを取りはずします。取りはずしたネジはあとで使います。



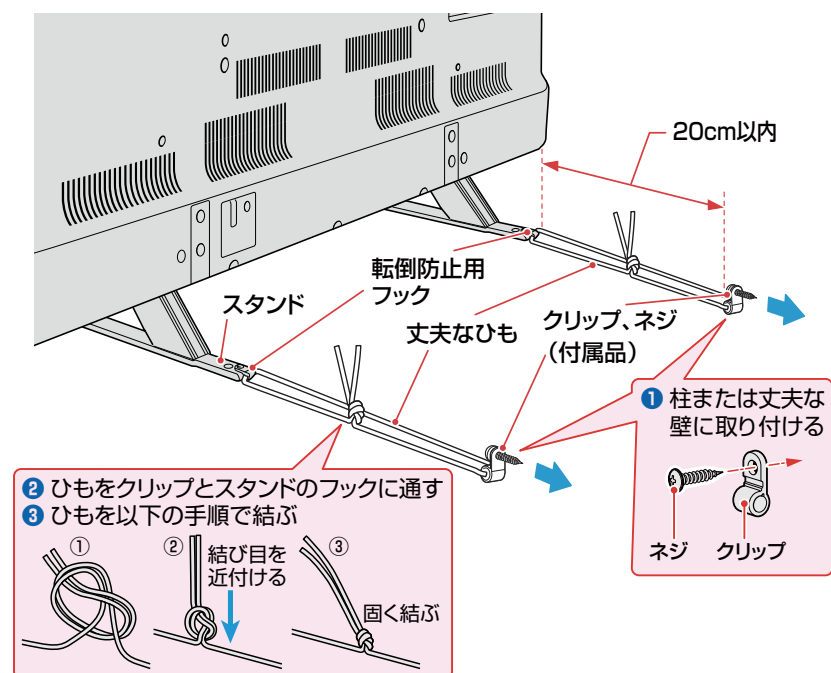
- 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、本機の映像が乱れたり、雑音が出たりする場合があります。相互に影響しない位置に設置してください。

- ② ①で取りはずしたネジを使って、転倒防止用バンドをスタンド後側左右に取り付け、付属のネジ(長)で転倒防止用バンドを固定する



壁または柱などに固定するとき

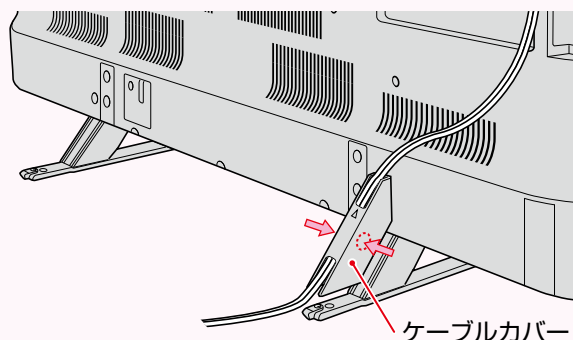
- スタンド背面の転倒防止用フックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定します。
- クリップはスタンド背面の転倒防止用フックと同じくらいの高さの場所に付属のネジで取り付けます。
- ※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因になりますので使用しないでください。



ケーブルカバーの取り付け

- 電源コードや接続ケーブルを簡単にまとめることができます。
- コードやケーブルをケーブルカバーの間に通してから、図のようにケーブルカバーをスタンドの支柱に取り付けます。
- ケーブルカバーは左右の支柱に取り付けることができます。

※ 中央部(矢印の部分)をつまむと取り付けやすくなります。



miniB-CAS (ミニビーキャス) カードを挿入する



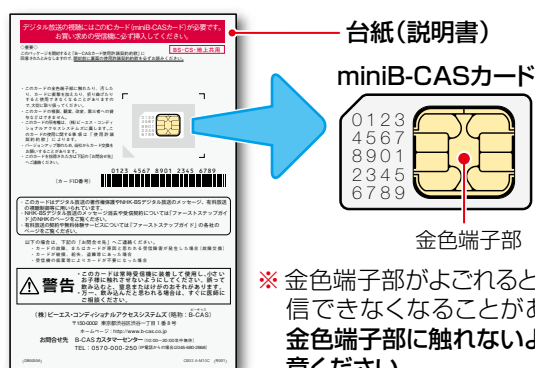
警告

■ miniB-CASカードを乳幼児の手の届く所に置かない

- 誤って飲み込むと窒息またはけがのおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談ください。

同梱のminiB-CASカードについて

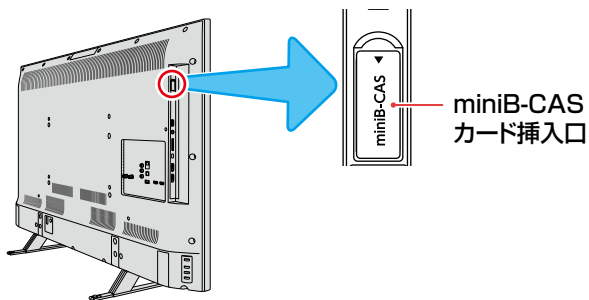
- miniB-CASカードは、デジタル放送や「放送局からのお知らせ」の受信などに必要です。常に本機のminiB-CASカード挿入口に入れておいてください。
- miniB-CASカードを台紙(説明書)から取り出してご使用ください。台紙(説明書)は裏面もよく読みのうえ、大切に保管してください。



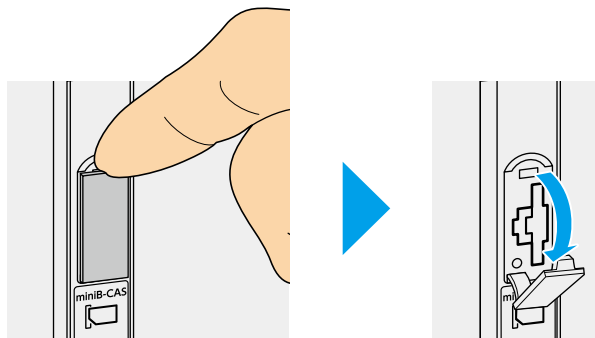
- ※ 金色端子部がよごれると放送を受信できなくなることがあります。金色端子部に触れないようにご注意ください。

- miniB-CASカードを抜き差しするときは、本機の電源を切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 抜き差しの際は、落として紛失することがないようにご注意ください。
- 乾いたきれいな手で取り扱ってください。金色端子部が指紋などでよごれてしまった場合は、乾いたきれいな柔らかい布でふき取ってください。

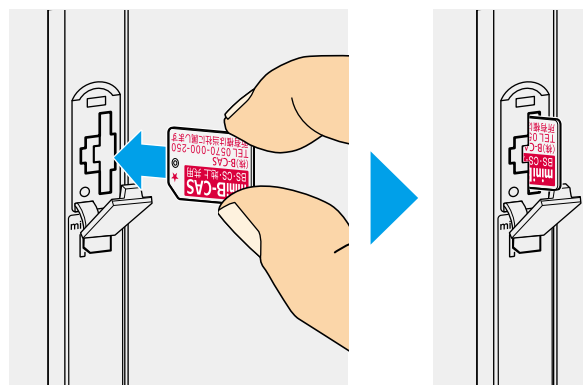
挿入のしかた



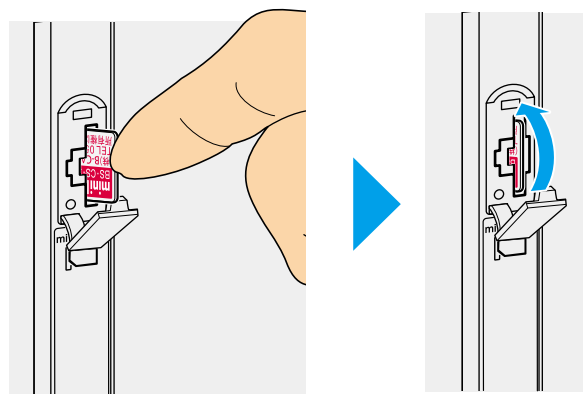
1 カバーを下に開く



2 miniB-CASのロゴ印刷面を本体の背面側に向け、角が欠けたほうから差し込む

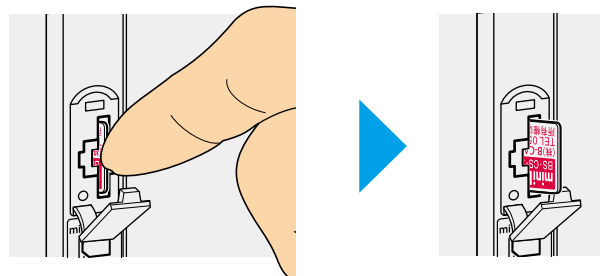


3 カチッと音が鳴るところまで押し入れて、カバーを閉じる



取り出ししかた

1 カチッと音が鳴るまで押す



- miniB-CASカードが少し出てきます。金色端子部に触れないように注意しながら取り出します。
- miniB-CASカードを取り出したら、カバーを閉じておきます。

デジタル放送の種類と特徴

- 本機は以下のデジタル放送を受信することができます。

地上デジタル放送

2003年12月から関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で開始され、2006年末までにその他の都道府県の県庁所在地で開始された、地上波のUHF帯を使用したデジタル放送です。

- UHF帯の電波を使って行う放送で、高品質の映像と音声、さらにデータ放送が特徴です
- 本機は「CATVパススルー対応」です
ケーブルテレビ局が再送信する地上デジタル放送を受信することができます。

BSデジタル放送/110度CSデジタル放送

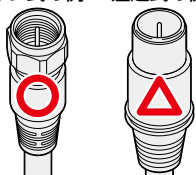
- 受信にはBS・110度CS共用アンテナを使用します。
- BSデジタル放送
デジタル方式の放送衛星(Broadcasting Satellite: 通称BS)を使用したデジタル衛星放送です。
 - ・ 日本全国どこでも同じ放送を楽しむことができ、一部に視聴契約が必要な有料チャンネルがあります
 - ・ 2種類のデータ放送(連動データ放送、独立データ放送)や双方向サービスがあります
- 110度CSデジタル放送
BSデジタル放送の衛星と同じ東経110度に打ち上げられている通信衛星(Communication Satellite: 通称CS)を利用して、スカパー JSAT(株)が運用しているデジタル衛星放送です。
 - ・ さまざまなテレビ番組や専門チャンネル、データ放送などの多彩な放送があります
 - ・ 多くのチャンネルで有料の視聴契約が必要です

アンテナを接続する

お願いとご注意

- ※ アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナや接続に必要なアンテナ線(同軸ケーブル)、混合器、分波器、分配器などは付属されておりません。
機器の配置や端子の形状、受信する放送の種類(電波の種類)などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。
- F型コネクターがネジ式のアンテナ線をおすすめします。
差込式のものを使用する場合は、本機のアンテナ端子のネジ部分と確実に接触するものをご使用ください。接触が悪いと、受信できなかったり、ときどき映らなくなったりすることがあります。

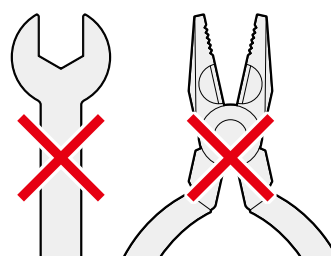
ネジ式の例 差込式の例



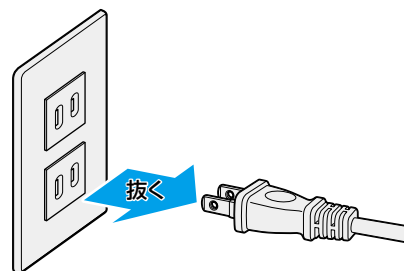
- F型コネクターのピンが曲がっていないか確認してください。曲がったままで接続すると、折れたり、ショートしたりすることがあります。



- アンテナ線のF型コネクターは、ゆるまない程度に手で締めつけてください。
工具などで締めつけすぎると、壁のアンテナ端子や本機のアンテナ入力端子、背面パネルが破損するおそれがあります。

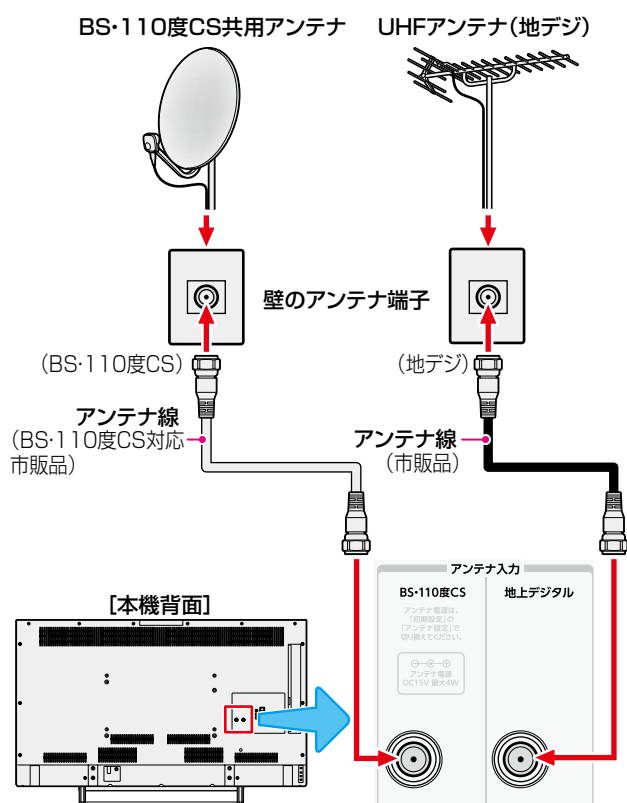


- アンテナを接続するときは必ず本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



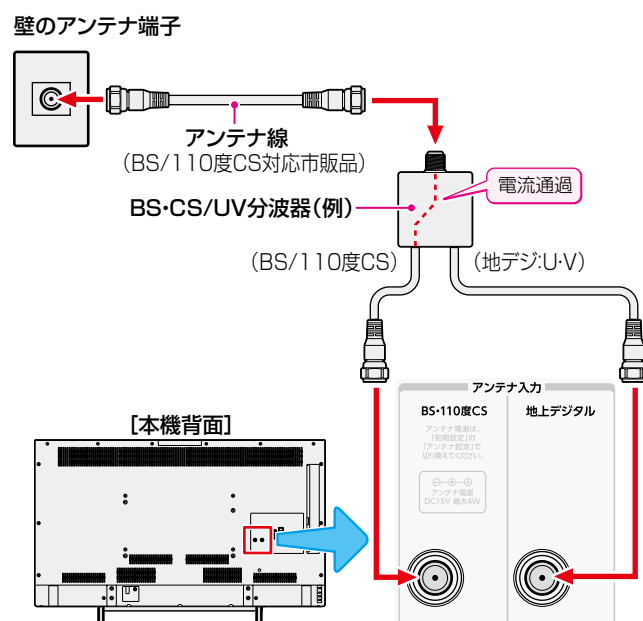
アンテナを接続する つづき

地上放送と衛星放送が個別のアンテナの場合



地上放送と衛星放送が混合のアンテナの場合 (マンションの共聴アンテナなど)

- 地上放送と衛星放送の電波が混合されて壁のアンテナ端子に届いている場合は、以下のように接続します。
- マンションなどでの共聴システムの場合は、視聴できる放送の種類についてマンションなどの管理会社にご確認ください。

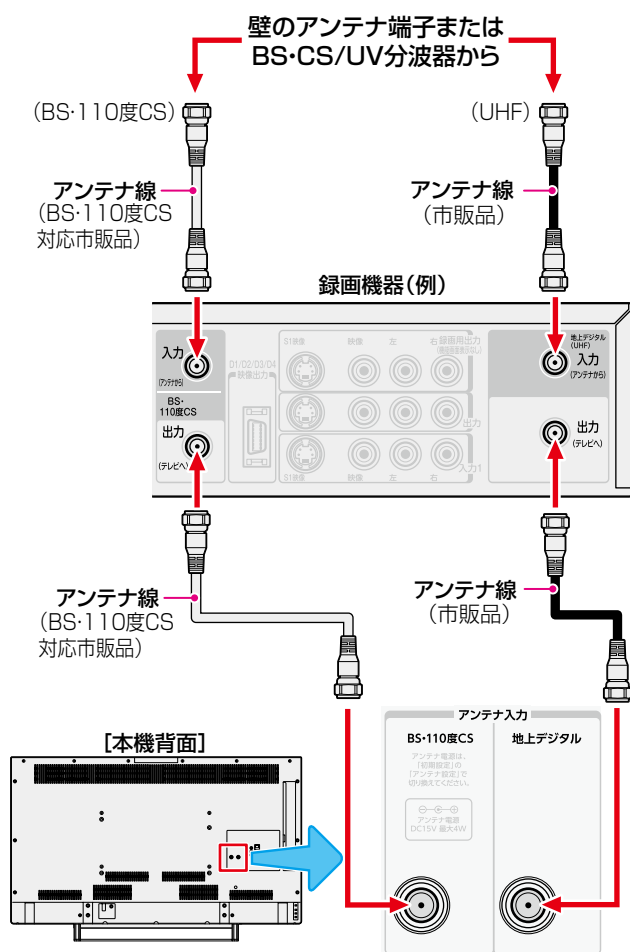


- BS・110度CS共用アンテナは電源を必要とします。BS・CS/U・V混合器や分波器は、本機のBS・110度CSアンテナ入力端子からアンテナ電源が供給できるように、電流通過型のものがようになります。

※ マンションなどでの共聴システムの場合は、本機からBS・110度CS共用アンテナ用の電源を供給する必要はありません。(「はじめての設定」**29**のあとで「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。詳しくは**158**をご覧ください)

録画機器を経由する場合

- 録画機器のBS・110度CSアンテナ電源が供給される設定になっていることを確認してください。詳しくは、録画機器の取扱説明書をご覧ください。



テレビが映らないとき

- 「はじめての設定」**29**をしてもテレビが映らない、または映りが悪いような場合は、録画機器を経由しないで本機に直接接続してみてください。改善される場合、本機の問題ではありません。
 - 録画機器の電源プラグが抜けていると、アンテナ出力端子に電波が出力されない場合があります。
- 症状が改善されない場合は、「アンテナを調整する」**158**をご覧ください。

リモコンの準備をする

乾電池を入れる

- 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。
お買い上げ時は単四形乾電池R03が2個付属されています。

1 電池カバーをはずす

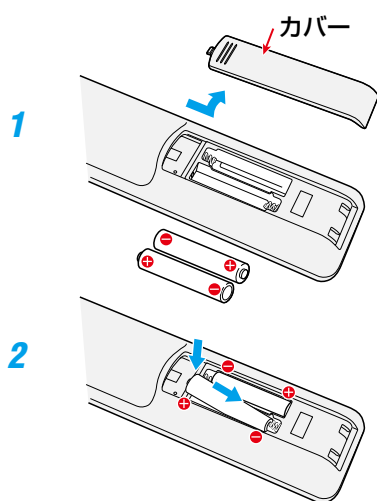
- カバーを下方向に押しながら下げてから、電池カバーを取りはずします。

2 乾電池を入れる

- 極性表示 $\oplus$ と $\ominus$ を確かめて、間違えないように入れます。

3 電池カバーを閉める

- カバーははずしたときと逆の手順で閉め、パチンと音がするまでカバーを上部を押し込みます。

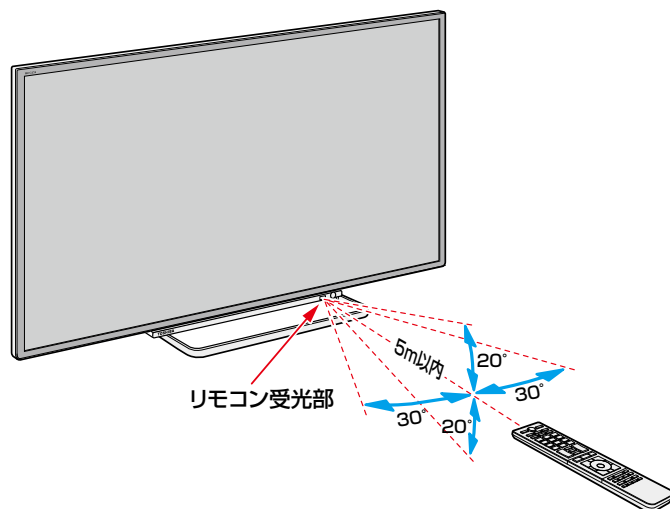


リモコンコードについて

- 本機のリモコンは、リモコンコードの切換ができます。
166
- お買い上げ時は「リモコンコード1」に設定されています。
- ※ 「リモコンコード2」に設定して使用していた場合、電池交換などでリモコンから乾電池を取りはずすと「リモコンコード1」に戻ることがありますので、ご確認ください。

リモコンの使用範囲について

- リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用します。
- リモコン受光部に強い光を当てないでください。強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります。
- リモコン受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。動作しなかったり、動作しにくくなったりします。



- リモコン受光部から
距離……5m以内
角度……左右30°以内、上下20°以内
- ※ リモコン発光部は二カ所あり、リモコンを立てた状態でも操作できます。

ご注意

■ リモコンについて

- 落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

お願い

■ 乾電池について

- 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。
- 使用済の乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

電源を入れる

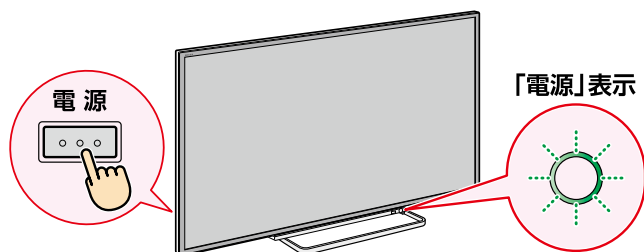
電源を入れる

「電源」表示が消えているとき(「切」のとき)

「電源」表示が消えているとき、リモコン操作はできません。

① 本体左下背面の電源を押す

- 電源が「入」になり、本体前面のリングが緑色に点灯します。



「電源」表示が赤色に点灯しているとき(「待機」のとき)

① リモコンの電源を押す

- 電源が「入」になり、「電源」表示が緑色に点灯します。

電源を「待機」にする／切る

電源を「待機」にする

① 電源が「入」のときに、リモコンの電源を押す

- 電源が「待機」(リモコン操作待受状態)になり、「電源」表示が赤色に点灯します。

電源を切る

① 「電源」表示が赤色または緑色に点灯しているときに、本体左側の電源を押す

- 電源が「切」になり、「電源」表示が消灯します。
- ※ リモコンでの操作ができなくなります。

お願い…電源プラグの取扱いについて

普段はコンセントに差し込んでおく

- 電源プラグは、非常時や機器の接続、お手入れなどをするとき以外はコンセントに差し込んでおいてください。(旅行などで長期間使用しないときはコンセントから抜いてください)

※ 電源プラグを抜いたままにしておくと…

- ・ デジタル放送の番組情報が取得できません。
- ・ 予約した番組の視聴や録画ができません。
- ・ 外出先からEメールで録画予約をしても、Eメールが届きません。

電源プラグをコンセントに差し込んでおけば、予約した番組の視聴や録画は、電源が「待機」や「切」の場合でも行われます。

電源プラグを抜くときは

- 非常の場合は、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外部機器の接続や取りはずし、本体や電源プラグのお手入れ、周辺の清掃などで電源プラグを抜く場合は、その前に以下の確認をしてください。

① 本機に接続したUSBハードディスクで録画やダビングをしている場合は終了させる

- 「予約の確認・変更・取消しをする」**[79]**の手順で確認してください。

② 録画予約が設定されていないか確認する

- 「予約の確認・変更・取消しをする」**[79]**の手順で、電源プラグを抜いている間に始まる予約がないか確認してください。電源プラグが抜かれていると、予約した番組は録画されません。

③ 本体の電源ボタンを押して電源を切る

④ 電源プラグをコンセントから抜く

メニュー操作手順の表記について

- サブメニューや設定メニューなどの操作手順については、以下の例のように一部を簡略化して記載しています。

例

- 1 **[設定]** を押す
- 2 **▲・▼**で「映像設定」を選び、**[決定]**を押す
- 3 **▲・▼**で「映像メニュー」を選び、**[決定]**を押す
- 4 お好みの映像メニューを**▲・▼**で選び、**[決定]**を押す
- 5 終わったら、**[終了]**を押す



- 1 **[設定]** を押し、**▲・▼**と**[決定]**で「映像設定」⇒「映像メニュー」の順に進む
- 2 お好みの映像メニューを**▲・▼**で選び、**[決定]**を押す

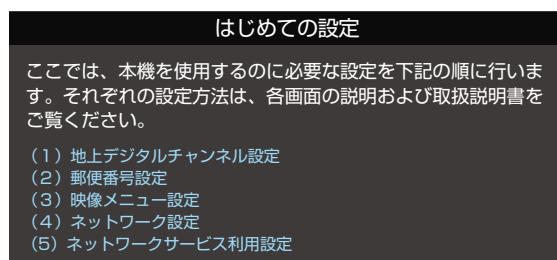
- 操作が終わったときに表示されているメニュー画面や確認画面を消すときは、**[終了]**を押します。

「はじめての設定」をする

「はじめての設定」について

- ※ miniB-CASカードが正しく挿入されていないと「はじめての設定」ができません。あらかじめご確認ください。**[24]**
- ※ 「電波の状態が良くありません。」のメッセージが表示されたときは、受信状態が良くなってから「はじめての設定」をやり直すとき**[32]**の操作で「はじめての設定」をやり直してください。

はじめて電源を入れたときに、「設定をする前に」画面が表示されます。内容をよくお読みになり、**決定**を押すと「はじめての設定」の説明画面が表示されます



「はじめての設定」の流れ

- 本機を使用できるようにするための基本的な設定をします。

① 地上デジタルチャンネル設定

お住まいの地域情報を設定することで、地上デジタル放送の受信チャンネルが自動設定されます。

② 郵便番号設定

郵便番号を設定することで、お住まいの地域に密着したデータ放送(たとえば、地域の天気予報など)や緊急警報放送を視聴できるようになります。

③ 映像メニュー設定

いくつか用意されている映像メニューの中から選んで、好みのメニューに設定します。

④ ネットワーク設定

ネットワーク関連の設定をします。

⑤ ネットワークサービス利用設定

ネットワークサービスを利用するかどうかを設定します。



■「地上デジタルチャンネル設定」について

- 「はじめての設定」または「初期スキャン」**[159]**をすることで、地上デジタル放送の受信可能なチャンネルを本機が探し、リモコンの**[1]~[12]**に自動設定します。「はじめての設定」または「初期スキャン」をしないと、地上デジタル放送は受信できません)

■ 地方と地域の設定について

- チャンネルの自動設定は、「はじめての設定」で設定された地方、地域に基づいて行われます。
- チャンネル設定の地域は必ずしもお住まいの地域とは限らないため、地域に密着したデータ放送を視聴するために郵便番号を設定します。

① 地上デジタルチャンネル～③映像メニューの設定をする

- 画面の説明にしたがって以下の方法で設定していきます。

▲・▼・◀・▶で項目を選び、**決定**で決定して進んでいきます。

「郵便番号設定」では、**1**～**10**(0)も使います。

④ ネットワーク設定

- 本機をネットワークに接続し、ネットワーク機能を利用する場合に設定します。先に設定だけを済ませ、接続はあとから行うこともできます。

1 設定する場合は「はい」を選び、**決定**を押す

- 「いいえ」を選んだ場合は、「⑥ ネットワークサービス利用設定」**[32]**へ進みます。

2 有線LANまたは無線LANの設定をする

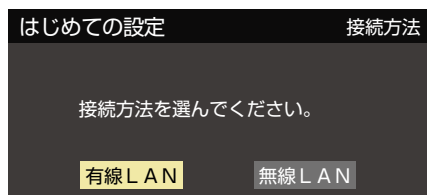
- 有線LANの設定をする場合は、次ページの「有線LANの設定をする」へ進みます。
- 無線LANの設定をする場合は、次ページの「無線LANの設定をする」へ進みます。
- ※ 有線LANと無線LANは同時に使えません。

「はじめての設定」をする つづき

有線LANの設定をする

- 有線LANの接続については、**128**をご覧ください。

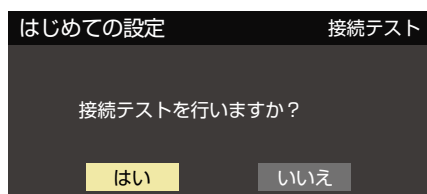
①「有線LAN」を選び、**決定**を押す



- 手順**3**へ進みます。

3 接続テストをする場合は「はい」を選び、**決定**を押す

- 「接続テスト」をしない場合は、「いいえ」を選んで「ネットワークサービス利用設定」に進みます。(必要になったときに「インターネットを利用するための設定をする」**129**の操作をしてください)



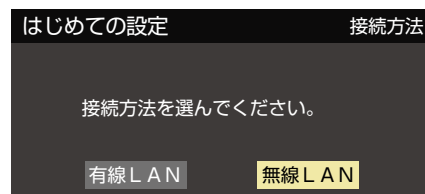
- 「接続できませんでした。」と表示された場合、有線LAN設定のときは、LANケーブルの接続を確認してから再度接続テストをしてください。無線LAN設定のときは、無線LANの設定を確認してから、再度接続テストをしてください。

4 「インターネットに接続できました。」と表示されたら、**決定**を押す

- 「ネットワーク設定」が終わると、「ネットワークサービス利用設定」の画面が表示されます。

無線LANの設定をする

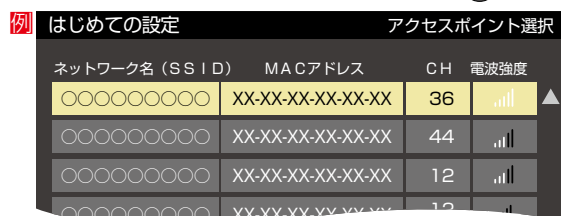
①「無線LAN」を選び、**決定**を押す



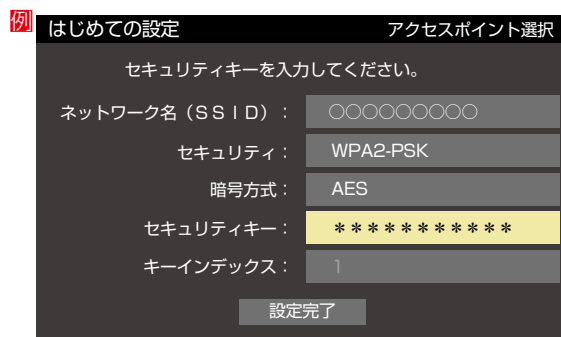
アクセスポイント選択

- 本機が使用可能な無線LANアクセスポイント(ルーター)を検出し、接続します。

①表示された接続可能な無線LANアクセスポイント(ルーター)から、本機の接続先を選び、**決定**を押す



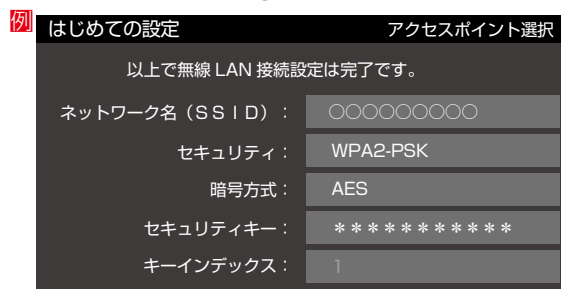
②①で選択した無線LANアクセスポイント(ルーター)のセキュリティキーを入力する



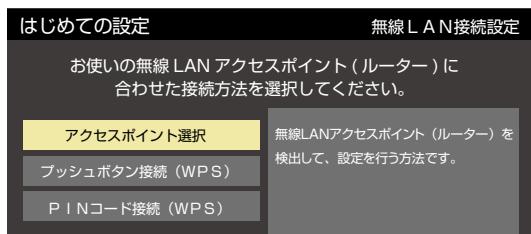
- セキュリティキーについては、お使いの無線LANアクセスポイント(ルーター)の取扱説明書をご覧ください。
- 文字入力方法については、**55**をご覧ください。

③「設定完了」を選び、**決定**を押す

④設定内容を確認し、**決定**を押す



② 設定方法を選び、**決定**を押す



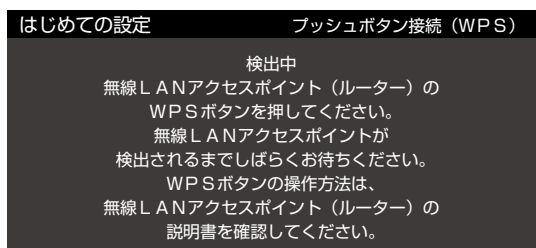
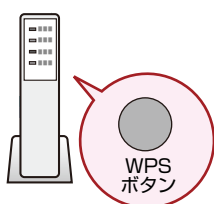
接続する無線 LAN アクセスポイント (ルーター) に合わせて、設定方法を選びます。

- お使いの無線 LAN アクセスポイント (ルーター) の取扱説明書も、お読みください。

プッシュボタン接続 (WPS)

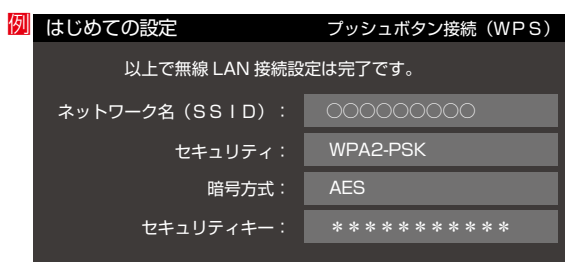
- 「WPSボタン」が押されて使用可能になった無線 LAN アクセスポイント (ルーター) を本機が検出し、接続します。

- ① 画面の指示に従い、無線 LAN アクセスポイント (ルーター) の WPS 用ボタンを押す



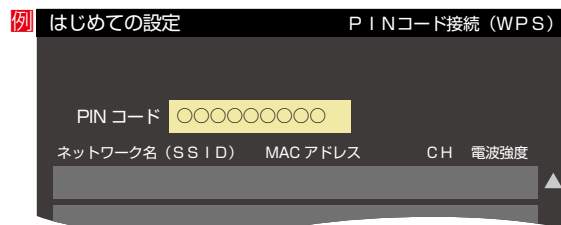
- 本機がアクセスポイント (ルーター) を検出し、接続します。
- 接続に成功すると、設定内容が表示されます。

- ② 設定内容を確認し、**決定**を押す

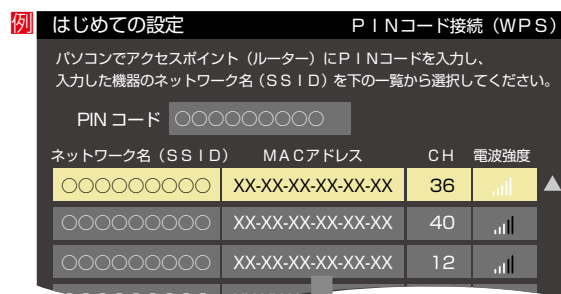


PINコード接続 (WPS)

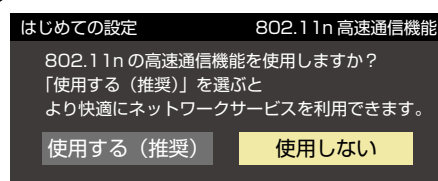
- ① 画面の指示に従い、表示された PIN コードを無線 LAN アクセスポイント (ルーター) にパソコンで設定する



- PINコードの設定方法については、お使いのアクセスポイント (ルーター) の取扱説明書をご覧ください。
- ② 表示された接続可能なアクセスポイント (ルーター) から、本機の接続先を選び、**決定**を押す



- ③ 「使用する (推奨)」または「使用しない」を選び、**決定**を押す



- ・使用する …… 無線 LAN アクセスポイント (ルーター) が対応している場合、同時に二つのチャンネルを使って通信します。ネットワーク経由での映像再生・配信に適しています。
- ・使用しない …… 一つのチャンネルを使って通信します。

- 手順 3 **30**に進みます。



■ 電波強度表示について

- 本機が無線 LAN アクセスポイント (ルーター) から受信する電波の強弱によって以下のように 6 段階のイメージで表示されます。

弱 強

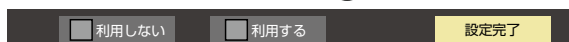
「はじめての設定」をする つづき

⑤ ネットワークサービス利用設定

- インターネットに接続して、クラウドサービス^[136]などのネットワークサービスを利用するには、「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定します。

※クラウドサービスの開始には、ソフトウェアの更新が必要になる場合があります。

1 ネットワークサービス利用設定の画面の内容を最後まで読み、「利用する」または「利用しない」を選び、「決定」を押す



2 「設定完了」を選び、「決定」を押す

3 設定完了画面が表示されたら、内容を確認して「決定」を押し、はじめての設定を終了する

※ お買い上げ時初めて、またはすべての初期化後に「はじめての設定」を終了すると、クラウドメニューの起動を促すメッセージが表示されます。「はい」を選ぶとクラウドメニューが起動し、「はじめてのクラウド設定」を開始します。(インターネットに接続しているときにメッセージが表示されます)

「はじめての設定」をやり直すとき

- 「はじめての設定」をしてもアンテナ接続の不具合などで地上デジタル放送が映らなかった場合は、不具合の対処をしたあとで、「はじめての設定」をやり直すことができます。

1 「設定」を押し、▲・▼と「決定」で「初期設定」⇒「はじめての設定」の順に進む

- 「はじめての設定」の説明画面が表示されます。

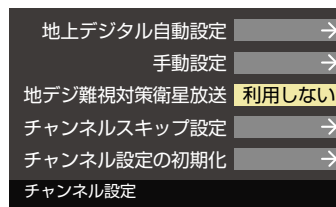
2 画面の説明を読んで、「決定」を押す

- ワンタッチ選局ボタンのチャンネル設定を手動で好みの設定したあとで「はじめての設定」をやり直すと、手動で設定した内容が消去されます。その場合は、もう一度手動設定をしてください。
- 県外への転居などで「はじめての設定」をやり直した場合は、データ放送用メモリの割当画面が表示されることがあります。その場合は、「データ放送用メモリの割当画面が表示されたら」^[163]を参照して設定してください。
- データ放送を視聴している状態で「はじめての設定」をやり直した場合、放送によっては設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を選局し直してください。

地デジ難視対策衛星放送を受信する場合

- お買い上げ時、本機は地デジ難視対策衛星放送の視聴や番組表表示ができないようになっています。利用できるようにするには、以下の設定が必要です。
- 「地デジ難視対策衛星放送受付センター」への利用申込手続が完了した時点で視聴などができるようになります。
(手続完了前は設定をしても視聴などはできません)

1 「設定」を押し、▲・▼と「決定」で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地デジ難視対策衛星放送」の順に進む



2 ▲・▼で「利用する」を選び、「決定」を押す

- 地デジ難視対策衛星放送番組の視聴や番組表表示ができるようになります。



- ネットワークサービス利用設定を「利用する」に設定すると、本機は操作情報(チャンネル切替、録画予約、録画番組、検索履歴等)、動作状態の履歴情報、本機に接続されたUSB HDD等の識別情報や動作状態の履歴情報などや、ご登録いただいた都道府県、性別等の情報が当社または当社の委託先のサーバーで記録されますが、これらの情報から当社が利用者個人を特定することはありません。
- クラウドサービスの詳しい内容については、クラウドメニューの「クラウド操作ガイド」から確認できます。
- クラウドサービスなどのネットワークサービス(以下「本サービス」と表します)のご利用には、住所・氏名・連絡先等の個人情報の入力不要です。
- サーバーが収集した情報は、本サービスの提供以外に、品質改善や統計情報としてマーケティングなどの目的で利用することがあり、この目的の範囲内で第三者に提供する場合があります。
- 本サービスは、予告なく休止、終了、または内容を変更する場合があります。
- 本サービス中において、本サービス以外のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などのサービスをご利用いただく場合、各サービス提供者の利用規約およびその他規約が適用されます。当社は、本サービス以外の第三者により提供されるサービスおよびこれに関連する事項について、一切の責任を負いません。
- ネットワークサービス利用設定は、あとから変更できます(^[133])。「利用しない」に設定を変更した場合、それまでにサーバーが収集した本機や本機に接続された機器に関する情報は、サーバーから消去されます。

テレビ番組を楽しむ



- 本体の操作ボタンについては、「本体の「機能切替」ボタンについて」**[34]**をご覧ください。

リモコンで番組を選ぶ

1 地デジ、BS、CS で放送の種類を選ぶ

- 今見ている放送と同じ種類の放送を見る場合は、この操作は不要です。

2 チャンネルを選ぶ(選局する)

- 以下の3とおりの選局方法があります

ワンタッチ選局ボタンで選局する(ワンタッチ選局)

- ワンタッチ選局ボタン **[1]** ~ **[12]** で選局します。(下の「お知らせ」をご覧ください)
- BSデジタル放送・110度CS放送のワンタッチ選局は、グループを指定して選局することができます。
 - ・ 通常はグループAのワンタッチ選局になります。

グループを指定して選局する

- 見ている放送と同じ種類の放送切替ボタンを押すと、選局ガイドが表示されます。
 - 例：BSデジタル放送を見ているときに **[BS]** を押すと、BSデジタル放送の選局ガイドが表示されます。
- 選局ガイドを表示中に見ている放送と同じ種類の放送切替ボタンを押すと、選局ガイドに表示されるグループが切り換わります。
 - ・ BSデジタル放送は、グループA (BS101 (NHKBS1) ~ BS222 (TwellIV)) とグループB (BS231 (放送大学BS1) ~ BS258 (Dlife)) があります。
 - ・ 110度CS放送は、グループA ~ グループF があります。
- **[1]** ~ **[12]** ボタンを押すと、選局ガイドに表示されているチャンネルに切り換わります。

チャンネルへ・V ボタンで選局する(順次選局)

- **へ・V** でチャンネルが順次に切り換わります。

チャンネル番号を入力して選局する(ダイレクト選局)

- チャンネル番号は番組表で確認できます。
- 1 **[サブメニュー]** を押し、**▲・▼** と **決定** で「その他の操作」⇒「チャンネル番号入力」と進む
 - ・ 視聴中の放送の種類に応じて、画面の右上に 地デジ---、BS---、CS--- のどれかが表示されます。
- 2 **[1]** ~ **[10]** (0) でチャンネル番号を入力する

例 103チャンネルを選ぶ場合⇒ **[1]** **[10]** (0) **[3]** の順に押します。(「0」は **[10]** で入力)

- ・ 入力した番号を消すには、**◀** を押します。
- ・ **[11]** (※) を使った入力ができます。 **例** **[3]** **[11]** → 300番台の最小チャンネル

枝番のついた放送一覧が表示されたとき

- ・ **▲・▼** で選んで **決定** を押すか、**[10]** (0) ~ **[9]** で枝番を指定して選びます。



お知らせ

- 視聴できるデジタル放送のチャンネルやワンタッチ選局ボタンの番号は、番組表 **[38]** で確認することができます。
- **[1]** ~ **[12]** でワンタッチ選局ができるのは以下のとおりです。(「チャンネルをお好みに手動で設定する」**[160]** で変更できます)
 - ・ **[地デジ]** を押したとき→「はじめての設定」**[29]** で各ボタンに登録されたチャンネル
 - ・ **[BS]** を押したとき→各ボタンにあらかじめ登録されているチャンネル。
 - ・ **[CS]** を押したとき→110度CSデジタル放送の一部のチャンネル (**[1]** と **[2]** のみ)
 - ◆ 一つの放送局が複数のチャンネルで異なった番組を放送している場合、その放送局のチャンネルボタンを繰り返し押せばチャンネルを順番に選局できます。
- 枝番のついた放送一覧は、地上デジタル放送で隣接地域の同じチャンネル番号の放送を複数受信できたときに表示されます。
- 視聴制限のある番組の視聴には視聴制限設定が必要です。詳しくは「視聴できる番組を制限する」**[164]** をご覧ください。

テレビ番組を楽しむ つづき



音量を調節する／音を一時的に消す／字幕を表示させる

音量を調節する

- 1 リモコンの **音量** または本体の **音量** を押す

音を一時的に消す

- 1 リモコンの **消音** を押す
 - 画面右下に **消音** が表示されます。もう一度 **消音** を押せば音が出ます。

字幕放送番組で字幕の表示/非表示を切り換える

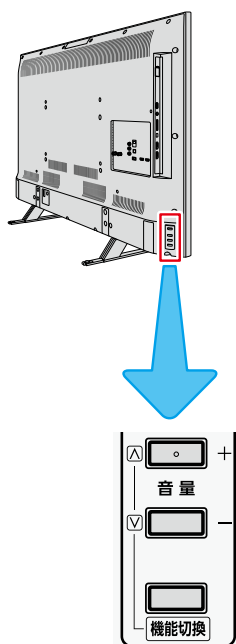
- 1 **字幕** を押す

サブメニューから切り換えるには

- 1 **サブメニュー** を押し、**▲・▼** と **決定** で「字幕」を選ぶ
- 2 **▲・▼** で「字幕オン」または「字幕オフ」を選び、**決定** を押す

本体の「機能切換」ボタンについて

- 本体にある **音量** ボタンは通常「音量調節」(上記)ですが、**機能切換** を押すたびに、機能が切り換わります。



1 **機能切換** を押す

- **機能切換** を押すと画面左上に現在選択している機能が表示されます。希望の機能を選ぶには、機能表示が消える前に手順2の操作をします。



- **機能切換** を押したあと8秒間以上操作をしないと、音量調節機能に戻ります。

2 **機能切換** を繰り返し押して機能を選び、**音量** で切換えまたは調節をする

- **機能切換** を押すたびに以下のように機能が切り換わります。
 - **チャンネル切換 → 放送切換 → 入力切換 → 表示なし(音量調節)**
 - **チャンネル切換** …… チャンネルが順次に切り換わります。
 - **放送切換** …… 「地デジ」、「BS」、「CS」が順次に切り換わります。
 - **入力切換** …… 入力が順次に切り換わります。463

操作ガイドについて

- 番組表や操作画面などには、そのときに使用できる(または使用する)リモコンボタンの操作ガイドが表示されます。
- よく使う機能がカラーボタン(青、赤、緑、黄)やサブメニューに割り当てられています。

例 録画リスト



サブメニューの表示
サブメニューがあることを示します。

例 番組表



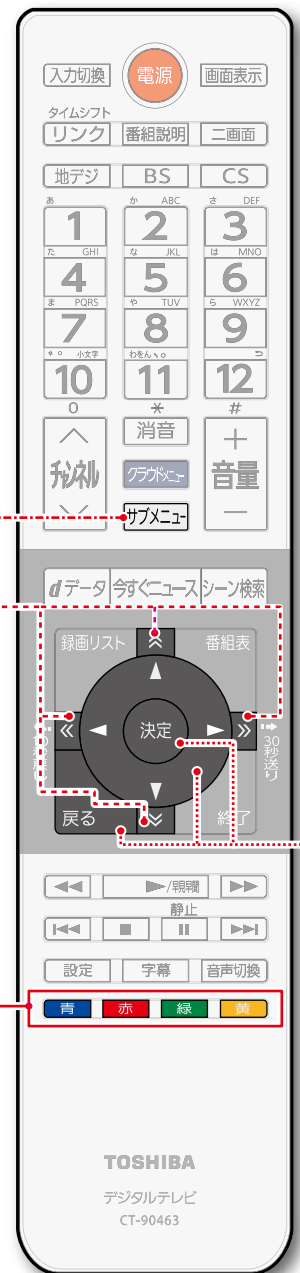
決定の表示
ページやリストの切り換えができることを示します。

例 操作画面



青 赤 緑 黄 の表示
カラーボタンでさまざまな操作ができることを示します。

決定 戻る の表示
選んで決定したり、前の画面に戻ったりすることができることを示します。



テレビを見る

テレビ番組を楽しむ つづき

サブメニューについて

- [サブメニュー] を押してサブメニューを表示させ、さまざまな便利機能を使うことができます。
- サブメニューの内容は、[サブメニュー] を押すときの場面によって変わります。
- サブメニューで選択できる項目は、放送の種類や外部機器の有無などによって変わります。選択できない項目は、薄くなって表示されます。

例 デジタル放送のテレビ番組を視聴中

サブメニュー	機 能（一部省略しています）	詳細記載ページ
ネットサービス	各種ネットサービスが利用できます。 ^{※1}	144
タイムシフトマシン機器	タイムシフトマシン対応東芝レグザサーバーの過去番組表を表示します。 ^{※2}	106
タグリスト	USBハードディスクに録画した番組を再生中に使えます。	84
録画	録画ができます。	70
連ドラ予約	視聴中の連続ドラマが毎回録画されるように予約することができます。	72
予約リスト	予約リストを表示させることができます。	79
メディアプレーヤー	動画、写真、音楽を再生するメディアプレーヤーを起動します。	119
時計	アラームの設定やオフタイマーの設定ができます。	54
字幕	字幕放送番組で字幕の表示／非表示を切り換えられます。	34
画面サイズ切換	見ている映像の種類に応じて、画面サイズを切り換えることができます。	50
スピーカー切換	テレビのスピーカーで聴くか外部システムのスピーカーで聴くか選べます。	53
AVシステム音声設定	音声連携対応のオーディオ機器の音声メニューを設定します。	109
その他の操作		

^{※1} 「もっとTV」やネットサービスの利用には、インターネットを利用するための接続・設定が必要です。

また、ネットサービスによっては、別途登録が必要なものがあります。

^{※2} サブメニューの「タイムシフトマシン機器」は、本機とタイムシフトマシン対応東芝レグザサーバーをHDMIケーブルで接続しているときにのみ、表示されます。
タイムシフトマシン対応東芝レグザサーバーについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

その他の操作		
信号切換		
チャンネル番号入力	チャンネル番号を入力して選局します。	33
アンテナレベル表示	映りが悪いときなどに、アンテナレベルを確認できます。	158
データ放送終了	データ放送の視聴を終了します。	44
テレビ/ラジオ/データ切換	視聴する放送メディアを切り換えます。	44
親切ヘッドホン音量	親切モードでのヘッドホンの音量を調節することができます。 [※]	52
お知らせ	本機や放送局からのお知らせがあったときに内容を確認します。	183
ソフトウェアバージョン	本機のソフトウェアバージョンを確認します。	182
デモンストレーション	本機に標準装備されている機能による画質と音質を体感できます。	53

[※] 「副画面ヘッドホン音量」のときは、副画面モードでのヘッドホンの音量を調節することができます。

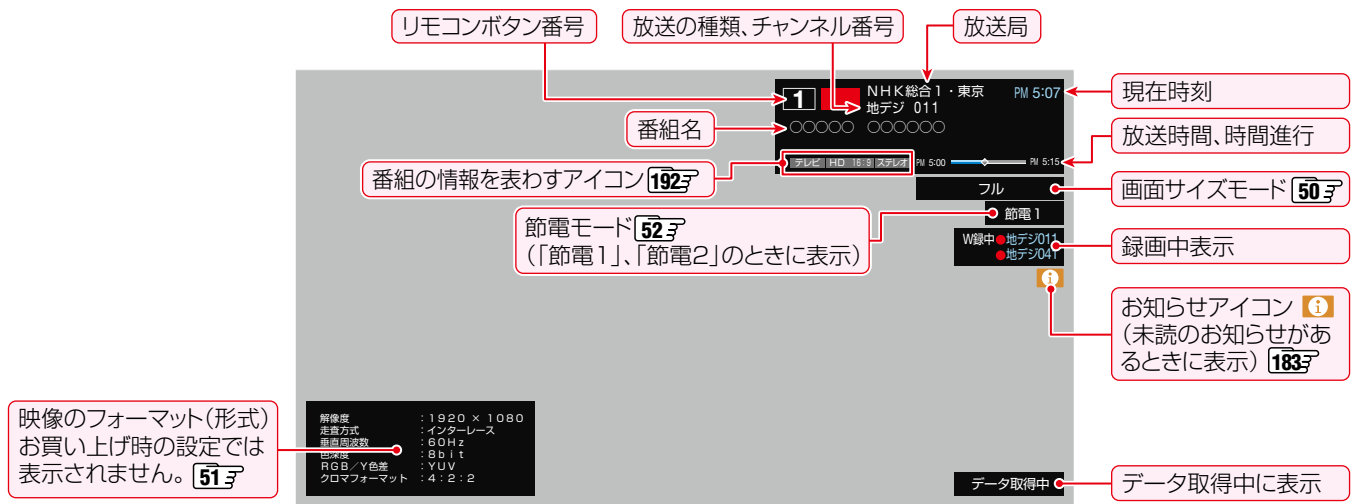
信号切換		
映像信号切換	一つの番組で複数の映像が送られている場合に切り換えられます。	51
音声信号切換	一つの番組で複数の音声を送られている場合に切り換えられます。	51
音多切換	二か国語放送など、音声多重放送の場合に聴きたい音声を選びます。	51
データ信号切換	一つの番組で複数のデータが送られている場合に切り換えられます。	51
降雨対応放送切換	豪雨などの影響で降雨対応放送が行われた場合に切り換えられます。	50

番組情報や番組説明を見る

番組情報を見る

1 画面表示を押す

- 現在視聴しているチャンネルや番組の情報が表示されます。(チャンネル以外の表示は数秒後に消えます)
- 表示を消すには、もう一度画面表示を押します。
- 選局時には一部省略された状態で表示されます。



番組説明を見る

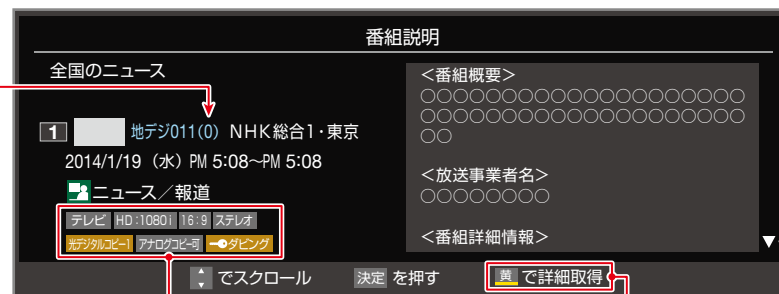
1 番組説明を押す

2 さらに詳しい説明を見るときは▼を押す

- 「詳細情報を取得していません」が表示されたときは、黄ボタンを押します。
 - 詳細情報が取得できなかった場合には、「詳細情報を取得できませんでした」と表示されます。
 - 詳細情報がなかった場合には、「番組の詳細情報はありません」と表示されます。

3 説明画面を消すには、決定を押す

地上デジタル放送では、3ケタチャンネル番号の次に枝番が表示されます。(0) : お住まいの地域内の放送(1)~(9) : 隣接地域の放送



- 画面に表示されるアイコン(ステレオ、HD:1080iなどの記号)についての説明は、「アイコン一覧」192ページをご覧ください。
- 番組情報の表示や詳細情報の取得には時間がかかる場合があります。
- 番組情報を取得するタイミングによっては、最新の情報が表示されないことがあります。
- 番組によっては、録画、録音が制限される場合があります。その場合は、番組説明の画面でアイコンが表示されます。

番組表で番組を探す

番組表を使う

- 番組表は、放送電波で送られてくる番組情報をもとにして表示されます。
- お買い上げ直後や電源を入れた直後、放送の種類を変えたときなどには、番組内容の表示に時間がかかることがあります。
- 番組表を最新にしておくために、本機の電源を毎日2時間以上「切」または「待機」にすることをおすすめします。
- 視聴制限されている番組は、伏せ字(「***」)で表示されます。

1 番組表を押す

- 番組表が表示されます。通常番組表が表示されます。(「週間番組表」については「週間番組表を表示させる」**[39]**をご覧ください)
- 放送の種類を変えるときは、**[地デジ]**、**[BS]**、**[CS]**を押します。
- 独立データ放送やラジオ放送の番組表に切り換えるときは、サブメニューの「テレビ/ラジオ/データ切換」で選びます。
- 番組表を消すときは、**[終了]**を押します。

2 現在放送中の番組を▲▼◀▶で選ぶ

- 選んだ番組の番組説明を見るには、**[番組説明]**を押します。
- 番組表に表示しきれていないチャンネルを表示させるには、**[▶▶]**または**[◀◀]**を押します。

3 決定を押す

- 「番組指定録画」画面が表示されます
- これから放送される番組を選んだときは、「番組指定予約」画面になります。**[71]**の手順**3**をご覧ください。
- 視聴年齢制限されている番組を選んだときは、メッセージが表示されます。番組を見る場合は、**[決定]**を押し、**[1]~[10]**で暗証番号を入力します。

4 現在放送中の番組を見るときは、▲▼◀▶で「見る」を選び、決定を押す

- 画面の図は、現在放送中の番組でUSBハードディスクが接続されている場合の例です。



「見る」を選びます。

- 「番組指定録画」画面からは、録画**[71]**、連ドラ予約**[72]**の操作ができます。
- 「番組指定予約」画面からは、視聴予約**[71]**、録画予約**[71]**、連ドラ予約**[72]**の設定ができます。

[通常番組表画面：7チャンネル表示の例]

放送の種類

リモコンボタン、チャンネル、放送局

録画予約がある時間帯
(赤色の縦線表示)

録画予約アイコン

視聴予約アイコン

連ドラ予約アイコン

別の番組がある時間帯
(灰色の二重縦線表示)

予約重複時間帯(オレンジ)

予約重複アイコン

放送メディア(ラジオ/データ)

番組表の日付

現在の日時

選択中の番組

色分け設定をしたジャンルに該当する番組は、開始時刻と背景が設定した色になります。

放送時間の短い番組は、番組を選べば番組名などが表示されます。

リモコンボタンの操作ガイド

お知らせ

- テレビを視聴している条件などによっては番組表が空欄になる場合があります。この場合は、空欄の部分を選んでから、「番組表を更新する」**[39]**の操作をしてください。
- 番組表に表示できる番組情報は最大8日分です。
- 「チャンネルスキップ設定」**[161]**で、「スキップ」に設定したチャンネルの番組表は表示されません。
- レグザリンク対応の東芝レコーダーに録画する場合は、番組表に予約アイコンは表示されません。
- データ放送の視聴中は番組表に切り換わらないことがあります。その場合は、テレビ放送に切り換えてから操作してください。
- 番組の中止・変更・延長などによって、実際の放送内容が番組表と異なる場合があります。番組表や番組情報などで表示される内容および利用した結果について、当社は一切の責任を負いません。

👑アイコンについて

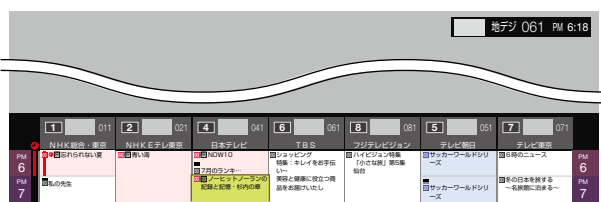
- 当社の情報を基にランキングした番組に表示されます。
- 当社ハイビジョンテレビやレコーダーなどで、番組情報サービスを利用しているユーザーの録画・予約履歴情報をサーバーで収集し、サーバー側で各種ランキング情報を集計・生成して、おすすめ番組データを配信するサービスです。
 - 👑は、地上デジタル放送とBSデジタル放送の番組に表示されます。
 - 当社の機器で本サービスを利用しているユーザーの録画・予約の人気の高いものです。番組視聴率に基づくものではありません。
 - ネットワーク接続していて、ネットワークサービス利用設定を「利用する」に設定している場合に表示されます。

番組を見ながら他の番組を探す(ミニ番組表)

- 番組を見ながら、画面の下側にミニ番組表を表示させて番組を探すことができます。

1 番組表を表示中に **番組表** を押す

- ミニ番組表が表示されます。
- もう一度押すと、ミニ番組表が消えます。
- 操作方法は、前ページの通常番組表の場合と同じです。



番組表を便利に使う

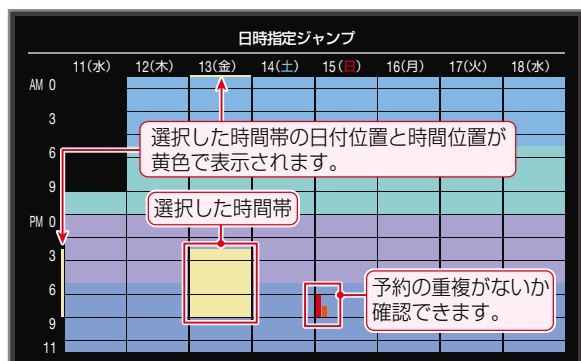
- カラーボタンや番組表のサブメニューで、さまざまな便利機能を使うことができます。
- 番組表またはミニ番組表が表示されているときに以下の操作をします。(ミニ番組表では一部の機能を使用できません)

指定した日時の番組表を表示させる

- 日付と時間帯を選んで番組表を表示させることができます。

1 **青** (日時切換) を押す

2 ▲・▼・◀・▶ で日時を選び、**決定** を押す



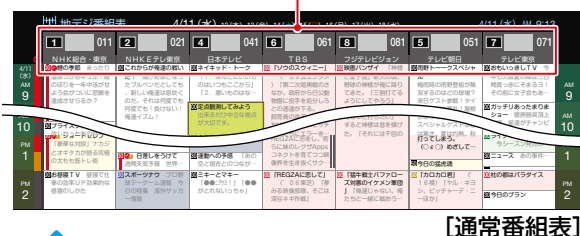
- 選んだ時間帯の番組表が表示されます。

週間番組表を表示させる

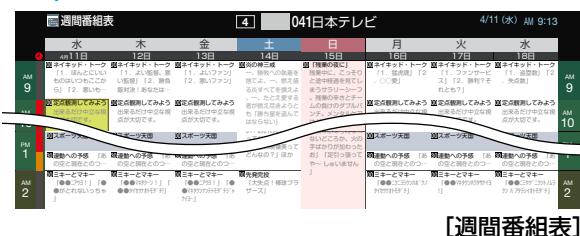
- 選んだ放送局の一週間分の番組表を表示させることができます。

1 ◀▶ で週間番組表を表示させたいチャンネルを選び、**黄** (週間番組表) を押す

一週間分の番組表を表示させたい放送局の番組を選びます。



黄 を押すたびに切り換わります



- 操作方法は、前ページの通常番組表の場合と同じです。
- 番組表の表示を週間番組表にしているときは、「マルチ表示」**40** に切り換えることはできません。

番組説明を見る

- 選択中の番組の番組説明を見ることができます。

1 **番組説明** を押す

- 番組説明が表示されます。

番組表を更新する

- 番組表の中が空になっているときや、最新の番組情報に更新するときは、以下の操作をします。

1 サブメニュー を押し、▲・▼ で「番組情報の取得」を選んで **決定** を押す

番組情報の取得中に表示されます。



- ※ 番組情報の取得中は映像、音声が出ない場合があります。
- ※ 2番組同時録画(W録)中は、番組情報の取得ができません。
- ◇ 番組表で選択している放送局の情報が更新されます。(BSデジタル放送は番組表全体が、110度CSデジタル放送は選択した番組が含まれるネットワークの番組表全体が、地上デジタル放送は選択した番組が含まれる放送局が更新されます)
- 番組情報取得中にほかの操作をすると、情報の取得が中止されることがあります。



- 番組表の操作ガイドに表示される **緑** (番組検索) については、「条件を絞って番組を探す」**42** をご覧ください。

番組表で番組を探す つづき

- 番組情報の取得を中止するときは、番組情報取得中に「サブメニュー」を押し、サブメニューから「番組情報の取得中止」を選択します。

1 チャンネル表示とマルチ表示を切り換える

- BSデジタル放送や地上デジタル放送(どちらもテレビ放送のみ)では、放送事業者ごとの代表チャンネル表示(1チャンネル表示)とマルチチャンネル表示(マルチ表示)の切り換えができます。

1 切り換える放送局の番組をどれか選び、「サブメニュー」を押す

2 ▲・▼で「1チャンネル表示」(または「マルチ表示」)を選び、「決定」を押す

- 番組表の表示によって、「マルチ表示」または「1チャンネル表示」が表示されています。
- 「1チャンネル表示」、「マルチ表示」を選ぶと、以下のよう切り換わります。



- 「マルチ表示」での番組予約について、「71」をご覧ください。

文字サイズを大きくする

- 番組表の文字が小さくて見えにくいときなどに、文字の大きさを切り換えることができます。

1 赤を押して文字の大きさを切り換える

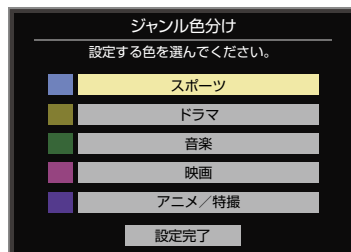
- ボタンを押すたびに、文字の大きさが変わります。文字の大きさに合わせて、表示する時間の範囲も変わります。

ジャンル別に色分けする

- 番組のジャンル(分野)別に色分けをすれば、見たい番組を探すのに便利です。
- お買い上げ時に設定されている色分けを、以下の操作で変更することができます。

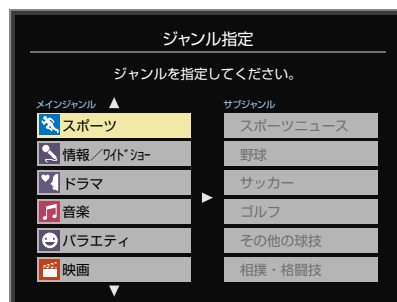
1 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「ジャンル色分け」を選んで「決定」を押す

2 設定する色を▲・▼で選び、「決定」を押す



3 ▲・▼・◀・▶でジャンルを選び、「決定」を押す

- 「決定」を押すと手順2の画面に戻ります。ほかの色の設定を変える場合は、操作を繰り返します。
- 「指定しない」を選ぶと、色分け表示がなくなります。



4 ▲・▼で「設定完了」を選び、「決定」を押す

番組記号の説明を見る

- 新、再、字などの番組記号の意味を調べることができます。

1 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「番組記号一覧」を選んで「決定」を押す

- 番組記号の説明が表示されます。
- 表示されるのは番組記号の一部です。
- 見終わったら、「決定」を押します。



■ (放送の)ネットワーク

デジタル放送の放送の単位。チャンネルや番組についての情報は、このネットワークごとに送られてきます。

表示させるチャンネル数を設定する

- 番組表に表示させるチャンネル数を切り換えることができます。

1 を押し、▲・▼と で「番組表表示設定」⇒「表示チャンネル数」の順に進む

2 ▲・▼で表示させるチャンネル数を選び、 を押す

チャンネルの並び順を設定する

- 番組表に表示させるチャンネルの並び順を切り換えることができます。

1 を押し、▲・▼と で「番組表表示設定」⇒「チャンネル並び順」の順に進む

2 ▲・▼で以下のどちらかを選び、 を押す

- 通常……………放送局推奨の並び順になります。
- チャンネルボタン優先…ワンタッチ選局ボタン
 ～ の番号順に並びます。

番組概要の表示／非表示を設定する

- 番組の概要説明を表示させるかどうかを設定します。

1 を押し、▲・▼と で「番組表表示設定」⇒「番組概要表示」の順に進む

2 ▲・▼で「表示する」、「表示しない」のどちらかを選び、 を押す

地上デジタル放送局の表示位置を設定する

- 地上デジタル放送の番組表での放送局の表示位置を設定します。

1 を押し、▲・▼と で「番組表表示設定」⇒「地デジ表示」の順に進む

2 ▲・▼で以下のどちらかを選び、 を押す

- 視聴チャンネル中央表示…視聴中のチャンネルが番組表の中央に表示されます。
- チャンネル順優先表示…お住まいの地域のチャンネル順に表示されます。

「今すぐニュース」の番組を登録する

- 「今すぐニュース」 の機能で自動録画する番組を登録することができます。

※ 「日時指定予約」 と同じ動作になります。番組が変更された場合は、変更された番組が録画されます。

1 登録するニュース番組を選択して を押す

2 ▲・▼で「今すぐニュース番組登録」を選んで を押す

3 必要に応じて、▲・▼で録画日を指定して を押す

- 「毎日」/「月～土」/「月～金」/「月～木」/「毎週(日)」～「毎週(土)」などの指定ができます。

4 登録された内容を確認し、 を押す

- 登録された番組の取消しや、自動録画の曜日指定などをする場合は、「録画するニュース番組を登録する」 の手順で操作してください。

番組表の放送メディアを切り換える

- 番組表に表示させる放送メディア(ラジオ、テレビ、独立データ)を選びます。
- 放送が運用されていない放送メディアに切り換えることはできません。

1 を押し、▲・▼で「テレビ/ラジオ/データ切換」を選んで を押す

2 ▲・▼で「テレビ」、「ラジオ」、「データ」から選んで を押す



■ 放送メディア
デジタル放送の媒体(テレビ放送、データ放送、ラジオ放送)をさします。

条件を絞りこんで番組を探す

- 番組のジャンル(分野)やキーワードなどの条件を指定して、見たい番組を探すことができます。

1 番組表を押す

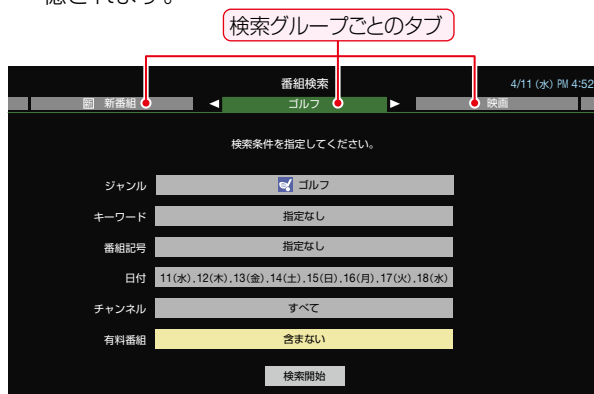
- 番組表が表示されます。

2 緑 (番組検索)を押す

- 番組検索画面が表示されます。

3 検索するグループのタブを◀▶で選ぶ

- 以降の手順で指定する検索条件のうち、「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」は検索グループごとに記憶されます。

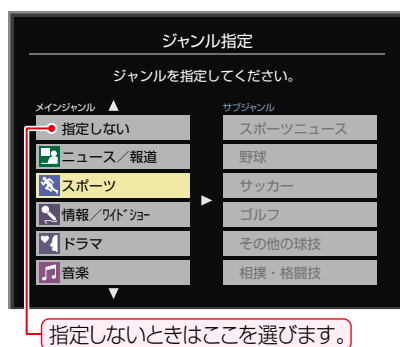


4 検索条件を指定する

- 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」のどれかは必ず指定してください。

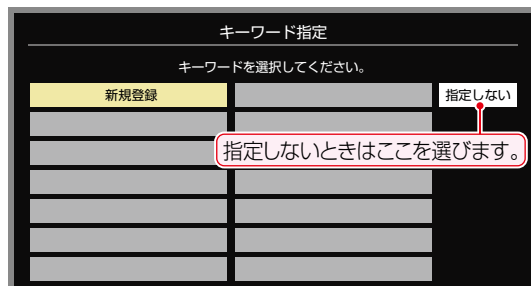
「ジャンル」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「ジャンル」を選び、決定を押す
- 2 指定するジャンルを▲・▼・◀・▶で一つ選び、決定を押す



「キーワード」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「キーワード」を選び、決定を押す
 - 2 指定するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す
- お買い上げ時は登録されていません。



新しいキーワードを登録する場合

- 1 ▲・▼・◀・▶で「新規登録」を選び、決定を押す
 - 2 キーワードを入力して、決定を押す
- 文字入力画面が表示されます。
 - 文字入力のしかたは、「文字を入力する」[55]をご覧ください。
 - キーワードは14個まで登録できます。

キーワードを編集する場合

- 1 編集するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、青を押す

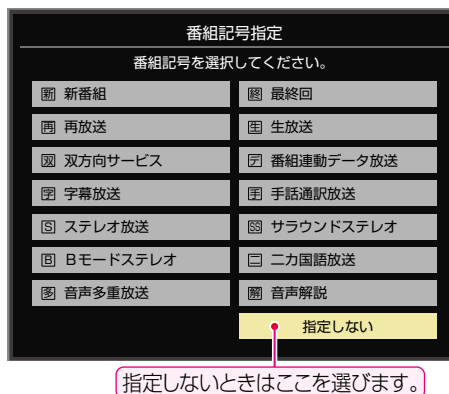
- 2 キーワードを編集し、決定を押す

キーワードを削除する場合

- 1 削除するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、赤を押す
- 2 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

「番組記号」を指定するとき

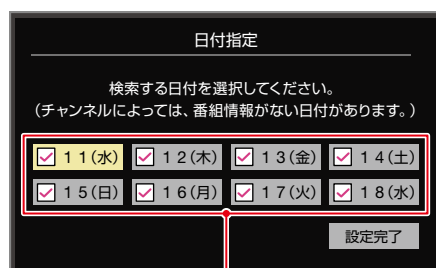
- 1 ▲・▼で「番組記号」を選び、決定を押す
- 2 指定する番組記号を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す



- 番組の詳細情報はキーワード検索の対象になっていません。
- 「チャンネルスキップ設定」[161]で、「スキップ」に設定したチャンネルの番組は番組検索の対象になりません。
- 番組検索の結果は指標としてお使いください。内容および利用した結果について、当社は責任を負いません。

「日付」を指定するとき

- ▲・▼で「日付」を選び、決定を押す
- 指定する日付を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す
 - 決定を押すたびに、☒ (指定する)と☐ (指定しない)が交互に切り換わります。
 - 7日先まで指定できます。

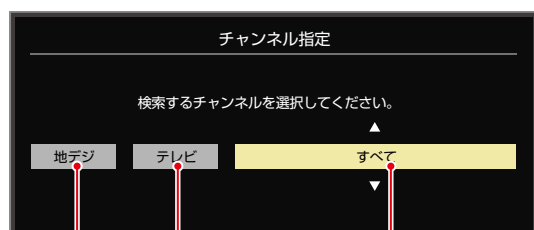


指定する日に「☒」がつくようにします。

- 指定が終わったら、▲・▼・◀・▶で「設定完了」を選び、決定を押す

「チャンネル」を指定するとき

- ▲・▼で「チャンネル」を選び、決定を押す
- 指定する項目を◀・▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ



放送の種類 放送メディア チャンネル

- 放送の種類……すべて / BS / CS / 地デジ
- 放送メディア……すべて / テレビ / ラジオ (BS、110度CSのみ) / データ
- チャンネル……指定した放送の種類やメディアに該当するチャンネル / すべて

- 指定が終わったら、決定を押す

「有料番組」を指定するとき

- 有料番組を検索対象に含めるかどうかを指定します。
- ▲・▼で「有料番組」を選び、決定を押す
 - ▲・▼で「含む」、「含まない」のどちらかを選び、決定を押す

5 ▲・▼で「検索開始」を選び、決定を押す

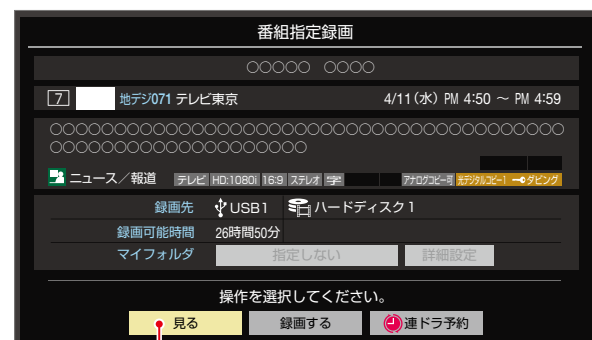
- 選択中のタブの検索グループに、手順3で指定した検索条件が上書きで保存されます。

6 「番組検索結果」画面から、見たい番組を▲・▼で選んで決定を押す



- 「番組指定録画」画面が表示されます。
- これから放送される番組を選んだときは、「番組指定予約」画面が表示されます。**71**の手順3をご覧ください。

7 ▲・▼・◀・▶で「見る」を選び、決定を押す



「見る」を選びます。

- 選んだ番組の放送画面になります。

データ放送やラジオ放送を楽しむ

データ放送について

- デジタル放送では映像や音声によるテレビ放送以外に、データ放送があります。
- データ放送には、テレビ放送チャンネルとは別の独立したチャンネルで行われているデータ放送のほかに、テレビ放送チャンネルで提供されている番組連動データ放送や、番組案内、ニュース、天気予報などのデータ放送があります。

デジタル放送の双方向サービスについて

- インターネットや電話回線を利用して、視聴者と放送局との間で双方向に通信できるサービスです。クイズ番組に参加して回答したり、ショッピング番組で商品を購入したりすることができます。(本機は、電話回線を利用した双方向サービスには対応していません)
- 地上デジタル放送の双方向サービスには、放送番組に連動した通信サービスと、放送番組とは無関係な通信サービスがあります。



非リンク型サービス

放送番組とは無関係な通信サービスのときに表示されます。(文字表示は数秒で消えます)



暗号通信

本機はSSL (Secure Sockets Layer) などの暗号通信に対応しています。そのサービスの際に、このアイコンが表示されます。

ラジオ放送について

- ラジオ放送が運用された場合、本機で放送を聴くことができます。

Hybridcast™(ハイブリッドキャスト)について

- 本機は、Hybridcast™(ハイブリッドキャスト)のサービスに対応しています。
Hybridcast™(ハイブリッドキャスト)は、放送と通信が連動・連携したサービスです。



- 放送データの取得中は一部の操作ができないことがあります。
- 本体の放送切換ボタンとチャンネルボタンでは、データ放送とラジオ放送の選択やチャンネル切換はできません。
- 放送画面の操作説明などで、**dデータ**は「データボタン」、「データ放送ボタン」などと表示される場合があります。
- データ放送、Hybridcast™は録画できません。

■ 双方向サービスについて

- 双方向サービスを利用する場合は、あらかじめインターネットへの接続と設定(128頁～134頁)をしてください。また、双方向サービスの利用には登録の申込みなどが必要な場合があります。
- 双方向サービスでは、お客様の個人情報の入力を要求される場合がありますが、接続先のサイトによってはSSLなどによる通信時のセキュリティ対策が行われていない場合があります。
- 双方向サービスの利用時は、通信に時間がかかり、次の操作がすぐにできないことがあります。
- テレビの動作中に電源プラグを抜かないでください。本機が記憶している双方向サービスでのお客様のポイント情報などが更新されないことがあります。
- 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、利用できません。

■ Hybridcast™サービスについて

- Hybridcast™サービスを利用する場合は、あらかじめインターネットへの接続と設定(128頁～134頁)をしてください。また、Hybridcast™サービスの利用には登録の申込みなどが必要な場合があります。

連動データ放送を楽しむ

- 一部の番組には番組連動データ放送があります。双方向サービスが行われている番組連動データ放送では、番組に参加して楽しむことができます。
- テレビ放送チャンネルで、天気予報やニュース、番組案内などのデータ放送を提供している場合があります。

1

dデータを押す

- 番組によっては押す必要がない場合があります。
- 放送画面に表示される操作メニューや操作説明などに従って操作をします。

2

データ放送を終了するには、**サブメニュー**を押し、**▲・▼**と**決定**で「その他の操作」⇒「データ放送終了」の順に進む

独立データ放送やラジオ放送を楽しむ

- BSデジタル放送などで運用される独立データ放送チャンネルやラジオ放送チャンネルを選ぶときの操作です。

1

放送の種類を選ぶ

- BSデジタルの独立データ放送やラジオ放送を視聴する場合は、**BS**を押します。

2

サブメニューを押し、**▲・▼**と**決定**で「その他の操作」⇒「テレビ/ラジオ/データ切換」の順に進む

3

▲・▼で「データ」または「ラジオ」を選び、**決定**を押す

- **外部**で他のチャンネルに切り換えられます。
チャンネル番号を入力して選ぶこともできます。
- データ放送やラジオ放送を終了するには、上記の操作で「テレビ」を選びます。

「もっとTV」で番組を楽しむ

- 「もっとTV」とは、各キー放送局(NHK、日本テレビ、テレビ朝日、TBSテレビ、テレビ東京、フジテレビ)による「もっと」手軽にコンテンツが楽しめる、放送局公式のビデオ・オン・デマンド(VOD)サービスです。(一部を除いてコンテンツは有料です)
- いろいろなジャンルのコンテンツが視聴できます。
- 「もっとTV」について詳しくはホームページ(<http://www.mottotv.jp/>)をご覧ください。
- 「もっとTV」は株式会社電通によって運営されているVODサービスです。
- ※ 「もっとTV」については、2014年8月現在の情報です。内容やサービスは、予告なく変更や終了する場合があります。
- ※ 回線の速度によっては、利用できないサービスがあります。

「もっとTV」の利用に必要な準備

- インターネットへの接続と設定(128㉞～134㉞)が必要です。
- はじめて「もっとTV」を利用するときに、認証コードが発行され、任意のパスワードを設定します。視聴する際には、発行された認証コードと設定したパスワードの入力が必要になります。

「もっとTV」を起動する

- 1 **サブメニュー**を押し、▲・▼と**決定**で「ネットサービス」⇒「もっとTV」の順に進む
 - しばらくすると「もっとTV」の画面が表示されます。(ページの表示内容は、サービス提供者によって変更される場合があります)
 - ※ 回線の状態によって時間がかかることがあります。
- 2 見たいコンテンツを▲・▼・◀・▶で選び、**決定**を押す
 - 視聴確認画面や購入画面などが表示されたら、画面の表示に従って操作します。
 - テレビのリモコンで、早送り・早戻し・一時停止などの操作をすることができます。
- 3 「もっとTV」を終了するには、**終了**を押す
 - 確認のメッセージが表示されたら、◀・▶で「はい」を選んで、**決定**を押します。

シーン検索機能について

- **シーン検索**を押すと、番組をより便利に楽しくお使いいただけるクラウドサービスが利用できます。使いかた(操作方法など)については、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

シーン検索機能の利用に必要な準備

- インターネットへの接続と設定(128㉞～134㉞)が必要です。
- 「ネットワークサービス利用設定」133㉞の設定が必要です。

外部入力画面に切り換える

- 本機の外部入力端子(HDMI入力1～4、ビデオ入力)に接続したビデオやDVD・ブルーレイディスクプレーヤー / レコーダーなどの再生番組を見たり、ゲーム機を接続して楽しんだりする場合は、以下の操作をします。
- 機器の接続や設定については、「外部機器を接続する」**[96]**～**[100]**をご覧ください。

1 使用する機器の電源を入れる

2 **[入力切換]**を押す

- **[入力切換]**を押すと次の入力を選択された状態で画面左上に入力一覧画面が表示され、少し待つとその入力に切り換わります。希望の入力を選ぶには、入力が切り換わる前に次の手順**3**の操作をします。
 - お買い上げ時の設定では、機器が接続されていない入力は薄くなって表示され、入力切換時にスキップされるようになっています。(**[外部入力自動スキップ]****[99]**の設定で変更することができます)

3 **[入力切換]**を繰り返し押すか、または**▲・▼**を押して入力を選ぶ

- **[入力切換]**を押すたびに以下のように切り換わります。

放送 → HDMI1 → HDMI2 → HDMI3 → HDMI4 → ビデオ

- **▲・▼**では順方向・逆方向の選択ができます。
- お買い上げ時の設定では、機器が接続されていない入力はスキップされます。
- 少し待つと選択した入力に切り換わります。

HDMI連動機器を選ぶとき

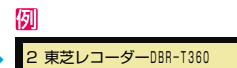
- HDMI連動機器は、入力一覧画面に **REGZA LINK** ▶ が表示されます。
 - **REGZA LINK** ▶ が表示された機器を選んで▶を押すと、機器の形名などが確認できます。
 - HDMI連動対応のオーディオ機器などにHDMI連動機器が接続されている場合は、機器の一覧が表示されます。使用する機器を以下の手順で選択できます。

[入力切換]または**▲・▼**で選ぶ

▲・▼で選んで **決定**を押す



▶を押す



4 選択した機器を操作する

- 機器のリモコンで再生などの操作をしてください。

HDMI連動機器を選んだとき

- サブメニューの「機器操作」を選んで、機器操作メニューを表示させます。

1 **[サブメニュー]**を押す

2 **▲・▼**で「機器操作」を選び、**決定**を押す

- 機器操作メニューが表示されます。機器操作メニューについては、「本機のリモコンで対応機器を操作する」**[106]**をご覧ください。
- ゲーム機を接続した入力では、「映像メニュー」**[145]**を「ゲーム」にしてください。ゲームのレスポンスを重視した、ゲームに適した画質設定になります。
- ※ 3Dコンテンツの2D表示中は映像の遅延が大きくなり、ゲームに適さないことがあります。



- 本体の **[入力切換]** と **[音量]** でも、「入力切換」ができます。**[34]**

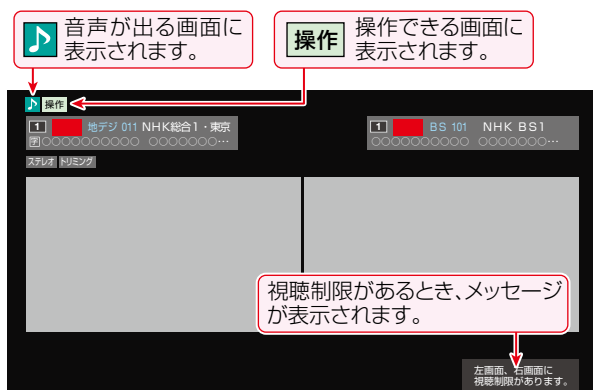
- 入力切換時に画面に表示される「ブルーレイ」などの機器名を変えることができます。「外部入力表示設定」**[99]**をご覧ください。

二画面で楽しむ

- テレビ画面に二つの映像を映して楽しむことができます。
- ※ 録画中は、本機の状態によって二画面表示にできない場合があります。
- ※ HDサイズ(1920×1080画素)よりも解像度の大きい信号の映像は、二画面にできません。(メッセージが表示され、黒い画面になります)

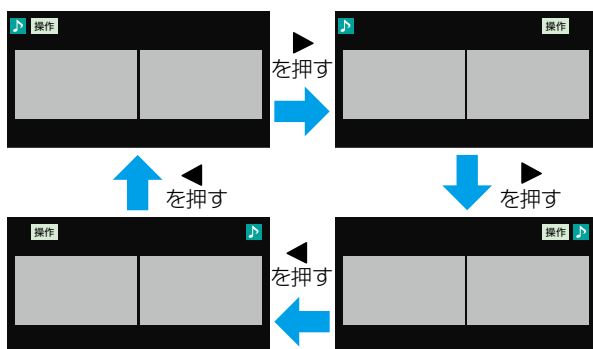
1 「二画面」を押す

- 二画面表示になります。



2 操作したい画面を◀▶で選ぶ

- ◀▶を押すと、操作できる画面や音声が出る画面が以下のように切り換わります。



3 チャンネルや入力を選ぶ

- 左画面と右画面に映せる画面の組み合わせは下表のとおりです。

左画面	右画面
放送	放送、外部入力
外部入力	放送
録画番組再生	放送、外部入力

外部入力：HDMI 1～4、ビデオ

4 二画面を終了するには、「二画面」、 のどれかを押す

-  が表示されていたほうの一画面表示になります。

放送画面のチャンネルを切り換えるとき

- 「リモコンで番組を選ぶ」[33]の操作をします。
- 二画面表示中にBSデジタル放送の選局ガイドを表示させたときは、左右画面の移動はできません。

HDMI入力やビデオ入力に切り換えるとき

- 前ページの「外部入力の画面に切り換える」の操作をします。ただし、「HDMI連動機器を操作する」の操作はできません。(HDMI連動対応オーディオ機器の音量操作などはできます)

左画面で録画番組再生をするとき

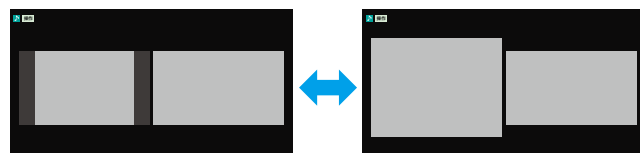
- 一画面表示で録画リスト[82]からの録画番組再生を開始してから、「二画面」を押します。
- 録画番組再生の対象機器は、USBハードディスクのみです。
- 再生中に早送り再生などのリモコン操作ができます。[83]
- 再生が終了した場合や、 を押した場合は一画面表示になります。
- 一画面表示で「今すぐニュース」[86]を再生しているときに「二画面」を押して、左画面で「今すぐニュース」の再生をすることもできます。

番組情報などを見るととき(放送/再生)

-  で番組情報の表示/非表示の切り換えができます。
-  を押すと、「番組説明」で「操作」が表示されている画面の番組説明が表示されます。

画面の大きさを変えるとき

- 左画面を拡大することができます。(再生画面の一時停止中は拡大できません)
 - ▲・▼を押すと、画面の大きさが徐々に変わります。
 -  ・  を押すと、画面の大きさが大と小の2段階で変わります。
 - 左画面の拡大につれて右画面は縮小されます。
- 左右が黒く表示されている16:9の映像の場合、「サブメニュー」を押して▲・▼と で「画面サイズ切換」⇒「トリミングオン」の順に進むと、映像部分が拡大表示されます。(同じ操作で「トリミングオフ」にすると元の表示に戻ります)



視聴制限があるとき

- 視聴制限がある場合は画面右下にメッセージが表示され、番組名は伏せ字で表示されます。
- 視聴制限のある番組の視聴には、視聴制限設定が必要です。詳しくは「視聴できる番組を制限する」[164]をご覧ください。



- 二画面のときはラジオ/データ放送を視聴できません。ラジオ放送やデータ放送を視聴しているときに二画面表示にすると、最後に選んでいたテレビ放送チャンネルの映像が表示されます。
- 「インターネット」[138]を使用中に二画面にすることができます。
- 二画面表示のときのHDMI連動機器からのワンタッチプレイは、操作画面側の入力が切り換わります。
- 二画面表示のときにUSBハードディスクへの録画や視聴予約の番組が始まると、一画面表示に戻ります。
- ヘッドホン出力モードを「副画面モード」にしている場合、録画中または保存中の二画面表示では、ヘッドホン出力モードが「主画面モード」に切り換わります。
- BS放送または110度CS放送を録画中にBS放送と110度CS放送を二画面の左右画面に表示した場合、選局に制限があります。

便利な機能を使う

画面サイズについて

- 選択できる画面サイズは下表のとおりです。
- 画面の見えかたについては、次ページをご覧ください。
- 信号フォーマットについては、「本機で対応している HDMI入力信号フォーマット」**190** をご覧ください。
- ※ 3Dコンテンツの2D表示中は「フル」になり、切り換えられません。

放送番組やビデオ入力端子からの映像を見ているとき

映像の種類	選択できる画面サイズ
デジタル放送の4：3の映像(480p、480i)、映像入力端子	スーパーライブ、ズーム、映画字幕、フル、ノーマル
デジタル放送の16：9の映像	HDスーパーライブ、HDズーム、フル - 画面サイズを変更した番組の放送中は、選んだ画面サイズが保持されます。番組終了後、選局操作をすると「フル」に戻ります。 - 電源入／切で「フル」に戻ります。

HDMI入力端子からの映像を見ているとき

映像や信号フォーマットの種類	選択できる画面サイズ
480i、480p	スーパーライブ、ズーム、映画字幕、DVDファイン、フル、ノーマル、ネイティブ
VGA、SVGA、XGA、SXGA	スーパーライブ、ズーム、フル、ノーマル、ネイティブ
720p、1080i、1080p、WXGA	HD スーパーライブ、HDズーム、フル、ノーマル、ネイティブ
2560×1440	フル

映像メニューを「ゲーム」、「モニター D63」、「モニター D95」にしているとき

1080p画質モードを「ピュアダイレクト」にしているとき

1080p入力時にコンテンツモードを「ハイビットBD」、「4Kマスター BD」にしているとき

入力端子	信号フォーマットの種類	選択できる画面サイズ
映像入力端子	480i	フル、ノーマル
HDMI入力端子	480p、480i、VGA、SVGA、XGA、WXGA、SXGA	フル、ノーマル、ネイティブ
	1080p、1080i、720p	フル、ネイティブ
	2560×1440	フル

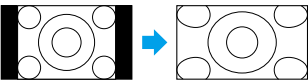
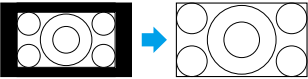
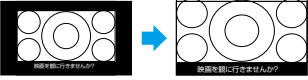
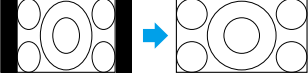
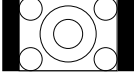
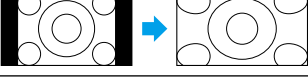
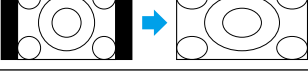
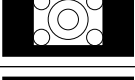
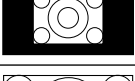
4K信号の映像を見ているとき(HDMI)

映像や信号フォーマットの種類	選択できる画面サイズ
3840×2160画素	4Kフル
4096×2160画素	4Kフル、4Kノーマル 機器の操作、電源入／切などで「4Kノーマル」に戻ります。



- このテレビは、各種の画面サイズのモード切替機能を備えています。テレビ番組等のソフトの映像比率と異なるモードを選択すると、本来の映像とは見えかたが異なります。
- 視聴する映像のフォーマットと画面サイズの組合せによっては、周囲の映像が隠れたり、画面の周囲が黒で表示されたり、左右の端がちらついたりすることがあります。また、放送画面に表示される選択項目を選ぶ際に枠がずれて表示されることがあります。
- 4:3の映像を「スーパーライブ」などを利用して画面いっぱいに表示させると、周辺画像が一部見えなくなったり、変形して見えたりします。制作者の意図を尊重した本来の映像は、「ネイティブ」、「ノーマル」(16：9映像の場合は「フル」)でご覧になれます。
- テレビを公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等に置いて、画面サイズの切替機能を利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどすると、著作権法上で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。

画面の見えかたについて

入力	画面サイズモード	画面の見えかた	説明
4:3	スーパーライブ	※1 	4:3の映像をワイド画面で楽しむモードです。画面左右の端にいくほど映像が引き伸ばされます。
	ズーム	※1 	上下が黒い帯になっている映画などのワイド映像(レターボックス「LB」)を拡大して楽しむモードです。
	映画字幕	※1 	レターボックスのワイド映像の下に字幕がはいっている場合に、字幕を隠れにくくするモードです。
	フル	※1 	DVDソフトなどのスクイーズ映像(縦に伸びて見える映像)を、ワイド映像で表示するモードです。
	ノーマル		4:3の映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。
16:9	フル		16:9の映像を画面いっぱいに表示するモードです。
	HDスーパーライブ※2	※3 	左右に帯(黒や模様など)のある16:9の映像をワイド画面で楽しむモードです。画面左右の端にいくほど映像が引き伸ばされます。
	HDズーム※2	※3 	上下左右に帯(帯も映像として送られています)のある16:9の映像をワイド画面で楽しむモードです。
4:3 16:9	DVDファイン		DVD映像を鮮明な画質で拡大表示します。(4:3映像用「ノーマル」と16:9映像用「フル」の表示切り換えができます)
ゲーム	フル	※4 	ゲーム映像をテレビ画面いっぱいに拡大して表示するモードです。
	ノーマル		ゲーム映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。(図は4:3の例です)
	ネイティブ		入力信号の1ドットを縦・横2ドットずつの4ドットで表示するモードです。映像のない部分は黒く表示されます。
HDMI	ネイティブ		入力信号の1ドットを縦・横2ドットずつの4ドットで表示するモードです。映像のない部分は黒く表示されます。
4K 信号	4Kフル (3840×2160画素)		4K信号の映像をそのままの横と縦の比で表示します。
	4Kフル (4096×2160画素)		4K信号の映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。(左右が128画素ずつ切れた状態が表示されます)
	4Kノーマル (4096×2160画素)		4K信号の映像を画面に合わせて縮小して表示するモードです。(上下の映像が無い部分は黒く表示されます)

※1 左側の図は画面サイズモードを「ノーマル」にした場合の見えかたです。

※2 デジタル放送のハイビジョン放送と標準画質放送の16:9の映像で切り換えることができます。

※3 左側の図は画面サイズモードを「フル」にした場合の見えかたです。

※4 左側の図は画面サイズモードを「ゲームノーマル」にした場合の見えかたです。

便利な機能を使う つづき

画面サイズを切り換える

- 視聴している映像の種類に応じて、画面サイズを切り換えることができます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「画面サイズ切換」を選び、**決定** を押す

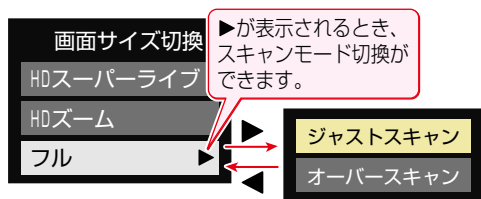
2 お好みの画面サイズを▲・▼で選び、**決定** を押す

- 画面の見えかたについては前ページをご覧ください。

▶が表示されるとき

- **決定** を押す前に、必要に応じて以下の操作をします。

1 ▶を押し、お好みのモードを▲・▼で選ぶ



- ジャストスキャン……16:9の映像が画面内に収まるように表示させます。
- オーバースキャン……16:9の映像を少し大きめに表示させます。
- 画面サイズが「DVDファイン」の場合は、「ノーマル」と「フル」の切換えができます。
 - ノーマル……映像が4:3のときに選択します。
 - フル……映像が16:9のときに選択します。

画面の位置や幅を調整する

- 放送/端子、信号、画面サイズの組合せごとに、「画面調整」の調整状態が記憶されます。
- ※ 映像の種類と画面サイズによって、調整できないことがあります。また、パソコンを接続したとき、画面情報とパソコン側で設定した情報が一致しない場合があります。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「画面調整」の順に進む

2 調整する項目を▲・▼で選び、**決定** を押す

- 上下振幅調整……映像の縦のサイズを調整します。
- 上下画面位置……映像の表示位置を上下方向に調整します。
- 左右振幅調整……映像の横のサイズを調整します。
- 画面調整の初期化……お買い上げ時の調整状態に戻ります。手順3の操作はありません。

3 ◀▶でお好みの状態に調整し、**決定** を押す

- 上下振幅調整と左右振幅調整は-03～+03の範囲で調整できます。
- 上下画面位置は、視聴している映像の種類によって調整できる範囲が異なります。

降雨対応放送について

- BSデジタル放送や110度CSデジタル放送を視聴中に、雨や雪などで衛星からの電波が弱まった場合、放送局が運用していれば、降雨対応放送に切り換えて見ることができます。
- ※ 図のメッセージが表示された場合は、以下の手順で降雨対応放送に切り換えられます。

- ※ 降雨対応放送は、通常の放送よりも画質が低下します。

電波の受信状態が良くありません。
サブメニューから降雨対応放送に切り換えられます。

コード：E201

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「信号切換」⇒「降雨対応放送切換」の順に進む

2 ▲・▼で「降雨対応放送」を選ぶ

- 降雨対応放送をやめるには、「通常の放送」を選びます。
- 電波が強くなると、自動的に通常の放送に戻ります。

他の映像・音声・データを切り換える

音声多重番組で聴きたい音声を選ぶ

- 音声多重放送番組の場合、主音声、副音声、主：副を切り換えることができます。
- 番組情報画面に **二重音声** のアイコンが表示されます。

1 **音声切換** を押す

- **音声切換** を押すたびに以下のように切り換わります。

→ 主音声 → 副音声 → 主：副 →

- サブメニューの「音多切換」でも音声の切換えができます。

音声を切り換える

- 複数の音声で放送されている番組の場合、音声1、音声2などの音声信号を切り換えることができます。
- 番組情報画面に **信号切換** のアイコンが表示されます。

1 **音声切換** を押す

- **音声切換** を押すたびに以下のように切り換わります。

→ 音声1 → 音声2 → 音声3… →

- 右記サブメニューの「音声信号切換」でも音声の切換えができます。



■ 信号切換について

- 選局操作をすると、信号切換で選択した状態は取り消されます。(基本の信号を選択した状態になります)
ただし音多切換と字幕切換では、選局しても状態は取り消されません。

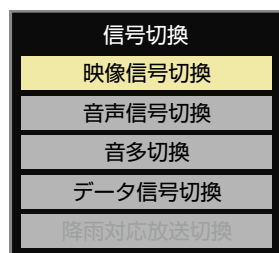
映像、音声、データを切り換える

- デジタル放送では、一つの番組に複数の映像や音声、データがある場合があります。お好みで選択することができます。
- 映像、音声、データが切り換えられる番組は、番組説明画面に「信号切換」のアイコンが表示されます。

1 「サブメニュー」を押し、▲・▼と決定で「その他の操作」⇒「信号切換」の順に進む

2 切り換える信号を▲・▼で選び、決定を押す

- 視聴中の番組で切換えのできない信号は、薄くなって表示されます。



3 視聴したい映像、音声、データを▲・▼で選び、決定を押す

- 「信号切換」のサブメニューに表示される「音声信号切換」、「音多切換」は、左記の「音声切換」で選択する機能と同じものです。

映像を静止させる

- 映像の動きを止めることができます。料理番組のレシピや、視聴者プレゼントの応募先などをメモするときに便利です。

1 静止を押す

- 映像が静止します。
- 解除するときは、もう一度「静止」を押します。
- 映像の静止中でも音声は流れ続けます。



- ラジオ、データ放送視聴中は静止画にできません。また、映像の静止中にデータ放送の操作はできません。
- USBハードディスクでの録画中は静止画にできません。
- 字幕放送の場合、映像の静止中に字幕は表示されません。
- 選局操作をすると静止画が解除されます。
- テレビを公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどで「静止画」を使用すると、著作権法で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。
- 映像を静止中に、入力されている信号が切り換わると、静止が解除される場合があります。

映像の詳細情報を表示させる

- 「画面表示」を押したときに、視聴している映像の詳細な信号フォーマット情報が表示されるように設定することができます。

例

水平×垂直画素数	: 1920 × 1080
走査方式	: インターレース
垂直周波数	: 60Hz
色深度	: 8bit
RGB/Y色差	: YUV
クロマフォーマット	: 4:2:2

- お買い上げ時は表示されないように設定されています。表示させたい場合は、「オン」に設定してください。

1 「設定」を押し、▲・▼と決定で「機能設定」⇒「信号フォーマット詳細表示設定」の順に進む

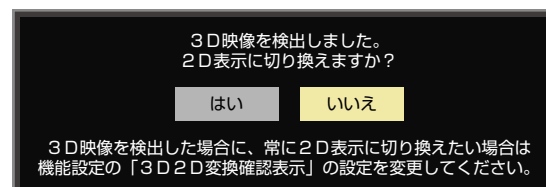
2 ▲・▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

- オン……「画面表示」を押したときに信号フォーマットの詳細な情報が表示されます。[37]
- オフ……信号フォーマットの詳細な情報は表示されません。

3D2D変換確認表示の設定をする

- 本機が3Dコンテンツの映像を検出すると、2D映像に変換して表示するかどうかの確認画面が表示されます(お買い上げ時の設定)。

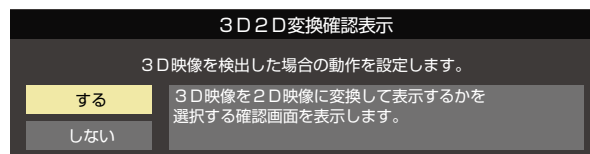
※ 本機は3Dコンテンツを3D映像(立体映像)として視聴することはできません。



- 3Dコンテンツの映像を2D映像に変換して見る場合は、「はい」を選びます。
- 以下の操作で確認画面を表示するかしないかの設定ができます。

1 「設定」を押し、▲・▼と決定で「機能設定」⇒「3D2D変換確認表示」の順に進む

2 ▲・▼で以下から選び、決定を押す



- する……3Dコンテンツを2D映像(通常の映像)に変換して表示させるかどうかの確認画面が表示されます。
- しない……確認画面は表示されません。3Dコンテンツは2D映像に変換されて表示されます。

便利な機能を使う つづき

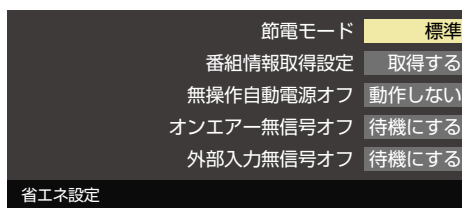
節電モードを切り換える

- 液晶画面のバックライトの明るさをおさえることでテレビの節電ができます。
- 「節電1」、「節電2」に切り換えた場合、画面の明るさに適した画質に自動調整されます。(「映像メニュー」**145**が「ライブプロ」、「映画プロ」、「写真」、「モニターD93」、「モニターD65」の場合、画質は変わりません)
- 省エネに関するさまざまな設定をすることができます。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「機能設定」⇒「省エネ設定」の順に進む

- 「省エネ設定」の画面が表示されます。

2 設定する項目を▲・▼で選び、決定を押す



3 お好みの設定を▲・▼で選び、決定を押す

- 以降の説明を参照し、設定してください。

節電モード

- 標準……………標準の明るさです。
- 節電1……………画面の明るさをおさえて、節電します。
- 節電2……………画面の明るさを「節電1」よりもおさえて、さらに節電します。

番組情報取得設定

- 番組表機能や予約機能を正しく働かせるために、「取得する」で使用することをおすすめします。
- 取得する…電源が「待機」や「切」のときに、デジタル放送の番組情報を取得します。取得時に電力を消費します。
- 取得しない…番組情報を取得しません。そのため、番組表の内容が表示されなかったり、予約できなかったり、番組検索ができなかったりする場合があります。

無操作自動電源オフ

- 待機にする…テレビの無操作状態が約3時間続くと、電源が「待機」になります。
- 動作しない…テレビの無操作状態が続いても電源は「入」のままです。

オンエアー無信号オフ

- 待機にする…放送受信時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。
 - 動作しない…無信号状態が続いても電源は「入」のままです。
- ※外部入力を選んでいるときは機能しません。

外部入力無信号オフ

- 待機にする…外部入力選択時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。
- 動作しない…無信号状態が続いても電源は「入」のままです。

ヘッドホンで聴く

- ヘッドホンで聴くときの音の出かたを設定します。
- ヘッドホン用出力モードには「主画面モード」、「副画面モード」と「親切モード」があります。お買い上げ時は「主画面モード」に設定されています。
- ※ ヘッドホン用出力モードの設定のしかたについては、「ヘッドホン／音声出力設定」**157**をご覧ください。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「音声設定」⇒「ヘッドホン／音声出力設定」⇒「ヘッドホン用出力モード」の順に進む

- 主画面モード…ヘッドホンだけで音声を聞くモードです。ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーから音声が出なくなります。
二画面のときは、主画面の音がヘッドホンから出ます。
- 副画面モード…ヘッドホンとスピーカーの両方で音声を聴くモードです。
二画面のときは、副画面の音がヘッドホンから出ます。
- 親切モード…ヘッドホンとスピーカーの両方で音声を聞くモードです。家族で視聴する場合など、スピーカーの音声が聞き取りにくい人がヘッドホンまたはイヤホンで聴くというように使いかたができます。
二画面のときは、主画面の音がスピーカーとヘッドホンから出ます。

- 副画面モードまたは親切モードのとき、スピーカーの音量は で調整します。

ヘッドホンの音量調節のしかた

- 「主画面モード」に設定しているときは、 で調節します。
- 「副画面モード」、「親切モード」に設定して、ヘッドホンを接続しているときは、以下の手順で調節します。

1 サブメニューを押し、▲・▼と決定で「その他の設定」⇒「副画面ヘッドホン音量」または「親切ヘッドホン音量」の順に進む

- ヘッドホンを接続していないときは、選択できません。

2 ◀▶で音量を調節する

- でも調節できます。



- ヘッドホンで聴くときは、必ず「ヘッドホン／音声出力設定」を「出力モード設定」**157** にしてください。

外部スピーカーで聴く

- ヘッドホン／音声出力端子に音声出力機器を接続して聴くときの音の出かたを設定します。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「スピーカー切換」を選び、**決定** を押す

2 ▲・▼で「外部スピーカーで聴く」を選んで **決定** を押す

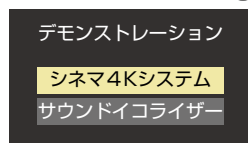
- テレビのスピーカーからは音は出ません。
- 外部スピーカー用出力モードが「固定出力モード」の場合は、接続した外部音声出力機器で音量を調節します。「可変出力モード」の場合は、本機のリモコンで音量が変化します。
- ※ 外部スピーカー用出力モードの設定のしかたについては、「ヘッドホン／音声出力設定」157ページをご覧ください。

デモンストレーションを見る

- 本機に標準で搭載されている映像と音声の機能を、デモンストレーションで体感することができます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「デモンストレーション」の順に進む

2 ▲・▼で違いを体感するデモンストレーションを選び、**決定** を押す



- シネマ4Kシステム……映像の違いが体感できます。
- サウンドイコライザー……音声の違いが体感できます。

3 ▲・▼で「オン」または「オフ」を選び、**決定** を押す

- オン……通常(効果のある)の状態です。
- オフ……擬似的に効果をかけない状態にしています。
- 「オフ」の状態は、デモンストレーションメニューが表示されているときにのみ、再現されます。デモンストレーションを終了すると、映像および音声は「オン」の品位になります。

デカ文字時計を表示する

- 画面にデカ文字時計を表示させます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「時計」⇒「時計表示」の順に進む

2 ▲・▼を押して、「デカ文字時計(大)」、「デカ文字時計(小)」または「オフ」を選び、**決定** を押す

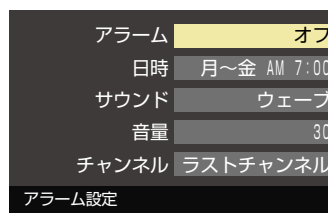
- 「オフ」を選ぶとデカ文字時計を消します。

アラームを使う

- 設定した時刻にアラームでお知らせすることができます。本機の電源「切」のときは、電源が「入」になります。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「時計」⇒「アラーム設定」の順に進む

2 以下の手順で設定する



アラーム

- 1 ▲・▼で「アラーム」を選び、**決定** を押す
- 2 ▲・▼で「オン」を選び、**決定** を押す
 - アラームを使用しないときは、「オフ」を選びます。
 - アラーム設定画面を表示中は、**青** を押すたびに「アラーム」の「オン」と「オフ」を切り換えることができます。

日時

- アラームでお知らせする日時を設定します。
- 1 ▲・▼で「日時」を選び、**決定** を押す
 - 2 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で日時を選ぶ
 - 曜日は「毎日」、「1回」、「毎週(日)～毎週(土)」、「月～木」、「月～金」、「月～土」の中から選びます。
 - 3 設定が終わったら、**決定** を押す

サウンド

- アラームでお知らせするときの効果音を設定します。
- 1 ▲・▼で「サウンド」を選び、**決定** を押す
 - 2 ▲・▼でお好みの音を選ぶ
 - **黄** を押すと、選んだ音を聴いて確認することができます。
 - ※ テレビの状態によっては、「再生できません」が表示され、効果音の確認ができない場合があります。
 - 3 設定が終わったら、**決定** を押す

便利な機能を使う つづき

音量

- アラームでお知らせするときの音量を設定します。
- ① ▲・▼で「音量」を選び、決定を押す
- ② ▲・▼でお好みの音量を選ぶ
 - 黄を押すと、選んだ音量を聴くことができます。
- ③ 設定が終わったら、決定を押す

チャンネル

- アラームでお知らせした後に、画面に映すチャンネルを設定します。
- ① ▲・▼で「チャンネル」を選び、決定を押す
- ② 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ
 - 放送の種類……ラストチャンネル／地デジ／BS／CS
 - ※ ラストチャンネルは、アラームでお知らせする前に見ていたチャンネルです。
 - 電源「切」のときは、電源を切る前に見ていたチャンネルになります。
 - チャンネル……設定した放送の種類に該当するチャンネル
- ③ 設定が終わったら、決定を押す

アラームの動作について

- アラームで設定した時刻になると次のように動作します。

設定した「音量」、「サウンド」でアラームが鳴り、アラーム停止画面が表示される

- 電源が「切」のときは、電源が「入」になります。

- ◀▶で「停止」を選んで決定を押すと、アラームを停止します。
- ◀▶で「スヌーズ」を選んで決定を押すと、アラームを一度停止し、スヌーズ動作になります。

スヌーズ動作：

5分後、再度アラームが鳴り、アラーム停止画面が表示されます。

アラームを停止するときは、アラーム停止画面で「停止」を選びます。

スヌーズ中は、決定を押してスヌーズ解除画面を表示させ、「はい」を選んで決定を押します。

スヌーズで無音状態中に音量の操作をすると、アラームの音量も操作した音量になります。

※ アラームを停止しないと：

「サウンド」で選んだ音が5分後に停止し、無音状態になります。さらに5分経過すると、再度選んだ音が鳴ります。アラームを停止するまで上記動作を繰り返します。（「無操作自動電源オフ」52頁の設定にしがいます）

※ アラームで電源がはいったときは、上記を繰り返し、操作をせずに1時間が経過すると、自動的に電源が「切」になります。

アラームを一時的に解除する

- アラームの設定を残したまま、一時的に解除することができます。

1 サブメニューを押し、▲・▼と決定で「時計」⇒「アラーム設定」の順に進む

2 ▲・▼で「オフ」を選び、決定を押す
● 「オン」を選ぶと、アラームが再開されます。

オフタイマーを使う

- オフタイマーを設定すると、設定時間後に電源が切れて、「待機」の状態になります。

1 サブメニューを押し、▲・▼と決定で「時計」⇒「オフタイマー設定」の順に進む

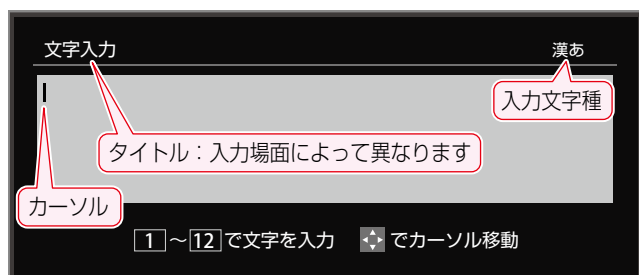
- すでにオフタイマーが設定されているときは、「オフタイマー設定」に電源が切れるまでの時間も表示されます。

2 ▲・▼で、電源を「待機」にするまでの時間を選んで決定を押す

- オフタイマーが動作して、あと1分になると画面にメッセージが表示されます。

文字を入力する

- 番組検索のキーワード指定で、新しいキーワードを登録する場面などで文字入力画面が表示されます。



1 1~12で文字を入力する

- 携帯電話と同様の操作で文字を入力します。

入力例：がっこう

→ [2], [10], [4] (6回), [2] (5回), [1] (3回)
が っ こ う
「っ」の別の入力方法 → [4] (3回), [10] (2回)
っ

- 文字に続けて [10] を押せば、濁点 (・) や半濁点 (゜) の入力および小文字変換ができます。
- 同じボタンに割り当てられた文字を続けて入力する場合は、次の文字の前に ▶ を押します。

入力例：あい → [1], ▶, [1] (2回)
あ い

- 入力文字の種類を変えるときは、青 (文字切換) を押します
- 文字を挿入するには、挿入する場所を ▲・▼・◀・▶ で選んで入力します。
- スペースを入力するときは、緑 を押します。

文字を削除するには

- 1文字を削除するには、赤 を短く押します。カーソルの右に文字がない場合は、カーソルの左の1文字が削除されます。カーソルの右に文字がある場合は、カーソルの右の1文字が削除されます。
- 文字をまとめて削除するには、赤 を押し続けます。カーソルの右に文字列がない場合は、文字がすべて削除されます。カーソルの右に文字列がある場合は、カーソルより右の文字がすべて削除されます。

2 以下の操作で文字を確定する

- 漢字に変換しないときは、決定 を押す
- 漢字に変換するときには、▼を繰り返し押し、希望の漢字が見つかったら 決定 を押す
 - 希望する漢字に変換されない場合は、変換する範囲を ◀▶ で変え、▲・▼で再度変換します。

3 すべての入力が終わったら、決定 を押す

- 文字入力画面が表示される前の操作場面に戻ります



- 入力した文字は、次のように表示されます。
入力中の文字：黄色背景／未確定の文字：白色背景／漢字変換候補選択中の文字：黒色背景／確定した文字：背景なし
- 確定せずに変換できるのは4文節までです。4文節以上のときは、確定してから残りを変換してください。
- 漢字候補選択時に 戻る を押せば、その文節を未変換状態に戻すことができます。

文字切換(入力文字種の切り換え)

「漢あ」	漢字変換	ひらがなや漢字を入力できます。
「カナ」	全角カナ	カタカナを入力できます。
「a A」	全角英字	全角の英字を入力できます。
「abAB」	半角英字	半角の英字を入力できます。
「1 2」	全角数字	全角の数字を入力できます。
「1234」	半角数字	半角の数字を入力できます。
「全角記号」	全角記号	全角の記号を入力できます。
「半角記号」	半角記号	半角の記号を入力できます。
「定型文」	定型文	定型文を入力できます。

- 文字入力の場面によっては、使用できる入力文字種が少なかったり、切り換えられなかったりすることがあります。
- 入力文字種が「全角記号」、「半角記号」のときには、入力したい記号を文字入力画面から選びます。

入力文字一覧

リモコン	入力文字種			
	漢字変換	全角カナ	英字	数字
1	あ→い→う→え→お →あ→い→う→え→お	ア→イ→ウ→エ→オ →ア→イ→ウ→エ→オ	1→2→3→4→5→ 6→7→8→9→0	1
2	か→き→く→け→こ →か→け	カ→キ→ク→ケ→コ →カ→ケ	a→b→c →A→B→C	2
3	さ→し→す→せ→そ	サ→シ→ス→セ→ソ	d→e→f →D→E→F	3
4	た→ち→つ→て→と →つ	タ→チ→ツ→テ→ト →ツ	g→h→i →G→H→I	4
5	な→に→ぬ→ね→の	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ	j→k→l →J→K→L	5
6	は→ひ→ふ→へ→ほ	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ	m→n→o →M→N→O	6
7	ま→み→む→め→も	マ→ミ→ム→メ→モ	p→q→r→s →P→Q→R→S	7
8	や→ゆ→よ →や→ゆ→よ	ヤ→ユ→ヨ →ヤ→ユ→ヨ	t→u→v →T→U→V	8
9	ら→り→る→れ→ろ	ラ→リ→ル→レ→ロ	w→x→y→z →W→X→Y→Z	9
10	°→°→小文字変換	°→°→小文字変換	小文字変換	0
11	わ→を→ん→わ→、→。 →	ワ→ラ→ン→ワ→、→。 →	* 1	*
12	* 2 逆方向へ入力	* 2 逆方向へ入力	* 2 逆方向へ入力	#

- 最後の候補までいくと、次は最初の候補に戻ります。

* 1 全角英字の場合……→/→:→→→→→→@
半角英字の場合……→/→:→→→→→→@

* 2 文字入力変換中に文字を通り過ぎたときに、逆方向へ戻します。

録画・予約機能について

録画できる機器と番組

- 本機背面のUSB（録画専用）端子に接続したUSBハードディスクおよびレグザリンク対応の東芝レコーダー*にデジタルテレビ放送番組を録画できます。（データ放送、ラジオ放送番組、外部入力（HDMI1 ～ 4、ビデオ入力）、クラウドサービスやネットサービスで視聴している動画サービスからの映像・音声は録画できません）
 - USBハードディスクの接続は次ページをご覧ください。
 - レグザリンク対応の東芝レコーダーの接続は「62」をご覧ください。

* レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合

- レグザリンク（HDMI連動）機能を使って本機の操作で録画・予約をします。
- 録画・予約の操作を終了した時点で本機の関与が終了します。予約内容の確認や取消し、録画の中止などの操作は本機側ではできません。（本機の番組表に予約アイコンが表示されないほか、予約リスト、録画リストなどにも内容は表示されません）
- 録画されるのはレコーダー自身が受信したデジタル放送番組です。字幕放送番組の字幕などの録画については、機種や録画設定などによって異なりますので、レコーダーの取扱説明書でご確認ください。

接続・設定と録画前の準備

録画する機器	録画前の準備
USBハードディスク(注)	● USBハードディスクの電源を入れておきます。 ● USBハードディスクの残量を確認します。「88」 ● 「すべて」のタブの録画リストで「録画番組数」を確認します。「82」 ※ 残量不足や番組数超過（3000を超過）になりそうな場合は、不要な番組を削除します。「87」
レグザリンク対応の東芝レコーダー	● ハードディスクの残量などを確認し、不要な番組を削除しておきます。 ※ 録画先はハードディスクのみです。記録メディアに直接録画することはできません。

(注) USBハードディスクは、本機に登録しないと録画できません。

- 録画や録画予約の操作をしたときに接続した機器が選択できないときは、「58」を参照し、登録してください。
- USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。ACアダプターを使用しない場合は動作保証できません。本機で接続確認済のUSBハードディスクについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

※ USBハードディスクの最大予約件数は128です。最大録画番組数は3000です。

USBハードディスクの自動削除機能について

- USBハードディスクの容量が足りない場合に、保護されていない日付の古い録画番組から自動的に削除する機能で、お買い上げ時は「自動削除設定」「87」が「削除する」に設定されています。



- USBハードディスクでの録画中に停電したり、電源プラグを抜いたりすると、途中で録画した番組は正しく保存されません。（「録画番組を修復する」「84」の操作をすれば、録画された内容を再生できるようになることがあります）
- 予約録画の開始時に、自動削除機能によって削除される番組が多い場合は、番組の冒頭部分が録画されないことがあります。
- 録画番組の再生中に予約録画の開始時刻になると、再生が自動的に停止することがあります。
- 万一、本機の故障や受信障害などによって正常に録画・録音できなかった場合の補償は一切できませんので、あらかじめご了承ください。

録画用USBハードディスクの接続をする

- 本機に接続したUSBハードディスクで以下のことができます。

できること	記載ページ
本機で受信したテレビ放送番組の録画、録画予約	70
録画番組の再生、ムーブ	82 92



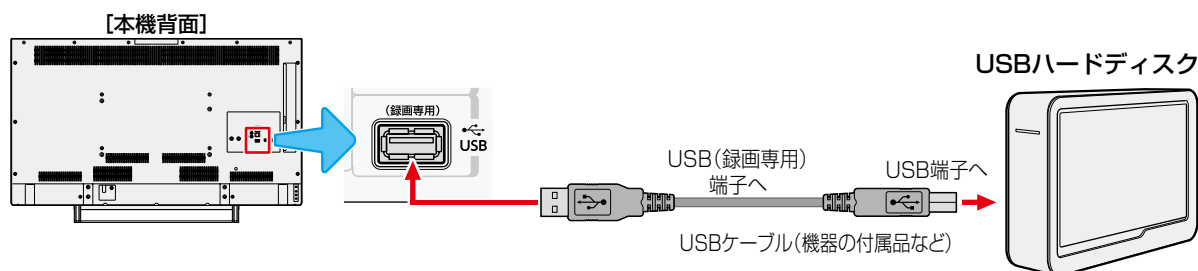
- パソコンや他のテレビ、録画機器などで使用していたUSBハードディスクを本機に接続して登録すると、それまでに保存されていたデータや録画番組などはすべて消去されます。
- 本機で使用していたUSBハードディスクをパソコンで使用するには、パソコンで初期化する必要があります。その際に、本機で録画した番組はすべて消去されます。
- 本機に接続したUSBハードディスクを取りはずす場合は、未登録の機器を含めて「USBハードディスクの設定をする」[58]の手順で「機器の取りはずし」の操作をしてください。
- USBハードディスクの動作中は、USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。録画した番組が消えたり、USBハードディスクが故障したりする原因となります。
- miniB-CASカード挿入口がある面のUSB端子にUSBバスパワー方式の機器を接続して同時に使用すると、USBハードディスクでの録画動作に障害を与えることがあります。

USBハードディスクを接続する

- USBハードディスクやUSBハブは専用のACアダプターを接続してご使用ください。本機で接続確認済の機器でもACアダプターを接続しない場合は動作保証できません。

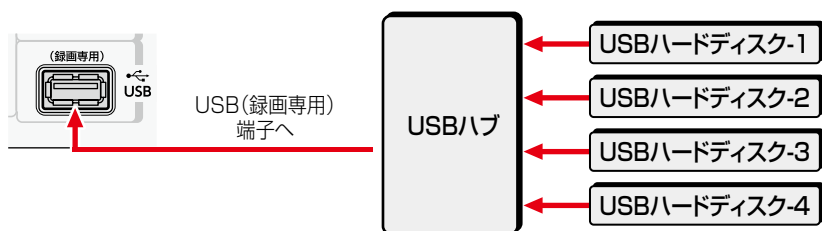
USBハードディスクが1台のとき

- USBハードディスクは、USB(録画専用)端子に接続します。



USBハードディスクが複数のとき

- USBハブを使用すれば、複数のUSBハードディスクを接続することができます。
- ※ 8台までのUSBハードディスクを本機に登録できます。ただし、同時に接続できるのは4台までです。



- 複数の未登録USBハードディスクを接続した状態で本機の電源を入れると、不特定の順番で登録が始まります。USBハードディスクの登録名や接続場所などを特定しやすくするために、1台ずつ接続して登録の処理が終わったら次のUSBハードディスクを接続するようにしてください。
- 登録の手順については、次ページの「USBハードディスクを本機に登録する」をご覧ください。



- 複数台のUSBハブを経由して本機にUSBハードディスクを接続することはできません。
- 本機で接続確認済のUSBハードディスクとUSBハブについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza>)をご覧ください。
- 接続確認済機器でも、すべての動作を保証するものではありません。

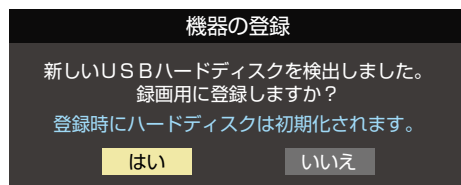
USBハードディスクの設定をする

USBハードディスクを本機に登録する

- 本機が未登録のUSBハードディスクを検出すると、「機器の登録」の画面が表示されます。以下の手順で本機に登録します。

1 ◀▶で「はい」を選んで 決定 を押す

- 登録しないときは「いいえ」を選びます。



- ※ 「いいえ」を選択した場合、そのUSBハードディスクは「機器の登録」の画面で「未登録」となります。「未登録」のUSBハードディスクを登録する場合は、次の「USBハードディスクの設定をする」で「機器の登録」の操作をしてください。

2 初期化の確認画面で、◀▶で「はい」を選んで 決定 を押す

- 登録の処理が始まり、終わると次の手順の画面が表示されます。

3 登録名を変更する場合は、◀▶で「はい」を選んで 決定 を押す

- 表示された登録名のままでよければ「いいえ」を選びます。
- 「はい」を選んだ場合は、文字入力画面が表示されます。登録名を入力して、決定 を押します。
- 文字入力方法については、55頁をご覧ください。
- ー(スペース)だけの名称は登録できません

4 登録したUSBハードディスクを録画機器にする場合は、◀▶で「はい」を選んで 決定 を押す

- 録画や予約などでの録画機器の初期候補が、今登録したUSBハードディスクになります。
- ※ 録画機器は、録画や録画予約の際に変更することもできます。

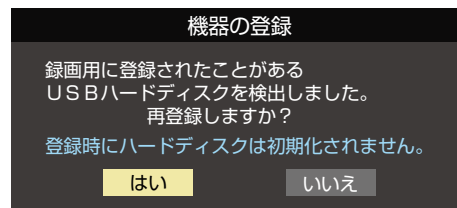
5 <録画/ダビングのご注意>などの内容を読み、決定 を押す

- 録画中やダビング中および録画予約が設定されているときは、本機やUSBハードディスクおよびハブなどの電源プラグを抜かないようにしてください。

6 登録結果の内容を確認し、終了 を押す

使用履歴のあるUSBハードディスクを接続したとき

- 本機に登録して使用し、登録を解除したUSBハードディスクを接続した場合、以下の確認画面が表示されます。



- 「はい」を選んで 決定 を押すと登録の処理が始まり、終わると登録機器のリスト画面が表示されます。

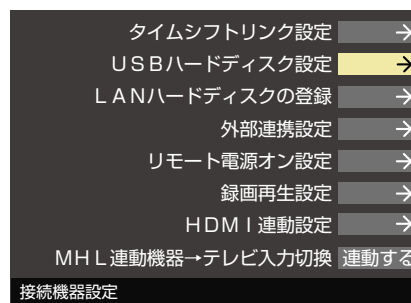
※ 再登録の場合、ハードディスクは初期化されません。

修理などで、本機内部のハードディスク登録情報記憶部が含まれる部分を交換した場合や、本機を交換した場合は、それまでに使用していたハードディスクは未登録(新しいハードディスク)として認識され、初期化して使用することになります。初期化の際に録画内容はすべて消去されます。

USBハードディスクの設定をする

- USBハードディスクを使用する場合は、必要に応じて以下の設定をします。

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で⇒「接続機器設定」⇒「USBハードディスク設定」の順に進む



2 設定する項目を▲・▼で選んで 決定 を押し、以降の手順で設定する

機器の登録

- リストに「未登録」と表示されているUSBハードディスクを登録したり、機器の登録名を変更したり、登録を解除したりすることができます。
- ※ 登録できるのは8台までです。

機器を登録するとき

※ はじめて登録するときには、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

- 1 登録する機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
- 2 登録の確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで**決定**を押す
- 3 初期化の確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで**決定**を押す
 - ・ 初期化と登録の処理が始まります。
- 4 終わったら、登録結果の内容を確認し、**決定**を押す

登録名を変更するとき

- 1 登録名を変更する機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
- 2 ◀・▶で「はい」を選び、**決定**を押す
- 3 文字入力画面で登録名を入力する
 - ・ 文字入力方法については、**55**をご覧ください。

登録を解除するとき

- 1 登録を解除する機器を▲・▼で選び、**赤**を押す
- 2 ◀・▶で「はい」を選び、**決定**を押す
 - ・ 予約が設定されているUSBハードディスク(録画予約アイコン付)は、再登録を促すメッセージ付の登録解除確認画面が表示されます。

省エネ設定

- 複数のUSBハードディスクに対して個別に設定を変えることはできません。
 - ※ 「省エネモード」に設定した場合、USBハードディスクが動作するまでに時間がかかることがあります。「ハードディスクがありません。」や、録画可能時間が「--時間--分」と表示されるような場合は、少し待ってから操作してください。
 - ※ USBハードディスクによっては、機器の表示ランプが「待機」と「入」の状態を正しく示さないことがあります。
 - ※ USBハードディスクによっては、「オフ」に設定していても、USB ハードディスク側の省エネ機能によって、待機状態になることがあります。
 - ※ 本機の電源が「切」または「待機」のときでも、「自動スキャン」や「番組情報の取得」が内部で動作している場合には、USBハードディスクの電源が「入」になることがあります。
 - ※ USBハブを使用している場合、本機の電源が「切」または「待機」のときでも、USBハブからの電源供給によって、USBハードディスクの電源が「入」になることがあります。
- 1 ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す
 - ・ オン……USBハードディスクの電源は、使用しない状態がしばらく続くと待機状態になり、使う操作をすると自動的に「入」になります。
 - ・ オフ……本機の電源が「入」のとき、USBハードディスクの電源は常時「入」の状態です。

機器の取りはずし

- USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりするときには、その前にこの操作をします。
- 1 取りはずす機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
 - 2 確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで**決定**を押す
 - ・ 停止の処理が始まり、終了すると「USBハードディスクを取りはずしできます。」のメッセージが表示されます。
 - 3 USBハードディスクを取りはずし、**決定**を押す

動作テスト

- USBハードディスクで以下の動作ができるかテストします。
- 1 テストする機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
 - テストが始まります。終了までに数分かかります。
 - テストが終わると結果が表示されます。テスト結果が「OK」となった動作ができます。
 - ・ 録画……ハイビジョン画質で録画ができるか
 - ・ 録画中の再生……ハイビジョン画質で録画しながら番組再生ができるか
 - ・ 録画中の早見早聞……録画中に早見早聞**83**ができるか
- ※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

機器の初期化

- 正常に使用できなくなったUSBハードディスクは、初期化をすれば使用できるようになる場合があります。

※ 初期化をすると、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

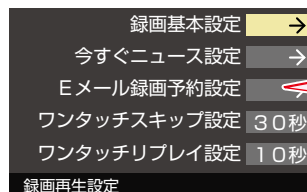
- 1 初期化する機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
- 2 初期化の確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで**決定**を押す
- 3 初期化終了の画面で**決定**を押す

録画の基本的な設定をする

- USBハードディスクでの録画・再生に関する基本的な設定をすることができます。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「接続機器設定」⇒「録画再生設定」の順に進む

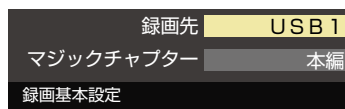
2 以降(次ページまで)の手順で設定する



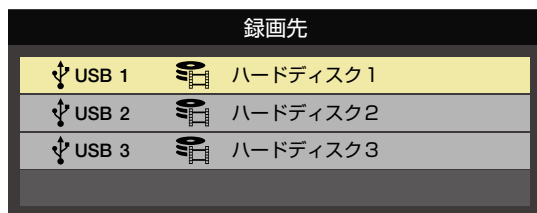
録画に使用する機器を設定する

- 複数のUSBハードディスクを本機に登録している場合に、録画に使用する機器を設定します。

1 ▲・▼と **決定** で「録画基本設定」⇒「録画先」の順に進む



2 録画に使用する機器を▲・▼で選び、**決定** を押す



チャプター分割のしかたを設定する

- シーンの変わり目でチャプター分割(章分け)されるように設定できます。(チャプター分割をすると、再生時にチャプタースキップができるようになります)

1 ▲・▼と **決定** で「録画基本設定」⇒「マジックチャプター」の順に進む

2 チャプター分割の場面を▲・▼で選び、**決定** を押す



- **本編** ……………本編とCMの間でチャプター分割されます。
- **音楽** ……………楽曲の前後でチャプター分割されます。
- **本編と音楽** ……上記の両条件でチャプター分割されます。
- **オフ** ……………チャプター分割をしません。

※ 音楽の検出は番組のメインジャンルが「音楽」または、メインジャンルが「バラエティ」でサブジャンルが「音楽バラエティ」のときにのみ行われます。

「今すぐニュース」の機能を使うための設定をする

- 「今すぐニュース」**86**の機能を使う場合は、以下の手順で機器と番組を登録します。

ニュース番組を録画する機器を登録する

- 複数のUSBハードディスクを本機に登録している場合に、ニュース番組を自動録画する機器を登録します。

1 ▲・▼と **決定** で「今すぐニュース設定」⇒「今すぐニュース機器の登録」の順に進む

2 ニュース番組の録画に使用する機器を▲・▼で選び、**決定** を押す

録画するニュース番組を登録する

- 自動録画するニュース番組を18個まで登録できます。
- ※ 番組編成が変更された場合は、設定を変更してください。

1 ▲・▼と **決定** で「今すぐニュース設定」⇒「今すぐニュース番組の登録」の順に進む

2 以降(次ページ)の操作で番組を登録・取消しする

番組を自動登録する場合

- すでに登録されている場合は、登録済みのニュース番組をすべて取り消して自動登録がやり直されます。

1 **青** を押す

2 確認画面で、◀▶で「はい」を選んで **決定** を押す

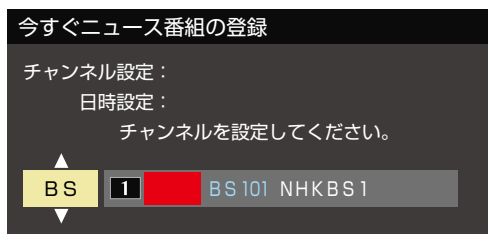
- 自動登録結果の画面が表示されます。

例

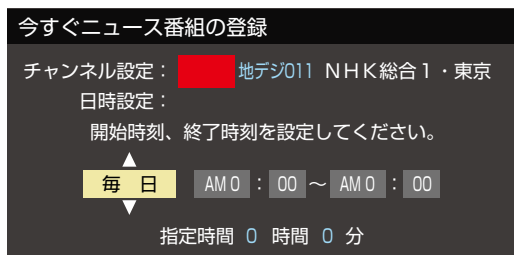
今すぐニュース番組の登録				
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～土	AM 6:00～AM 6:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	AM 6:00～AM 6:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～金	PM 0:00～PM 0:20
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(土)	PM 0:00～PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	PM 0:00～PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎日	PM 7:00～PM 7:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～金	PM 9:00～PM 10:00
新規登録				

番組を手動で登録する場合

- ① ▲・▼で「新規登録」を選び、決定を押す
- ② 指定する項目の欄を◀・▶で選び、▲・▼で内容を選んで決定を押す
左欄：放送の種類(BS/CS/地デジ)
右欄：チャンネル

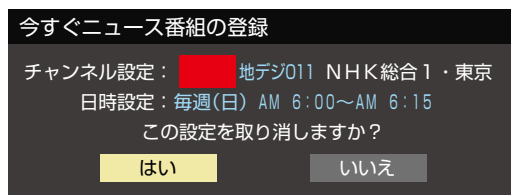


- ③ 指定する項目の欄を◀・▶で選び、▲・▼で内容を選んで決定を押す
左欄：曜日(毎日/毎週(日)~毎週(土)/月~木/月~金/月~土)
中央：番組の開始時刻
右欄：番組の終了時刻(開始から2時間までの範囲)



登録されている番組を取り消す場合

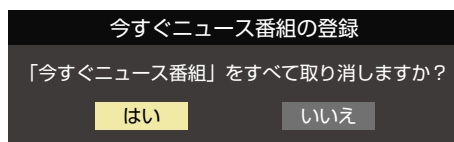
- ① 取り消す番組を▲・▼で選び、決定を押す
- ② 確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで決定を押す



「今すぐニュース」の機能を使わないとき

- 「今すぐニュース」の機能を使わないときは、以下の操作で登録番組をすべて取り消します。
- すべての登録番組を取り消すと、「今すぐニュース」の録画番組は削除されます。

- ① 赤を押す
- ② 確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで決定を押す



レグザリンクダビングの接続・設定をする

- 本機でUSBハードディスクに録画した番組をレグザリンクダビング対応のDTCP-IP対応サーバーや、東芝レコーダーにダビングすることができます。
- ダビングの操作については「録画番組を他の録画機器にダビングする」[\[92\]](#)、「東芝レコーダーにダビングしてディスクに保存する」[\[93\]](#)をご覧ください。
- レグザリンクダビング対応のDTCP-IP対応サーバーと本機を接続する場合は、「機器を接続する」[\[65\]](#)と同じです。

東芝レコーダーと本機を接続する

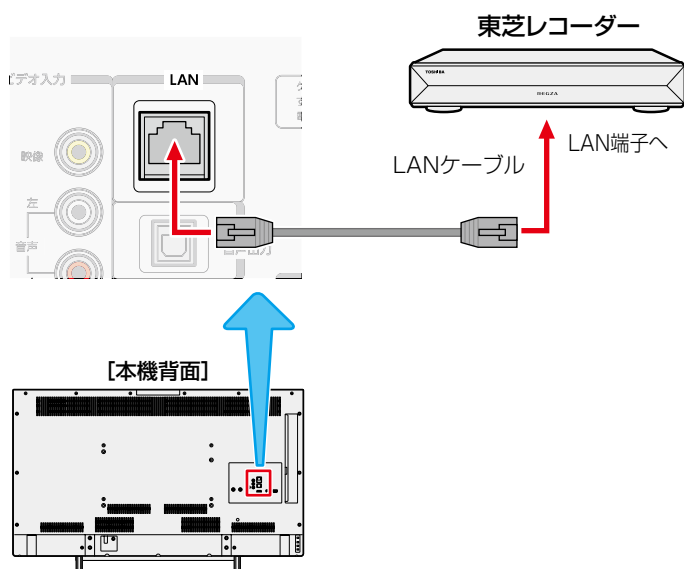
- 接続にはLANケーブルを使用します(ストレートタイプ、クロスタイプのどちらも使用可能)。カテゴリ5 (CAT5)と表示された規格以上のものをご使用ください。

ルーターを経由して接続する場合

- ホームネットワークの接続やインターネットへの接続をしている場合は、「機器を接続する」[\[65\]](#)と同じです。本機と東芝レコーダーのLAN端子をブロードバンドルーターのLAN端子に接続します。
- ※ 無線LANで接続した場合は、通信が不安定になり、正常にダビングできないことがあります。

本機と東芝レコーダーを直接接続する場合

- ホームネットワークやインターネットへの接続をしない場合や、他のネットワーク機器の通信による影響を受けないようにしたい場合は、本機と東芝レコーダーのLAN端子を直接接続します。



東芝レコーダーと本機を設定する

ルーターを経由して接続した場合

東芝レコーダーの設定をする

- 東芝レコーダーの取扱説明書の「ネットワーク機能の設定をする」を参照して、以下のように設定・登録します。

項目	設定
イーサネット利用設定	利用する
本体名、本体ユーザー名、本体パスワード、グループ名、グループパスワード	任意
ダビング要求	受け付ける
ネットdeレック/サーバー設定またはレグザリンク連携機器設定	使う(フィルタ制限なし)
DHCP(自動取得)	使う
DNS(自動取得)	使う

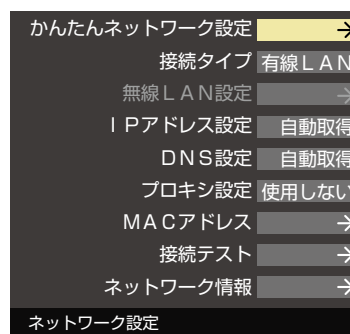
- 「接続テスト」をして「OK」が表示されることを確認します(インターネットにも接続されている場合のみ)。

本機の設定をする

- お買い上げ時の設定(IPアドレス設定、DNS設定ともに自動取得)にします。

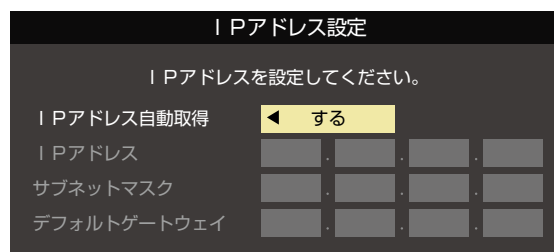
1 **設定** を押し、**決定** で「初期設定」⇒「ネットワーク設定」の順に進む

- 表示される画面で「IPアドレス設定」と「DNS設定」が「自動取得」になっていることを確認します。



「手動設定」になっている場合

- 以下の操作で「自動取得」に設定します。
- 1 **決定** で「IPアドレス設定」を選び、**決定** を押す
- 2 **決定** で「IPアドレス自動取得」を「する」にする



- 3 **決定** を押す

- 「ネットワーク設定」の画面に戻り、「IPアドレス設定」、「DNS設定」とともに「自動取得」になります。

2 ▲・▼で「接続テスト」を選び、決定を押す

- インターネットに接続していない場合は、本操作は必要ありません。
- インターネットに接続している場合は、「インターネットに接続できました。」が表示されることを確認します。

本機と東芝レコーダーを直接接続した場合

東芝レコーダーの設定をする

- 東芝レコーダーの取扱説明書の「ネットワーク機能の設定をする」を参照して、以下のように設定・登録します。

項 目	設 定
イーサネット利用設定	利用する
本体名、本体ユーザー名、 本体パスワード、グループ名、 グループパスワード	任意
ダビング要求	受け付ける
ネットdeレック/サーバー設定 またはレグザリンク連携機器設定	使う(フィルタ制限なし)
DHCP (自動取得)	使わない
IPアドレス	192.168.1.15
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNS (自動取得)	使わない
DNSサーバー	192.168.1.1

本機の設定をする

- 1 設定を押し、▲・▼と決定で「初期設定」⇒「ネットワーク設定」の順に進む
- 2 ▲・▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す
- 3 ◀・▶で「IPアドレス自動取得」を「しない」にする

IPアドレス設定

IPアドレスを設定してください。

IPアドレス自動取得 ☒ しない ▶

IPアドレス

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

- 4 ▼で「IPアドレス」の入力欄に移動し、1～10で「192」、「168」、「1」、「20」と入力する
 - ・ 入力欄を移動するには、▶を押します。
 - ・ 入力した数字を消すには、◀を押します。
- 5 ▼で「サブネットマスク」の入力欄に移動し、1～10で「255」、「255」、「255」、「0」と入力する

- 6 ▼で「デフォルトゲートウェイ」の入力欄に移動し、1～10で「192」、「168」、「1」、「1」と入力する

IPアドレス設定

IPアドレスを設定してください。

IPアドレス自動取得 ☒ しない

IPアドレス 192 . 168 . 1 . 20

サブネットマスク 255 . 255 . 255 . 0

デフォルトゲートウェイ 192 . 168 . 1 . 1

- 7 設定内容を確認し、決定を押す

- 「ネットワーク設定」の画面に戻り、「IPアドレス設定」、「DNS設定」とともに「手動設定」になります。

- 8 ▲・▼で「DNS設定」を選び、決定を押す

- 「DNSアドレス自動取得」が「しない」になり、DNSアドレス入力が必要になります。

DNS設定

DNSアドレスを設定してください。

DNSアドレス自動取得 ☒ しない

DNSアドレス (プライマリ)

DNSアドレス (セカンダリ)

- 9 ▼で「DNSアドレス(プライマリ)」の入力欄に移動し、1～10で「192」、「168」、「1」、「1」と入力する

DNS設定

DNSアドレスを設定してください。

DNSアドレス自動取得 ☒ しない

DNSアドレス (プライマリ) 192 . 168 . 1 . 1

DNSアドレス (セカンダリ)

- 10 設定内容を確認し、決定を押す

ホームネットワークについて

- ホームネットワーク(家庭内LAN)に本機とLANハードディスク、ネットワークメディアサーバー、DTCP-IP対応サーバー、ネットワークメディアコントローラーなどを接続し、録画番組や動画、写真、音楽を再生して楽しむことができます。

LANハードディスク

- LANハードディスクに保存されている動画を本機で再生することができます。(録画、ダビング、編集などはできません)

ネットワークメディアサーバー

- 本機はネットワークメディアプレーヤー(動画/静止画/音楽)兼、ネットワークメディアレンダラー(動画/静止画/音楽)兼、ネットワークメディアサーバー(動画)です。
ネットワークメディアサーバーが公開しているコンテンツを本機で視聴することができます。**[119]**、**[121]**、**[124]**

DTCP-IP対応サーバー

- DTCP-IP(「Digital Transmission Content Protection over Internet Protocol」の略)は、ネットワーク上でデジタル放送などの著作権保護付データを配信するための規格です。この規格に対応することによって、著作権保護付データ(たとえば、1世代のみ録画が許された番組など)をホームネットワーク上で扱うことができます。また、ホームネットワーク外へのデータ伝送を禁止することで、著作権保護付データを保護します。
- 本機はDTCP-IPに対応しています。
本機でUSBハードディスクに録画した番組を、DTCP-IP方式で著作権を保護しながらDTCP-IP対応サーバー(DTCP-IP対応サーバー機能を持つNASやレコーダーなど)に本機の操作でダビングすることができます。**[92]**
ダビングした番組は、他のDTCP-IP対応テレビ(REGZA J7、REGZA Z2000以降のZシリーズおよびZH/ZV/ZX/ZG/ZS/ZP/ZT/X/XSの各シリーズなど)で視聴することができます。
※ ダビング時の動作は番組のコピー制御情報に従います。機器によってはダビングできない場合があります。
※ ダビング後のコンテンツでは、再生時間の表示がずれる場合があります。

スカパー！プレミアムサービスの番組の配信に対応したサーバー

- スカパー！プレミアムサービスの番組の配信に対応したサーバーとは、以下のいずれかの機能を持つサーバーです。
 - ・ スカパー！プレミアムサービス対応チューナー、スカパー！プレミアムサービス光対応チューナーとLAN経由で接続して、スカパー！の番組をデジタル録画する機能を持つサーバー。これらを「スカパー！プレミアムサービスLink(録画)」対応製品と呼んでいます。
 - ・ スカパー！の番組を録画・配信することができるスカパー！プレミアムサービスチューナー(DVR)。
- 本機は「スカパー！プレミアムサービスLink(視聴)」機器としての機能を備えています。スカパー！プレミアムサービスの番組の配信に対応したサーバーが公開しているスカパー！の「放送中の番組」と「録画した番組」を視聴することができます。**[126]**
※ ラジオ番組は視聴できません。
※ サーバーが放送中の番組の配信に対応していない場合、「放送中の番組」の視聴はできません。

ネットワークメディアコントローラー

- ホームネットワークに接続されているネットワークメディアサーバーなどの動画・写真・音楽コンテンツを、ネットワークメディアコントローラーの操作で楽しむことができます。**[127]**

スマートフォンやタブレットPC(レグザAppsコネクト)

- スマートフォンやタブレットPCなどの端末機器と本機をホームネットワークに接続し、端末機器で本機やネットワーク内のレグザAppsコネクト対応機器(レコーダーなど)を操作することができます。
- レグザAppsコネクトの詳細については、ホームページ(<http://apps.toshiba.co.jp/>)の「レグザAppsコネクト(Regza Apps Connect)」をご覧ください。

本機のホームサーバー機能

- 本機はホームサーバー機能も備えています。本機に接続されたUSBハードディスクの録画番組を、ホームネットワーク上のDTCP-IP対応PCソフトウェアやDTCP-IP対応テレビなどで視聴することができます。(本機からの配信数は一つです)

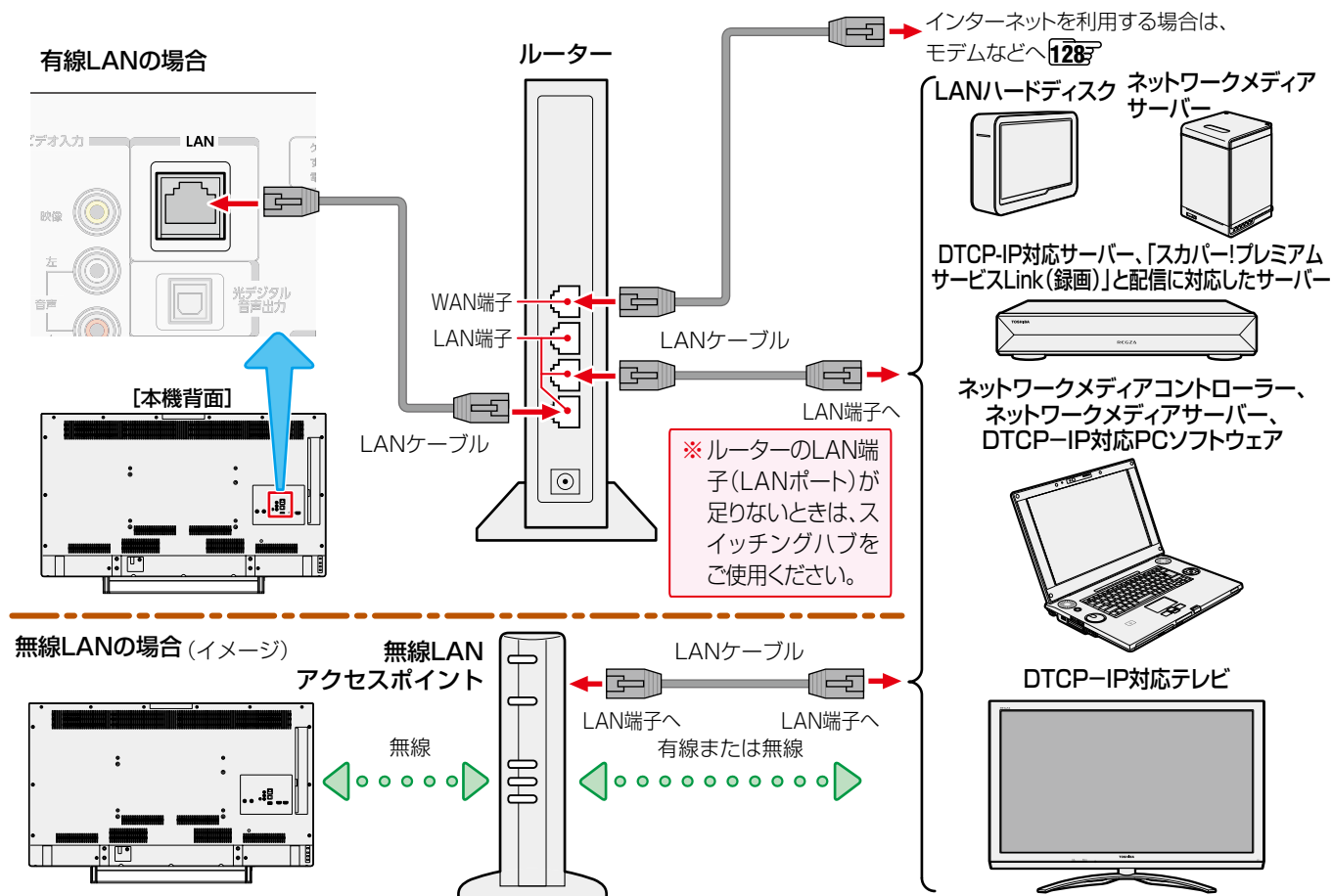


- ネットワークメディアサーバーが公開している一部のコンテンツ(本機対応フォーマット以外のコンテンツなど)は再生できない場合があります。
- DTCP-IP対応サーバーへのダビングを除き、他のネットワーク機器に本機から録画・ダビング・録音などをすることはできません。
- ネットワークメディアサーバーを接続した場合、2台目以降の機器が機器選択の画面に表示されるまでに15分程度の時間がかかることがあります。(機器選択画面を終了させて、もう一度機器選択画面を出すと表示される場合もあります)
- すべてのDTCP-IP対応PCソフトウェアやDTCP-IP対応テレビが、本機のホームサーバー機能で配信する録画番組を再生できるわけではありません。
- 本機がネットワークメディアサーバー(動画)として公開するコンテンツは、録画した一部の放送番組に限定されます。

ホームネットワークの接続をする

機器を接続する

- 有線LANのブロードバンドルーターの場合は、本機と機器を接続します。無線LANアクセスポイントの場合は、本機を無線LANで接続する設定をします。(有線LANか無線LANのどちらかを選びます。両方を同時に使用することはできません。)



お知らせ

- 無線LANで接続していて、ネットワーク経由で映像を取得または配信しているときに、その映像が止まったりノイズが出たりする場合は、無線LANアクセスポイントおよび本機の設定を見直すか、有線LANで接続してください。
- すべての無線LANアクセスポイントでの接続を保証するものではありません。
- 本機の設置環境によっては、無線LANを使用できない場合があります。
- 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、デジタル放送などの著作権保護付データをホームネットワーク上で視聴・配信することができません。著作権保護無しのデータを取り扱う場合も、無線LANのセキュリティ設定を行うことを強く推奨します。

17

機器のネットワーク設定を確認する

- 「IPアドレス設定」、「DNS設定」とともに「自動取得」で使用する前提です。
- 接続機器側でMACアドレスによるアクセス制限をしている場合は、本機からのアクセスを許可するように設定してください。本機のMACアドレスは、「ネットワーク設定」¹²⁹の操作で確認できます。
- LANハードディスクは本機に登録する必要があります。次ページの「LANハードディスクを本機に登録する」を参照し、登録してください。
- 本機で接続機器のネットワーク設定はできませんので、あらかじめルーターや接続機器側で設定してください。(ルーターや接続機器の取扱説明書をご覧ください)

1 ルーター、ネットワーク接続機器、本機の順に電源を入れる

2 「ネットワーク設定」¹²⁹の操作でIPアドレスを確認する

- ホームネットワーク接続機器のIPアドレスは、プライベートアドレス(下表の範囲のどれか)でなければなりません。

区分	使用できるアドレスの範囲
A	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255
B	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255
C	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

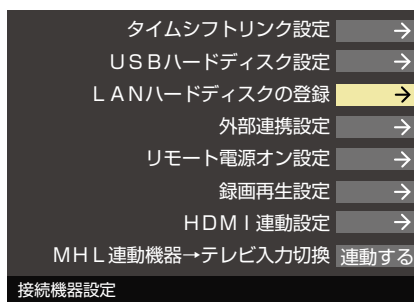
- 本機でインターネットにアクセスする場合、双方向サービス⁴⁴、Eメール録画予約機能⁷⁶、クラウドサービス¹³⁶などを利用する場合)は、ご使用のインターネット接続環境によっては本機のIPアドレスをグローバルアドレスに設定し直す必要があります。

ホームネットワークの設定をする

LANハードディスクを本機に登録する

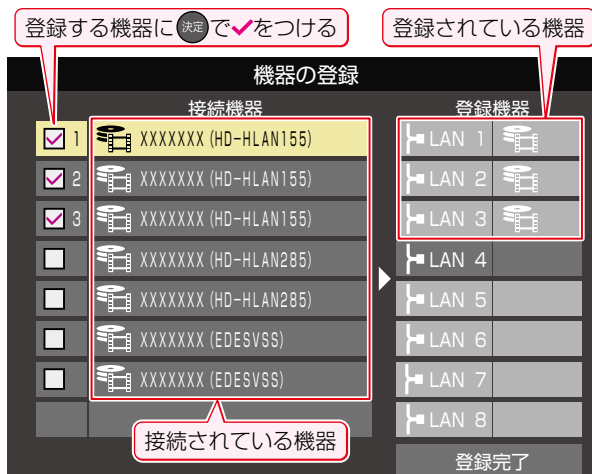
- ホームネットワークに接続したLANハードディスクを本機でできるようにするには、LANハードディスクを本機に登録する必要があります。
- 登録を解除したり、LANハードディスクのユーザーIDを切り換えたり、ワークグループ名を変更したりすることもできます。
- 登録および解除は、LANハードディスクの共有フォルダ単位になります。(最大8フォルダまで登録できます)

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「接続機器設定」⇒「LANハードディスクの登録」の順に進む



2 登録または解除する機器(共有フォルダ)を▲・▼で選び、決定 を押す

- 決定 を押すたびに、「登録☒」と「解除☐」が交互に切り換わります。登録すると「登録機器」の欄にアイコン が表示され、解除すると消えるようになっています。



- 登録するハードディスクが表示されていない場合は、正しく接続されていることと、電源がはいっていることを確認して 赤 を押します。

ユーザーIDを切り換えるとき

- LANハードディスクに複数のユーザー(ユーザー名とパスワード)が登録されている場合、共有フォルダにアクセスする際のユーザーを切り換えるには、以下の操作をします。
- ① 青 を押す
ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。
 - ② ▲・▼・◀・▶ で「ユーザー名」を選び、決定 を押す
文字入力画面が表示されます。
 - ③ 「ユーザー名」を入力する
文字入力方法については、55 をご覧ください。
※ スペースを含まない、最大15文字までの半角英数字で入力します。
 - ④ 「パスワード」も同様にして入力する
 - ⑤ ▲・▼・◀・▶ で「入力完了」を選び、決定 を押す
- 正しく認証された場合は、入力されたユーザーIDでアクセスできる共有フォルダの一覧に切り換わります。
 - ここで入力したユーザー名やパスワードは本機に記憶されます。

ワークグループ名を変更するとき

- お買い上げ時は「WORKGROUP」に設定されていますが、以下の操作で変更できます。
- ① 緑 を押す
ワークグループ名変更画面が表示されます。
 - ② ◀・▶ で「はい」を選び、決定 を押す
文字入力画面が表示されます。
 - ③ ワークグループ名を入力する
※ スペースを含まない、最大15文字までの半角英数字で入力します。

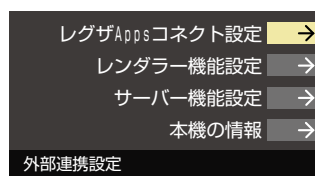
3 ▶ で登録完了を選び、決定 を押す

接続機器から本機を操作するための設定をする ～外部連携機能～

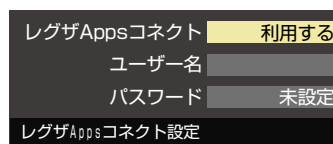
レグザAppsコネクトの設定

- スマートフォンやタブレットPCなどの端末機器と本機をホームネットワークに接続し、端末機器で本機やネットワーク内のレグザAppsコネクト対応機器(レコーダーなど)を操作することができます。
- 本機のレグザAppsコネクト機能を使う場合は、以下の設定をします。
 - ※ 新しい認証方式に対応するアプリケーションでは、「ユーザー名」、「パスワード」の入力が不要なものがあります。
- レグザAppsコネクトの詳細については、ホームページ(<http://apps.toshiba.co.jp/>)の「レグザAppsコネクト(Regza Apps Connect)」をご覧ください。

1 を押し、▲・▼と で「接続機器設定」⇒「外部連携設定」⇒「レグザAppsコネクト設定」の順に進む



2 設定する項目を▲・▼で選んで を押し、以降の手順で設定する



- 文字入力方法については、 をご覧ください。

レグザAppsコネクト

- レグザAppsコネクトを利用するか利用しないかを設定します。
- ① ▲・▼で「利用する」または「利用しない」を選び、 を押す

ユーザー名

- 端末機器から本機にアクセスする際のユーザー名を16文字以内で設定します。使用できる文字は半角英数字と「-」です。
- ① 文字入力画面でユーザー名を入力し、 を押す

パスワード

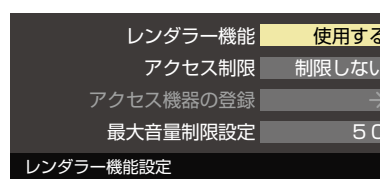
- 端末機器から本機にアクセスする際のパスワードを16文字以内で設定します。使用できる文字は半角英数字と「-」です。
- ① 文字入力画面でパスワードを入力し、 を押す

レンダーラ機能設定

- 本機のレンダーラ機能を使うと、ホームネットワークに接続されているネットワークメディアサーバー対応機器の動画・写真・音楽などのコンテンツを、ネットワークメディアコントローラーの操作で楽しむことができます。
- 本機のレンダーラ機能を使う場合は、以下の設定をします。

1 を押し、▲・▼と で「接続機器設定」⇒「外部連携設定」⇒「レンダーラ機能設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選んで を押し、以降の手順(次ページまで)で設定する



レンダーラ機能

- 本機のレンダーラ機能を使用するかしないかを設定します。
- ① ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、 を押す
 - 使用しない場合は以降の設定は不要です。

アクセス制限

- 本機にアクセスできる機器(ネットワークメディアコントローラー)を制限するかしないかを設定します。
- 「制限する」に設定した場合は、次の「アクセス機器の登録」で登録した機器でのみアクセスできるようになります。
- ① ▲・▼で「制限する」または「制限しない」を選び、 を押す

アクセス機器の登録

- 「アクセス制限」を「制限する」に設定した場合、本機にアクセスする機器(ネットワークメディアコントローラー)を登録または解除します。
- 機器はMACアドレスで特定されます。機器のMACアドレスの確認方法は、機器の取扱説明書でご確認ください。

用語

レンダーラ

この場合のレンダーラとは「上演者」という意味で、ホームネットワークに接続された機器から配信された動画・写真・音楽などのコンテンツを本機が上演するということになります。

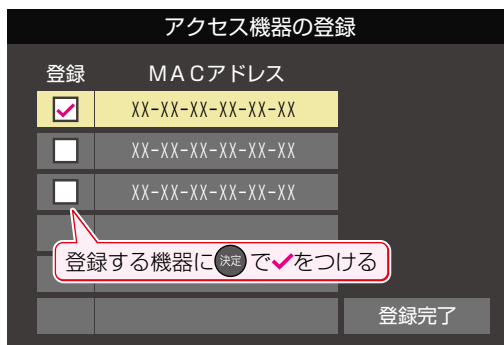
MACアドレス

ネットワーク上に接続されている機器の識別のために、各機器ごとに割り当てられる固有の番号です。

ホームネットワークの設定をする つづき

1 ▲・▼で機器を選び、決定を押す

- 決定を押すたびに、「登録」☒と「解除」☐が交互に切り換わります。



2 登録・解除の設定がすべて終わったら、▲・▼・◀・▶で「登録完了」を選び、決定を押す

最大音量制限設定

- 機器(ネットワークメディアコントローラー)から本機の音量を操作する際の最大音量を制限することができます。
- 「100」までの範囲で設定できます。(お買い上げ時は「50」に設定されています)

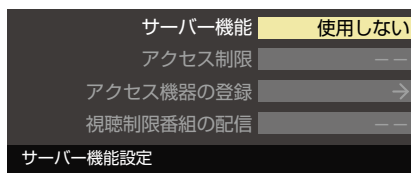
1 音量の上限値を▲・▼で設定し、決定を押す

サーバー機能設定

- 本機のサーバー機能を使うと、本機に接続されたUSBハードディスクの録画番組を、ホームネットワーク上のDTCP-IP対応PCソフトウェアやDTCP-IP対応テレビなどで視聴することができます。
- 本機のサーバー機能を使う場合は、以下の設定をします。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「接続機器設定」⇒「外部連携設定」⇒「サーバー機能設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選んで決定を押し、以降の手順で設定する



サーバー機能

- 本機のサーバー機能の使用方法を設定します。

1 ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- 使用しない……サーバー機能を使用しません。
- 使用する(常時) …本機の電源が「待機」や「切」のときにもサーバー機能を使用できます。
- 使用する(標準) …本機の電源が「待機」や「切」の場合、配信や録画およびダビングをしていない状態が30分間続くとサーバー機能が停止し、その後電源を入れるまで配信できなくなります。

- サーバー機能を使用する場合、ネットワーク環境によってはセキュリティ上の問題が起こる可能性があります。状況に応じて、次の「アクセス制限」および「アクセス機器の登録」の設定をしてください。

アクセス制限

- 本機にアクセスできる機器(DTCP-IP対応PCソフトウェア、DTCP-IP対応テレビ)を制限するかしないかを設定します。
- ※「制限しない」に設定した場合、無線LAN環境や他人の機器が接続されている可能性があるネットワークでは、私的使用の範囲を超えて録画番組が他人に公開されるおそれがあります。ネットワークの安全が確認できない場合には、「制限する」に設定します。

1 ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- 制限しない…ネットワーク上のすべての機器からアクセスできます。
- 制限する ……次の「アクセス機器の登録」で登録した機器でのみアクセスできます。

アクセス機器の登録

- 「アクセス制限」を「制限する」に設定した場合、本機にアクセスする機器を登録または解除します。
- 機器はMACアドレスで特定されます。機器のMACアドレスの確認方法は、機器の取扱説明書でご確認ください。

1 機器を▲・▼で選び、決定を押す

- 決定を押すたびに、「登録」☒と「解除」☐が交互に切り換わります。

2 登録・解除の設定がすべて終わったら、▲・▼・◀・▶で「登録完了」を選び、決定を押す

視聴制限番組の配信

- 視聴制限番組を配信するかしないかを設定します。

1 ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- 配信しない……視聴制限番組はネットワーク上の機器に配信されません。
- 配信する ……視聴制限番組をネットワーク上の機器に配信します。

本機の情報

- ホームネットワークに接続された機器から本機を識別するための情報(デバイス名)を設定することができます。
- お買い上げ時は本機の形名(例: REGZA-55J10X)に設定されています。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「接続機器設定」⇒「外部連携設定」⇒「本機の情報」の順に進む

2 決定を押し、文字入力画面で新しい名前を入力する

- 文字入力方法については、55頁をご覧ください。
- 15文字以内で設定します。使用できる文字は半角大文字英数字と「-」です。

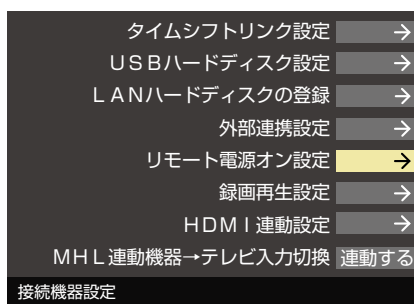
接続機器と本機の相互間で起動するための設定をする ～リモート電源オン機能～

- ネットワーク接続での起動(Wake on LAN)に対応した機器を相互に登録しておく、番組再生などの際に接続機器または本機が起動していないときに本機または接続機器の操作で相手の機器を起動する(電源を入れる)ことができます。
- 対象の機器を接続して電源を入れ、以下の操作をします。
- ※ 接続機器(Wake on LAN対応機器)側でも以下と同様の設定をしてください。(接続機器の取扱説明書をご覧ください)
 - 本機のデバイスネームについては前ページの「本機の情報」を参照してください。本機のMACアドレスは「ネットワーク設定」[129](#)の操作で確認することができます。

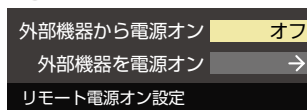
本機のリモート電源オン機能を設定する

- 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、設定できません。

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「接続機器設定」⇒「リモート電源オン設定」の順に進む



2 ▲・▼で「外部機器から電源オン」を選び、決定 を押す



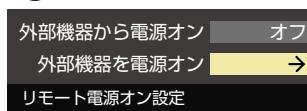
3 ▲・▼で「オン」または「オフ」を選び、決定 を押す

- 「オン」に設定すると、Wake on LAN対応機器から本機を起動できるようになります。

本機から起動する機器を登録する

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「接続機器設定」⇒「リモート電源オン設定」の順に進む

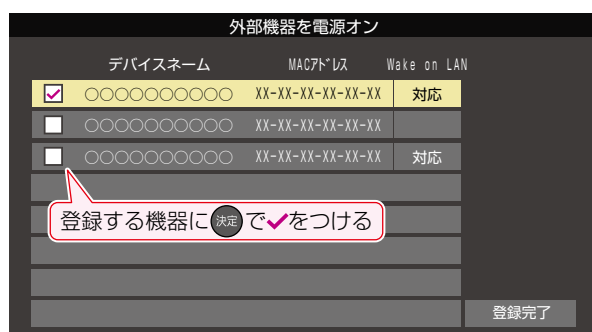
2 ▲・▼で「外部機器を電源オン」を選び、決定 を押す



- 「外部機器を電源オン」の画面が表示されます。対象機器がない場合は、内容が空欄になります。

3 本機から起動する機器を▲・▼で選び、決定 を押す(登録する)

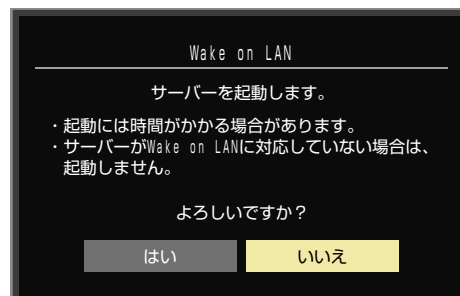
- 決定 を押すたびに☒と☐が交互に切り換わります。本機から起動する機器に☒をつけます。
- 「Wake on LAN」の欄の「対応」は、対応機器として本機が認識できた場合に表示されます。対応機器であっても本機が認識できない場合は表示されません。



4 選択が終わったら、▲・▼・◀▶で「登録完了」を選んで決定 を押す

再生時の機器選択について

- 本機の番組再生などの際に、登録した機器が起動していない場合は「機器選択」の画面に薄くなって表示されます。その機器を選択して決定 を押すと「Wake on LAN」の画面が表示されます。
- 「Wake on LAN」の画面で、「はい」を選んで決定 を押すと、機器を起動することができます。



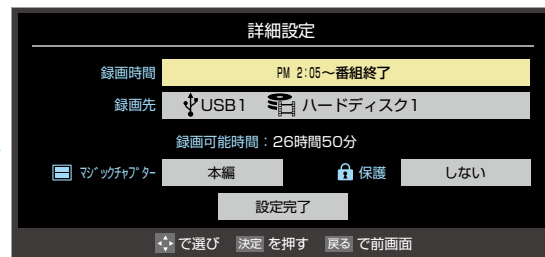
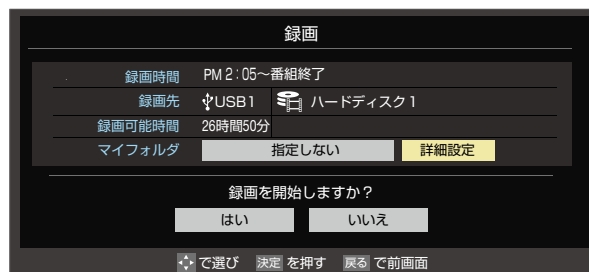
- 登録した機器がWake on LANに対応していない場合は起動できません。
- 登録した機器がWake on LANに対応していても、機器の状態によって起動できないことがあります。

見ている番組を録画する

- 今見ているテレビ放送番組を簡単に録画することができます。テレビ番組視聴の途中で外出するような場合に便利です。
- ※ USBハードディスクに2番組同時録画中(W録中)はこの操作はできません。

1 テレビ放送を見ているときに **サブメニュー** を押し、**▲・▼** で「録画」を選び、**決定** を押す

2 録画設定を変更する場合は、**▲・▼** で「詳細設定」を選んで **決定** を押す



詳細設定でできる設定

● 録画時間の変更

お買い上げ時の設定では視聴中の番組が終了するまで録画されます。終了時刻を指定するには以下の操作をします。

- 1 「録画時間」で **決定** を押し、「時間指定」で録画終了時刻を設定して **決定** を押す
- 2 「設定完了」を選び、**決定** を押す

● 録画先の機器の変更

- 1 「録画先」で録画機器を選び、**決定** を押す
- 2 **▲・▼** で「設定完了」を選び、**決定** を押す

その他の録画設定を変更する場合

- 「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」**78** をご覧ください。

3 **▲・▼・◀・▶** で「はい」を選び、**決定** を押す

- 録画が開始されます。
- 外出する場合は、本機(テレビ)の電源を「待機」または「切」にします。(録画は継続されます)
- ※ 2番組の同時予約録画が始まるときは、この操作での録画は中止されます。

録画を中止するとき

- 録画を途中でやめるときは、以下の操作をします。録画予約での録画中の場合も同様です。
- USBハードディスクの残量がなくなった場合は録画が自動的に停止します。
- ※ レグザリンク対応の東芝レコーダーの録画は本機の操作では止まりません。機器側で録画停止の操作をしてください。

1 録画中に **終了** または **■** を押す

- 2番組同時録画(W録)をしている場合は、中止する録画番組を選択する画面が表示されます。録画を中止したい番組を **▲・▼** で選んで、**決定** を押します。

2 「録画中止」の画面で、**◀・▶** で「はい」を選んで **決定** を押す

2番組同時録画(W録)について

- 本機は、デジタル放送の二つの番組を同時に録画することができます。
- BS・110度CSデジタル放送の2番組を同時に録画している場合は、BS・110度CSデジタル放送は録画しているチャネルのみ選局・視聴できます。
- 一つの有料番組でW録はできません。
 - 一つの有料番組に複数の予約が重複した場合、録画されるのは一つだけです。
 - 録画中の有料番組を視聴中に録画の操作をしても録画(W録)は開始されません。



- W録中は、クラウドサービスやネットサービスの動画サービスは視聴できません。

番組表で予約をする

- 番組表で録画したい番組を選んで予約します。

1 番組表を押す

- 番組表が表示されます。

2 予約する番組を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- 番組指定予約画面が表示されます。

3 以下の操作で予約をする

- 録画機器や設定を変更する場合は、「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」[78]の操作をします。



1 ▲・▼・◀・▶で「視聴予約」、「録画予約」、「連ドラ予約」のどれかを選び、決定を押す

- 視聴予約：指定した番組の視聴を予約します。
- 録画予約：指定した番組の録画を予約します。
- 連ドラ予約：同じ番組を毎回録画します。[72]
- ※ レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合は、「毎予約」が表示されます。

2 「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

予約する日時を変更する場合

- 再放送番組などで、1話から3話まで連続して放送される場合など、1話目を番組表で予約し、以下の操作で終了時間を3話目の終了時間に変更すると、1話から3話まで一つの録画予約にすることができます。

- 1 ▲・▼・◀・▶で「予約日時変更」を選び、決定を押す
- 2 メッセージが表示されたら、◀・▶で「はい」を選び、決定を押す
- 3 「日時を指定して予約をする」[73]の手順3以降の操作をする

メッセージが表示された場合

「設定した時間帯はこれ以上予約ができません。」が表示された場合

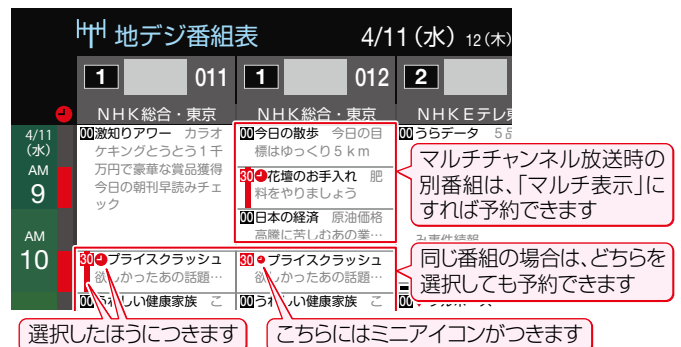
- 1 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す
 - 新規予約をやめる場合は、「いいえ」を選びます。
- 2 予約を取り消す番組を▲・▼で選び、決定を押す
 - 決定を押すたびに[✓]と[□]が交互に切り換わります。
 - ✓をつけた番組の予約が取り消されます。
- 3 赤を押して、取消しを実行する

「予約数がいっぱいです。」が表示された場合

- 1 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す
 - 新規予約をやめる場合は、「いいえ」を選びます。
- 2 予約を取り消す番組を▲・▼で選び、決定を押す
- 3 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

マルチ表示の番組表で予約するとき

- 一つの放送局で別の番組を放送している場合、その番組を予約するには番組表を「マルチ表示」[40]に切り換えます。
- マルチ表示の番組表で同じ番組が並んでいる場合は、どちらを選択しても予約できます。



- 放送局の変更があった場合、予約どおりに動作しないことがあります。
- 複数の番組が連続して予約されている場合、番組の最後の部分が録画されません。
- 予約をした時間帯は番組表に赤色の帯で表示されます。[38] (東芝レコーダーへの予約は表示されません)
- 予約の確認や取消しについては[79]を、予約の優先順位については[80]をご覧ください。
- 本機で「毎予約」で予約しても、機器によっては受け付けられない(録画しない/録画機能が動かない)場合があります。

連続ドラマを予約する

● 連続ドラマや連日放送されている同じ番組などを、毎回自動的に録画されるように予約することができます。

※ 録画機器がUSBハードディスクの場合に連ドラ予約ができます。

1 番組表を押して、番組表を表示させる

2 連ドラ予約をする番組を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

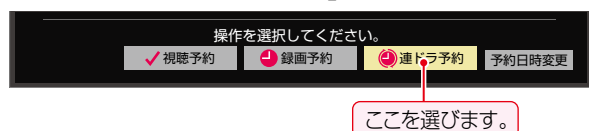
- 現在放送中の番組を選んだ場合は「番組指定録画」画面が、これから放送される番組を選んだ場合は、「番組指定予約」画面が表示されます。

3 番組の録画先をUSBハードディスクに設定する

- 「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」**[78]**の操作で、「録画先」を設定します。

4 ▲・▼・◀・▶で「連ドラ予約」を選び、決定を押す

- 画面の図は、「番組指定予約」画面の場合の例です。



5 「連ドラ予約」画面で内容を確認する

- 番組名(連ドラ)や追跡基準の曜日などが正しく表示されているか確認してください。

「連ドラ予約」がより正しく実行されるために

「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」**[78]**の操作で「連ドラ設定」の画面を表示させ、「追跡キーワード」の確認・編集をすることをおすすめします。

6 ▲・▼・◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

7 「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

視聴中の番組を連ドラ予約する場合

① サブメニューを押し、▲・▼で「連ドラ予約」を選んで決定を押す

② 手順5～7の操作をする

連ドラ予約の動作について

- 連ドラ予約は、追跡基準(指定した番組の放送曜日と開始時刻)と、追跡キーワード(番組名など)をもとに、次回の番組を検索して自動的に録画予約をする機能です。

※ 追跡基準(開始時刻)の前後約2時間が検索されます。

- 追跡キーワードには連ドラ予約をした番組の番組名、追跡基準には番組の放送時間が自動で設定されます。



- 電源を「入」にしてからしばらくの間は連ドラ予約ができません。
- 連ドラ予約後に、番組情報が取得できなかった場合や、追跡キーワードに該当する番組が検出できなかった場合は録画されません。
- 罎などの囲い文字は[映]などと表示されます。また、漢字の旧字などの特殊な文字は表示されない場合があります。
- 予約の確認や取消しについては**[79]**を、予約の優先順位については**[80]**をご覧ください。

日時を指定して予約をする／番組を検索して録画・予約をする

日時を指定して予約をする

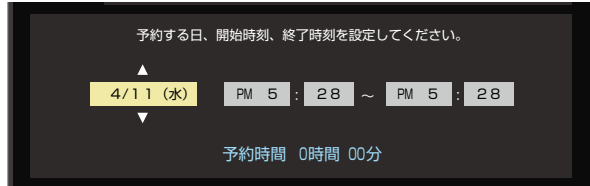
1 サブメニューを押し、▲・▼で「予約リスト」を選んで決定を押す

- 予約リストが表示されます。
- 視聴制限番組は伏せ字(「****」)で表示されます。

2 青を押す

- 日時指定予約画面が表示されます。

3 録画予約の日時を設定する

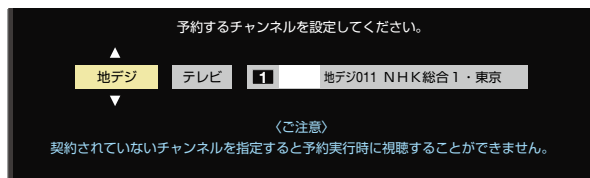


① 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で日時を設定する

- 6週間先まで指定できます。
- 特定の日のほかに、「毎日」、「毎週(日)」~「毎週(土)」、「月~木」、「月~金」、「月~土」などの繰り返し録画も選べます。
- 設定できる時間は最大23時間59分です。

② 設定が終わったら、決定を押す

4 録画するチャンネルを設定する



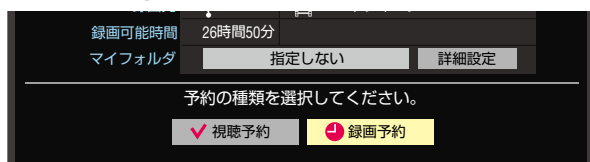
① 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ

- 放送の種類……地デジ／BS／CS
- 放送メディア……テレビ／ラジオ(BS、110度CSのみ)／データ
- チャンネル……指定された放送の種類やメディアに該当するチャンネル

② 設定が終わったら、決定を押す

5 録画設定を変更する場合は、78の手順で操作をする

6 ▲・▼・◀・▶で「視聴予約」または「録画予約」を選び、決定を押す



7 「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

メッセージなどが表示された場合

- 「設定した時間帯はこれ以上予約ができません。」「予約数がいっぱいです。」のメッセージ表示された場合の操作については、71をご覧ください。

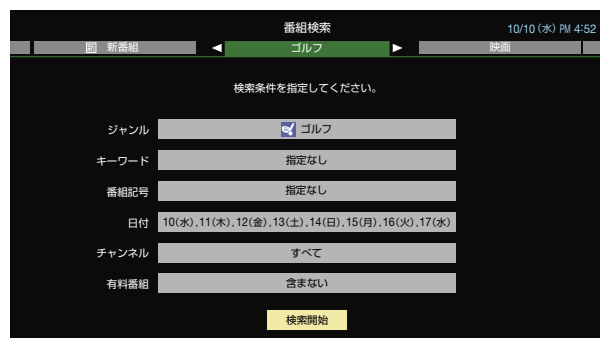
番組を検索して録画・予約をする

1 番組表を押す

- 番組表が表示されます。

2 緑(番組検索)を押す

- 番組検索画面が表示されます。



3 「条件を絞り込んで番組を探す」72の手順3 ~ 5の操作をして、録画・予約したい番組を検索する

4 「番組検索結果」画面から録画したい番組を▲・▼で選び、決定を押す



5 録画・予約をする

- 操作方法は、「番組表で予約する」71の手順3と同じです。
- 放送予定の番組を選んで予約をした場合には、「番組検索結果」の画面に戻ります。ほかの番組の予約を続けることができます。

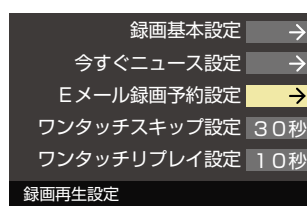


- 日時指定予約では放送時間連動の設定はできません。
- 予約の確認や取消しについては79を、予約の優先順位については80をご覧ください。

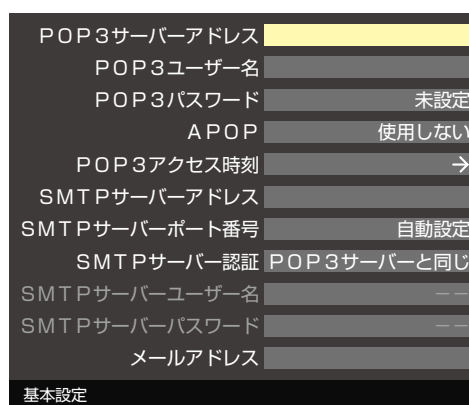
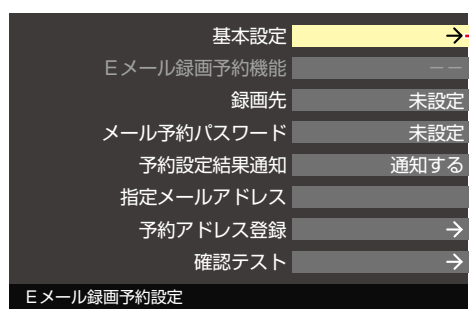
携帯電話やパソコンから録画予約できるように設定する

- 本機に接続したUSBハードディスクにEメールで録画予約 **[76]** をする場合の設定をします。
- Eメールで録画予約をするには、以下の設定とインターネットを利用するための接続・設定(**[128]** ~ **[134]**)が必要です。また、POP3を使用したメールサービスが利用できるインターネット接続業者(プロバイダー)との契約が必要です。詳しくは、インターネット接続業者などにお問い合わせください。
- 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」または「WEP」のときは、Eメールの録画予約設定はできません。
- 本機は録画予約のEメールだけに対応しています。一般のEメールを受信して見ることはできません。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「接続機器設定」⇒「録画再生設定」⇒「Eメール録画予約設定」の順に進む



2 設定する項目を▲・▼で選んで決定を押し、以降の手順(次ページまで)で設定する



基本設定

- 「基本設定」画面で以下の操作をします。
- ① 設定する項目を▲・▼で選び、決定を押す
- ② 項目によってそれぞれ以下の操作をする
 - 入力する内容はプロバイダーから提供された資料をご覧ください。
 - 文字入力画面が表示される項目では文字を入力します。文字入力方法については、**[55]**をご覧ください。

POP3サーバーアドレス

- POP3サーバーアドレスを入力します。

POP3ユーザー名

- ユーザーIDを入力します。

POP3パスワード

- パスワードを入力します。

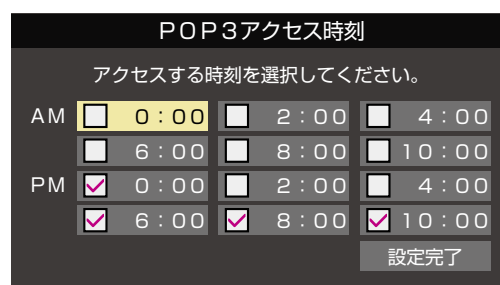
APOP

- 録画予約メール受信時にパスワードを暗号化して送ります。メールサーバーやメールソフトが対応していない場合は「使用しない」を選びます。

- ① ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す

POP3アクセス時刻

- 本機がメールサーバーに新着メールの確認にいく時刻を設定します。



- ① ▲・▼・◀・▶で時刻を選んで決定を押す
決定を押すたびに☑と☐が切り換わります。アクセスする時刻に☑がつくようにします。
- ② すべて選択したら、▲・▼・◀・▶で「設定完了」を選んで決定を押す

SMTPサーバーアドレス

- SMTPサーバーアドレスを入力します。

SMTPサーバーポート番号

- SMTPサーバーのポート番号を設定します。
自動設定では、以下のSMTPサーバー認証を使用しない場合は25が、使用する場合は587が設定されます。

- ① ▲・▼で「自動設定」または「自動設定しない」を選んで決定を押す
- ② 「自動設定しない」を選んだ場合は、**[1]** ~ **[10]** でポート番号を入力し、決定を押す

SMTPサーバー認証

- 録画予約メール送信時にユーザー認証が行われます。
 - SMTPサーバー認証で使用するユーザー名やパスワードがPOP3と異なる場合は「ユーザー設定」を選びます。
- ① ▲・▼で「POP3サーバーと同じ」または「ユーザー設定」、「使用しない」を選んで決定を押す

SMTPサーバーユーザー名

- POP3ユーザー IDと異なる場合に、ユーザー IDを入力します。

SMTPサーバーパスワード

- POP3パスワードと異なる場合に、パスワードを入力します。

メールアドレス

- Eメールアドレスを入力します。

Eメール録画予約機能

- Eメールでの録画予約機能を使用するかを設定します。
- ※ 使用する場合は、先に「予約アドレス登録」をしてください。登録が1件もない場合は、この項目を選択できません。
- ① ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、**決定**を押す

録画先

- 番組を録画する機器を指定します。
- ① ▲・▼で録画先の機器を選び、**決定**を押す

メール予約パスワード

- Eメール録画予約で使用するパスワードを設定します。(パスワードを設定しないとEメール録画予約はできません)
- ① パスワードを設定する
 - ・ パスワードには最小6文字～最大20文字までの半角英数字を入力します。
- ② 入力が終わったら、**決定**を押す

予約設定結果通知

- Eメールでの録画予約設定の結果をEメールでお知らせする機能です。
- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す
 - ・ 使用しない… 予約設定結果通知機能を使用しません。
 - ・ 指定アドレスへの通知… 次の項目の「指定メールアドレス」で指定したアドレスに通知します。
 - ・ 送信元アドレスへの通知… 録画予約のメールを送ったパソコンや携帯電話のEメールアドレスに通知します。
 - ・ 指定アドレスと送信元アドレスへの通知… 次項目の「指定メールアドレス」で指定したアドレスと、録画予約のEメールを送ったアドレスに通知します。

指定メールアドレス

- 予約設定結果通知メールの送り先を設定します。
- ※ 指定したアドレスに送信する場合は、前の項目の「予約設定結果通知」を「指定アドレスへの通知」または「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」に設定します。
- ① 指定するEメールアドレスを入力する
- ② 入力が終わったら、**決定**を押す

予約アドレス登録

- 以下の手順で登録した予約アドレスからの録画予約メールだけが受信ができます。
- ※ 予約アドレスを一件も登録しない場合は、「Eメール録画予約機能」の表示が自動的に「—」になります。

① 予約アドレスを登録または編集・削除する

予約アドレスを登録する場合

- 6件のアドレスを登録できます。
- ① ▲・▼・◀・▶で「新規追加」を選び、**決定**を押す
- ② アドレスを入力する
- ①と②の繰り返しで複数のアドレスが登録できます。

登録済のアドレスを編集・削除する場合

- すでに登録されているアドレスの内容を編集・削除します。
- ① 編集・削除するアドレスを▲・▼・◀・▶で選び、**決定**を押す
- ② ▲・▼で以下から選んで**決定**を押し、編集・削除の操作をする
 - ・ 編集する… 文字入力画面でアドレスを編集します。
 - ・ 削除する… 確認画面で、◀・▶で「はい」を選んで**決定**を押します。

- ② アドレスの登録、編集・削除が終わったら、▲・▼・◀・▶で「登録完了」を選び、**決定**を押す

確認テスト

- 「Eメール録画予約設定」の各項目で設定した内容でEメールの送受信ができるか診断できます。
- POP3アクセス時刻が登録されていることと、「Eメール録画予約機能」を「使用する」に設定したうえで、予約が正常にできるか事前に試してください。
- 設定内容で問題が見つからなかった場合、「メール送受信に関する設定内容を確認できました。」と表示されます。
- ※ 問題があった場合は、表示された結果を参考にして設定を見直してください。

お知らせ

- 「メール予約パスワード」は、Eメールの本文に記載します。この点を考慮して文字数や文字列を決めてください。Eメールは悪意を持った第三者に見られるおそれがありますので、POP3 (SMTP)パスワードやキャッシュカードの暗証番号などを使用しないことをおすすめします。
- SMTPサーバー認証を使用する場合、SMTPサーバーが対応しているユーザー認証方式から、DIGEST-MD5、CRAM-MD5、LOGIN、PLAINの優先順で選ばれ、SMTPサーバー認証が行われます。
- ご契約のプロバイダーによっては、SMTPサーバー認証をしないとメール送信ができない場合がありますが、この点は確認テストの結果に反映されません。

携帯電話やパソコンから録画予約をする

- 外出先などから携帯電話やパソコンを使って、6週間先までの範囲で本機に録画予約をすることができます。
- あらかじめ、接続や設定が必要です。「インターネットに接続する」**[128]** および、「携帯電話やパソコンから録画予約できるように設定する」**[74]** をご覧ください。

Eメールを作成し、送信する

- ※ 本機が対応しているのはテキスト形式のメールのみです。ほかの形式のメールには対応していません。
- メール宛先は「Eメール録画予約設定」の「基本設定」で登録した「メールアドレス」です。
- 本機で利用できるのは、POP3を使用しているメールだけです。
- 録画予約ができるのは、予約メール1通につき1件です。
- 件名は自由に入力できます。
 - ①～⑦はすべて半角文字で入力してください。各項目の間には半角スペースを入れてください。

メール作成画面(例)

BCC
件名
添付ファイル なし

dtvopen XXXXXX 20121010 0900 1100 TD0120 U1

1 2 3 4 5 6 7

① 識別コード

- 「dtvopen」と入力します。(小文字)

② パスワード

- 「Eメール録画予約設定」で登録した「メール予約パスワード」を入力します。

③ 録画日

- 西暦(4ケタ)月日(4ケタ)を入力します。
(1ケタの月日の場合は10の位に0を入れます)

④ 録画開始時刻

- 00～23(時)に続けて00～59(分)を入力します。

⑤ 録画終了時刻

- 00～23(時)に続けて00～59(分)を入力します。

⑥ 録画チャンネル

- 放送の種類を表す略号とチャンネル番号を次のように入力します。

① 放送の種類を表す略号を入力する

放送の種類	略号
地上デジタル放送	TD
BSデジタル放送	BS
110度CSデジタル放送	CS

② 略号に続けてチャンネル番号を入力する

■ 地上デジタル放送の場合

- 3ケタのチャンネル番号を入力します。

例 チャンネル番号：011の場合…TD011

- ※ 枝番を指定する場合は、3ケタのチャンネル番号に続けて枝番を入力します。

■ BSデジタル・110度CSデジタル放送の場合

- 3ケタのチャンネル番号を入力します。

例 BS103、CS001

⑦ 録画先

- 録画先機器(USBハードディスクに限ります)の略号「U」に番号を添えて入力します。指定しない場合は、「Eメール録画予約設定」で登録した「録画先」に録画されます。

- 番号は、「機器の登録」**[58]**の画面に表示される登録番号の数字です。例 USB1→「1」

- 以上で予約が完了です。

返信メールを確認する

- 「Eメール録画予約設定」の「予約設定結果通知」を使用するように設定している場合は、予約メールの送信後しばらくすると本機からメールが返信されます。

「予約を登録しました。」の返信メールの場合

- 以上で予約が完了です。

その他の返信メールの場合

- 下表に従って作成メールを修正し、もう一度送信してください。本体側のエラーが発生する場合は、予約できません。

返信メールの内容	対処のしかた・他
予約を登録できませんでした。メールの書式が正しくありません。メールの書式を確認してください。	①～⑦の書式を確認します。
予約を登録できませんでした。本体で登録できる日時を越えています。	③～⑤が6週間先を超えていないか確認します。
予約を登録できませんでした。指定されたチャンネルは本体に設定されていません。	⑥の指定が正しいか、確認します。
予約を登録できませんでした。指定された機器は本体に登録されていません。または接続されていません。	⑦の指定が正しいか、確認します。
予約を登録できませんでした。本体側でエラーが発生しました。	本機の電源プラグが抜かれていることなどが考えられます。



- 予約メールは、「POP3アクセス時刻」**[74]**で指定した時刻に受信されます。(予約メールを本機で見ることはできません)
- 「予約アドレス登録」**[75]**で、メール録画予約に使用するパソコンや携帯電話のメールアドレスをすべて登録しておきます。

Eメール録画予約時の注意事項

- 無線LANをお使いの場合は、ルーターなどの暗号化方式が「TKIP」以上であることをご確認ください。
- パソコン側で、自動的にメールサーバーからメールを受信し、サーバー側のメールを削除するように設定している場合、本機で予約メールを受信する前に消えることがあります。サーバーにコピーを残すなどの設定が必要です。
- メールソフトによっては、自動的に改行されてしまうことがあります。その場合は、予約内容が正しく認識されません。
- メールサーバー内に極端に多くのメールがあると、予約メールを受信できない場合があります。
- 予約メールと同じ形式で始まるメールがあったとき、予約メールと判断して、パソコン側ではなく本機側で受信してしまう場合があります。
- 予約時に録画機器の状態(接続状態、ハードディスク残量)の確認は行われません。録画予約で指定した機器の電源が切れている場合や、機器を認識できない場合は、録画はできません。
- メールのウイルス対策はされていません。
- 一度に受信可能な予約メールは64件です。残った予約メールは次回の予約メール受信時に処理されます。
- 正しく設定されていることを確認するために、事前に正しく録画できることをお試しください。

録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき

1 録画・録画予約・連ドラ予約画面などで、「詳細設定」を▲・▼で選び、決定を押す

- 録画・録画予約の「マイフォルダ」の設定は、画面上の「マイフォルダ」を選んで変更します。

「マイフォルダ」を変更するとき

- 1 録画・録画予約画面で、「マイフォルダ」を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す
- 2 ▲・▼で設定したいフォルダグループを選び、決定を押す

2 設定する項目を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- ※ そのときの状況によって、設定や変更ができない項目があります。(「×」は設定がありません)

3 ▲・▼で内容を選び、決定を押す

4 ▲・▼・◀・▶で「設定完了」を選び、決定を押す

項 目	内 容	USB ハードディスク	レグザリンク対応 の東芝レコーダー
録画先	● 録画をする機器を選びます。	○	○*
マイフォルダ	● 番組の再生時に探しやすいするために、録画時にフォルダ分けします。 再生のときに録画リストを「マイフォルダ別」の表示にすれば、保存した「マイフォルダ」の中から番組を探すことができます。「マイフォルダ」の名称は変更することができます。 [90]	○	×
マジックチャプター	● 「本編」に設定すると、本編とCMの間でチャプター(章)が分割されます。 ● 「音楽」に設定すると、楽曲の前後でチャプターが分割されます。(メインジャンルが「音楽」またはメインジャンルが「バラエティ」でサブジャンル「音楽バラエティ」のときのみ) ● 「本編と音楽」に設定すると、「本編」と「音楽」の両方の条件でチャプターが分割されます。 ● マジックチャプターの機能を使わないときは、「オフ」に設定します。 ● 録画済の番組でチャプター編集をすることもできます。 [89] ※ 番組内容などによってはチャプター分割ができなかったり、分割位置がずれたりすることがあります。 ※ チャプター数の上限(100個)に達すると、それを超えるチャプターの作成はできなくなります。	○	×
保護	● 録画する番組を保護する(消さないようにする)かどうかを設定します。 録画後に設定することもできます。 [87]	○	×
連ドラ	● 文字入力画面が表示され、必要に応じて連ドラの名称を編集することができます。(再生の際に「連ドラ別」の録画リストから番組を探しやすい名称などに編集します) ● 文字入力のしかたは、 [55] をご覧ください。 ● 連ドラの名称(連ドラグループ名)はあとで変更することもできます。 [90]	○	×
追跡キーワード	● 文字入力画面が表示され、必要に応じて連ドラ予約の追跡キーワードを編集することができます。(1回の放送に限られるようなキーワードは削除しておきます)	○	×
追跡基準	● 必要に応じて、連ドラ予約をする番組の録画曜日と時間を設定することができます。	○	×
上書き録画	● 連ドラ予約の場合に上書き録画の設定をします。 上書き録画にすると前回の録画番組が削除されます。	○	×
放送時間	● 放送局から番組遅延の情報が送信されると、最大3時間までの遅れに連動して録画をする機能です。(放送時間の繰上げには対応できません) ● ほかの予約と時間帯の一部が重なったときの優先順については [80] をご覧ください。	○	○
録画品質	● 「録画品質」を選択すると、設定メニューが表示されます。 ● 「ハイビジョン画質(DR)」 デジタル放送をそのままの画質で録画します。 ● 「録画先の設定画質」 録画機器側で設定されている録画モードから選択します。	×	○

* レグザリンク対応の東芝レコーダーに録画予約した番組は本機では確認や設定の変更などはできません。レコーダー側で確認や取消しなどの操作をしてください。

予約の確認・変更・取消しをする

● 予約の確認や取消し、録画設定や連ドラ設定の変更をすることができます。

※ レグザリンク対応の東芝レコーダーに録画予約した番組は本機では確認や設定の変更などはできません。レコーダー側で確認や取消しなどの操作をしてください。

1 サブメニューを押し、▲・▼で「予約リスト」を選んで決定を押す

- 予約リストが表示されます。
- 視聴制限番組は伏せ字(「* * * *」)で表示されます。表示させるときは、サブメニューを押してから、「視聴制限一時解除」を選んで決定を押してから暗証番号を入力してください。

2 予約の確認や変更、取消しをする番組を▲・▼で選び、決定を押す

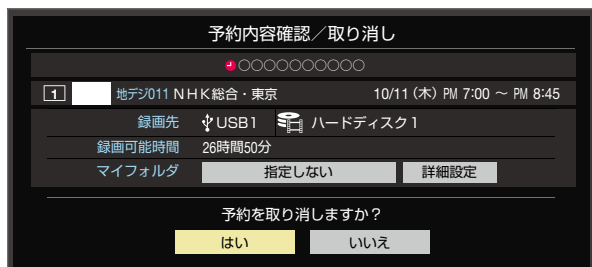


録画や予約状況、上書き保存などのアイコンが表示されます。
✓ 1 1 1 は予約時間が重複する番組が3番組以上あると、重複アイコンが表示されます。
1 1 1 は放送時間変更などで同一の有料番組に予約が重複したときに表示されます。この場合、録画されるのは一つです。(一つの有料番組でW録はできません)

- たとえば、3番組以上の重複があるような場合などは、その中からどれか予約を取り消す番組を選択します。

3 以下の操作をする 予約を取り消すとき

- 1 ◀▶で「はい」を選び、決定を押す

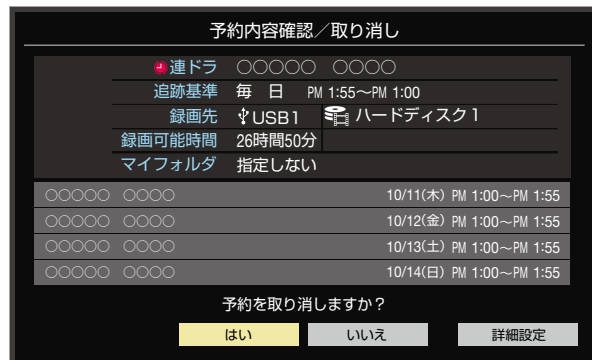


録画設定を変更するとき

- 前ページの「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」の操作をします。

連ドラ予約を取り消すとき

- 1 ◀▶で「はい」を選び、決定を押す



予約内容を変更する場合

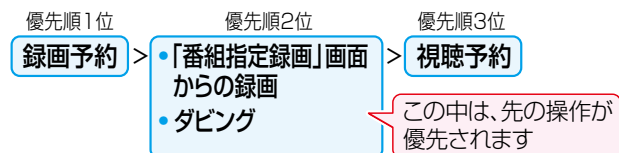
- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選び、決定を押す
- 2 ▲・▼で設定を変更する項目を選び、決定を押す
 - 設定画面に表示されている項目の内容については、前ページの「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」の表を参照してください。
- 3 ▲・▼・◀▶で「設定完了」を選び、決定を押す

予約・録画の優先順位と予約の動作について

予約・録画の優先順位について

「録画予約」が最優先されます

- 録画予約と他の録画や視聴予約などが重なった場合、録画予約が優先されて、他の録画や視聴予約は中止または取消しになります。

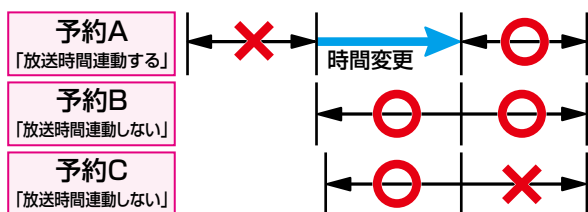


放送時間に変更されたとき

- 予約した番組の放送時間に変更されて、他の予約番組と重なったときは、以下の優先順位で録画されます。

「放送時間」を「連動する」に設定した予約番組と「連動しない」に設定した番組が重なった場合

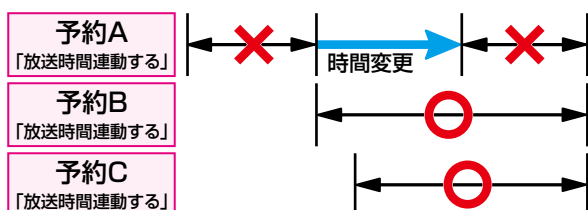
- 「放送時間」を「連動する」に設定した番組が優先されます。
- 例 「放送時間」を「連動する」に設定していた予約Aが時間変更に対応したため、予約Aと重なった部分の予約Cは録画されません。予約Bと予約Cの録画開始時刻が同じ場合は、先に予約を登録したほうが優先されます。



「放送時間」を「連動する」に設定した複数の予約番組が重なった場合

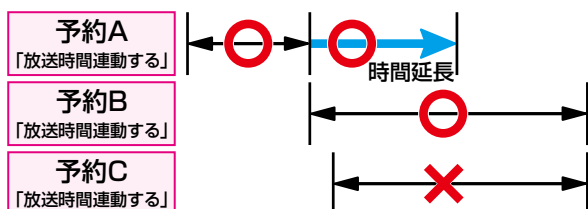
① 開始時刻が変更された場合

- 開始時刻の早い予約が優先されます。
- 例 予約Aの変更後の開始時刻よりも、予約Bと予約Cの開始時刻が早くなるので、予約Aは取り消されます。



② 放送時間が延長された場合

- 先に録画を開始した番組の時間延長が優先されます。
- 例 先に録画を開始し、放送時間延長に対応した予約Aが優先されます。開始時刻の遅い予約Cは取り消されます。



③ 複数の予約番組の開始時刻が同じになった場合

- 予約を登録した順に2番組まで録画されます。

- 番組情報が更新されるタイミングによっては正しく録画されないことがあります。
- 終了時刻が未定のままで、継続して録画される時間は3時間までです。
- 番組情報(放送時間)が変更され、「録画予約」と「連ドラ予約」が同時刻で重なった場合は「録画予約」が優先録画されます。

予約の動作について

- 予約設定後、本機の動作は以下のようになります。
- ※レグザリンク対応の東芝レコーダーに予約した場合は、予約終了の時点で本機の関与は終了し、以下の動作はしません。

予約した番組放送が始まるとき

- 予約を中止する場合は、 または を押します。
- 録画予約の場合は、予約した番組のチャンネルに切り換わる場合があります。
- 予約した視聴制限のある番組が始まるときは、メッセージが表示されます。 を押し、暗証番号(1643)を入力してください。

予約した番組の放送中

- 録画予約した番組の録画中に操作できないボタンを押すと、録画中を知らせるメッセージが表示されます。
- 録画予約した番組の録画が始まると、左記の優先順に従って他の録画は中止されます。

予約した番組の終了後

- 本機を通常どおり使用できます。

おまかせ録画

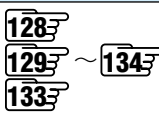
- おまかせ録画はクラウドサービス情報を利用して、興味のあるキーワード(人物も含む)のコミュニティを選ぶだけで自動録画する機能です。

おまかせ録画は、USB（録画専用）端子に接続したUSBハードディスクに録画されます。おまかせ録画について詳しくは、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

※ おまかせ録画は、録画を保証するものではありません。確実に録画したい番組は、番組表などから録画予約をしてください。

おまかせ録画に必要な準備

- おまかせ録画を利用するには、以下の接続と設定が必要です。

必要な接続・設定	記載ページ
● インターネットを利用するための接続をする。 ● インターネットを利用するための設定をする。 ● 「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定する。 ● おまかせ録画コミュニティ※を登録する。	

※ おまかせ録画コミュニティについては、「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

おまかせ録画について

おまかせ録画の設定について

-  を押して、クラウドサービスの画面を表示させ、クラウドサービスの画面から設定します。
 - おまかせ録画の設定については、クラウドサービスの画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

録画について

- 地上デジタル放送／BSデジタル放送／110度CSデジタル放送のテレビ放送を録画します。
 - 字幕放送・映像／音声ESは録画されます。
 - 視聴年齢制限番組、非契約番組は録画されません。
- おまかせ録画と番組表などから予約した通常録画予約が重なる場合は、通常録画予約が優先されます。
 - 通常録画予約とおまかせ録画の予約が同時時間帯に3本以上になったときは、通常録画予約が優先されおまかせ録画は予約されません。おまかせ録画予約が先に行われている場合は、番組表などから通常録画予約の操作をする、と、予約が重なっていることをお知らせする画面が表示されます。
- おまかせ録画の最大予約件数は32件です。
 - おまかせ録画予約の設定をすると、おまかせ録画予約用に予約件数を32件確保されます。このとき、通常録画予約の最大予約件数は96件になります。

USBハードディスクの録画領域について

- おまかせ録画は、通常録画とは別にUSBハードディスクに録画領域を用意します。
 - おまかせ録画領域の設定は、クラウドサービスの画面から行います。
 - 通常録画領域とおまかせ録画領域を合わせて、USBハードディスクの総容量となりますので、ご注意ください。
- 録画番組は、通常録画とおまかせ録画を合わせて3000件まで録画できます。

おまかせ録画を設定しているときの録画予約と録画番組について

- おまかせ録画の設定をすると、録画リストの予約アイコンに「おまかせ」がつき、分類タブに「おまかせ」が追加されます。おまかせ録画された番組は、分類タブの「おまかせ」に表示されます。

おまかせ録画の自動削除について

- おまかせ録画番組は、おまかせ録画領域の容量が足りなくなると、古い番組から順に自動削除されます。
 - おまかせ録画の自動削除は解除できません。

おまかせ録画から通常録画への変更について

- おまかせ録画予約またはおまかせ録画番組は、以下の操作で通常録画予約または通常録画番組に変更することができます。
 - おまかせ録画予約は、予約内容確認画面で  を押すと通常録画予約に変更できます。
 - おまかせ録画番組は、録画リストで  を押し、「通常番組に変更」を選ぶと、通常番組に変更できます。
 - おまかせ録画番組は、ダビングすると自動的に通常番組に変更されます。

おまかせ録画でのご注意

- 画面に表示される録画可能時間は、USBハードディスクの通常録画領域の容量をもとに表示されます。
- おまかせ録画の設定を解除したり、おまかせ録画の録画先のUSBハードディスクを変更したりすると、おまかせ録画予約は、すべて削除されます。
 - おまかせ録画番組は削除されません。
- 「ネットワークサービス利用設定」 を「利用しない」に変更すると、おまかせ録画の設定は解除されます。

- ## 再生の基本操作とさまざまな再生のしかた

2 必要に応じて録画リストの表示を変える

- ① ≪・≫で分類タブを切り換える

- **すべて**……………すべての録画番組が表示されます。
- **未視聴**……………未再生の録画番組が表示されます。
- **曜日別**……………録画した曜日ごとに表示されます。
- **ジャンル別**………ドラマや映画などのジャンルごとに表示されます。番組情報がない場合は、「その他」に分類されます。
- **連ドラ別**……………「連ドラ予約」の予約ごとに表示されます。
- **マイフォルダ別**…指定した「マイフォルダ」ごとに表示されます。

② ◀・▶でグループタブを切り換える

- 分類が「すべて」と「未視聴」の場合はグループタブはありません。
- 視聴年齢制限番組は伏せ字(「****」)で表示されます。表示させるときは、**サブメニュー**を押してから、「視聴制限一時解除」を選んで **決定**を押してから暗証番号を入力してください。

- 選んだ番組の再生が始まります。
- 前回、再生を途中で停止した番組を選んだ場合は、続きから再生されます(レジューム再生)。

- 番組を最後まで再生し終わると、そのまま静止状態になり、しばらくするとテレビの放送になります。
- 再生中にできるリモコン操作については、次ページをご覧ください。

● 放送画面などに戻ります。

番組の冒頭から再生するー 頭出し再生

- ① 再生する番組を選んでから、サブメニューを押し、▲▼で「頭出し再生」を選んで決定を押す

録画中の番組を再生するー追っかけ再生

- ① 録画中の番組を▲・▼で選んで **決定** を押す

チャプターの一覧画面から再生する

- チャプターが分割されている録画番組でできます。

- ①再生する番組を▲・▼で選んで **緑** を押す
●チャプター一覧画面が表示されます。

- 2 再生するチャプターを▲・▼・◀・▶で選んで決定を押す**
● 選択したチャプターの先頭から再生が始まります。

再生中にタイムサーチで再生位置を指定する

- ① サブメニューを押し、▲▼で「サーチ」を選んで決定を押す
● 画面右上に「サーチ」が表示されます。

- 2 1 ~ 10 (○) で時間を指定する

例 冒頭から1時間25分5秒後の位置を指定するとき

※ 小文字 **10** (○) あ **1** か **2** ABC **5** な **10** (○) ※ 小文字 **5** の順に押します。

録画リスト（例）

お知らせ

- 番組冒頭部分の約2秒間を飛ばして再生が始まります。(録画は番組開始時刻の約2秒前から開始されるようになっていきます)
- **録画リストについて**
 - 録画開始直後の番組は、録画リストに表示されるまでに少し時間がかかります。
 - 録画リストに表示できる最大数は3000番組までです。これを超えた機器では正しく動作しないことがあります。
 - 機器に記録されている情報によっては、選択中の録画番組の情報が正しく表示されないことがあります。

録画番組の再生中にできるリモコン操作



ボタン	内 容
	一時停止、早送り/早戻し再生から通常の再生に戻します。 - 再生中に繰り返し押すと、1.5倍の速さの音声付早送り再生「早見早聞」と通常の再生が交互に切り換わります。 - 放送番組の視聴中に押すと、USBハードディスクで前回再生した番組の続きから再生されます。
	再生中に押すと一時停止になり、もう一度押すと再生が再開されます。
	再生を終了し、放送画面などに戻ります。
	早送り再生をします。(押すたびに速さが変わります) - 一時停止中に押すとコマ送りができます。 - 一時停止中に1秒ほど押し続けるとスロー再生になります。スロー再生中に押すたびにスロー再生の速さが変わります(3段階)。
	早戻し再生をします。(押すたびに速さが変わります) - 一時停止中に押すと0.5秒ほど戻って一時停止になります。 - 一時停止中に1秒ほど押し続けると連続コマ戻し再生になります。
	再生中または早見早聞での再生中に押すと、30秒ほど先に進んで再生します。(ワンタッチスキップ)
	再生中または早見早聞での再生中に押すと、10秒ほど戻って再生します。(ワンタッチリプレイ)
	次のチャプターの先頭にスキップして再生します。 チャプターのない録画番組では録画日時が一つ次の番組を再生します。
	現在のチャプターの先頭にスキップして再生します。再生してから4秒以内に押した場合は、一つ前のチャプターの先頭にスキップします。 チャプターのない録画番組では再生中の番組の先頭に戻って再生します。再生してから4秒以内に押した場合は、録画日時が一つ前の番組の先頭にスキップします。
	再生中に押すと、録画リストが表示されます。 放送番組視聴時などに押した場合も録画リストが表示されます。

- ※ 録画番組によっては、「早見早聞」が正しく動作しないことがあります。
- ※ 録画中の番組再生での早送り/早戻し再生などの特殊再生機能は、正しく動作しないことがあります。
- ※ 録画番組によっては、一時停止やワンタッチスキップなどの特殊再生操作をしたときに映像が表示されなくなる場合があります。その場合は、で通常再生に戻してから再度特殊再生の操作をしてください。

ワンタッチスキップ/ワンタッチリプレイの時間を変更する

- ワンタッチスキップとワンタッチリプレイの時間を変更することができます。お買い上げ時の設定のように、飛ばす時間よりも戻す時間を短く設定しておく、飛ばしすぎて戻すときに便利です。
- 1 **設定** を押し、**▲・▼**と**決定**で「接続機器設定」⇒「録画再生設定」の順に進む
 - 2 **▲・▼**で「ワンタッチスキップ設定」または「ワンタッチリプレイ設定」を選び、**決定**を押す
 - 3 **▲・▼**で時間を選び、**決定**を押す

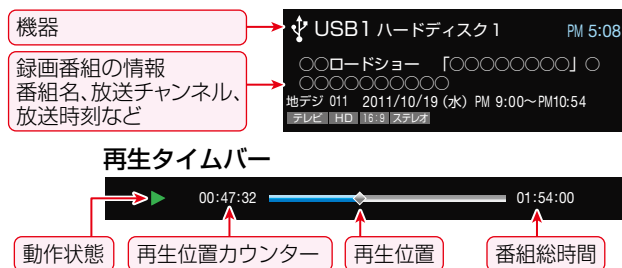
録画した番組を再生する つづき

録画番組の情報や番組説明を見る

番組の情報を見る

① 再生中に [画面表示] を押す

- 再生中の番組の情報が表示されます。
- しばらくすると番組情報の表示は消えます。



② 表示を消すには、もう一度 [画面表示] を押す

番組説明を見る

① 録画リスト表示中または番組の再生中に、[番組説明] を押す

- 番組説明画面が表示されます。

② 番組説明画面を消すには、[終了] を押す

- しばらく放置した場合にも消えます。

録画番組を修復する

- 録画中に停電したり、電源プラグを抜いてしまったりすると録画番組が正しく保存されず、そのままでは再生できません。このような場合、「録画番組の修復」をすると、録画された内容を再生できるようになることがあります。

① [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「接続機器設定」⇒「USB ハードディスク設定」の順に進む

② ▲・▼で「録画番組の修復」を選び、[決定] を押す

③ 番組を修復する機器を▲・▼で選び、[決定] を押す

④ 確認画面で、◀・▶で「はい」を選び、[決定] を押す

- 修復の処理が始まります。終わるまでそのままお待ちください。

⑤ 「録画番組の修復を行いました。」が表示されたら、[決定] を押す

- この操作には、30分程度かかる場合があります。
- 録画番組を修復できなかった場合は、「録画番組の修復ができませんでした。」が表示されます。
- ※ 録画番組が修復できた場合でも、通常再生以外の再生機能は正しく動作しないことがあります。

タグリストについて

- 録画した番組を再生中に、[サブメニュー] を押して「タグリスト」を選ぶと、番組をより便利に楽しくお使いいただけるクラウドサービスが利用できます。使いかた(操作方法など)については、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

タグリストの利用に必要な準備

- インターネットへの接続と設定([128] ~ [134])が必要です。
- 「ネットワークサービス利用設定」[133] の設定が必要です。

見たい録画番組を探して再生する

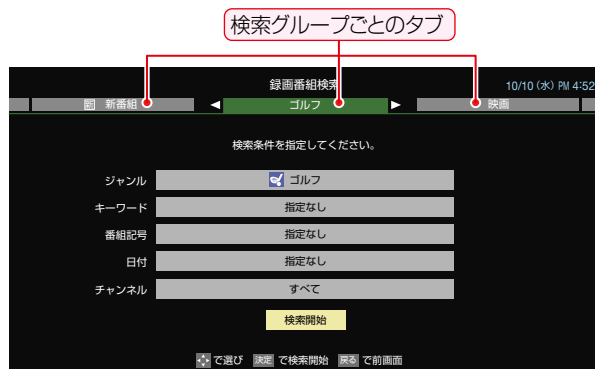
- USBハードディスクに録画した番組の中から、視聴したい番組を探すことができます。
- ジャンル、キーワードなどの検索条件を指定して録画番組を検索します。
- 録画番組のグループ(タブ)ごとに検索条件を設定できます。
- ※ USBハードディスクへの録画中は検索できません。

1 録画リストの表示中に「サブメニュー」を押す

2 ▲・▼で「番組検索」を選び、決定を押す

- 録画番組検索画面が表示されます。

3 検索するグループのタブを◀・▶で選ぶ

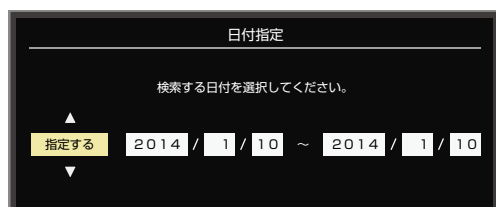


4 検索条件を指定する

- 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」の指定方法は、「条件を絞りこんで番組を探す」[42]の手順4と同じです。ほかの項目は以下の手順で指定します。

「日付」を指定するとき

1 ▲・▼で「日付」を選び、決定を押す



2 ◀・▶で左端の欄に移動し、▲・▼で「指定する」を選ぶ

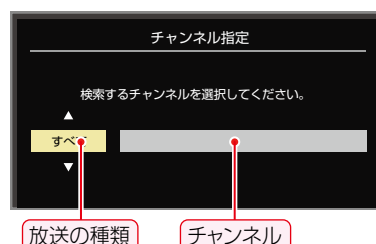
3 ◀・▶で欄を移動し、検索範囲の開始～終了の年、月、日を▲・▼で選ぶ

4 指定が終わったら、決定を押す

「チャンネル」を指定するとき

1 ▲・▼で「チャンネル」を選び、決定を押す

2 指定する項目を◀・▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ



- 放送の種類… すべて / BS / CS / 地デジ
- チャンネル… 指定した放送の種類に該当するチャンネル / すべて

3 指定が終わったら、決定を押す

5 ▲・▼・◀・▶で「検索開始」を選び、決定を押す

- 検索にはしばらく時間がかかることがあります。
- 検索が終わると、検索結果画面が表示されます。

6 見たい録画番組を▲・▼で選び、決定を押す



- 選んだ番組の再生が始まります。

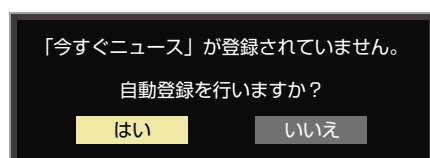
今すぐニュース ～ニュースを見る～

- USBハードディスクに自動録画されたニュース番組をいつでも見ることができます。
- 「今すぐニュース」の機能を使うには、「録画再生設定」の「今すぐニュース設定」**[60]**が必要です。

1 「今すぐニュース」を押す

- 自動録画された番組が再生されます。
- 早送り、早戻しなどのリモコン操作ができます。

メッセージが表示されたとき



- 自動登録をする場合は、**[決定]**で「はい」を選んで**[決定]**を押します。
- 番組表から好みのニュース番組を登録する場合は、「いいえ」を選んで**[決定]**を押し、「今すぐニュース」の番組を登録する**[60]**の操作をします。

2 再生を終了するときは、**[停止]**または**[終了]**を押す

※ 自動録画されたニュース番組は、録画リストには表示されません。

「今すぐニュース」の自動録画を中止するには

- 「今すぐニュース」の自動録画中に**[画面表示]**を押すと、番組情報画面**[37]**に**[録画中]** **[今すぐニュース]**が表示されます。

① 「今すぐニュース」の自動録画中に、**[終了]**または**[停止]**を押す

② 確認画面で、**[決定]**で「はい」を選んで**[決定]**を押す

- 番組情報取得の操作をした場合や、ほかに録画が始まった場合は「今すぐニュース」の自動録画は自動的に中止されます。また、データ放送の選択や、一部のメニュー操作などでも自動録画が中止されることがあります。
- 「今すぐニュース」の機能を使わないようにするときは、「録画再生設定」の「録画するニュース番組を登録する」**[60]**の手順で登録番組をすべて削除します。(登録した番組をすべて取り消した場合、「今すぐニュース」で録画された番組は削除されます)



■ 「今すぐニュース」について

- 新しいニュース番組の自動録画が終わると、古いニュース番組は自動的に削除されます。
- 新しいニュース番組が最後まで録画できなかった場合は、古いニュース番組が残り、新しいニュース番組は保存されません。
- 「今すぐニュース設定」で登録したニュース番組の放送時間が変更された場合には、手動でニュース番組の登録・取消しをしてください。
- 「今すぐニュース」の自動録画と録画予約の時刻が近い場合は、「今すぐニュース」の自動録画は行われません。
- USBハードディスクの再生中や録画番組をムーブしている場合は、「今すぐニュース」の自動録画は行われません。

不要な録画番組を消す／誤って消さないように保護する

● 見終わった録画番組などを消したり、消さないように保護したりする場合は、録画リストの表示中に以下の操作をします。

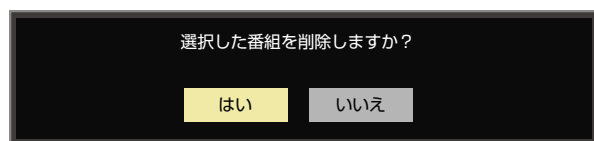
一つの録画番組を消す

1 消す番組を▲・▼で選び、**赤** (削除)を押す

● 保護されている録画番組を消す場合は、保護を解除 (右下参照)してから **赤** を押してください。

2 ▲・▼で「1件削除」を選び、**決定**を押す

3 確認画面で、◀▶で「はい」を選んで **決定**を押す



4 削除が終了したら、**決定**を押す

複数の録画番組を消す

1 消す番組のどれかを▲・▼で選び、**赤** (削除)を押す

2 ▲・▼で「複数削除」を選び、**決定**を押す

3 消す番組を▲・▼で選び、**決定**を押す

● **決定**を押すたびに、☒と☐が交互に切り換わります。削除する番組に☒をつけます。

● 保護された番組を消す場合は、その番組を選び、**青**を押して保護を解除してから **決定**を押します。

☒をつけた番組が削除されます **赤**は **青**で解除してから



4 選択が終わったら **赤** (削除実行)を押す

5 確認画面で、◀▶で「はい」を選んで **決定**を押す

6 削除が終了したら、**決定**を押す

グループ内の録画番組をすべて消す

1 まとめて消すグループの録画リストを表示させる

● 「録画した番組を再生する」**[82]**の手順2をご覧ください。

2 **赤** (削除)を押し、▲・▼で「グループ内全削除」を選び、**決定**を押す

3 確認画面で、◀▶で「はい」を選んで **決定**を押す

4 削除が終了したら、**決定**を押す

自動的に消す(自動削除設定)

● お買い上げ時は、USBハードディスクの容量が足りなくなったときに、保護されていない古い録画番組が自動的に削除されるように設定されています。削除されないようにする場合は「削除しない」に設定してください。

1 **サブメニュー**を押し、▲・▼で「自動削除設定」を選んで **決定**を押す

2 ▲・▼で「削除する」または「削除しない」を選び、**決定**を押す

誤って消さないように保護する

● 自動削除機能で削除されたり、誤って消してしまったりしないように、録画番組を保護することができます。

※ 録画中にこの操作はできません。

1 保護する番組を▲・▼で選び、**サブメニュー**を押す

2 ▲・▼で「保護」を選び、**決定**を押す

● 選択した番組が保護されます。**赤**がつきます

● 保護されている番組を選択してサブメニューを表示させると、「保護解除」ができます。

録画リストのさまざまな機能を使う

- 録画リストの表示中に以下のさまざまな機能を使うことができます。

繰返し再生の設定を変える

- 録画番組の繰返し再生(リピート再生)を設定することができます。
- 設定した状態は本機に記憶されます。

1  を押し、▲・▼で「再生設定」を選んで  を押す

2 ▲・▼で以下から選び、 を押す

- 1コンテンツリピート…選択した一つの番組の再生を繰り返します。
- リピート……………すべての番組の連続再生を繰り返します。
- オフ……………繰返し再生をしません。

- リピート再生をしているときは、画面左上にリピート再生アイコンが表示されます。(1コンテンツリピート: 、リピート: )
- 録画中の番組はリピート再生ができません。

番組を並べ替える

- 録画リストに表示される番組の並び順を変えることができます。
- 設定は機器ごとに記憶されます。

1  を押し、▲・▼で「並べ替え」を選んで  を押す

2 ▲・▼で以下から選び、 を押す

- 新しい順……………日付の新しい順に表示されます。
- 古い順……………日付の古い順に表示されます。

ほかの機器を選択する

- 再生する機器を変更するには以下の操作をします。

1  を押す

- 機器選択画面が表示されます。
- ※ 機器が1台しか接続されていない場合は、メッセージが表示されます。

2 使用する機器を▲・▼・◀・▶で選び、 を押す

連ドラ予約をする

- 録画リストに表示されている番組を選んで、「連ドラ予約」をすることができます。

1 連ドラ予約にする番組を▲・▼で選び、 を押す

2 ▲・▼で「連ドラ予約」を選び、 を押す

3 「連ドラ予約」画面で内容を確認し、◀・▶で「はい」を選んで  を押す

- 番組名や追跡基準の曜日などが正しく表示されているか確認します。
- 設定を変更する場合は、「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」 の操作をします。

機器の情報を確認する

- 使用中の機器の情報を確認できます。

1  を押し、▲・▼で「機器の情報」を選んで  を押す

- 機器情報画面が表示されます。

2 情報画面を消すには、 を押す

ハードディスクの残量を確認する

- USBハードディスクの残量を画面で確認できます。
- ※ 残量表示や録画可能時間表示は、あくまでも目安であり、保証するものではありません。
- ※ USBハードディスクの残量は、BS・110度CSデジタルハイビジョン放送(24Mbps)を基準に算出しています。地上デジタルハイビジョン放送(約17Mbps)の録画番組などを削除した場合、残量の増加分は削除した番組の時間よりも少なくなります。

1  を押し、▲・▼で「ハードディスク残量表示」を選んで  を押す

- 残量表示画面が表示されます。

2 残量表示画面を消すには、 を押す

チャプター編集をする

● 録画済番組のチャプター分割・結合をすることができます。(USBハードディスクへの録画中にはできません)

録画リストから番組を選んで編集する

1 録画リストを表示させる([82] 1~2)

2 チャプター編集をする録画済番組を▲・▼で選ぶ

3 [サブメニュー] を押し、▲・▼と [決定] で「編集・管理」⇒「チャプター編集」の順に進む

- 「チャプター編集」画面が表示され、選択した録画済番組の再生が始まります。(図はチャプター分割されている録画済番組の例です)



4 再生ポイントを移動する

- 「録画番組の再生中にできるリモコン操作」[83] を参照してリモコンを操作し、チャプターを分割・結合したいポイントに移動します。
- [◀▶]・[▶▶] や ◀▶ でチャプターのスキップができます。



5 チャプター編集をする

チャプターを分割する

- 現在の再生ポイント位置でチャプター分割をします。

1 [青] を押す

前のチャプターと結合する

- 先頭のチャプターでこの操作はできません。

1 [赤] を押す

すべてのチャプターを結合する

1 [緑] を押す

- 2 確認画面で、◀▶ で「はい」を選んで [決定] を押す
 - すべてのチャプターが結合され、チャプターの属性がなくなります。

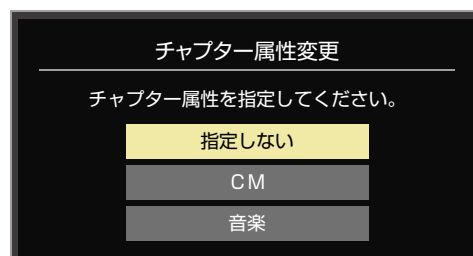
チャプターの属性を変更する

- チャプターの属性(本編、CM)を変更することができます。

1 [黄] を押す

2 ▲・▼で属性を選び、[決定] を押す

- 「本編」にするには「指定しない」を選びます。



3 ▲・▼で「1件変更」または「複数変更」を選び、[決定] を押す

- 1件変更 …… 現在選択中の一つのチャプターの属性を変更します。
- 複数変更 …… 複数のチャプターを選択して同じ属性に変更します。

4 以下の操作をする

■「1件変更」のとき

- 1 確認画面で、◀▶ で「はい」を選んで [決定] を押す

■「複数変更」のとき

- 1 属性を変更するチャプターを◀▶で選び、[決定] を押す
 - [決定] を押すたびに、[✓]と[□]が交互に切り換わります。変更するチャプターに[✓]をつけます。
- 2 すべての指定が終わったら、[黄] を押す
- 3 確認画面で、◀▶ で「はい」を選んで [決定] を押す

- 必要に応じて、手順4と5を繰り返します。

6 チャプター編集が終わったら、[戻る] を押す

- 録画リストに戻ります。

チャプター編集をする つづき

録画済番組の再生中に編集する

- 録画済番組の再生中にチャプターの分割と結合ができます。

1 録画リストを表示させる(82頁 1～2)

2 チャプター編集をする録画済番組を▲・▼で選び、決定を押す

3 各種の再生操作をして、チャプター分割をしたい場面で静止を押す

- 画面右下に操作ガイドと再生タイムバーが表示されます。



- ◀◀・▶▶で、コマ送りやスロー再生ができます。

▶▶	● 一時停止中に押すとコマ送りができます。 ● 一時停止中に1秒ほど押し続けるとスロー再生になります。スロー再生中に押すたびにスロー再生の速さが変わります(3段階)。
◀◀	● 一時停止中に押すと0.5秒ほど戻って一時停止になります。 ● 一時停止中に1秒ほど押し続けると連続コマ戻しになります。

4 青 または 赤 でチャプター編集をする

- 青 を押すと、一時停止した場面でチャプターが分割されます。
- 赤 を押すと、一時停止したチャプターとその前のチャプターが結合されます。
- 必要に応じて、手順3と4を繰り返します。

グループ名を変更する

- 「マイフォルダ別」の録画リストで表示されるグループのタブ名を変更することができます。
- 「連ドラ別」の場合にも同様の操作ができます。その場合は、グループ名を変更すると予約リストの予約番組名も同じ名前に変更されます。
- ハードディスクが複数接続されている場合、機器ごとにグループ名を変更することはできません。
- 番組の録画中にこの操作をすることはできません。

1 「マイフォルダ別」の録画リストを表示させる(82頁 1～2)

- 連ドラグループ名を変更する場合は、「連ドラ別」の録画リストを表示させます。

2 名前を変更するグループのタブを◀▶で選ぶ

例 「わたし」のグループを選択



3 サブメニューを押し、▲・▼と決定で「編集・管理」⇒「マイフォルダ管理」⇒「マイフォルダ名の変更」の順に進む

- 「連ドラ別」のグループ名を変更する場合は、「編集・管理」⇒「連ドラグループ名の変更」の順に進みます。

4 文字入力画面でグループ名を入力する

- お好みの分類名にすることができます。
- 文字入力のしかたは、55頁をご覧ください。
- 全角文字で10文字まで入力できます。
- 文字入力の操作が終わると、録画リストのグループタブ名が変更されます。

例 「わたし」⇒「まさみのお気に入り」に変更



ほかのグループに移動する

- 録画番組をほかのグループに移動することができます。
たとえば、録画時の設定で「 わたし」に分類した番組を、録画後に「お気に入り2」に移すことができます。
- ※ USBハードディスクでの録画中は、この操作はできません。

1 「マイフォルダ別」の録画リストを表示させる(1 ~ 2)

2 移動する番組が保存されているグループのタブを ◀ ▶ で選ぶ

3 移動する番組を ▲ ▼ で選ぶ

4 を押し、▲ ▼ と で「編集・管理」⇒「マイフォルダ管理」⇒「マイフォルダの変更」の順に進む

5 ▲ ▼ で以下から選び、 を押す

- ・ 1件変更 …………… 選択中の番組を別のグループに移動します。
- ・ 複数変更 …………… 複数の番組を選択して、まとめて別のグループに移動します。
- ・ グループ内全変更 …… 選択中のグループの全番組を別のグループに移動します。

6 移動先のグループを ▲ ▼ で選び、 を押す

- グループアイコンとグループ一覧(お買い上げ時の設定)

	みんな		お気に入り1
	おとうさん		お気に入り2
	おかあさん		お気に入り3
	ぼく		お気に入り4
	わたし		お気に入り5
	おじいちゃん		お気に入り6
	おばあちゃん		指定しない

7 「複数変更」の場合は以下の操作をする

① 移動する番組を ▲ ▼ で選び、 を押す

- を押すたびに、☒ と ☐ が交互に切り換わります。移動する番組に ☒ をつけます。
- 保護されている番組も移動できます。

移動する番組に ☒ をつけます



② 移動する番組をすべて選んだら を押す

8 確認画面で、◀ ▶ で「はい」を選んで を押す

録画番組を他の録画機器にダビングする

- 本機でUSBハードディスクに録画した番組を他の機器にダビングすることができます。
 - 機器の接続や設定については、「レグザリンクダビングの接続・設定をする」[62]～[63]の章をご覧ください。
 - USBハードディスク間のダビングは、ムーブ(移動)のみできます。
 - DTCP-IP対応サーバーには、番組のコピー制御情報(コピーワンスやダビング10など)に従ってダビングすることができます。(ネットワークメディアサーバーにはダビングできません)
- ※ USBハードディスクからDTCP-IP対応サーバーへダビングをした番組をUSBハードディスクに戻すことはできません。
- ※ USBハードディスクへの録画中はダビングできません。
- ※ ダビング中に機器の接続を変更したり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。
- ※ DTCP-IP対応サーバーへのダビング時には、有線LANでの接続をおすすめします。また、無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、ダビングできません。

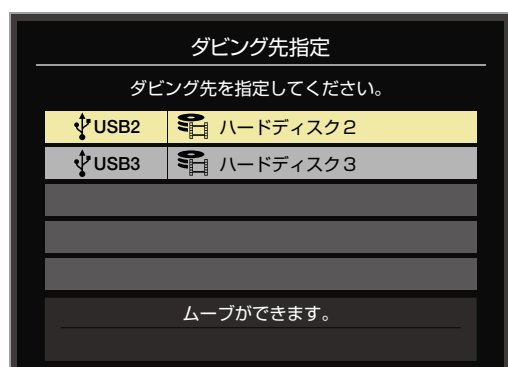
1 録画リストを表示させる([62] 1～2)

2 ダビングする番組を▲・▼で選び、[黄]を押す

3 ▲・▼で「1件ダビング」または「複数ダビング」を選び、[決定]を押す

4 ダビング先を▲・▼で選び、[決定]を押す

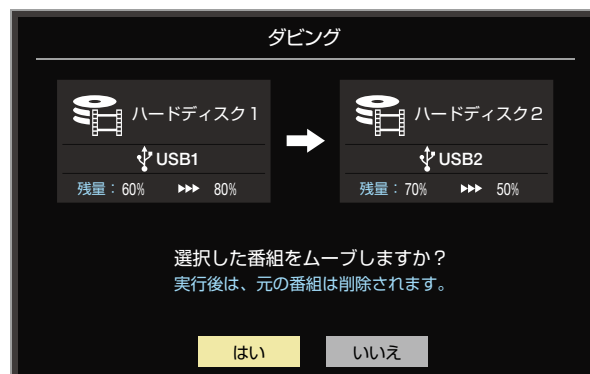
- ダビング先に指定できる機器が1台の場合、この手順はありません。



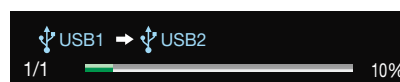
2 ダビングする番組をすべて選んだら [黄] を押す

- 一度にダビングできるのは16番組までです。

6 「ダビング」画面で、◀▶で「はい」を選んで [決定] を押す



- ダビングが始まってしばらくすると、画面の右下に進行状況が表示されます。



5 「複数ダビング」の場合は以下の操作をする

1 ダビングする番組を▲・▼で選び、[決定]を押す

- [決定]を押すたびに、[✓]と[□]が交互に切り換わり、[✓]をつけた番組がダビングされます。
- 保護された番組をダビングする場合は、その番組を選び、[青]を押して保護を解除してから [決定] を押します。

[✓]をつけた番組がムーブされます [青]は [青] で解除してから



東芝レコーダーにダビングしてディスクに保存する

ネットワーク接続でダビングする

- DTCP-IP対応の東芝レコーダー(RD-X8以降の対応機種)にネットワーク経由でデジタルダビングをすることができます。
- ※ ダビングは有線LANでの接続をおすすめします。また、無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、ダビングできません。
- 番組のコピー制御情報に従ったダビングとなります。

準備

1 本機と東芝レコーダーをLANで接続する

- 「レグザリンクダビングの接続・設定をする」**[62]**と同じです。

2 ネットワークの設定を確認する

- 「レグザリンクダビングの接続・設定をする」**[62]**と同じです。

ダビングの操作

- 前ページの操作手順と同じです。
手順4で、LAN接続したDTCP-IP対応の東芝レコーダーをダビング先に指定します。



- ※ 使用する機器が「ダビング先指定」の画面(1台だけの場合は「ダビング」の画面)に表示されない場合は、接続や設定を確認します。
- 手順6の「ダビング」画面で、必要に応じて▲・▼・◀・▶で「ダビング終了時電源オフ」を選び、**[決定]**を押して✓をつけます。(この機能に対応しているレコーダーのみ)



ダビング終了後にレコーダーの電源を切るには、☒をつける

ブルーレイディスクに手間なくダビングする

- 本機でUSBハードディスクに録画した番組を、東芝レコーダーのブルーレイディスクに直接ダビングする操作感覚でダビングすることができます。
- ※ ダビングは有線LANでの接続をおすすめします。また、無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、ダビングできません。
 - 東芝レコーダー対応機種 形名(2014年8月現在)
RD-X10、RD-BZ800、RD-BZ700、RD-BR600、RD-BZ810、RD-BZ710、RD-BR610、DBR-Z150、DBR-Z160、DBR-Z250、DBR-Z260
 - ※ RD-BZ800、RD-BZ700、RD-BR600は機能アップデート後の対応となります。
- 番組のコピー制御情報に従ったダビングとなります。

準備

- 「ネットワーク接続でダビングする」の「準備」を参照してください。

ダビングの操作

1 録画リストを表示させる(**[82]** 1~2)

2 ダビングする番組を▲・▼で選び、**[黄]**を押す

3 ▲・▼で「1件ダビング」または「複数ダビング」を選び、**[決定]**を押す

4 ダビング先を▲・▼で選び、**[決定]**を押す

- 対象の東芝レコーダーをダビング先に指定します。



5 ブルーレイディスクが挿入されているドライブを▲・▼で選び、**[決定]**を押す



「BD/DVD」を選択

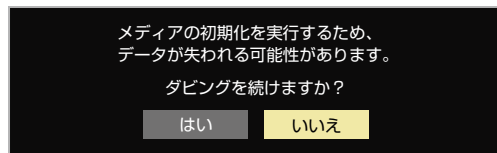
※レコーダーによっては表示が異なる場合があります。

東芝レコーダーにダビングしてディスクに保存する つづき

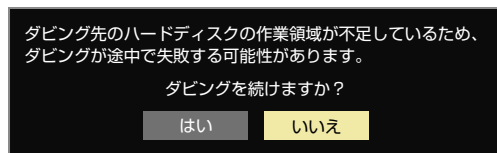
メッセージが表示されたとき

- レコーダーがメディアの自動初期化に対応している場合、レコーダーが未初期化状態として認識するブルーレイディスクが挿入されていると以下のメッセージが表示されます。

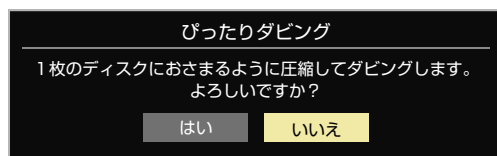
「はい」を選択して続行した場合、ブルーレイディスクに記録されたデータはすべて消去されます。(レコーダー以外の機器で記録したデータなどがある場合はご注意ください)



- レコーダーのハードディスク残量が不足している場合や、ハードディスクに録画できる残りの番組数が不足していると、以下のメッセージが表示されます。



- レコーダーが「ぴったりダビング」に対応している場合は、以下のメッセージが表示されます。「はい」を選択した場合、圧縮ダビングによって画質が低下することがあります



6 「複数ダビング」の場合は 92 の手順5の操作をする

- この場合は選択した順番でダビングされます。(✓の右側に順番を表わす番号が表示されます)

7 「ダビング」画面で、◀▶で「はい」を選んで 決定 を押す

- ダビング終了時にレコーダーの電源を切る場合は、▲▼◀▶で「ダビング終了時電源オフ」を選び、決定 を押して ✓ をつけてから「はい」を選びます。
- レコーダーのハードディスクや挿入されたブルーレイディスクの状態によっては、手順5のメッセージが表示されます。
- ダビングが始まってしばらくすると、画面の右下に進行状況が表示されます。
- 本機からレコーダーへのダビングが完了すると、レコーダー側でブルーレイディスクへの書込みが開始されます。

東芝PCにダビングしてブルーレイディスクやSDメモリーカードに保存する

- 東芝PCにネットワーク経由でダビングし、ブルーレイディスクやSDメモリーカードに保存することができます。
- ※ ダビングは有線LANでの接続をおすすめします。また、無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、ダビングできません。
- 番組のコピー制御情報に従ったダビングとなります。
- 東芝PC接続確認済み機種 形名(2014年8月現在) ●一部の対応機種を記載しています。詳しくは東芝PCのカatalogでご確認ください。

dynabook Qosmio	T852/D8FB、T852/WDTFB、T752/T8Fシリーズ、T551/T4Eシリーズ
dynabook Satellite	T752シリーズ、T652/W5UFB
dynabook	T652/58Fシリーズ、T552/58Fシリーズ、R731/38E、37E、36E
dynabook REGZA PC	D732/T9、T7シリーズ、D711/T3Dシリーズ

準備

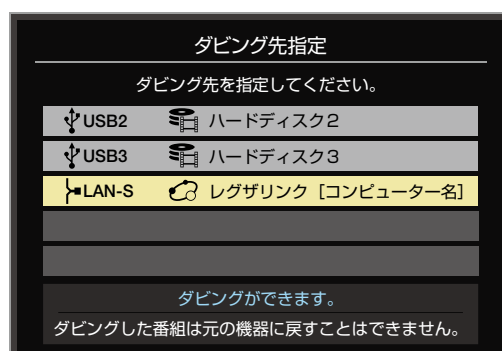
- 1 本機と東芝PCをLANで接続する**
 - 「レグザリンクダビングの接続・設定をする」**[62]**と同じです。
- 2 ネットワークの設定を確認する**
 - 「レグザリンクダビングの接続・設定をする」**[62]**と同じです。
- 3 東芝PCのアプリ「レグザリンク・ダビング」のセットアップをする**
 - アプリケーションソフト「レグザリンク・ダビング」を起動し、セットアップします。
 - 手順などの詳細については、PCのヘルプ画面を参照してください。(ヘルプ画面は、アプリ起動後にPCのメイン画面下部に表示されるヘルプボタンで起動できます)

ダビングの操作

- 1 東芝PCのアプリ「レグザリンク・ダビング」を起動する**
- 2 東芝PCにダビング用のメディアをセットする**
 - ブルーレイディスクまたはSDメモリーカードをセットします。
- 3 録画リストを表示させる(**[82]** **1~2**)**
- 4 ダビングする番組を▲・▼で選び、**[黄]**を押す**
- 5 ▲・▼で「1件ダビング」または「複数ダビング」を選び、**[決定]**を押す**

6 ダビング先を▲・▼で選び、**[決定]**を押す

- 対象の東芝PC(「レグザリンク[コンピューター名]」で表示されます)をダビング先に指定します。



7 「複数ダビング」の場合は**[92]**の手順**5**の操作をする

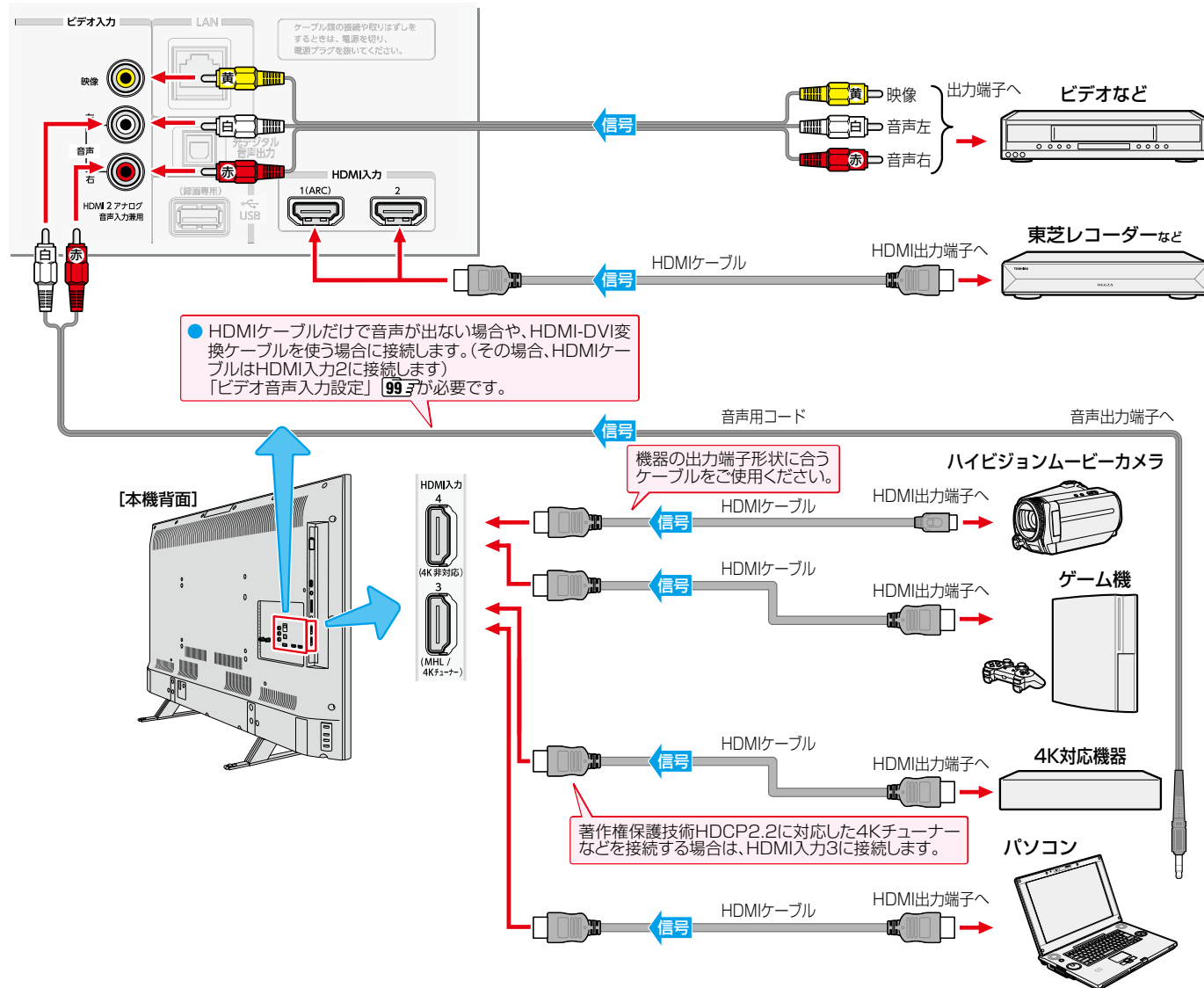
8 「ダビング」画面で、◀▶で「はい」を選んで**[決定]**を押す

- ダビングが始まってしばらくすると、画面の右下に進行状況が表示されます。
- 本機からPCへのダビングが完了したら、PCアプリの操作手順に従ってメディアへの書込みをしてください。

外部機器を接続する

映像機器接続例

- レコーダーなどの録画機器の場合、アンテナの接続については、**26**をご覧ください。
- 接続が終わったら、次ページの「外部入力機能の設定する」を参照して必要な設定をしてください。
- HDMI連動機器（レグザリンク対応機器）では、本機との連動機能によって、ワンタッチプレイやシステムスタンバイの機能を使ったり、本機のリモコンで機器の基本操作をしたりすることができます。詳しくは、「接続機器の映像・音声を楽しむ（レグザリンク）」**103**をご覧ください。必要に応じて「HDMI連動機能」**105**の設定をしてください。



※ HDMI入力4端子は、4K映像には対応していません。



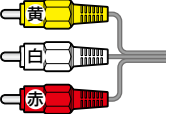
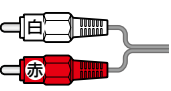
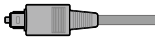
※ 本機の「レゾリューションプラス」**147**と同様の高画質機能を備えた機器を接続した場合、本機の機能との相互作用で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の「レゾリューションプラス」をオフにしてください。

- レグザリンク対応の東芝レコーダーについては、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。
- 本機のHDMI入力端子が対応している入力信号およびHDMIケーブルについては次ページをご覧ください。
- HDMI 4K入力については、すべての4K入力映像の表示を保証するものではありません。

■ パソコンについて

- 外部モニターで表示できるように設定し、本機が対応しているHDMI入力信号フォーマットの信号**190**を入力してください。(本機が対応している信号を入力しても、パソコンによっては本機が認識できないことがあります)
- パソコンのDVD再生ソフトなどで再生した映像は、本機の画面で正しく表示されなかったり、映像の動きが不自然になったりする場合があります。

- 本機に接続できる接続ケーブル（接続コード）の種類と本機で対応している信号の種類および、これらの中で比較した画質・音質の関係を下表に示します。
- 接続ケーブルの端子形状などは一例です。設置場所や機器の仕様などに合わせて、適切な市販品をご使用ください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（**HDMI**）の表示があるケーブルをご使用ください。また、外部機器から1080pや4Kの映像信号を入力する場合は、ハイスピードHDMI[®]ケーブルをご使用ください。（標準HDMI[®]ケーブルでは、正常に動作しないことがあります）

接続ケーブル （接続コード）	画質・音質	本機の入出力対応信号
HDMIケーブル （入力用） 	画質・音質 ともに最高	デジタル映像信号 480i, 480p, 720p, 1080i, 1080p, 4K x2K デジタル音声信号 リニアPCM、 MPEG-2 AAC サンプリング周波数： 48kHz, 44.1kHz、 32kHz ドルビーデジタル サンプリング周波数： 48kHz
映像・音声用 コード（入力用） 	画質・音質 ともに標準	アナログ映像信号 480i アナログ音声信号
音声用コード （入力用） 	標準の音質	アナログ音声信号
オーディオ用光 デジタルケーブル （コード （出力用） 	最高の音質	デジタル音声信号（光） リニアPCM、ドルビーデ ジタル サンプリング周波数： 48kHz MPEG-2 AAC サンプリング周波数： 48kHz, 44.1kHz、 32kHz
音声用コード （出力用） 	標準の音質	アナログ音声信号



- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

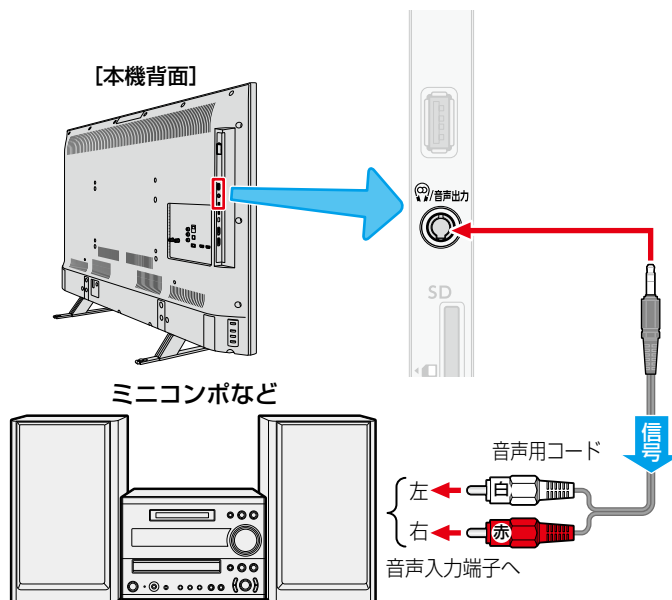
著作権保護について

- 本機のHDMI入力端子は、HDCPで著作権保護されている映像の再生に対応しています。
HDCPのバージョンによって、対応する端子が異なります。
HDCP1.4：HDMI入力1～4端子で対応しています。
HDCP2.2：HDMI入力3端子が対応しています。

※ HDCP2.2で著作権保護されているコンテンツを再生する4K映像機器（4Kチューナーなど）は、本機のHDMI入力3端子に接続してください。

アナログ音声入力端子付のオーディオ機器で聴くとき

- ヘッドホン／音声出力端子を使って、アナログ音声入力端子付のオーディオ機器に接続することができます。
- 「ヘッドホン／音声出力設定」**[157]**を「外部スピーカー用出力モード」に設定してください。
- 「外部スピーカー用出力モード」**[157]**で「固定出力モード」または「可変出力モード」の設定ができます。



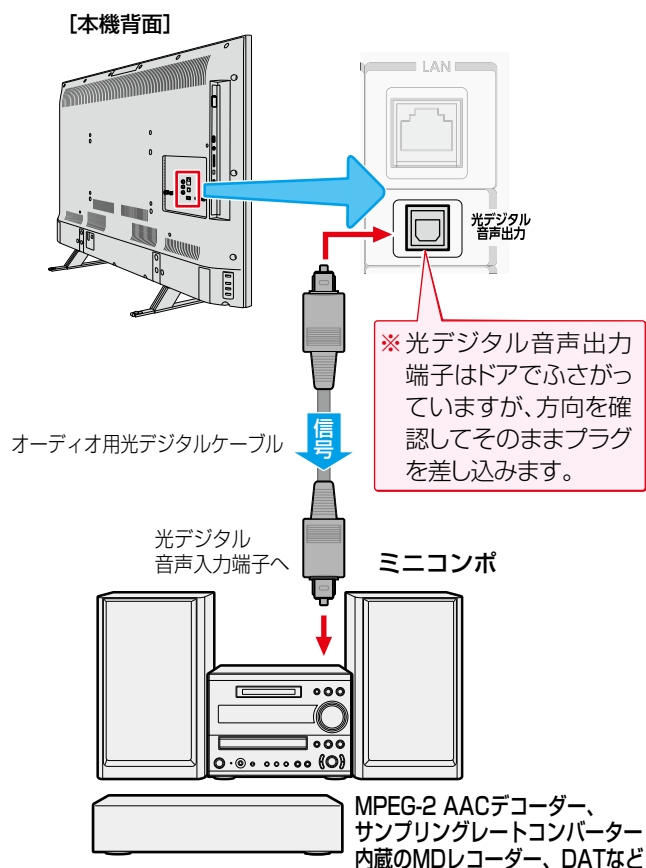
● ヘッドホン／音声出力端子について

- ヘッドホン／音声出力端子からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のアナログ信号が出力されます。ただし、音声調整の効果は得られません。（ドルビーDRCの効果は、ドルビーデジタル音声記録された映像ソフトなどの視聴時に得られます）

外部機器を接続する つづき

デジタル音声(光)端子付のオーディオ機器で聴くとき

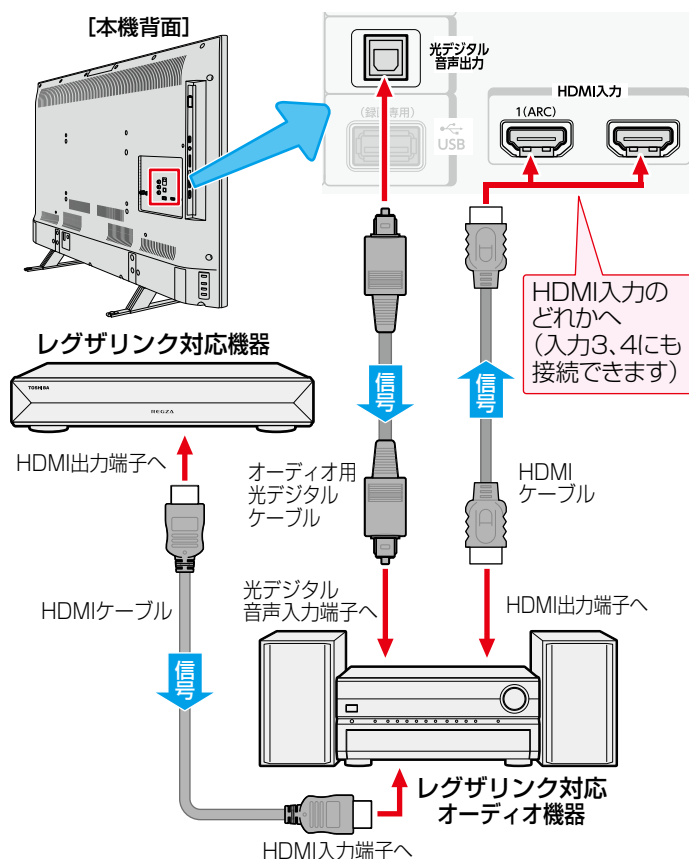
- ミニコンポなどの音響システムに接続するとき
 - ・ 本機の音量を最小に調節し、ミニコンポなどの音響システム側で音量を調節してご使用ください。
 - ・ オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「光デジタル音声出力」**[156]** の設定をします。
- サンプリングレートコンバーター内蔵のMDレコーダーやDATに接続するとき
 - ・ MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子に接続すれば、高音質で録音して楽しむことができます。
 - ・ 「光デジタル音声出力」**[156]** を「PCM」に設定します。
- MPEG-2 AACデコーダーに接続するとき
 - ・ デジタル放送のMPEG-2 AAC方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーで楽しむことができます。
 - ・ 「光デジタル音声出力」**[156]** を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。



※ 光デジタルケーブルのプラグには2種類の形状があります。接続する機器の端子形状に合ったケーブルをお買い求めください。
本機側に差し込むプラグの形状は、です。

レグザリンク対応のオーディオ機器で聴くとき

- レグザリンク対応のオーディオ機器を本機にHDMIケーブルで接続すれば、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節するなどの操作ができます。
- オーディオ機器のHDMI入力端子にレグザリンク対応機器(HDMI連動機器)を接続することができます。
- オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「光デジタル音声出力」**[156]** の設定をします。また、必要に応じて「HDMI連動設定」**[105]** をしてください。



※ ARC対応のオーディオ機器を、ARC対応のHDMIケーブルでHDMI入力1 (ARC)端子に接続する場合は、光デジタル音声ケーブルの接続は不要です。

お知らせ

- 光デジタル音声出力端子からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のデジタル信号が出力されます。ただし、音声調整の効果は得られません。(ドルビー DRCの効果は、ドルビーデジタル音声記録された映像ソフトなどの視聴時に、「PCM」を選択している場合や、「サラウンド優先」を選択してリニアPCM信号が出力される場合に得られます)
- サンプリングレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
- MPEG-2 AAC音声の場合には、主音声・副音声の切換は本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダー側で切り換えてください。
- HDMI入力の選択時に、入力信号が著作権保護されている場合は、光デジタル音声出力端子から出力される信号を他の機器に録音することはできません。
- 本機のHDMI入力端子が対応している入力信号およびHDMIケーブルについては**[97]**をご覧ください。
- レグザリンク対応のオーディオ機器(推奨機器)については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

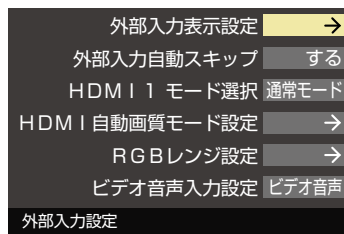
外部入力機能を設定する

外部入力設定メニューで設定する

- 外部入力のさまざまな機能を設定することができます。必要に応じて設定してください。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「外部入力設定」の順に進む

2 以降の手順で設定する



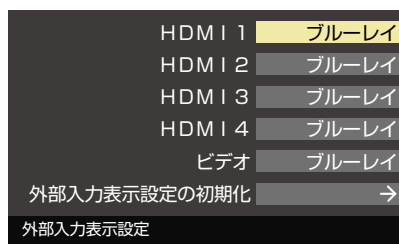
入力切替時に画面に表示される機器名を設定する

- 入力切替をしたときに表示される機器の名称(ブルーレイ、DVDなど)を変更することができます。

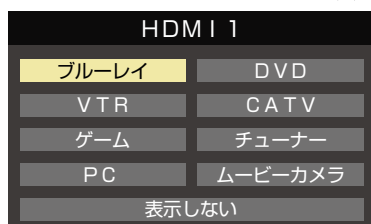
1 ▲・▼で「外部入力表示設定」を選び、**決定** を押す

2 設定する外部入力を▲・▼で選び、**決定** を押す

- 「外部入力表示設定の初期化」を選択すると、お買い上げ時の設定に戻すことができます。



3 表示させる機器名を▲・▼・◀・▶で選び、**決定** を押す



使用しない外部入力をスキップする

- 入力切替をするときに、使っていない入力を自動でスキップする(飛び越す)ことができます。

1 ▲・▼で「外部入力自動スキップ」を選び、**決定** を押す

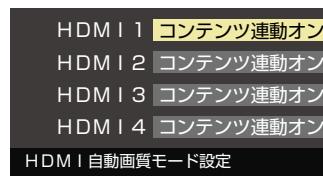
2 ▲・▼で「する」または「しない」を選び、**決定** を押す

HDMI入力の画質が自動設定されるようにする

- HDMI入力端子に入力される映像に適した画質になるように設定することができます。

1 ▲・▼で「HDMI自動画質モード設定」を選び、**決定** を押す

2 設定するHDMI入力を▲・▼で選び、**決定** を押す



3 ▲・▼で以下の設定から選び、**決定** を押す

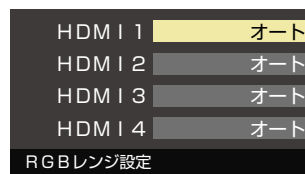
- コンテンツ連動オン…入力映像に「映画」などのコンテンツタイプを識別する情報がある場合に、そのタイプに適した画質に自動調整されます。
- 自動ゲームモード…入力映像がRGB信号の場合に、「映像メニュー」が自動的に「ゲーム」になります。
- オフ……………この機能は働きません。

HDMI入力のRGBレンジを設定する

- 本機がRGBレンジを自動識別できない機器を接続している場合は、機器の仕様に合わせて設定します。

1 ▲・▼で「RGBレンジ設定」を選び、**決定** を押す

2 設定するHDMI入力を▲・▼で選び、**決定** を押す



3 ▲・▼で以下の設定から選び、**決定** を押す

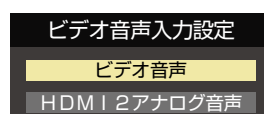
- オート……………自動切替になります。
- フルレンジ……………RGBレンジが0～255の機器の場合に選びます。
- リミテッドレンジ……………RGBレンジが16～235の機器の場合に選びます。

ビデオ入力の音声入力を設定する

- HDMI入力2に接続した機器からの音声を本機から出したときに、ビデオ入力の音声入力端子をHDMI入力2のアナログ音声入力端子として使用するよう設定できます。

1 ▲・▼で「ビデオ音声入力設定」を選び、**決定** を押す

2 ▲・▼で以下の設定から選び、**決定** を押す



- ビデオ音声……………ビデオ入力の音声入力端子として使用します。(お買い上げ時の設定)
- HDMI2アナログ音声……………HDMI入力2のアナログ音声入力端子として使用します。

外部入力機能を設定する つづき

HDMIモードを変更する

- 通常は、お買い上げ時の設定(通常モード)でご使用ください。
- お買い上げ時の設定で、接続したHDMI機器からの映像が正しく表示されないとき、またはHDMI接続した4K映像機器の映像信号が、「高速信号モード」に対応の信号を出力しているときに変更します。

1 を押して、HDMIモードを変更する外部入力を選ぶ

2 を押し、▲・▼で「機能設定」⇒「外部入力設定」⇒「HDMI * モード選択」の順に進む

- 「*」は現在選ばれているHDMI入力の番号になります。
HDMI1入力を選んでいるときは、「HDMI 1 モード選択」と表示されます。

3 ▲・▼を押してモードを選び、を押す

- **高速信号モード**
4K映像に対応している機器からの4K映像を、より高精細に再生するとき選びます。
高速信号モードで正しく表示されない場合は、「通常モード」を選んでください。
※ HDMI3、4端子では、このモードは選べません。
- **通常モード**
通常はこのモードを使用します。
(HDMI 1、2、3端子は4K映像信号に対応しています)
- **互換性優先モード**
「通常モード」で映像や音声为正しく出力されないときに選びます。
(4K映像信号には対応していません)
- 設定が切り換わるまで、しばらくお待ちください。

- **高速信号モード**は以下の4K映像信号に対応しています。
4K映像信号：4:4:4または4:2:2 60Hz
- **通常モード**は以下の4K映像信号に対応しています。
4K映像信号：4:2:0 60Hz

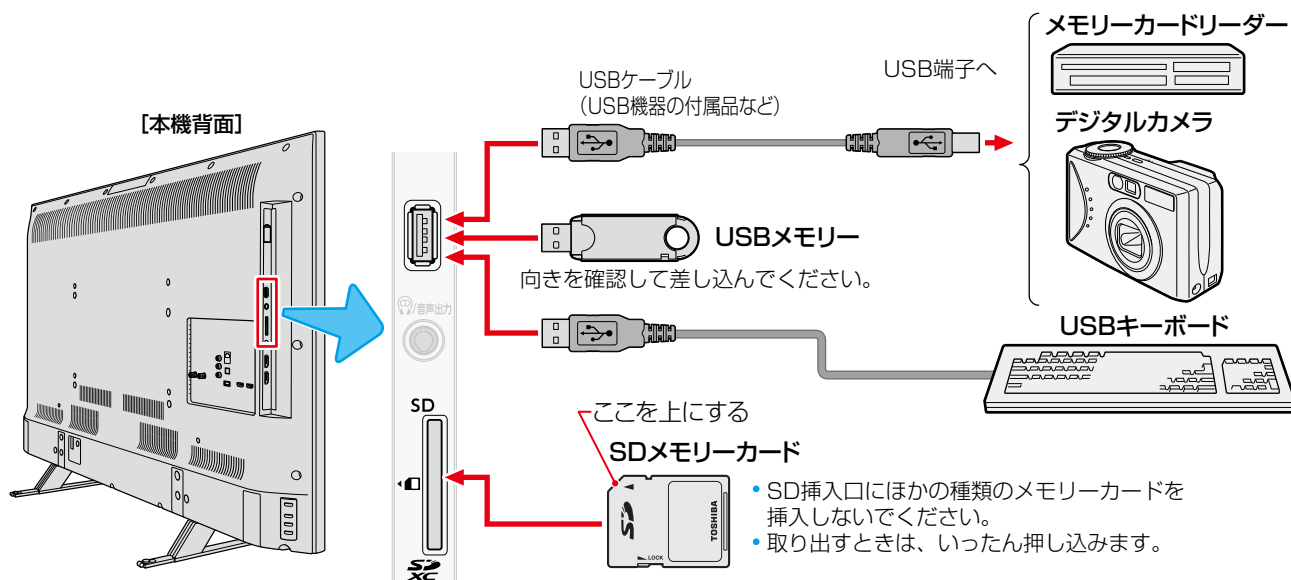
※ HDMI 4端子は、4K映像信号に対応していません。

SDメモリーカードやUSB機器を接続する

- SDメモリーカードやUSB機器に保存されている動画や写真を本機で見ることができます。119 ~ 123
- USBキーボードを本機に接続すれば、文字入力をするときに便利です。
- ※ 暗号化や指紋認証などのセキュリティ機能を有効にした機器や記録メディアなどは、本機では使用できません。

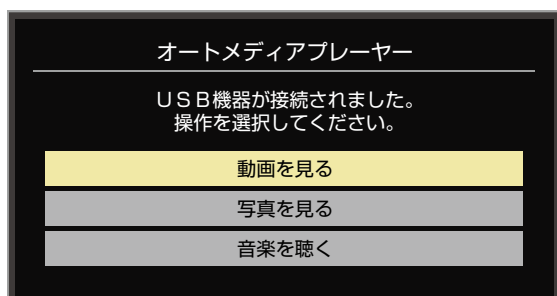
ご注意

- 以下のUSB機器は、図の位置のUSB端子に接続してください。背面のUSB（録画専用）端子には接続しないでください。
- SDメモリーカードやUSB機器を取りはずすときは、動画や写真の再生を終了させてください。再生中に機器を取りはずしたり、電源を切ったりすると、機器や記録メディアに記録されているデータが破壊されるおそれがあります。
- それぞれの機器の動作や取扱いなどについては、機器の取扱説明書をよくお読みください。



機器の接続時に操作メニューが表示されるようにする

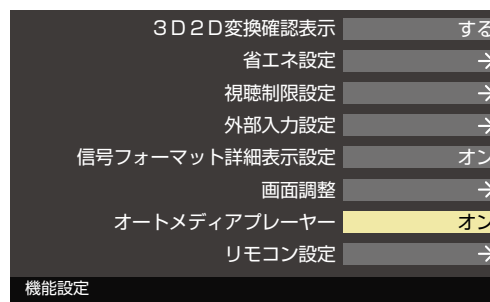
- 「オートメディアプレーヤー」を「オン」に設定しておくと、放送番組や外部入力の視聴時にUSBメモリーなどを挿入したときに、操作の選択メニューが表示されます。（お買い上げ時は「オン」に設定されています）



- ※ USBメモリーなどを挿入した状態で本機の電源を入れた場合や、放送番組・外部入力の視聴以外の操作をしているときにUSBメモリーなどを挿入した場合には、オートメディアプレーヤーの画面は表示されません。

1

設定 を押し、▲・▼と 決定 で「機能設定」
⇒「オートメディアプレーヤー」の順に進む



2

▲・▼で「オン」または「オフ」を選び、決定 を押す

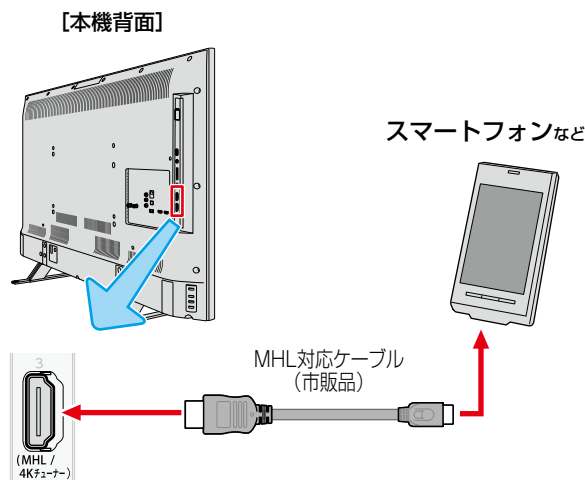
- オン……オートメディアプレーヤーの画面が表示されます。
- オフ……オートメディアプレーヤーの画面は表示されません。

お知らせ

- すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
- USBハブを使って本機のUSB端子に接続した場合に認識できる機器数は最大8台です。スロットを複数持つメモリーカードリーダーなどの場合は、1スロットで1台とみなされます。なお、USBハブを使った場合は、正常に動作しないことがあります。

MHL 対応機器を操作する

- MHL 対応機器 (スマートフォンなど) を、MHL 対応ケーブル (市販品) で HDMI 入力 3 端子に接続すると、テレビで映像・音声の再生、本機のリモコンでの操作や MHL 対応機器 (スマートフォンなど) への充電ができます。(機種や状態によっては充電できない場合があります)



MHL 連動機器の設定をする

- MHL 対応機器 (スマートフォンなど) を、HDMI 入力 3 端子に接続して使用する場合は設定をします。

1 **設定** を押し、**▲・▼** と **決定** で「接続機器設定」⇒「MHL 連動機器→テレビ入力切換」の順に進む

2 **▲・▼** で「連動する」を選び、**決定** を押す

- 「連動する」を選ぶと、自動入力切換対応の MHL 対応機器 (スマートフォンなど) をテレビに接続したときに、自動で入力を HDMI 3 に切り換えます。

MHL 連動機器を操作する

- 「MHL 連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定していない場合は、入力を HDMI 3 にします。
- MHL 連動機器 (スマートフォンなど) の画面がテレビに表示されたら、本機リモコンの **▲・▼・◀▶** や **決定** を使って MHL 連動機器 (スマートフォンなど) の操作ができます。(操作は、MHL 連動機器 (スマートフォンなど) や使用するアプリによって異なります)
- ※ MHL 連動機器 (スマートフォンなど) の操作は、MHL 連動機器 (スマートフォンなど) の取扱説明書をご覧ください。



- テレビ左側面の HDMI 入力 3 端子が MHL に対応しています。他の端子に接続しても動作しません。
- 本機は、MHL 1 をサポートしています。
- MHL 対応機器 (スマートフォンなど) を操作中に不具合が発生した場合は、MHL 対応ケーブルを抜き差しします。対応ケーブルを抜き差ししても解決しない場合は、MHL 対応機器 (スマートフォンなど) の取扱説明書をご覧ください。
- テレビの電源コードがコンセントから抜けているときは、充電できません。
- すべての MHL 対応機器との接続動作を保証するものではありません。

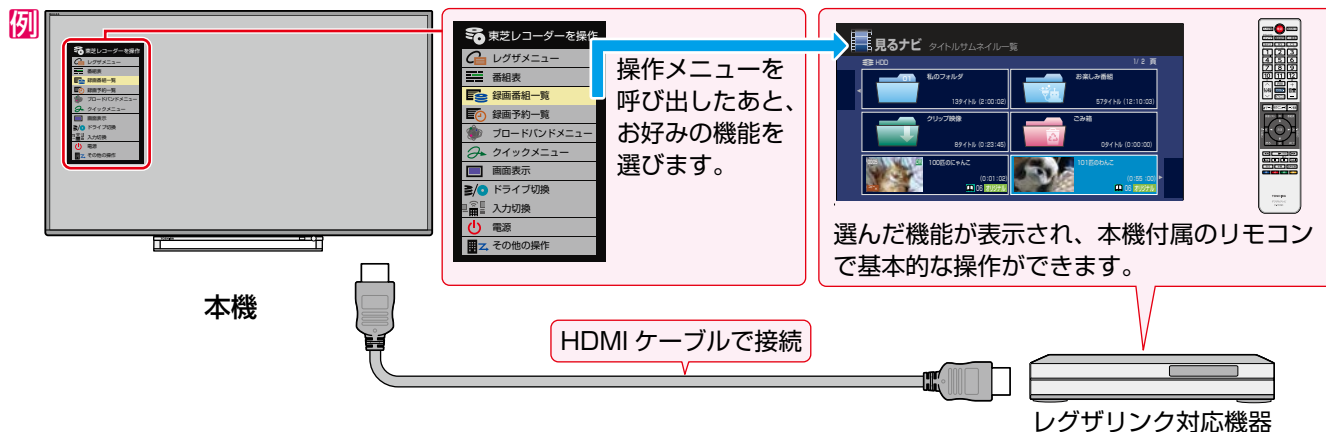
レグザリンクについて

レグザリンク機能でできること

- 本機は以下のレグザリンク機能(HDMI連動)に対応しています。

本機のリモコンで対応機器の操作をする

- 本機に接続したレグザリンク対応の録画機器や再生機器、パソコンなどの操作が本機のリモコンでできます。 **106**



電源の入/切や入力切り換えの動作を連動させる

- ワンタッチプレイ …… レグザリンク対応機器を操作すると、機器に連動して本機の電源がはいり、操作した機器に合わせて入力が切り換わります。
- システムスタンバイ …… 本機の電源を「切」にすると、機器も連動して電源が「切」(待機)になります。

対応機器に録画・予約をする

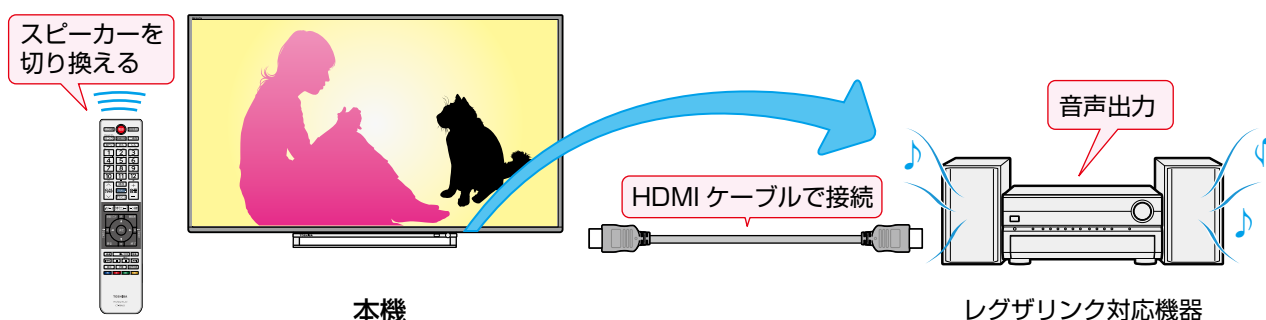
- 本機に接続したレグザリンク対応機器に録画や予約をすることができます。 **71**



オーディオ機器と連携させる

- オーディオ機器に接続されているスピーカーで聴いたり、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節したりすることができます。また、ジャンルに適した音声（サラウンド）がオーディオ機器のスピーカーから出るようにすることもできます。 **109**

例 音声を対応機器のスピーカーで聴く



レグザリンクについて つづき

準備をする

機器	接続・設定	機器についてのお知らせ
レグザリンク対応の 東芝レコーダー	レコーダーの接続：  オーディオの接続：  本機の設定： 	● レグザリンク(HDMI連動)機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。 ● レグザリンク対応の東芝レコーダーについては、ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)をご覧ください。

HDMI連動機能について

- 本機のレグザリンク(HDMI連動)機能では、HDMIで規格化されているHDMI CEC (Consumer Electronics Control)を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。
 - 本機とレグザリンク対応の東芝レコーダーやパソコンなど東芝推奨の機器をHDMIケーブルで接続することで利用できます。
 - ・「録画・予約する」の章に記載されているレグザリンク対応の東芝レコーダーへの録画・予約の操作も、HDMI連動機能を利用したものです。
 - 接続確認済機器以外の機器をHDMIケーブルで接続した場合に一部の連動操作ができることがありますが、その動作については保証の対象ではありません。
 - 接続確認済機器であっても、機器によっては一部の連動操作ができない場合があります。
 - HDMI連動機器の接続、設定を変更した場合は以下の操作をしてください。
 - ・ 接続機器の電源をすべて「入」の状態にして、本機の電源を入れ直してください。
 - ・ すべての接続機器の動作を確認してください。
- ※ 機器に割り振られる番号は接続形態によって変化する場合があります。

オーディオ機器について

- オーディオ機器の入力状態によっては、本機から音が出ない場合があります。
- オーディオ機器の連動操作中にオーディオ機器側の入力を切り換えると、実際の映像と画面右上の接続機器表示が一致しない場合があります。

オンキヨー製オーディオ機器でHDMI連動機能を利用する場合のお願い

対象機種：オンキヨー製 TX-SA605(N)、TX-SA605(S)、TX-SA705(N)、TX-SA805(N)、TX-NA905(N)、DTX-5.8、DTX-7.8、DTX-8.8、DTC-9.8

- オーディオ機器の電源プラグをコンセントに差し込む前に、本機の電源を「入」にしてください。この順番が逆になると、HDMI連動機能を使用したときにオーディオ機器が正しく動作しないことがあります。その場合は本機の電源を入れた状態で、オーディオ機器の電源を入れ直してください。
- ※ 停電のあとやブレーカーの操作などで本機とオーディオ機器の電源が同時にはいった場合にも、上記の操作が必要になることがあります。



- レグザリンク対応機器について、最新情報はホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) でお知らせしています。
- ※ 推奨機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。本機のリモコンで操作できないときは、機器のリモコンで操作してください。
- システムスタンバイについて
 - 省エネ設定の機能などで本機が待機状態になったときも同時に機器側の電源が「待機」になります。
 - 接続機器側がシステムスタンバイに対応している場合、接続機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」にすることができます。

本機のリモコンでHDMI連動機器を操作するための設定をする

- 本機のリモコンでHDMI連動機器の基本操作をしたり、各種の連動動作をさせたりするための設定をします。
- お買い上げ時、本機はHDMI連動機能を使用するように設定されています。接続機器側の設定も必要です。ご確認ください。

1 設定を押し、▲・▼と決定で「接続機器設定」⇒「HDMI連動設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選び、決定を押す

HDMI連動機能	使用する
HDMI連動機器リスト	→
リモコン動作モード	テレビ優先
連動機器→テレビ入力切換	連動する
連動機器→テレビ電源	連動する
テレビ→連動機器電源オフ	連動する
PC映像連動	使用する
AVシステム連動	使用する
AVシステム音声連動	使用する
優先スピーカー	テレビスピーカー
AVシステム音声入力設定	→
機器操作メニュー自動表示	使用しない
HDMI連動設定	

3 希望の設定を▲・▼で選び、決定を押す

- 以降の説明を参照して設定してください。〔HDMI連動機器リスト〕は対応機器のリスト表示のみです

HDMI連動機能

- 本機のリモコンでのHDMI連動機器操作、東芝レコーダーの録画・予約、および以下の各種連動機能を使用するかどうかを設定します。

リモコン動作モード

- リモコン動作モードに対応した東芝レコーダーを接続している場合、〔連動機器優先〕に設定すると、本機のリモコンでレコーダーを操作できる機能が増えます。

連動機器→テレビ入力切換

- 連動機器の再生操作をしたときに、本機が自動的に入力切換をして、その機器を選択する機能です。本機の電源が〔入〕の場合に動作します。

連動機器→テレビ電源

- 連動機器の再生操作をしたときに本機の電源が〔入〕になり、連動機器の電源を〔待機〕にしたときに本機の電源も〔待機〕になる機能です。

- ※ この機能と、〔連動機器→テレビ入力切換〕を〔連動する〕に設定しておく、と、本機の電源が〔入〕になったあとに自動的に入力が切り換わります。

テレビ→連動機器電源オフ

- 本機の電源を〔待機〕にしたときに、連動機器の電源も〔待機〕になる機能です。(録画中の機器など、動作状態によっては〔待機〕にならない場合があります)

- ※ 本機の〔省エネ設定〕〔52〕や〔アラーム〕〔53〕とも連動します。

PC映像連動

- 本機に接続したレグザリンク対応の東芝パソコンからの映像を見る場合に、パソコンの画面の形式や映像に応じて、本機が自動的に画面サイズや映像メニューの設定を切り換える機能です。

AVシステム連動

- 〔使用する〕に設定すると、レグザリンク対応のオーディオ機器とそのスピーカーを接続している場合、本機のリモコンで以下のことができます。
 - ・ 音声をテレビから出すか、オーディオ機器のスピーカーから出すかの切換
 - ・ オーディオ機器の音量調節や消音

AVシステム音声連動

- レグザリンク対応のオーディオ機器との音声連携機能を使うかどうかを設定します。
- オーディオ機器が本機と音声連携可能な機種であり、かつオーディオ機器から音声が出る状態になっているときに設定できます。

優先スピーカー

- 〔AVシステム連動〕を〔使用する〕に設定した場合に、優先するスピーカーを選択します。
 - ・ テレビスピーカー
本機のスピーカーから音声が出ます。
 - ・ AVシステムスピーカー
オーディオ機器の電源が〔入〕のときは、オーディオ機器のスピーカーから音声が出ます。
- サブメニューでスピーカーを切り換えることもできます。



- ※ 本機のヘッドホン端子は、本機のスピーカーから音声が出る条件のときに使用できます。

AVシステム音声入力設定

- オーディオ機器の音声入力を指定することができます。
- 例 レコーダーを本機の〔HDMI2〕に接続して視聴する場合で、レコーダーの音声をオーディオ機器の〔入力3〕に接続してオーディオ機器のスピーカーで聴きたいときは、
▲・▼で〔HDMI2〕を選択して決定を押し、▲・▼で〔入力3〕を選択して決定を押します。

機器操作メニュー自動表示

- 〔使用する〕に設定すると、本機に接続したレグザリンク対応機器に入力を切り換えたときに、機器操作メニューを自動的に表示します。



- 本機が認識できるレグザリンク対応機器の台数は、オーディオ機器：1台、東芝レコーダー：3台まで、東芝パソコン：1台です。
- 〔AVシステム音声連動〕の対応機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

本機のリモコンで対応機器を操作する

機器を操作する

- [入力切換] の操作でレグザリンク (HDMI 連動) 対応機器が接続された入力 (HDMI 1 ~ 4) を選んだあと、「サブメニュー」の「機器操作」を選ぶと、操作メニューが表示されます。

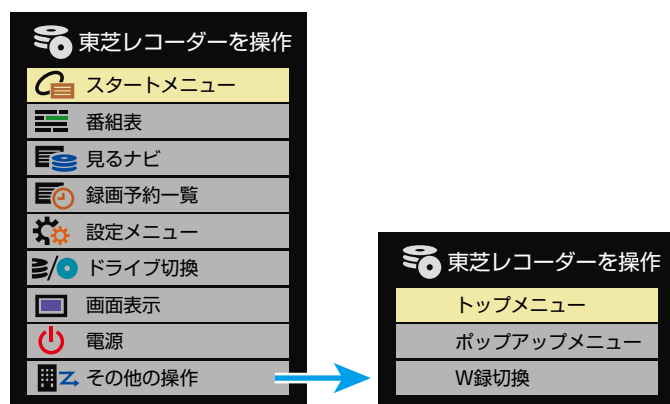
- 1 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「機器操作」を選んで [決定] を押す



- 本機のリモコンで、レグザリンク対応のレコーダーやプレーヤー、パソコンなどの基本操作をすることができます。
- 以降は一例です。ほかのHDMI連動機器でも、本機のリモコンで操作できる場合があります。
- 本機のリモコンでできる操作については、**108P** をご覧ください。
- 機器を操作すると機器操作メニューが消えます。(機器操作メニューを再表示させるには、手順①の操作をします)

東芝レコーダー

- 機器によって表示される操作メニューの内容や、操作できる内容が異なります。
- 「その他の操作」を選ぶとサブメニューが表示されます。



レグザメニュー（スタートメニュー）

- 東芝レコーダーのレグザメニューが表示されます。(スタートメニューがある東芝レコーダーの場合は、スタートメニューが表示されます)

番組表

- 東芝レコーダーの番組表が表示されます。

録画番組一覧(見るナビ)

- 東芝レコーダーの録画番組一覧が表示されます。([見るナビ]または「見ながら選択」がある東芝レコーダーの場合は、「見るナビ」または「見ながら選択」画面が表示されます)

録画予約一覧

- 東芝レコーダーの「録画予約一覧」画面が表示されます。

ブロードバンドメニュー

- 東芝レコーダーのブロードバンドメニューが表示されます。

クイックメニュー

- 東芝レコーダーのクイックメニューが表示されます。

画面表示

- 状態表示の表示／非表示を切り換えます。

ドライブ切換

- ハードディスクとブルーレイ(またはDVD)を切り換えます。

入力切換

- 東芝レコーダーの入力を切り換えます。

電源

- [決定] で電源の「入」、「待機」ができます。

サブメニューについて

トップメニュー

- ディスク再生時に選ぶとディスクのトップメニューが表示されます。

ポップアップメニュー

- ディスク再生時に選ぶとディスクのポップアップメニューが表示されます。

W録切換

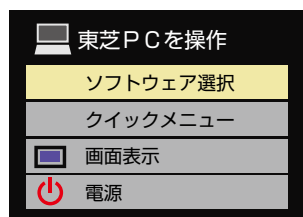
- W録選択を切り換えます。

タイムシフトマシン機能搭載機器の過去番組表を表示する

- タイムシフトマシン対応機器の過去番組表を、本機のリモコンを使って表示させることができます。
 - タイムシフトマシン対応東芝レコーダー については、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

- 1 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「タイムシフトマシン機器」を選んで [決定] を押す
 - 機器の過去番組表が表示されます。
- 2 ▲・▼・◀・▶で再生したい番組を選び、[決定] を押す
 - 「番組指定再生」画面が表示されます。
- 3 ◀・▶で「見る」を選び、[決定] を押す
 - 選択した番組の再生(タイムシフトマシン再生)が始まります。
- 4 タイムシフトマシン再生を終了するには、[終了] を押す
 - ほかの操作によってもタイムシフトマシン再生が終了する場合があります。
 - 番組を選び直すには、上記手順①～④をします。

東芝パソコン



ソフトウェア選択

- 表示される項目を▲・▼で選んで決定を押すと、アプリケーションが起動します。
- 選択したアプリケーションによっては、動作しないリモコン操作や項目があります。

クイックメニュー

- 東芝パソコンのクイックメニューが表示されます。

画面表示

- 状態表示の表示／非表示を切り換えます。

電源

- 決定でパソコンの「起動」、「シャットダウン」ができます。

東芝製以外の機器

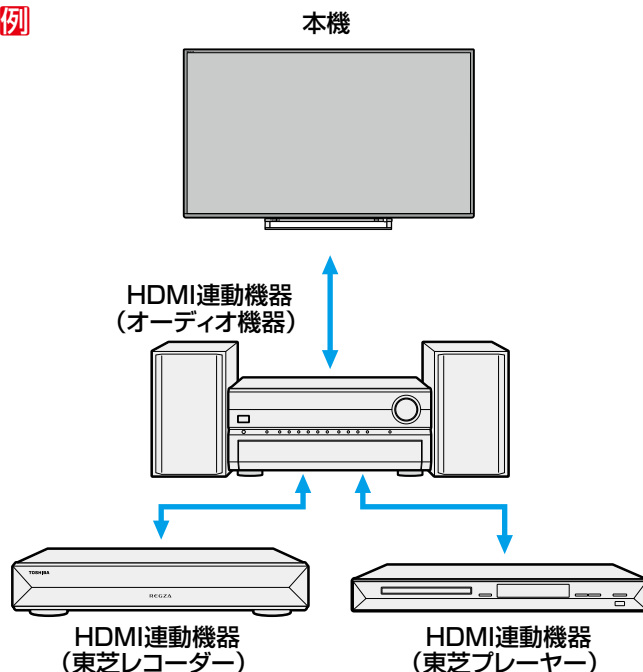
- HDMI CEC対応の機器を操作します。
- すべての製品でメニューに表示されたすべての機能の操作ができることを保証するものではありません。



HDMI連動機器に接続された機器

- HDMI連動対応のオーディオ機器などにHDMI連動機器が接続されている場合は、以下のようになります。

例



東芝レコーダーなどを選択したとき

- 「AVシステムを操作」を選ぶと、オーディオ機器の機器操作メニューが表示されます。



- レグザリンク対応の東芝レコーダー、東芝パソコンについては、ホームページ（www.toshiba.co.jp/regza/）をご覧ください。
- レグザリンク対応のオーディオ機器については、ホームページ（www.toshiba.co.jp/regza/）をご覧ください。

本機のリモコンで対応機器を操作する つづき

本機のリモコンでできるおもな操作

- HDMI連動機器を接続した場合、本機のリモコンで以下の操作をすることができます。
- ※ 以下は代表的な動作です。操作する機器によっては、動作が異なる場合があります。



本機のリモコンボタン	動作の内容
	番組を再生します。
	再生中に押すと一時停止になります。もう一度押すと、再生が再開されます。
	録画や再生を停止します。
	一つ先に進んで頭出し再生をします。
	前に戻って頭出し再生をします。
	再生中に押すと早送り再生になります。
	再生中に押すと早戻し再生になります。
	再生中に押すと少し先に進んで再生します。
	再生中に押すと少し戻って再生します。
	メニューなどで項目を選択します。
	選択した内容を決定したり、選択した操作を実行したりします。
	一つ前の操作に戻ります。
	操作を終了します。
	各機器でカラーボタンに割り当てられた機能进行操作します。
	オーディオ機器の音量を調節します。
	オーディオ機器の音を消します。

オーディオ機器で聴く

オーディオ機器のスピーカーで聴く

- オーディオ機器に接続されているスピーカーで聴いたり、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節したりすることができます。
- 本機とオーディオ機器をHDMIケーブルおよび光デジタル音声ケーブルで接続します。**[98]**
- 光デジタルケーブルの代わりに音声用コードで接続することもできます。その場合は、「ヘッドホーン／音声出力設定」**[157]**を「固定出力モード」に設定します。
- HDMI連動(レグザリンク)に非対応のオーディオ機器の場合、本機のスピーカーから音声を出不さいときは、以下の操作をするか、または本機の音量を最小に調節してください。

1 **[サブメニュー]** を押し、▲・▼で「スピーカー切換」を選んで **[決定]** を押す

2 ▲・▼で「AVシステムのスピーカーで聴く」または「外部スピーカーで聴く」を選び、**[決定]** を押す

- 以下の場合に「AVシステムのスピーカーで聴く」が表示されます。
 - 本機と音声連携が可能なオーディオ機器(AVアンプなどとそのスピーカー)がHDMIケーブルで接続されていて、動作状態になっている。(スピーカーから音声が出るようになっている)
 - 「HDMI連動設定」**[105]** が以下のように設定されている。
 - HDMI連動機能……………使用する
 - AVシステム連動……………使用する
 - AVシステム音声連動……………使用する
- 本機のスピーカーで聴くときは、「テレビのスピーカーで聴く」を選びます。

スピーカーを切り換える

テレビのスピーカーで聴く

AVシステムのスピーカーで聴く

3 音量を調節する

- レグザリンク対応のオーディオ機器では、本機のリモコンで音量調節と消音の操作ができます。
- ※レグザリンク非対応のオーディオ機器を音声用コードで接続している場合は、「ヘッドホーン／音声出力設定」**[157]**に従った方法で音量を調節してください。
 - 固定出力モード……オーディオ機器で音量を調節します。
 - 可変出力モード……本機のリモコンで音量を調節します。

オーディオ機器の音声を設定する

- AVシステム音声連動対応のオーディオ機器が接続されている場合、オーディオ機器のサラウンドメニューからお好みの音声を選択したり、ユニボリュームの機能を使用したりすることができます。(オーディオ機器によっては、サラウンドメニューまたはユニボリュームのどちらか一方しか使用できない場合があります)
- 以下の条件①と②の両方が満たされるときにこの操作ができます。
 - ①本機と音声連携が可能なオーディオ機器(AVアンプなどとそのスピーカー)がHDMIケーブルで接続されていて、動作状態になっている。(スピーカーから音声が出るようになっている)
 - ②「HDMI連動設定」**[105]** が以下のように設定されている。
 - HDMI連動機能……………使用する
 - AVシステム連動……………使用する
 - AVシステム音声連動……………使用する

1 **[サブメニュー]** を押し、▲・▼と **[決定]** で「スピーカー切換」⇒「AVシステム音声設定」を選んで **[決定]** を押す

2 ▲・▼で「サラウンドメニュー」または「ユニボリューム」を選び、**[決定]** を押す

3 お好みに設定する

- 以下の説明を参考にしてください。

サラウンドメニュー

- AVシステム機器のサラウンドモードを設定します。サラウンドメニューから、視聴中の番組に適した音声を選ぶことができます。
- ※画面に表示されるサラウンドメニューは目安です。AVシステム機器側のサラウンドメニューの内容と一致しない場合があります。
- ※「おまかせ」に設定すると、番組が変わるたびに本機が取得した番組ジャンル情報がAVシステム機器に送られ、AVシステム機器のスピーカーからジャンルに適した音声が出るようになります。

ユニボリューム

- 「オン」に設定すると、番組とコマーシャルの音量差、チャンネル間の音量差、外部入力間の音量差が少なくなるように補正され、テレビの音が聞きやすくなります。
- ※クラシック音楽などの番組では、音量差を小さくすると音の強弱表現が損なわれます。そのような番組を視聴する場合や、映画などでシーンによって変わる音量差の迫力を味わいたい場合などは、この機能を「オフ」にしてください。



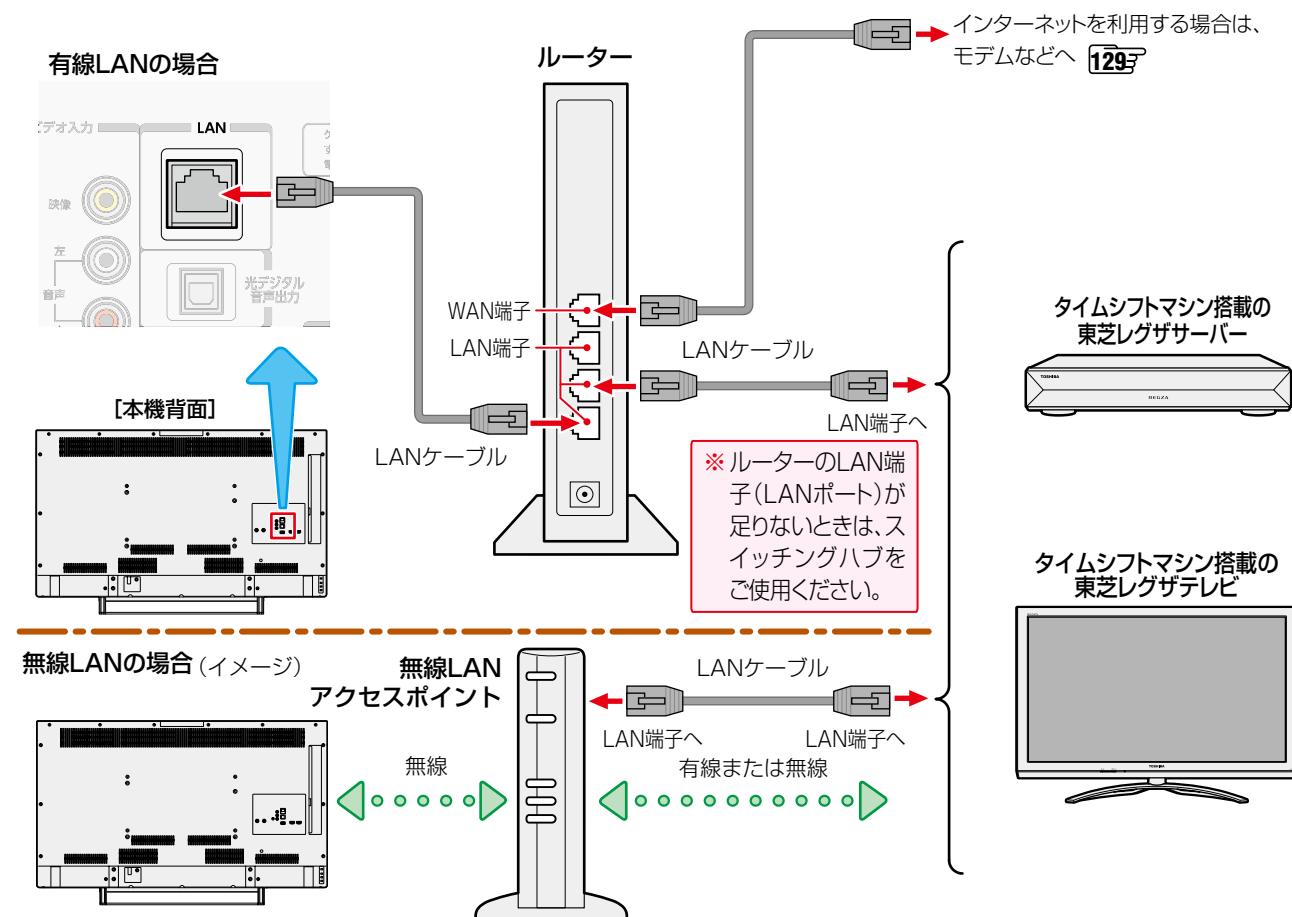
- 音量表示が「AVシステム音量」に変わっているとき、本機のスピーカーおよび「主画面モード」**[52]** 選択時のヘッドホーン端子から音声は出ません。
- レグザリンク対応のオーディオ機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。
- AVシステム音声連動対応のオーディオ機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

タイムシフトリンク機能を使う

- タイムシフトリンク機能は、同一ネットワーク上に接続した、ホームサーバー機能が搭載されている他のタイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーや東芝レグザのタイムシフトマシン録画の番組を、本機の過去番組表やざんまいスマートアクセスに表示して、再生、操作ができる機能です。

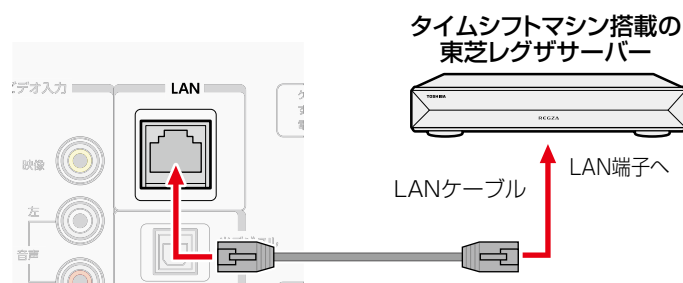
※ タイムシフトリンク機能を利用するには、ホームネットワークでの接続とネットワーク設定の確認が必要です。 **65**

機器を接続する



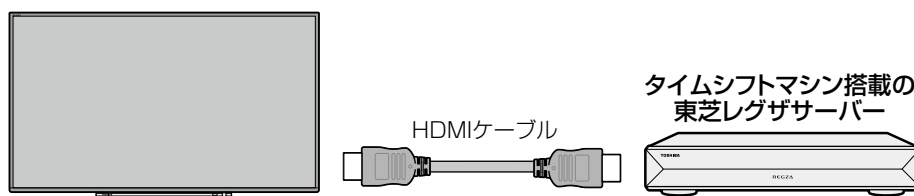
本機とタイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーを直接接続する場合

- ホームネットワークやインターネットへの接続をしない場合や、他のネットワーク機器の通信による影響を受けないようにしたい場合は、本機と直接接続します。



※ 本機と直接接続した場合の設定は、「本機と東芝レコーダーを直接接続した場合」 **63** を参照して設定してください。

- ※ タイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーの場合、本機とHDMIケーブルの接続もしておくと、「始めにジャンプ」を使うことができる場合があります。



タイムシフトリンク機能を使う設定をする

- タイムシフトリンク機能で操作する機器を選びます。
- タイムシフトリンク機能で連携する機器の電源を入れて、サーバー機能の設定をしてから、以下の操作をしてください。

1 **設定**を押して、▲・▼と**決定**で「**接続機器設定**」⇒「**タイムシフトリンク設定**」⇒「**タイムシフトリンク機能**」の順に進む

2 ▲・▼を押して、タイムシフトリンク機能で使用する機器を選び、**決定**を押す

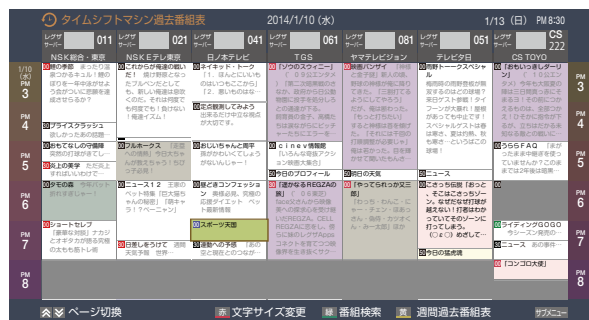
- 選んだ機器のタイムシフトマシン録画番組を、過去番組表に表示したり、再生したりできます。
- ※ 選んだ機器のネットワークの状態や接続を変更したときに、本機でタイムシフトリンク機能を使用する機器として認識できなくなった場合は、上記の操作で再度機器を選んでください。
- ※ 「使用しない」を選んだ場合は、タイムシフトリンク機能は動きません。

タイムシフトマシン録画番組を見る

- タイムシフトリンク機能で選んだ機器の過去番組表を表示させ、タイムシフトマシン録画番組を選びます。
- ※ 「タイムシフトリンク機能を使う設定をする」(上の説明)の操作をした直後は、選んだ機器からの過去番組表の表示には時間がかかります。

1 タイムシフトリンクメニューで◀▶を押して「**過去番組表**」を選び、**決定**を押す

- タイムシフトマシン録画の過去番組表が表示されます。



- 「週間過去番組表」については「週間過去番組表を表示させる」**112**をご覧ください。
- テレビの状態によっては、日時の古い番組が表示されない場合があります。

2 見たい番組を▲・▼・◀▶で選ぶ

- 過去番組表に表示しきれていない日時のページを表示させるには、**113**を押します。
- 選んだ番組を番組冒頭(録画開始部分)から見たいときは、サブメニューから「**頭出し再生**」を選びます。**113**
- 選んだ番組の番組説明を見るには、**番組説明**を押します。

タイムシフトリンクメニューを表示する(基本操作)

- タイムシフトリンク機能を使った操作をします。

1 **タイムシフトリンク**を押す

- タイムシフトリンクメニューが表示されます。



- 本機およびタイムシフトリンク機能で選んだ機器のリモート電源の設定によって、再生時に自動的に電源を入れることもできます。

2 ◀▶を押して、操作するメニューを選び、**決定**を押す

- ※ 「始めにジャンプ」はHDMIケーブルも接続しているときに使えます。
- ※ 「機器操作」はHDMIケーブルも接続していて、「HDMI連動機能」が「使用する」のときに操作できます。

3 **決定**を押す

- 選択した番組の再生(タイムシフトマシン再生)が始まります。
- 前回途中まで見た番組は続きから再生されます。再生中の番組の番組説明を見るには、**番組説明**を押します。

4 タイムシフトマシン再生を終了するには、**終了**または**■**を押す

- ほかの操作によってもタイムシフトマシン再生が終了する場合があります。

- タイムシフトマシン再生を開始すると、再生を開始した番組から同じチャンネルの最新の録画番組まで順に連続再生が行われます。
- 録画が完了した最新番組の再生が終わるとタイムシフトマシン再生が終了します。
- 番組を選び直すには、手順**1**から操作します。

タイムシフトリンク機能を使う つづき

過去番組表について

- 録画中の番組(放送中の番組)は表示されません。

〔過去番組表の例〕

タイムシフトマシン録画のチャンネルが表示されます。

タイムシフトマシン録画で録画された時間帯だけが表示されます。



機器から情報が取得できなかった番組はグレーで表示されます。*

選択されている番組

録画中の番組(表示されません)

- ※ グレーに表示されている番組は、「番組表を更新する」**113**の操作をすると表示される場合があります。



- タイムシフトリンク機能を使って本機が表示する過去番組表は、タイムシフトリンク機能で選んだ機器の情報を基に本機が作成した過去番組表になります。タイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーが表示する過去番組表とはデザイン、レイアウトが異なります。
- 表示できる番組数には制限があります。日時の古い番組は表示されない場合があります。
- タイムシフトリンク機能で選んだ機器が自動削除をしている時間帯の番組は、再生できなかったり途中からの再生になったりします。

過去番組表を便利に使う

- 過去番組表が表示されているときに以下の操作をします。

文字サイズを大きくする

- 番組表の文字が小さくて見えにくいときなどに、文字の大きさを切り換えることができます。

1 赤 を押して文字の大きさを切り換える

- ボタンを押すたびに、文字の大きさが変わります。文字の大きさに合わせて、表示する時間の範囲も変わります。

週間過去番組表を表示させる

- 選んだ放送局の一週間分の番組表を表示させることができます。

1 ◀▶で一週間分の番組表を表示させたいチャンネルを選び、読(週間過去番組表)を押す

- ◀▶で他のチャンネルの週間過去番組表に切り換えることができます。
- 操作方法は、通常番組表の場合と同じです。

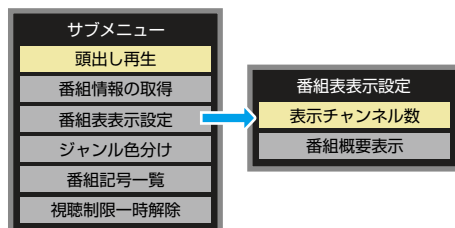
サブメニューを使って操作する

- 過去番組表が表示されているときに**サブメニュー**を押して、過去番組表のさまざまな設定をすることができます。

1 サブメニューを押す

- 過去番組表のサブメニューが表示されます。

2 設定する項目を▲▼で選んで決定を押し、以降を参照して操作する



- 以下の項目は通常番組表と同じ操作になります。該当タイトルの説明をご覧ください。

項目	該当タイトル	ページ
ジャンル色分け	ジャンル別に色分けする	40
番組記号一覧	番組記号の説明を見る	40
番組概要表示	番組概要の表示／非表示を設定する	41

頭出し再生

- 過去番組表で選んだ番組を番組冒頭(録画開始部分)から見るができます。

- 1 ▲・▼で「頭出し再生」を選び、**決定**を押す

表示チャンネル数設定

- お買い上げ時は、録画チャンネル数が1～4のときは4チャンネル表示、5～6のときは6チャンネル表示、7のときは7チャンネル表示になりますが、以下の操作で表示するチャンネル数を変更することができます。
 - 録画チャンネル数が表示チャンネル数よりも少ないときは、番組表の空き部分が灰色になります。
- 1 ▲・▼で「表示チャンネル数」を選び、**決定**を押す
 - 9チャンネル表示も選ぶこともできます。
 - ※ オートでは、録画チャンネル数に関わらず9チャンネル表示はされません。

- 2 ▲・▼で表示させるチャンネル数を選び、**決定**を押す

「番組検索」で見たいタイムシフトマシン録画番組を探す

- タイムシフトマシン録画された番組の中から、見たい番組を探して視聴することができます。

- 1 過去番組表の表示中に **緑** (番組検索)を押す

- 2 検索するグループのタブを◀▶で選ぶ

- 3 検索条件を指定する

- 「日付」と「チャンネル」以外の指定方法は、「条件を絞りこんで番組を探す」**42**の手順4と同じです。
- ※ 過去番組表で番組検索する場合、「ジャンル」の「サブジャンル」は「ゴルフ」、「サッカー」、「野球」、「相撲・格闘技」、「競馬・公営競技」、「ショッピング・通販」、「グルメ・料理」、「天気」、「交通」の検索ができます。他の条件は選択しても検索できません。

「日付」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「日付」を選び、**決定**を押す



- 2 ◀▶で左端の欄に移動し、▲・▼で「指定する」を選ぶ
- 3 ◀▶で欄を移動し、検索範囲の開始～終了の年、月、日を▲・▼で選ぶ
- 4 指定が終わったら、**決定**を押す

番組表を更新する

- タイムシフトリンク機能で選んだ機器の過去番組表を更新します。

- 1 ▲・▼で「番組情報の取得」を選び、**決定**を押す

- 番組情報の取得中にほかの操作をすると、情報の取得が中止されることがあります。
- 番組情報の取得を中止するときは、番組情報取得中に **サブメニュー** を押し、サブメニューから「番組情報の取得中止」を選択します。



- 「タイムシフトリンク機能」が「使用しない」になっているとき、またはHDMIケーブルのみで接続しているときは、タイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーの過去番組表が表示されます。その場合の過去番組表の操作は、東芝レグザサーバーの取扱説明書をご覧ください。

「チャンネル」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「チャンネル」を選び、**決定**を押す

- 2 ▲・▼でチャンネルを選び、**決定**を押す

- タイムシフトマシン録画チャンネルの中から、好みのチャンネルまたは「すべて」が指定できます。

- 4 ▲・▼・◀▶で「検索開始」を選び、**決定**を押す

- 検索にはしばらく時間がかかることがあります。
- 検索が終わると、検索結果画面が表示されます。

- 5 「番組検索結果」画面からお好みの番組を▲・▼で選び、**決定**を押す

- 再生が始まります。

頭出し再生をする

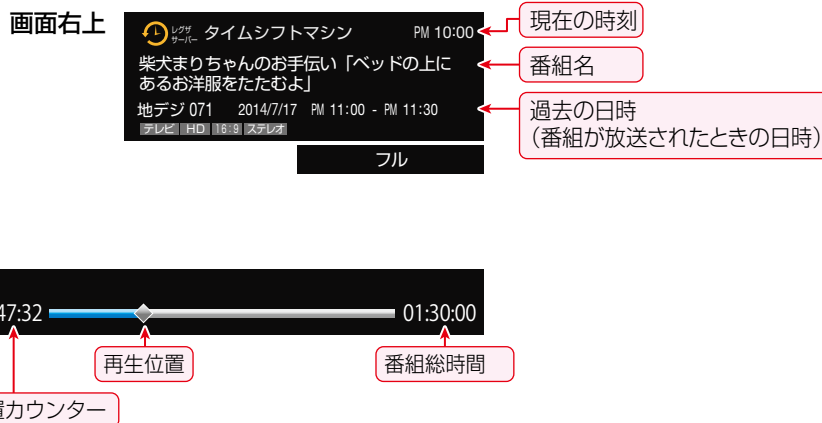
- 選んだ番組を番組冒頭(録画開始部分)から見るができます。

- 1 ▲・▼で頭出し再生をしたい番組を選び、**赤** (頭出し再生)を押す

タイムシフトリンク機能を使う つづき

番組情報やタイムバーを表示させる

- タイムシフトマシン再生中に[画面表示]を押すと、画面右上に番組情報、画面右下にタイムバーが表示されます。
- 停電や「タイムシフトマシン録画の一時停止」などで録画されなかった部分があっても、その様子はタイムバーに表示されません。その部分は再生時にスキップされます。
- タイムシフトマシンで録画中の番組を視聴している場合は、タイムバーに現在時刻位置(現在の録画ポイント)が表示されます。



タイムシフトマシン再生中にできるリモコンの基本操作

- 本機のリモコンで以下の再生操作ができます。



ボタン	動作
	一時停止、早送り/早戻し再生から通常の再生に戻します。 ・再生中に繰り返し押し続けると、1.5倍の速さの音声付早送り再生「早見早聞」と通常の再生が交互に切り換わります。 ※ 放送番組の視聴中に押し続けると、通常録画用USBハードディスクで最後に視聴した録画番組を選んで再生します。
	再生中に押し続けると一時停止になります。 ・一時停止中にもう一度押し続けると、再生が再開されます。
	タイムシフトマシン再生を停止し、放送画面などに戻ります。
	早送り再生をします。(押し続けると速さが変わります) ・一時停止中に1秒ほど押し続けると、スロー再生または連続コマ送りになります。スロー再生または連続コマ送り中に押し続けると、押し続けると速さが変わります(3段階)。
	早戻し再生をします。(押し続けると速さが変わります) ・一時停止中に1秒ほど押し続けると連続コマ戻し再生になります。
	再生中または可変再生中に押し続けると、30秒ほど先に進んで再生します。(ワンタッチスキップ)
	再生中または可変再生中に押し続けると、10秒ほど戻って再生します。(ワンタッチリプレイ)
	次の番組を再生します。 ・「ほかにもこんな番組」115からタイムシフト再生したときは動きません。
	再生中の番組の先頭にスキップして再生します。再生してから約4秒以内に押した場合は、一つ前の番組の先頭にスキップします。 ・「ほかにもこんな番組」115で選んだ番組を再生しているときは、再生中の番組の先頭にスキップして再生します。

- ワンタッチスキップとワンタッチリプレイの時間は、「録画再生設定」83で変更することができます。
- [一時停止]で一時停止をしている間に時間が経過して、自動削除機能によって視聴中のタイムシフトマシン録画番組が削除されそうになった場合は、一時停止が自動的に解除されます。
- ※ 録画番組によっては、「早見早聞」が正しく動作しないことがあります。

タイムシフトマシン録画番組をざんまいスマートアクセスで楽しむ

- タイムシフトマシン録画番組の中から好みの番組を簡単に見つけ出し、番組を楽しむことができます。

好みの番組を選ぶ

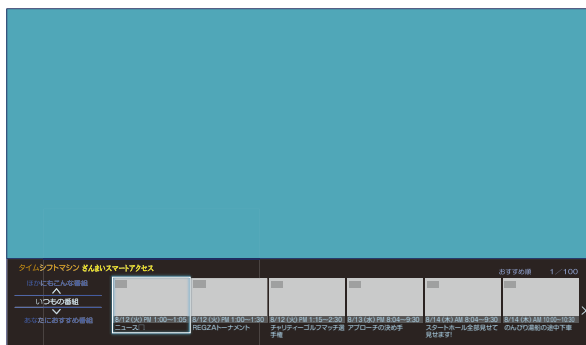
- 1 タイムシフトリンクメニュー¹¹¹³で◀▶を押して「ざんまいスマートアクセス」を選び、決定を押す

- 「ざんまいスマートアクセス」の画面が表示されます。

- 2 お好みのざんまいスマートアクセスのジャンルを▲▼で選ぶ

- 3 ◀▶を押して見たい番組を選び、決定を押す

- 選択した番組の再生(タイムシフトマシン再生)が始まります。
- 前回途中まで見た番組は続きから再生されます。



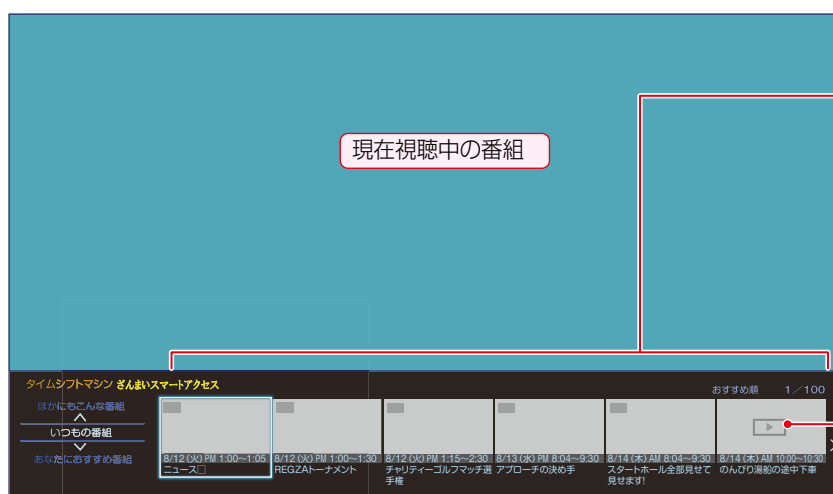
- 4 タイムシフトマシン再生を終了するには、または■を押す



- 放送画面に戻ります。
- ほかの操作によっても再生が終了する場合があります。

ジャンル一覧

ニュース／報道	アニメ／特撮
ゴルフ	新番組
映画	いつもの番組
ドラマ	ほかにもこんな番組
スポーツ	ユーザー任意
音楽	



- タイムシフトリンク機能を使って本機が表示する「ざんまいスマートアクセス」画面は、タイムシフトリンク機能で選んだ機器の情報を基に本機が作成した画面になります。タイムシフトマシン搭載の東芝レグザサーバーが表示する「ざんまいスマートアクセス」(「ざんまいプレイ」)画面とはデザイン、レイアウトが異なります。

タイムシフトリンク機能を使う つづき

ざんまいスマートアクセスを便利に使う

- ざんまいスマートアクセスのサブメニューで、さまざまな便利機能を使うことができます。

「ジャンル」を追加する

- ざんまいスマートアクセスに、お好みのジャンルを追加することができます。

1 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「ジャンル登録」を選び、決定を押す

- ジャンル登録の条件設定画面が表示されます。
- 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」のどれかは必ず指定してください。

「ジャンル」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「ジャンル」を選び、決定を押す
- 2 指定するジャンルを▲・▼・◀・▶で一つ選び、決定を押す
 - サブジャンルから指定することもできます。

※ 「サブジャンル」は、「ゴルフ」、「サッカー」、「野球」、「相撲・格闘技」、「競馬・公営競技」、「ショッピング・通販」、「グルメ・料理」、「天気」、「交通」の検索ができます。他の条件は選択しても検索できません。

「キーワード」を指定するとき

- 指定したキーワードを含んだ番組を表示させます。
- 1 ▲・▼で「キーワード」を選び、決定を押す
 - 2 指定するキーワードを▲・▼・◀・▶で一つ選び、決定を押す
 - キーワード指定画面が表示されます。
 - お買い上げ時は登録されていません。以下の操作で「キーワード」を登録します。

指定しないときはここを選びます。

新しいキーワードを登録する場合

- 1 ▲・▼・◀・▶で「新規登録」を選び、決定を押す
 - 文字入力画面が表示されます。
- 2 キーワードを入力して、決定を押す
 - 文字入力のしかたは、「文字を入力する」55をご覧ください。
 - キーワードは14個まで登録できます。

キーワードを編集する場合

- 1 編集するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、青を押す

- 2 キーワードを編集し、決定を押す

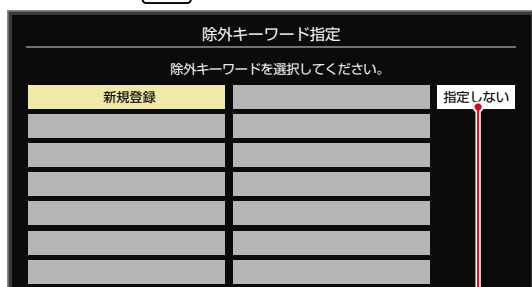
キーワードを削除する場合

- 1 削除するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、赤を押す
- 2 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

「除外キーワード」を指定するとき

- 指定したキーワードを含んだ番組を、表示させないようにします。

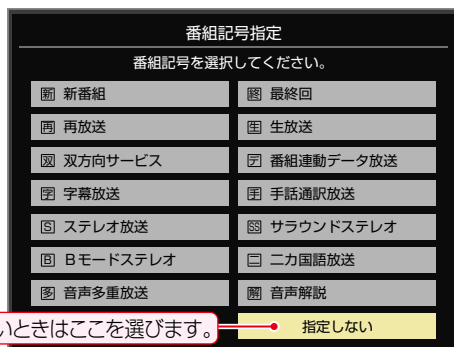
- 1 ▲・▼で「除外キーワード」を選び、決定を押す
- 2 指定するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す
 - お買い上げ時は登録されていません。
 - 除外キーワードの登録方法は、「キーワード」を指定するとき「116」をご覧ください。



指定しないときはここを選びます。

「番組記号」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「番組記号」を選び、決定を押す
- 2 指定する番組記号を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す



指定しないときはここを選びます。

「チャンネル」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「チャンネル」を選び、決定を押す
- 2 指定するチャンネルを▲・▼を選び、決定を押す
 - 決定を押すたびに、☒ (指定する)と☐ (指定しない)が交互に切り替わります。



- 3 指定が終わったら▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す

番組を並べ替える

- リストに表示される番組の並び順を変えることができます。

1 サブメニューを押し、▲・▼で「並べ替え」を選んで、決定を押す

2 ▲・▼で項目を選び、決定を押す

- おすすめ順…本機がおすすめする順に表示されます。
- 新しい順……日付の新しい順に表示されます。
- 古い順………日付の古い順に表示されます。
- おすすめ順は「いつもの番組」のときに選べます。

頭出し再生をする

- 選んだ番組を番組冒頭(録画開始部分)から見るができます。

1 頭出し再生をしたい番組を選ぶ

2 サブメニューを押し、▲・▼で「頭出し再生」を選び、決定を押す

タイムシフトリンク機能を使う つづき

始めにジャンプを使う

- 視聴中の番組を始めから見ることができます。
- ※ HDMIケーブルも接続しているときに利用できます。

1 タイムシフトリンクメニュー  で  を押して「始めにジャンプ」を選び、 を押す

- 視聴中の番組の冒頭（録画開始部分）からタイムシフトマシン再生が始まります。

機器操作を使う

- HDMIケーブルで接続していて、「HDMI連動機能」を「使用する」に設定しているときに、レグザリンクの操作メニュー  を表示することができます。
- ※ ネットワーク接続して、タイムシフトリンク機能を利用しているときは使用できません。

1 タイムシフトリンクメニュー  で  を押して「機器操作」を選び、 を押す

- HDMI連動機器が複数あるときは、機器選択の画面が表示されます。「機器操作」をする機器を選びます。
- レグザリンクの操作メニュー  が表示されます。

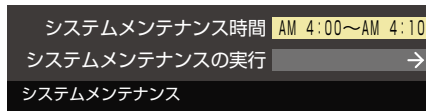
システムをメンテナンスする

- 本機のシステムメンテナンスを行います。システムメンテナンスをすることで、本機システム内のデータが整理され、効率的に動作するようになります。

毎日自動的に実行する

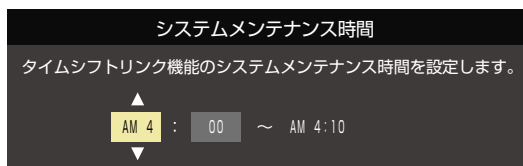
- 設定した時刻に毎日自動的に本機システムメンテナンスが実行されます。

1  を押し、 と  で「接続機器設定」⇒「タイムシフトリンク設定」⇒「システムメンテナンス」⇒「システムメンテナンス時間」の順に進む



2  で「時」、「分」の欄を選び、 で開始時刻を設定する

- 開始時刻は10分単位で設定できます。システムメンテナンスの所要時間は約10分間です。



3 設定が終わったら、 を押す

手動で今すぐ実行する

- ※ 本機で実行中のUSBハードディスクへの録画、ダビング中は、システムメンテナンスは実行されません。

1  を押し、 と  で「接続機器設定」⇒「タイムシフトリンク設定」⇒「システムメンテナンス」⇒「システムメンテナンスの実行」の順に進む

2  で「はい」を選び、 を押す

- 本機の電源がいったん切れてから「入」になり、システムメンテナンスが開始されます。
- システムメンテナンスが終了するまでの約10分間は操作できません。

おすすめ履歴を初期化する

- おすすめ履歴をお買い上げ時の状態に戻します。

1  を押し、 と  で「接続機器設定」⇒「タイムシフトリンク設定」⇒「おすすめ履歴の初期化」の順に進む

2 初期化の確認画面で、 で「はい」を選んで  を押す

3 初期化が終了したら、 を押す

動画を再生する

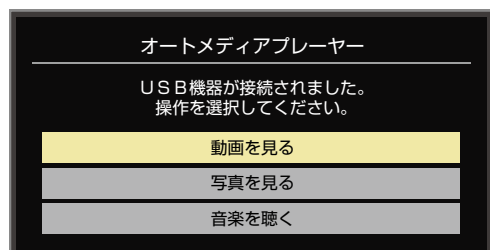
- USB機器、SDメモリーカード、ネットワークメディアサーバー、DTCP-IP対応サーバー、LANハードディスクに保存されている動画を本機で視聴できます。
- レグザブルーレイやホームサーバー機能対応レグザの録画番組を本機で視聴できます。
- 機器の接続や設定などの準備については、「USB機器を接続する」[101](#)、「ホームネットワーク機器の準備をする」[64](#)～[69](#)をご覧ください。
- 本機で再生できる動画のフォーマットについては、[190](#)をご覧ください。



- 再生中は、機器を取りはずしたり、機器や本機の電源を切ったりしないでください。記録されているコンテンツが損なわれることがあります。
- 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときにはデジタル放送などの著作権保護付コンテンツをホームネットワーク上で視聴することができません。著作権保護無しのコンテンツを取り扱う場合も無線LANのセキュリティ設定を行うことを強く推奨します。

動画再生の操作

- オートメディアプレーヤーの画面が表示された場合は、▲・▼で「動画を見る」を選んで決定を押す、手順3から操作します。



1 クラウドメニューを押す、▲・▼・◀・▶と決定でクラウドメニューの項目から「動画」の順に進む

- サブメニューの「メディアプレーヤー」からも「動画」に進むことができます。

2 再生機器を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- 対象機器が1台の場合、この操作はありません。
- ※ リモート電源オン機能で登録した機器で起動していない機器(薄くなって表示されている機器)を選んで決定を押すと、Wake on LAN画面から起動できることがあります。

3 LANハードディスクのユーザー名とパスワードの入力画面が表示された場合は入力する

- 入力画面は、LANハードディスク側でユーザー名とパスワードを設定している場合にのみ表示されます。

4 再生する動画や録画番組が保存されているフォルダを▲・▼で選び、決定を押す

- 機器によっては、この操作はありません。
- 複数のUSBハードディスクが接続されたホームサーバー機能対応レグザなどの場合は、それぞれのUSBハードディスクがフォルダとして表示されます。

例



5 再生する動画や録画番組を▲・▼で選び、決定を押す

例



- 再生中に次ページのリモコン操作ができます。

表示モード切換ができるとき

- 操作ガイドに「緑 表示モード切換」が表示される場合、動画再生リストの表示モード切換ができます。
- 「タブ表示」にしたときのリスト画面の表示切換操作については、[82](#)の手順2をご覧ください。

6 動画再生を終了するには、[終了] または [決定] を押す

- 放送画面などに戻ります。



- ホームネットワーク機器の場合、ほかのネットワーク機器の動作状態によっては再生できないことがあります。
- レジュームポイントが記憶されている場合は、続きから再生されます。
- USB機器で記録されたコンテンツの場合、手順5で選択した動画を先頭にリスト内の動画の連続再生になります。
- クラウドメニューについては「クラウドサービスとネットワークサービスについて」[136](#)をご覧ください。

動画を再生する つづき

動画再生時にできるリモコン操作

- 機器によっては再生と停止しかできないなど、機能が制限されることがあります。
- ワンタッチスキップとワンタッチリプレイの時間は、「ワンタッチスキップ／ワンタッチリプレイの時間を変更する」**[83]**で変更することができます。



ボタン	内 容
	動画の再生を開始します。 ・再生中に繰り返し押し続けると、1.5倍の速さの音声付早送り再生「早見早聞」と通常の再生が交互に切り換わります。 ※ 動画や機器によっては、「早見早聞」が正しく動作しないことがあります。
	再生中に押し続けると一時停止になります。 ・一時停止中にもう一度押し続けると、再生が再開されます。
	動画の再生を終了し、放送画面などに戻ります。
	早送り再生をします。(押したびに速さが変わります) ・一時停止中に1秒ほど押し続けるとスロー再生、または連続コマ送りになります。スロー再生または連続コマ送り中に押し続けると、押したびに速さが変わります(3段階)。
	早戻し再生をします。(押したびに速さが変わります) ・一時停止中に1秒ほど押し続けると連続コマ戻しになります。
	再生中に押し続けると、30秒ほど先に進んで再生します。(ワンタッチスキップ)
	再生中に押し続けると、10秒ほど戻って再生します。(ワンタッチリプレイ)
	次の動画の先頭にスキップして再生します。
	現在の動画の先頭にスキップして再生します。再生してから約4秒以内に押した場合は、一つ前の動画の先頭にスキップします。
	再生中に押し続けると、動画再生のリスト画面が表示されます。

※ 機器によってはスキップの対象がチャプターになります。

動画の再生方法を設定する

- 動画を繰り返して再生することができます。
- 設定した状態は本機に記憶されます。

1 動画再生リストの表示中に **[サブメニュー]** を押す

2 ▲・▼で「再生設定」を選び、**[決定]** を押す

- 3 ▲・▼で以下から選び、**[決定]** を押す
- ・1コンテンツリピート…選択した一つの動画の再生を繰り返します。(🔄)
 - ・リピート……………フォルダ内のすべての動画の連続再生を繰り返します。(🔄)
 - ・オフ……………繰り返し再生をしません。
- 「1コンテンツリピート」に設定時、ほかの動画にスキップすると設定が「オフ」になります。

時間を指定して再生する(タイムサーチ)

1 再生中に **[サブメニュー]** を押し、▲・▼で「サーチ」を選んで **[決定]** を押す

- 画面右上に **サーチ----** が表示されます。

2 **[1]** ~ **[10]** (0) で時間を指定する

例 冒頭から1時間25分5秒後の位置を指定するとき
[10] (0) **[1]** **[2]** **[5]** **[10]** (0) **[5]** の順に押します。

動画を並べ替える

- 動画の並び順を設定します。
- 機器によっては並べ替えができない場合があります。

1 動画再生リストの表示中に **[サブメニュー]** を押す

2 ▲・▼で「並べ替え」を選び、**[決定]** を押す

3 ▲・▼で「新しい順」または「古い順」を選び、**[決定]** を押す

機器を選び直す

- 使用する機器を選び直すときは、**[青]** を押します。「機器の情報」を選んで **[決定]** を押すと、選択されている機器の情報を確認できます。

動画再生リストの操作ガイドについて

- 機器によっては、以下の操作ガイドが表示される場合があります。
 - ・ **[赤]** 削除
「不要な録画番組を消す」**[87]** を参考にしてください。
 - ・ **[緑]** 表示モード切換
「表示モード切換ができるとき」**[119]** をご覧ください。

写真を再生する

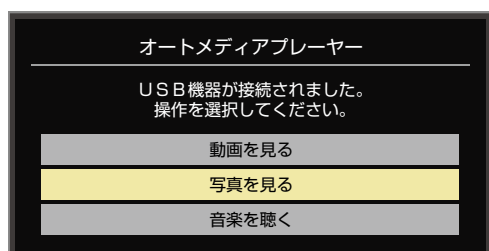
- USB機器、SDメモリーカード、ネットワークメディアサーバー、LANハードディスクに保存されている写真を本機で見ることができます。
- 機器の接続や設定などの準備については、「USB機器を接続する」[101](#)、「ホームネットワーク機器の準備をする」[64](#)～[69](#)をご覧ください。
- 本機で再生できる写真のフォーマットについては、[191](#)をご覧ください。



- 再生中は、機器を取りはずしたり、機器や本機の電源を切ったりしないでください。記録されているデータが損なわれることがあります。
- 無線LANをご使用の場合、無線LANのセキュリティ設定を行うことを強く推奨します。

写真再生の操作

- オートメディアプレーヤーの画面が表示された場合は、▲・▼で「写真を見る」を選んで **決定** を押し、手順3から操作します。



- 「オートメディアプレーヤー」または、以下の手順1または手順2の操作で写真再生が起動すると、「写真再生」のマルチ表示画面になります。(図はUSB機器の例です)



1 クラウドメニューを押し、▲・▼・◀・▶と**決定**でクラウドメニューの項目から「写真」の順に進む

- サブメニューの「メディアプレーヤー」からも「写真」に進むことができます。

2 再生機器を▲・▼・◀・▶で選び、**決定**を押す

- 対象機器が1台の場合、この操作はありません。
- ※ リモート電源オン機能で登録した機器で起動していない機器(薄くなって表示されている機器)を選んで **決定** を押しと、Wake on LAN画面から起動できることがあります。

3 以下の操作で写真を見る

1枚だけ拡大して表示する(シングル再生)

- 1 マルチ表示画面から、見たい写真を▲・▼・◀・▶で選び、**決定**を押す

- 選択した写真が画面に拡大表示されます。



- ◀・▶で前の写真や次の写真に切り換えられます。
- ◀・▶で最初の写真や最後の写真にスキップできます。
- マルチ表示画面に戻るときは **戻る** を押します。

自動的に順番に表示する(スライドショー再生)

- 1 **緑** を押す

- 選択中の写真から順番に表示されます。



- スライドショー再生を一時停止するには **青** を押します。もう一度 **青** を押すと再開されます。
- ◀・▶で前の写真や次の写真に切り換えられます。
- ◀・▶で最初の写真や最後の写真にスキップできます。
- シングル再生に戻るときは **緑** を押します。
- マルチ表示に戻るときは **黄** を押します。



- シングル再生、スライドショー画面に表示された写真以外の情報を消すには **画面表示** を押します。(もう一度押すと表示されます)
- 写真の表示中は、音声出力(固定/可変)端子から音声信号は出力されません。
- フォルダ内にサイズの大きい写真が複数ある場合や、サーバーからの転送速度が遅い場合、写真リストが表示されないことがあります。
- ホームネットワーク機器の場合、ほかのネットワーク機器の動作状態によっては再生できないことがあります。
- パソコンのアプリケーションソフトを使って加工や編集をした写真は、再生できないことがあります。
- クラウドメニューについては「クラウドサービスとネットワークサービスについて」[136](#)をご覧ください。

写真を再生する つづき

写真を回転させるには

- マルチ表示画面、シングル再生画面、スライドショー再生画面で写真を回転させることができます。

1 赤 を押す

- 赤 を押すたびに時計回りに90度ずつ回転させることができます。
- 回転させた状態は記憶されません。

写真だけを表示するには

- シングル再生画面、スライドショー再生画面に表示された写真以外の情報を消すことができます。

1 画面表示 を押す

- もう一度 画面表示 を押すと情報が表示されます。

4 写真再生を終了するときは、終了 を押す

マルチ表示画面の表示モードを切り換える

- USB機器、SDメモリーカードの場合に、マルチ表示画面の表示モードを切り換えることができます。（ネットワークメディアサーバーは「フォルダ別」の表示のみになります）

1 マルチ表示画面のときに 黄 を押す

- 黄 を押すごとに以下の「シームレス」または「フォルダ別」に切り換わります。
 - ・ シームレス … 第1階層にあるDCIMフォルダや、その中にある第6階層までのフォルダに保存されている写真だけが最大1000枚まで表示されます。（シームレス表示で写真が見つからないときは、自動でフォルダ別表示に切り換えます）
 - ・ フォルダ別 … 写真および、同じ階層にあるフォルダが合計1000まで表示されます。

表示モード



フォルダを開くには

- 「フォルダ別」の表示モードのときに、フォルダを開くには以下の操作をします。

1 ▲・▼・◀・▶でフォルダを選び、決定 を押す

- 上の階層に戻るときは 戻る を押します。

再生を繰り返す

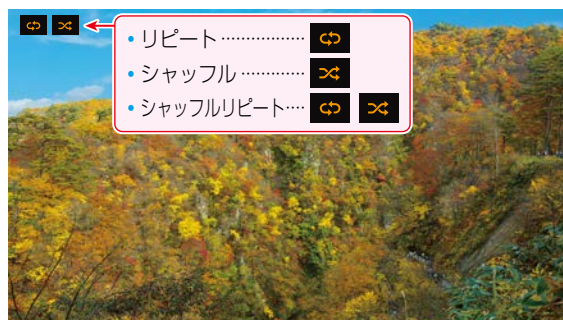
- シングル再生やスライドショー再生を繰り返すことができます。
- 設定した状態は本機に記憶されます。

1 マルチ表示、シングル再生、またはスライドショー再生画面のときに サブメニュー を押す

2 ▲・▼で「再生設定」を選び、決定 を押す

3 ▲・▼で以下から選び、決定 を押す

- ・ リピート … フォルダ内のすべての写真の連続再生を繰り返します。
 - ・ シャッフル … フォルダ内のすべての写真をランダム順に再生します。
 - ・ シャッフルリピート … ランダム再生を繰り返します。
 - ・ オフ … 繰返し再生やランダム順再生をしません。
- 設定に従って、再生画面やマルチ画面にアイコンが表示されます。



スライドショーの表示間隔を設定する

- 写真の表示が完了してから次の写真の表示が始まるまでの時間を設定します。表示が完了するまでの時間は、写真のファイルサイズによって異なります。
- 設定した状態は本機に記憶されます。

1 マルチ表示画面またはスライドショー再生画面のときに サブメニュー を押す

2 ▲・▼で「スライドショー設定」を選び、決定 を押す

3 ▲・▼で以下から選び、決定 を押す

- 以下は目安です。
 - ・ 速い … 表示が完了してから約5秒後
 - ・ 標準 … 表示が完了してから約10秒後
 - ・ 遅い … 表示が完了してから約30秒後

マルチ表示画面の写真の並び順を変える

- 表示モードが「フォルダ別」のマルチ表示画面で、写真の並び替えができます。
- 機器によっては、並び替えができないことがあります。

1 マルチ表示画面のときに **青** を押す

- **青** を押すたびに、「古い順」と「新しい順」が交互に切り換わります。
- フォルダが先に並び、次に写真が並びます。

機器を選び直す

- 使用する機器を選び直すには、マルチ表示のときに **サブメニュー** を押し、**▲・▼** で「機器選択」を選んで **決定** を押します。「機器の情報」を選んで **決定** を押すと、選択されている機器の情報を確認できます。
- ※ 機器によっては、「機器選択」の選択画面に表示されない場合があります。

音楽を再生する

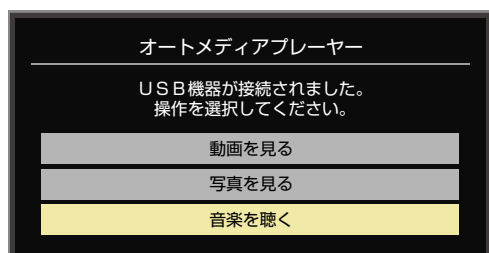
- USB機器、SDメモリーカード、ネットワークメディアサーバーに保存されている音楽を本機で聴くことができます。
- 機器の接続や設定などの準備については、「USB機器を接続する」[101](#)、「ホームネットワーク機器の準備をする」[64](#)～[69](#)をご覧ください。
- 本機で再生できる音楽のフォーマットについては、[191](#)をご覧ください。



- 再生中は、機器を取りはずしたり、機器や本機の電源を切ったりしないでください。記録されているデータが損なわれることがあります。
- 無線LANをご使用の場合、無線LANのセキュリティ設定を行うことを強く推奨します。

音楽再生の操作

- オートメディアプレーヤーの画面が表示された場合は、▲・▼で「音楽を聴く」を選んで、決定を押す、手順3から操作します。



- 1 クラウドメニューを押す、▲・▼・◀・▶と決定でクラウドメニューの項目から「音楽」の順に進む

- サブメニューの「メディアプレーヤー」からも「音楽」に進むことができます。

- 2 再生機器を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- 対象機器が1台の場合、この操作はありません。
- ※ リモート電源オン機能で登録した機器で起動していない機器(薄くなって表示されている機器)を選んで決定を押すと、Wake on LAN画面から起動できることがあります。

- 3 お好みでリスト画面の表示を切り換える

- ※ 表示できる形式は機器によって異なります。

- 1 表示形式を切り換えるには、◀・▶を押す
 - すべて ……選択中のフォルダ内のフォルダや音楽が表示されます。
 - シームレス ……現在のフォルダとそのサブフォルダ内の音楽が表示されます。
 - アーティスト別 ……アーティスト別のタブごとに音楽が表示されます。
 - アルバム別 ……アルバム別のタブごとに音楽が表示されます。

- 2 タブを切り換えるには、◀・▶を押す

- タブが表示される表示形式の場合に、希望のタブを選択します。

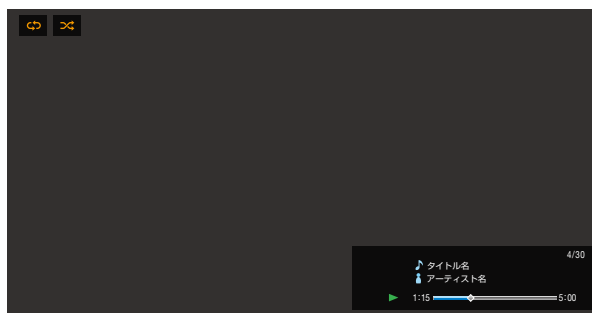
- 3 フォルダを開くには、▲・▼でフォルダを選んで決定を押す

- 上の階層に戻るときは、戻るを押します。

- 4 聴きたい音楽を▲・▼で選び、決定を押す



- 再生画面が表示され、選択した音楽から順に連続再生が始まります。



- 青で再生画面とリスト画面の切り換えができます。

- 5 音楽再生を終了するには、[終了] または [終了]を押す

- 放送画面などに戻ります。



- WAVファイルについては、これをリニアPCMまたはMP3に変換して出力するネットワークメディアサーバーの場合にのみ再生可能です。
- ホームネットワーク機器の場合、ほかのネットワーク機器の動作状態によっては再生できないことがあります。
- クラウドメニューについては「クラウドサービスとネットワークサービスについて」[136](#)をご覧ください。

音楽再生時にできるリモコン操作

- 機器によっては再生と停止しかできないなど、機能が制限されることがあります。
- ワンタッチスキップとワンタッチリプレイの時間は、「ワンタッチスキップ／ワンタッチリプレイの時間を変更する」**83**で変更することができます。



ボタン	内 容
	音楽の再生を開始します。
	再生中に押すと一時停止になります。 ・一時停止中にもう一度押すと、再生が再開されます。
	音楽の再生を終了し、放送画面などに戻ります。
	再生中に押すと、30秒ほど先に進んで再生します。(ワンタッチスキップ)
	再生中に押すと、10秒ほど戻って再生します。(ワンタッチリプレイ)
	次の音楽の先頭にスキップして再生します。
	現在の音楽の先頭にスキップして再生します。再生してから約4秒以内に押した場合は、一つ前の音楽の先頭にスキップします。
	再生を継続したまま、音楽リストに戻ります。

音楽の再生方法を設定する

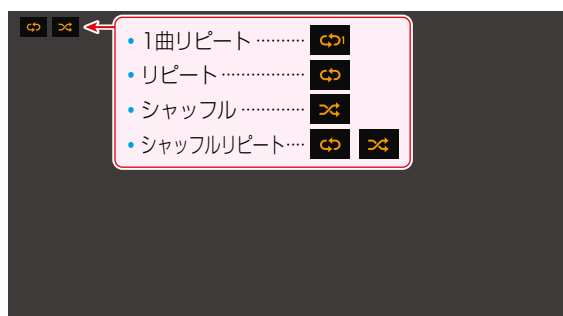
- 音楽をランダム順に再生したり、繰り返して再生したりできます。
- 設定した状態は本機に記憶されます。

1 リスト表示または再生画面のときに **サブメニュー** を押す

2 ▲・▼で「再生設定」を選び、**決定** を押す

3 ▲・▼で以下から選び、**決定** を押す

- ・ 1曲リピート…… 選択した一つの音楽の再生を繰り返します。
 - ・ リピート…… フォルダ内のすべての音楽の連続再生を繰り返します。
 - ・ シャッフル…… フォルダ内のすべての音楽をランダム順に再生します。
 - ・ シャッフルリピート… フォルダ内のすべての音楽のランダム順再生を繰り返します。
 - ・ オフ…… 繰り返し再生やランダム順再生をしません。
- 設定に従って、再生画面にアイコンが表示されます。



機器を選び直す

- 使用する機器を選び直すには、リスト表示のときに **サブメニュー** を押し、▲・▼で「機器選択」を選んで **決定** を押します。「機器の情報」を選んで **決定** を押すと、選択されている機器の情報を確認できます。
- ※ 機器によっては、「機器選択」の選択画面に表示されない場合があります。

スカパー！プレミアムサービスLink（録画）の番組を再生する

- 「スカパー！プレミアムサービスLink（録画）」と配信に対応したサーバーで録画したスカパー！の番組を、ホームネットワーク経由で本機に配信して視聴することができます。ただし、ラジオ番組は視聴できません。
- 機器の接続・設定については、「ホームネットワーク機器の準備をする」**164**～**169**をご覧ください。
- ※ 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときには「スカパー！プレミアムサービスLink（録画）」の録画番組をネットワーク経由で視聴することができません。無線LANのセキュリティ設定を正しく実施してください。

基本操作

- 1** を押す
- 2** **▲・▼・◀・▶**で機器を選び、**決定**を押す
 - 対象機器が1台の場合、この操作はありません。
 - ※ 「スカパー！プレミアムサービスLink（録画）」と配信に対応したサーバーを選択してください。
 - ※ 起動していないWake on LAN対応機器（薄くなって表示されている機器）を選んで**決定**を押すと、Wake on LAN画面から起動することができます。
 - 選択したサーバーの番組リストが表示されます。
- 3** 見たい番組を**▲・▼**で選び、**決定**を押す
 - 選んだ番組の再生が始まります。
 - 視聴年齢制限されている番組を選んだときは、メッセージが表示されます。番組を見る場合は、**決定**を押し、**1**～**10**₍₀₎で暗証番号を入力します。
- 4** 番組再生を終了するときは、を押す
 - 放送画面などに戻ります。

視聴制限について

- 本機の視聴制限機能**164**を使用していない場合、視聴年齢が制限されたスカパー！の録画番組は本機の番組リストに伏せ字（「****」）で表示されます。
- 番組の視聴年齢制限が番組冒頭または途中で変化する場合には、本機の視聴制限設定によっては再生できないか、または再生が停止することがあります。
- 視聴年齢が制限された番組を表示・再生する場合は、以下の手順に従って適切な視聴制限設定をしてください。

本機の視聴制限設定をするには

- 1 暗証番号を設定する**
 - 設定の手順については「制限するために暗証番号を設定する」**164**をご覧ください。
- 2 視聴制限を設定する**
 - 設定の手順については「番組の視聴を制限する」**164**をご覧ください。
 - 設定した年齢よりも制限年齢が上の番組は番組リストに伏せ字（「****」）で表示されます。
 - 視聴制限をしない場合は、「20歳（制限しない）」に設定します。

再生時に視聴制限を一時解除するには

- 視聴制限を一時的に解除するには、以下の操作をします。
- 1** **サブメニュー**を押し、**▲・▼**で「視聴年齢制限一時解除」を選び**決定**を押す
 - 暗証番号入力画面が表示されます。
- 2** **1**～**10**₍₀₎で暗証番号を入力する
 - 入力した暗証番号が正しい場合は視聴制限が解除され、伏せ字（「****」）表示の番組名が通常の表示で表示されます。
 - 本機の電源を「待機」または「切」にした場合や、録画リストを終了した場合、番組再生を中止・終了して放送画面に切り換えた場合などに、視聴制限の一時解除は無効になります。

ネットワークメディアコントローラーで操作する

- 本機のレンドラー機能を使用すれば、ホームネットワークに接続されているネットワークメディアサーバーの動画・写真・音楽などのコンテンツを、ネットワークメディアコントローラーの操作で楽しむことができます。
- ※ 無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときは、デジタル放送などの著作権保護付コンテンツを本機で再生することはできません。著作権保護無しのコンテンツを取り扱う場合も無線LANのセキュリティ設定を行うことを強く推奨します。
- 機器の接続・設定については、「ホームネットワーク機器の準備をする」**[64]**～**[69]**をご覧ください。
- 本機の設定については、「レンドラー機能設定」**[67]**、「本機の情報」**[68]**をご覧ください。
- ※ 2番組同時録画(W録)、ダビング、操作メニュー表示、番組表表示などをしないで、放送番組を視聴しているときにネットワークメディアコントローラーからの操作ができます。

1 ネットワークメディアコントローラーでネットワークメディアサーバー内のコンテンツを選択し、出力先を本機にして再生開始の操作をする

- お買い上げ時、本機のデバイスネームは、本機の形名(例: REGZA-55J10X)に設定されています。
- ネットワークメディアコントローラーの操作についてはネットワークメディアコントローラーの取扱説明書をご覧ください。ネットワークメディアコントローラーから本機に再生の指示をすると、本機でコンテンツの再生が開始されます。
- 本機はネットワークメディアコントローラーからの「再生」、「停止」、「一時停止・再開」、「シーク」操作に対応しています。ただし、機器によっては、「再生」と「停止」しかできない場合があります。また、再生時間などが表示されないことがあります。
- コンテンツの再生が終了すると、放送画面に戻ります。
- ※ 配信されたコンテンツが本機で再生できないような場合でも、本機はそのまま待機し、エラーメッセージなどは表示されません。

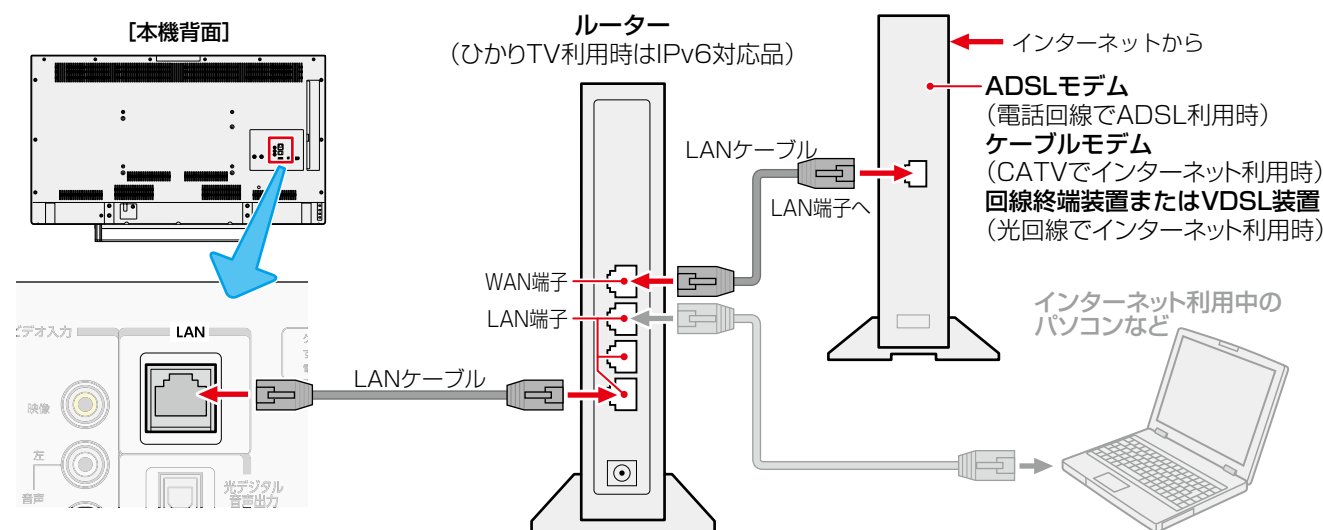
インターネットを利用するための接続をする

本機をインターネットに接続したときにできること

できること	内 容	記載ページ
ネットワークサービス	● クラウドサービスなどのネットワークサービスを楽しむことができます。	136
データ放送の 双方向サービス	● データ放送の双方向サービスを利用して、クイズ番組に参加したり、ショッピング番組で買物をしたりすることができます。 ※ 本機は電話回線を利用した双方向サービスには対応していません。	44
Eメール録画予約	● 携帯電話やパソコンを使ってEメールで録画予約をすることができます。	76
ソフトウェアの更新	● 東芝サーバーから本機の最新ソフトウェアをダウンロードすることができます。	182

接続のしかた(有線LANの場合)

- はじめてインターネットを利用する場合は、通信事業者やプロバイダー(インターネット接続業者)との契約が必要です。通信事業者または取扱いの電気店などにご相談ください。「ひかりTV」の視聴申込については、135をご覧ください。
- 接続方法でご不明な点は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にお問い合わせください。
- 接続が終わったら、必要に応じて次ページの「ネットワーク設定」および「IPTV設定」135をしてください。
- すでにパソコンでインターネットを利用している場合は、本機のLAN端子とルーターのLAN端子を市販のLANケーブルで接続するだけです。
- モデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。



- LANケーブルを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



- LANケーブルは、カテゴリ5 (CAT5) と表示された規格以上のものをご使用ください。テレビ・ビデオサービスや動画サービスなどを利用する場合、カテゴリ3と表示されたケーブルでは、正しく視聴できないことがあります。
- 本機のLAN端子は、必ず電気通信端末機器の技術基準認定品ルーターなどに接続してください。
- 通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および利用料金などは、ご自身でお支払いください。
- 以下の場合やご不明な点は、ご契約の回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーなどにお問い合わせください。
 - ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
 - 一部のインターネット接続サービスでは、本機を利用できないことがあります。
 - プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
 - 回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
 - モデムについてご不明な点など。



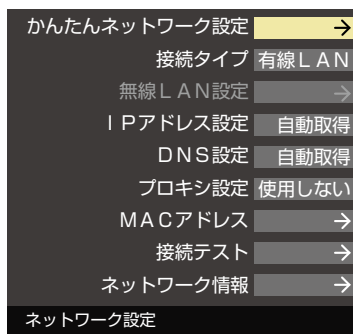
- 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンでの設定が必要な場合があります。
- 本機はダイヤルアップ通信やISDN回線などでインターネットを利用することはできません。
- この取扱説明書で図示していない機器が接続されている場合は、正常に通信できないことがあります。
- ルーターなどが正しく設定されていない回線に本機のLAN端子を接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。

インターネットを利用するための設定をする

- お買い上げ時の設定でインターネットが利用できない場合やネットワークの設定をし直す場合などに、必要に応じて設定します。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」
⇒「ネットワーク設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選んで、**決定** を押す



3 以降の手順で設定する

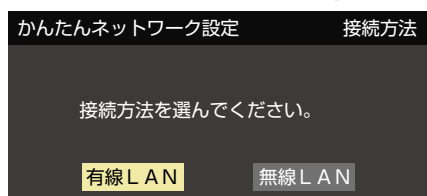
かんたんネットワーク設定

- はじめてネットワークの設定をするときや、ネットワークの設定をし直すときなどに、設定します。

有線LANの設定をする

- 有線LANの接続については、**128** をご覧ください。

1 ◀▶で「有線LAN」を選んで、**決定** を押す

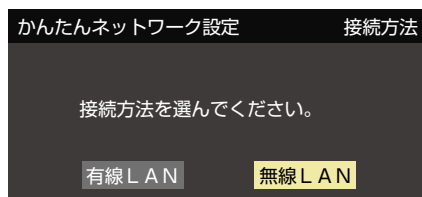


2 接続テストをする場合は◀▶で「はい」を選んで、**決定** を押す

- 「接続テスト」をしない場合は、「いいえ」を選びます。あとから接続テストをする場合は、「接続テスト」**133** をご覧ください。
 - 「接続できませんでした。」と表示された場合は、LANケーブルの接続を確認してから、再度接続テストを行ってください。
- 3 「インターネットに接続できました。」と表示されたら、**決定** を押す
- 有線LANの設定は終了です。

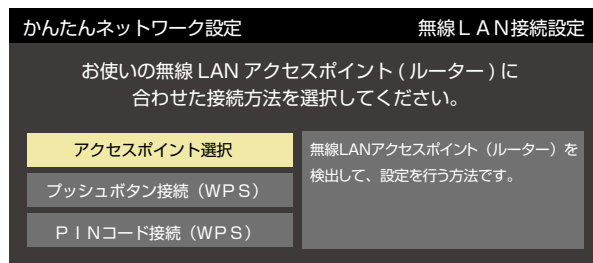
無線LANの設定をする

1 ◀▶で「無線LAN」を選んで、**決定** を押す



2 ▲・▼で設定方法を選び、**決定** を押す

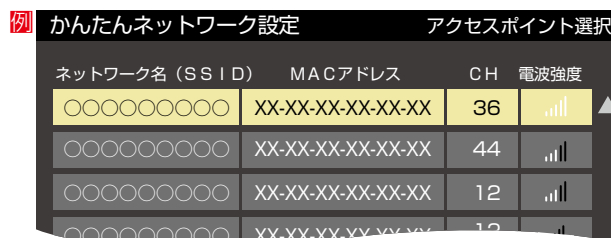
- 設定方法には、
「アクセスポイント選択」(下の説明)
「プッシュボタン接続(WPS)」**130**、
「PINコード接続(WPS)」**130**
があります。
接続する無線LANアクセスポイントに合わせて、設定方法を選びます。



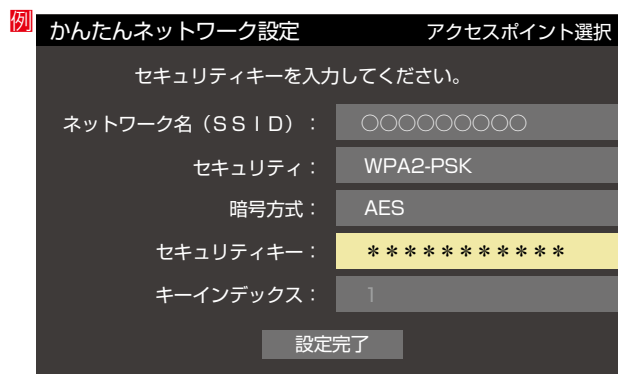
- お使いの無線LANアクセスポイントの取扱説明書も、お読みください。

アクセスポイント選択

- 本機が使用可能な無線LANアクセスポイントを検出し、接続します。
- ① 表示された接続可能なアクセスポイントから、本機の接続先を▲・▼で選び、**決定** を押す



② ①で選択した無線LANアクセスポイントのセキュリティキーを入力する



- セキュリティキーについては、お使いの無線LANアクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
- 文字入力方法は、**55** をご覧ください。

つづき

-

例

かんたんネットワーク設定 プッシュボタン接続 (WPS)

以上で無線LAN接続設定は完了です。

ネットワーク名 (SSID) : ○○○○○○○○○○

セキュリティ : WPA2-PSK

暗号方式 : AES

セキュリティキー : * * * * *

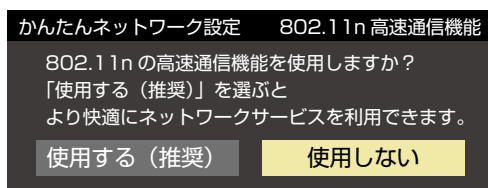
A screenshot of the 'かんたんネットワーク設定' (Easy Network Setup) screen. At the top, there's a title bar with the text 'かんたんネットワーク設定' and 'PINコード接続 (WPS)'. Below the title bar, there's a section for 'PINコード' (PIN Code) with a yellow input field containing 10 empty circles. Below this, there are four labels: 'ネットワーク名 (SSID)', 'MACアドレス', 'CH', and '電波強度'. Below these labels, there are two empty grey rectangular boxes for input. A red square icon with the character '例' (Example) is in the top left corner. A white triangle icon is in the bottom right corner.

-

- 無線LANアクセスポイントが複数ある場合、本機と接続する無線LANアクセスポイントのチャンネルは、他の無線LANアクセスポイントと異なるチャンネルに設定してください。
- 5GHz帯に対応している無線LANアクセスポイントに無線LAN接続する場合、その無線LANアクセスポイントと本機は5GHz帯を使用する設定にしてください。
- 802.11nの拡張機能に対応している無線LANアクセスポイントの場合は、同時に二つのチャンネル(デュアルチャンネル、40MHzの使用帯域またはチャンネル幅)を使用する設定にしてください。本機の「802.11n高速通信機能」は「使用する(推奨)」に設定してください。
- 無線LANで接続していて、ネットワーク経由で映像を取得または配信しているとき、映像が止まったりノイズが出たりする場合は、無線LANアクセスポイントと本機の設定を見直してから、無線LANアクセスポイントと本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと再度電源を入れます。それでも解消されない場合は、有線LANで接続してください。

- 無線LANアクセスポイントに本機以外が無線LAN接続されていると、ネットワーク経由で映像を取得または配信しているときに、その映像が止まったりノイズが出たりする場合があります。
- 無線LANアクセスポイントには、主に52以上のチャンネルで、気象レーダーなどとの干渉を検知してチャンネルを自動的に変更する機能が搭載されています。この機能によって、ネットワーク経由での映像再生が中断される場合があります。
- レグザリンクダビングやネットdeダビングなどを利用する場合は、有線LANでの接続をおすすめします。
- すべての無線LANアクセスポイントとの接続を保証するものではありません。
- 本機の設置環境によっては、無線LANを使用できない場合があります。
- 無線LANアクセスポイントのソフトウェアは最新バージョンで使用することをおすすめします。ソフトウェアのバージョンとアップデートについては、お使いの無線LANアクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
- “Wi-Fi”、“Wi-Fi Protected Setup”、“WPA”、“WPA2”は“Wi-Fi Alliance”の商標または登録商標です。

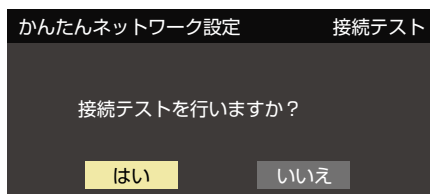
- 3 ◀▶で「使用する(推奨)」または「使用しない」を選び、**決定**を押す



- ・使用する……無線LANアクセスポイントが対応している場合、同時に二つのチャンネルを使って通信します。ネットワーク経由での映像再生・配信に適しています。
- ・使用しない……一つのチャンネルを使って通信します。

- 4 接続テストをする場合は◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す

- 「接続テスト」をしない場合は、「いいえ」を選びます。あとから接続テストをする場合は、「接続テスト」**133**をご覧ください。



- 「接続できませんでした。」と表示された場合は、無線LANの設定を確認してから、再度接続テストを行ってください。
- 5 「インターネットに接続できました。」と表示されたら、**決定**を押す
- 無線LANの設定は終了です。

接続タイプ

- 1 ▲▼で「有線LAN」または「無線LAN」を選んで、**決定**を押す



- 「有線LAN」から「無線LAN」に変更した場合、切換に数秒間かかります。

無線LAN設定

- 無線LANを使用する場合に、設定してください。
- 「ネットワーク設定」画面で「接続タイプ」が「無線LAN」になっていることを確認してください。

「有線LAN」になっている場合

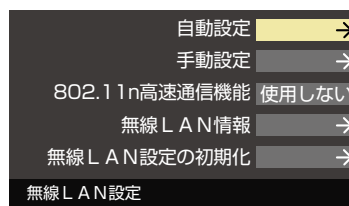
- 以下の操作で「無線LAN」に設定します。

- ① ▲▼で「接続タイプ」を選び、**決定**を押す

- ② ▲▼で「無線LAN」を選び、**決定**を押す

- 「ネットワーク設定」の画面に戻り、「接続タイプ」が「無線LAN」になります。

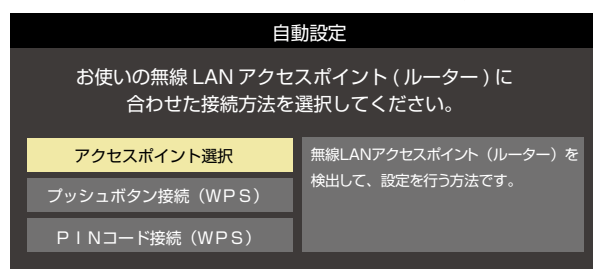
- 1 設定する項目を▲▼で選んで **決定** を押す



以降の手順で設定する

自動設定

- 1 ▲▼で無線LANの接続方法を選び、**決定**を押す

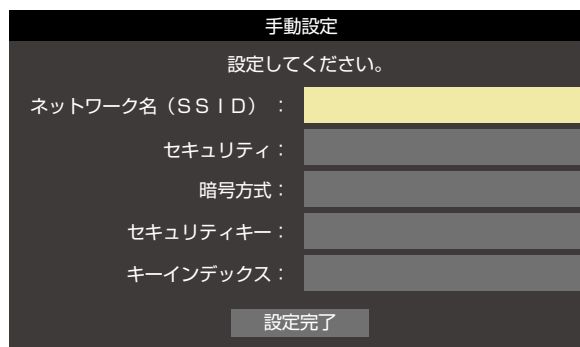


- 各接続方法と設定については、「アクセスポイント選択」**129**、「プッシュボタン接続(WPS)」**130**、「PINコード接続(WPS)」**130**をご覧ください。
- お使いの無線LANアクセスポイントの取扱説明書も、お読みください。

手動設定

- 接続に必要な設定を、一つ一つ手動で設定する場合に選びます。
- お使いの無線LANアクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

- ① 各項目を、以降の手順で設定する



- ▲▼で「ネットワーク名(SSID)」を選び、**決定**を押します。接続したいアクセスポイントのSSID(ネットワーク名)を入力してください。
- ▲▼で「セキュリティ」を選び、**決定**を押します。▲▼で「Open System」、「Shared Key」、「WPA-PSK」または「WPA2-PSK」から選び、**決定**を押します。

インターネットを利用するための設定をする つづき

- ▲・▼で「暗号方式」を選び、決定を押します。
▲・▼で「AES」、「TKIP」、「WEP」または「暗号なし」から選び、決定を押します。

「暗号なし」に設定すると、無線LAN経由で本機から送信する情報のセキュリティが無防備になるため、悪意ある第三者に情報を盗み見られるおそれがあります。
暗号方式は「AES」などに設定することをおすすめします。

- ▲・▼で「セキュリティキー」を選び、決定を押します。
接続したいアクセスポイントが指定する、「セキュリティキー」を入力します。
- 「WEP」を選んだ場合は、▲・▼で「キーインデックス」を選び、決定を押します。
▲・▼で「キーインデックス1～4」から選び、決定を押します。
「AES」、「TKIP」、または「暗号なし」を選んだ場合、「キーインデックス」は、「1」に固定されます。

- 2 ▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す
- 3 設定内容を確認し、決定を押す

802.11n高速通信機能

- 1 ◀▶で「使用する(推奨)」または「使用しない」を選び、決定を押す

802.11n 高速通信機能

802.11n の高速通信機能を使用しますか？
「使用する(推奨)」を選ぶと
より快適にネットワークサービスを利用できます。

使用する(推奨) 使用しない

- ・使用する……無線LANアクセスポイントが対応している場合、同時に二つのチャンネルを使って通信します。ネットワーク経由での映像再生・配信に適しています。
- ・使用しない……一つのチャンネルを使って通信します。

無線LAN情報

- 1 無線LAN情報の検出の完了を待つ
● 検出が終わると下のような画面が表示されます。

無線LAN情報	
ネットワーク名 (SSID)	XXXXXXXXXX
状態	接続
電波強度	
モード	11n
CH	36
セキュリティ	WPA2-PSK
暗号方式	AES

- 赤を押すと、無線LANアクセスポイントの検出を行います。

例

無線LAN情報			
ネットワーク名 (SSID)	MACアドレス	CH	電波強度
XXXXXXXXXX	XX-XX-XX-XX-XX-XX	36	
XXXXXXXXXX	XX-XX-XX-XX-XX-XX	44	
XXXXXXXXXX	XX-XX-XX-XX-XX-XX	12	
XXXXXXXXXX	XX-XX-XX-XX-XX-XX	12	

無線LAN設定の初期化

- 1 ◀▶で「はい」または「いいえ」を選び、決定を押す

無線LAN設定の初期化

無線LAN設定をお買い上げ時の状態に戻しますか？
※お買い上げ時の状態に戻すと
接続中の無線LANを切断し、
接続タイプを有線LANに変更します。

はい いいえ

IPアドレス設定

- インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。
- ※ 「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定します。

- 1 IPアドレスを自動取得できる場合は、◀▶で「する」を選ぶ

IPアドレス設定

IPアドレスを設定してください。

IPアドレス自動取得 ◀ する

IPアドレス [] [] [] []

サブネットマスク [] [] [] []

デフォルトゲートウェイ [] [] [] []

自動取得できないネットワーク環境の場合

- 1 ◀▶で「しない」を選ぶ
 - 2 ▲・▼で「IPアドレス」を選び、^B1 ~ ^A10⁰⁰ (0) で入力する
 - 3 ▲・▼で「サブネットマスク」を選び、^B1 ~ ^A10⁰⁰ (0) で入力する
 - 4 ▲・▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、^B1 ~ ^A10⁰⁰ (0) で入力する
- ②～④では0～255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。
 - 欄を移動するには、▶を押します。

- 2 決定を押す

DNS設定

- ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。

※「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。その場合は、DNSアドレスを手動で設定します。

- 1 DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀▶で「する」を選ぶ

自動取得できないネットワーク環境の場合

- 1 ▶▶で「しない」を選ぶ

- 2 ▲▼で「DNSアドレス(プライマリ)」を選び、**1** ~ **10** (0) で入力する

- 3 ▲▼で「DNSアドレス(セカンダリ)」を選び、**1** ~ **10** (0) で入力する

- ②と③では0~255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。
- 欄を移動するには、▶を押します。

- 2 決定を押す

プロキシ設定

- インターネットとの接続時にプロキシ(代理)サーバーを経由する場合に設定します。
- ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定します。
- ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。

- 1 ▲▼で「使用する」を選び、決定を押す

- 2 ▲▼で「サーバー名」を選び、決定を押す

- 3 サーバー名を入力する

- 文字入力方法については、**55** をご覧ください。
- 入力できる文字は半角英字／半角数字で、記号は半角の!"#\$%&()*+,-.:;<=>@[¥]^_`?~/です。

- 4 ▲▼で「ポート番号」を選び、**1** ~ **10** (0) でポート番号を入力する

- 5 ▲▼で「設定完了」を選び、決定を押す

MACアドレス

- ネットワーク上に接続されている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。
- MACアドレスの確認が終わったら、**終了**を押してメニューを消します。

接続テスト

- 「ネットワーク設定」が正しいかテストします。テストが終わると「接続テスト結果」画面が表示されます。「インターネットに接続できました。」と表示された場合は、「終了」を選んで決定を押します。
- 正しく接続できなかった場合は、「再テスト」を選んで決定を押します。再度接続テストを行い、接続テスト結果画面が表示されます。再テストを行っても接続できない場合は、「ネットワーク設定」を選んで決定を押し、設定をやり直してください。

ネットワーク情報

- 現在利用しているネットワーク情報が表示されます。

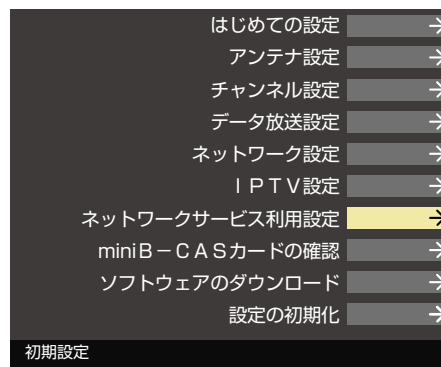
例

ネットワーク情報	
接続タイプ	無線
ネットワーク名 (SSID)	XXXXX
ネットワーク状態	接続
電波強度	
モード	11n
CH	36
セキュリティ	WPA2-PSK
暗号方式	AES
802.11n高速通信機能	使用する
IPアドレス設定	自動取得
IPアドレス	--:--:--:--
サブネットマスク	--:--:--:--
デフォルトゲートウェイ	--:--:--:--
DNS設定	自動取得
DNSアドレス (プライマリ)	XXX.XXX.XXX.XXX
DNSアドレス (セカンダリ)	XXX.XXX.XXX.XXX
プロキシ設定	使用しない
サーバー名	
ポート番号	
有線MACアドレス	--:--:--:--:--:--
無線MACアドレス	--:--:--:--:--:--

ネットワークサービスを利用するための設定をする

- インターネットに接続して、クラウドサービス **136** などのネットワークサービスを利用するには、「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定します。
- ※「クラウドサービス」の使用には、ソフトウェアの更新が必要な場合があります。

- 1 設定を押し、▲▼と決定で「初期設定」⇒「ネットワークサービス利用設定」の順に進む



- 2 内容を最後まで読む

- 3 ◀▶で「利用する」または「利用しない」を選び、決定を押す

- 4 ◀▶で「設定完了」を選び、決定を押す

インターネットを利用するための設定をする つづき

お知らせ

■ ネットワークサービス利用設定について

- ネットワークサービス利用設定を「利用する」に設定すると、本機の操作情報(チャンネル切替、録画予約、録画番組、検索履歴等)、動作状態の履歴情報、本機に接続されたUSB HDD等の識別情報や動作状態の履歴情報などや、ご登録いただいた都道府県、性別等の情報が当社または当社の委託先のサーバーで記録されますが、これらの情報から当社が利用者個人を特定することはありません。
- クラウドサービスの詳しい内容については、クラウドメニューの「クラウド操作ガイド」から確認できます。
- クラウドサービスなどのネットワークサービス(以下「本サービス」と表します)のご利用には、住所・氏名・連絡先等の個人情報の入力不要です。
- サーバーが収集した情報は、本サービスの提供以外に、品質改善や統計情報としてマーケティングなどの目的で利用することがあり、この目的の範囲内で第三者に提供する場合があります。
- 本サービスは、予告なく休止、終了、または内容を変更する場合があります。
- 本サービス中において、本サービス以外のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などのサービスをご利用いただく場合、各サービス提供者の利用規約およびその他規約が適用されます。当社は、本サービス以外の第三者により提供されるサービスおよびこれに関連する事項について、一切の責任を負いません。
- ネットワークサービス利用設定を「利用しない」に設定を変更した場合、それまでにサーバーが収集した本機や本機に接続された機器に関する情報は、サーバーから消去されます。

■ ネットワーク設定の接続テスト結果について

- 接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認します。

(1) LAN端子の接続状態と「ネットワーク設定」を確認する

- 正しく接続・設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。(ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

(2) ネットワーク環境の接続確認

- 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。

① パソコンのインターネット・ブラウザ(Internet Explorerなど)を起動する

② URL欄に「www.toshiba.co.jp/」を入力し、ページが表示されることを確認する

- ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコンやルーターの設定が正しいか確認します(詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください)。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

■ PPPoE設定について

- 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。(設定にはパソコンが必要です)

用語

■ IPアドレス

インターネットに接続する場合に、端末に割り当てられる固有の番号です。形式は、最大3ケタの数字4組を点で区切った形になっています。(例: 111.112.xxx.xxx)

■ DNSサーバー

ドメイン名(www.co.jpなど)をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、本機では自動的に取得されます。自動で取得できない場合は、手動で、プロバイダーからの資料で指定されたDNSアドレスを「プライマリ」に入力します。二つある場合は、もう一方を「セカンダリ」に入力します(例: 111.112.xxx.xxx)。ご契約のプロバイダーによっては、「ネームサーバー」、「DNS1/DNS2サーバー」、「ドメインサーバー」などと呼ばれることがあります。

■ サブネットマスク

ネットワークを区切るために、端末に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するためのものです。(例: 255.255.xxx.xxx)

■ デフォルトゲートウェイ

ネットワーク外のサーバーにアクセスする際に、使用するルーターなどの機器を指定するためのものです。IPアドレスで特定されています。(例: 111.112.xxx.xxx)

■ プロキシ

ご契約のプロバイダーから指定があるときだけ設定してください。(例: proxy.xxx.xxx.xxx)

この設定をすると、HTTPプロキシサーバーからファイアウォール(外部からの不正侵入防護壁)を越えて通信先のブラウザにデータを高速で送ることができます。

■ MACアドレス

ネットワーク上に接続されている機器の識別のために、各機器ごとに割り当てられる固有の番号です。

ネットワークに関するお知らせ・用語

お知らせ

■ IPアドレス設定について

- 本機に接続されたルーターのDHCP機能(IPアドレスを自動的に割り当てる機能)がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定します。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定します。
- 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスが重複しないように設定します。設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
- 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスのネットワークID部分がそれぞれ同じであることを確認します。(詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

■ DNS設定について

- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定します。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定されたものを手動で設定します。(プロバイダーによって設定方法が異なります。プロバイダーとの契約内容に沿った設定をしてください)

IPTVの設定をする(ひかりTVの設定)

- ネットワークサービスのひかりTVは、NTTの光回線を利用して多チャンネル放送やビデオサービス、ショッピングなどが楽しめる有料サービスです。
- フレッツ回線を利用するには、NTTおよびプロバイダーとの契約が必要です。
- ひかりTVを視聴するには、あらかじめ申込みが必要です。

ひかりTVのお問い合わせ・お申し込みはこちらから

お電話での
お問い合わせ

フリーダイヤル
0120-001144

ひかりTVカスタマーセンター 営業時間10:00～19:00 年中無休

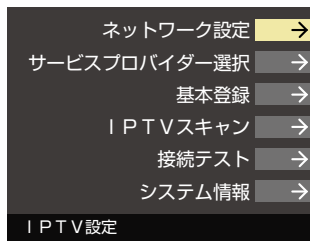
ホームページ

<http://www.hikaritv.net/>

- ネットワークサービスのひかりTVを利用するために、IPTVの設定、確認をします。

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「初期設定」 ⇒「IPTV設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選んで 決定 を押す



3 以降の手順で設定・確認する

ネットワーク設定

- ご契約の回線を選びます。

1 ◀▶で以下から選び、決定 を押す

「NTT東日本」
「NTT西日本」

2 フレッツ 光ネクストを利用している場合は、◀▶で「はい」を選び、決定 を押す

サービスプロバイダー選択

- サービスプロバイダーが一覧表示されます。

1 契約しているプロバイダーを▲・▼で選び、決定 を押す

2 確認画面が表示されたら、決定 を押す

基本登録

- ひかりTVの場合は、申込後に発行される資料に記載されている内容を入力します。
- 文字入力方法については、553 をご覧ください。

IPTVスキャン

- IPTVのテレビサービスで視聴できるチャンネルを設定します。
- テレビサービスが開通していないと、IPTVスキャンはできません。
- IPTVスキャンの設定には数分かかる場合があります。

1 IPTVスキャンをする場合は、◀▶で「はい」を選び、決定 を押す

- スキャンが始まります。
- 中止する場合は 戻る を押します。

2 設定の内容を確認する場合は、◀▶で「はい」を選び、決定 を押す

3 内容を確認したら、決定 を押す

- ページが複数ある場合は、▲・▼で切り換えられます。

接続テスト

- 接続と設定が正しいか、テストします。
- 接続テストが始まります。
- 中止する場合は 戻る を押します。
- エラーメッセージが表示された場合は、メッセージに従って対処してください。

システム情報

- システム情報が表示されます。
- DRM番号：ひかりTVサービスで利用される受信機固有の番号です。契約をする場合などの参考情報です。



- 集合住宅(マンションなど)でPNA装置を使用している場合は、IPTVの視聴はできません。
- 本機ではルーターの設定はできません。ルーターによってはパソコンでの設定が必要な場合があります。
- 以下について詳細は、NTT東日本、またはNTT西日本にお問い合わせください。
 - フレッツ回線を用いて通常のインターネット接続をするには、PPPoEに関する項目をルーターに設定する必要があります。
 - パソコンでIPv6サービスを使用する際の制限事項。
- IPTVサービスでの視聴中にパソコンなどでインターネットを使用すると、IPTVの映像や音声が乱れることがあります。
- テレビサービスが利用できるようになるまでには、かなりの時間がかかる場合があります。
- 無線LANをご使用の場合、映像にノイズが出たり、音声が途切れる場合は、無線LANアクセスポイントおよび本機の設定を見直すか、有線LANで接続してください。
- ひかりTVの視聴中に録画予約や視聴予約の開始時間になると、ひかりTVを終了して予約が実行されます。
- 録画中には、ひかりTVは視聴できません。

クラウドサービスとネットワークサービスについて

- ネットワークサービスとはネットワーク機能を使ったサービスです。
- 本書では、ネットワークサービスの一例として「インターネット」**138**～**144**の操作方法を記載しています。
- クラウドサービスはネットワークサービスの一部で、東芝や他社が提供するサービス、および動画再生などテレビ本体の機能へリンクを提供します。クラウドサービスを使って番組情報を友人と交換したり、お好みの動画やショッピングを楽しんだりすることができます。
- ※ サービスは順次追加されます。対応ソフトウェアの更新時期やサービスの概要などについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

クラウドサービスやネットワークサービスに必要な準備

- クラウドサービスやネットワークサービスを楽しむ前に、以下の接続と設定が必要です。

必要な接続・設定	記載ページ
● インターネットを利用するための接続をする。 ● インターネットを利用するための設定をする。 ● 「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定する。 ● インターネットの利用制限を設定する。	128 129 ～ 134 133 165

クラウドサービスの基本操作

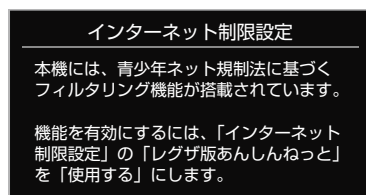
1 クラウドメニューを押す

- クラウドサービスの画面が表示されます。
- クラウドメニューの操作や項目などについては、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。
- ※ 4K映像の信号を見ているときに操作をすると、一度黒画面が表示されてからクラウドサービスの画面が表示されますが、故障ではありません。

2 ▲・▼・◀・▶でお好みのクラウドサービスを選んで **決定** を押す

はじめて使用するとき

- 「インターネット制限設定」**165**が未設定の場合、一部の機能をはじめて利用する際に、「インターネット制限設定」の説明画面が表示されます。



- 1 画面の説明を読み、**決定**を押す
 - 説明画面が消えます。
- 2 暗証番号の入力画面が表示された場合は、**1**～**10**₍₀₎で入力する
 - 暗証番号の入力画面は、「ブラウザ制限設定」**165**を「制限する」に設定している場合に表示されます。

閲覧制限の説明画面が表示されたとき

- 「レグザ版あんしんねっと設定」**165**で「閲覧設定」をしている場合、設定した制限レベルを超えるサイトにアクセスすると、閲覧制限の説明画面が表示されます。
- 1 画面の説明を読み、**決定**を押す
 - 前のページに戻ります。

一時的に閲覧制限を変更するとき

- 1 サブメニューを押す
- 2 ▲・▼で「閲覧制限一時変更」を選び、**決定**を押す
- 3 **1**～**10**₍₀₎暗証番号を入力する
 - 「暗証番号の設定」**164**で設定した暗証番号を入力します。
 - 閲覧制限が解除されます。
 - 制限が解除された状態は、対象のサービスを終了するまで継続されます。
 - 利用中に再び閲覧制限を有効にする場合は、サブメニューを押して「閲覧制限再設定」を選びます。

3 見たい項目を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押す

4 クラウドサービスを終了するには、**終了**を押す

- 確認のメッセージが表示されたら、◀・▶で「はい」を選んで、**決定**を押します。

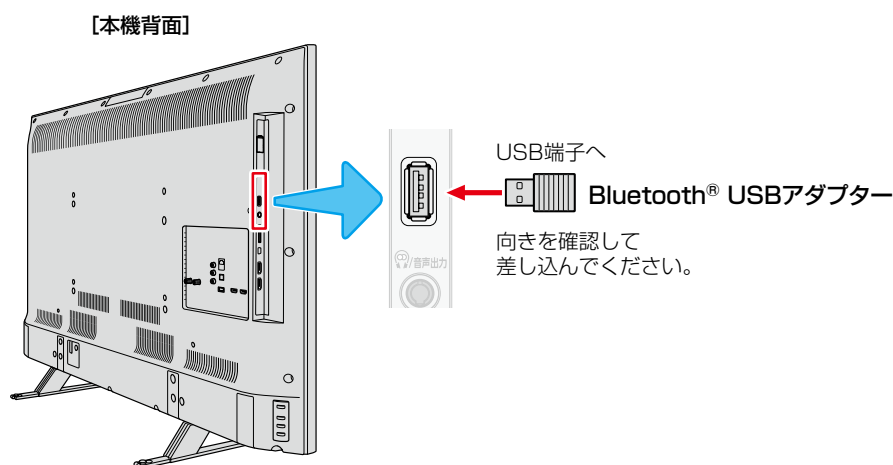


- クラウドサービスの名称およびサービス内容は、予告なく変更・終了する場合があります。
- クラウドサービスの利用アプリやネットサービスによっては、事前に利用者登録などが必要なサービスがあります。
- ご利用の回線業者やプロバイダーが採用している接続方式・契約約款によっては、サービスを利用できない場合があります。
- クラウドサービスの利用できるアプリやネットサービス提供者が提供するサービスやコンテンツに関して当社は一切の責任を負いません。
- クラウドサービスの内容は録画することはできません。
- クラウドメニューを押してもクラウドサービスの画面が表示されない場合は、**終了**を2秒以上押してから、クラウドメニューを押します。**終了**を2秒以上押すと、クラウドサービス終了後再読み込みが行われ、クラウドメニューを押すと再読み込み後の画面が表示されます。

家電コンシェルジュサービスについて

- 本機と東芝のスマート家電を連携させると、スマート家電の電力の使用状況や運転状態のお知らせなどを本機の画面に表示させたり、シーリングライトのあかりをお好みに合わせてカスタマイズしたりできます。また、スマート家電をお持ちでないご家庭でも楽しくご利用いただけます。^{※1}
 - 本機は、家電コンシェルジュの一部のサービスに対応しています。
 - サービスを利用するには、別売のBluetooth USBアダプター（推奨機器：サンワサプライMM-BTUD43 Bluetooth® USBアダプター）が必要です。
 - 東芝ホームITシステム「フェミニティ^{※2}」を導入済みの環境でも本機能をご利用いただけます。その際はBluetooth USBアダプターが不要な場合があります。
- ^{※1} 2014年8月現在の情報です。最新の情報については、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza>)をご覧ください。
- ^{※2} 「フェミニティ」については、ホームページ(<http://femininity.toshiba.co.jp>) をご覧ください。

Bluetooth® USB アダプターの接続



※ USBハブを使って接続した場合、正しく動作しないことがあります。

設定

1 クラウドメニューを押し、▲・▼・◀・▶と決定でクラウドメニューの項目から「家電コンシェルジュ」に進む

- 東芝スマート家電と連携する場合は、本機と東芝スマート家電の間で接続設定を行う必要があります。操作方法などについては、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

基本操作

1 クラウドメニューを押し、▲・▼・◀・▶と決定でクラウドメニューの項目から「家電コンシェルジュ」に進む

- 家電コンシェルジュサービスの操作方法などについては、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

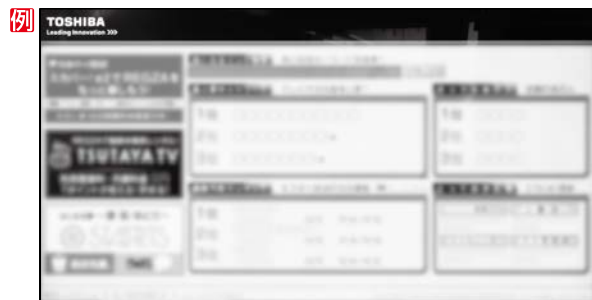
「インターネット」で情報を見る

- 「インターネット」を使って、さまざまな情報を見たり、調べたりすることができます。
- 接続や設定などの準備については、「インターネットに接続する」[128](#)～[134](#) および、「インターネットの利用を制限する」[165](#)をご覧ください。

基本操作

1 クラウドメニューを押し、▲・▼・◀・▶と決定でクラウドメニューの項目から「インターネット」の順に進む

- 「インターネット」のブラウザ画面が表示されます。
- ※ 回線の状態によって時間がかかることがあります。



- ※ 「インターネット制限設定」の説明画面が表示された場合や、暗証番号の入力画面が表示された場合の操作については、[136](#)の手順2の説明をご覧ください。

2 見たい項目を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- 選んだ項目にオレンジ色の太い枠がつかます。
- 画面上部の検索欄など、キーワードなどを入力して情報を探す項目を選択した場合は、文字入力画面が表示されます。(文字入力のしかたは[55](#)をご覧ください)
- ※ 閲覧制限の説明画面が表示された場合の操作については[136](#)の説明をご覧ください。

3 「インターネット」を終了するには、終了を押す



- 通信中に本体の電源ボタンを押して電源を「切」にしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。お気に入りや履歴、Cookieなどの情報が正しく保存されなかったり、クラウドメニューの更新に失敗する場合があります。クラウドメニューの更新に失敗すると、クラウドメニューが正しく表示されなくなることがあります。その際は、本機を「初期化1」[167](#)をすると、正しく表示されるようになります。(「初期化2」、「すべての初期化」をしても、正しく表示されるようになります)

- ※ 初期化をすると、設定内容がお買い上げ時の設定状態になり、初期化前の状態に戻すことはできませんので、ご注意ください。



- インターネットを利用中に、LANケーブルを抜いたり、ネットワーク接続環境を変更したりすると、本機やWebコンテンツの操作ができなくなることがあります。その場合は、本体の電源ボタンで電源を「切」にしてから、もう一度電源を「入」にしてください。
- ページが表示されるまでの時間は、接続業者との契約の種類や回線の混み具合などによって大きく異なります。
- インターネット機能使用時の文字入力では改行ができません。(記号一覧末尾に改行記号が追加されます)
- 暗号(SSL/TLS暗号)やセキュリティソフトなどで保護されたサイト(セキュアなサイト)に接続されると、URL表示欄に鍵アイコンが表示されます。

便利機能を使う

- よく使う機能を便利機能のメニューから操作することができます。

1 ページの表示中に **dデータ** を押す

- 便利機能のメニューが表示されます。
- 見たい情報を新しいウィンドウで開く場合は、見たい情報を選んでから **dデータ** を押します。

2 ◀▶で機能のアイコンを選び、決定を押す

- ※一部のネットサービスを利用しているときは、いくつかの機能は使用できません。使用できない機能は、薄くなって表示されます。



アイコン、機能	内 容
「ウィンドウ」	なにも表示していない新規ウィンドウを開いたり、複数開いているウィンドウから見たいウィンドウを選んだり、不要なウィンドウを閉じたりします。
「戻る」	一つ前のページに戻ります。 履歴がないときは選択できません。
「進む」	一つ先のページに進みます。 履歴がないときは選択できません。
「再読み込み」	表示しているページの情報が更新されます。
「中止」	読込中に読み込みを中止します。 (読込中のときはXが表示され、それ以外のときはが表示されます)
「ホーム」	ホームに設定されているページに戻ります。設定のしかたは「ホームページに設定する」 142 をご覧ください。
「お気に入り」	よく見るページを「お気に入り」に登録したり、「お気に入り」の中から見たいページを選んだりすることができます。 140
「履歴表示」	表示履歴の中から、見たいページを選んだり、履歴を削除したりすることができます。 141
「URL / 検索」	見たいページのアドレス(URL)を入力してページを表示させたり、インターネット検索やページ内検索をします。(右の説明)
「ポインター」	ポインターのオン/オフを切り換えます。 143
「設定」	ページ操作や各種設定をするときに使います。

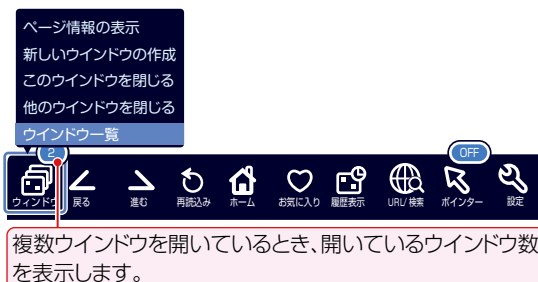
新規ウィンドウを開くには

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、決定を押す
- ▲▼で「新しいウィンドウの作成」を選び、決定を押す
 - ウィンドウは最大五つまで開くことができます。

表示させるウィンドウを選ぶには

- ウィンドウが複数開いているときに、表示させたいウィンドウを選ぶことができます。

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、決定を押す
- ▲▼で「ウィンドウ一覧」を選び、決定を押す



- ▲▼で表示させたいウィンドウを選び、決定を押す

ウィンドウを閉じるには

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、決定を押す
- ▲▼で「このウィンドウを閉じる」を選び、決定を押す
 - ウィンドウが複数開いているときに、表示しているウィンドウ以外を閉じたいときは、「他のウィンドウを閉じる」を選びます。

開いているページの情報を確認するには

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、決定を押す
- ▲▼で「ページ情報の表示」を選び、決定を押す
 - 現在見ているページの情報が表示されます。

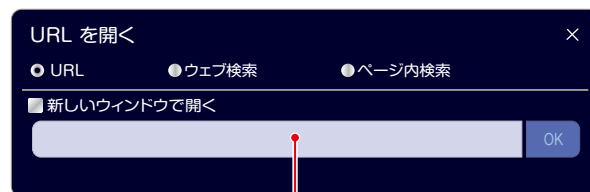
アドレスを入力してページを見る

- アドレス(URL)がわかっている場合は、それを入力してページを見ることができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「URL/検索」を選んで決定を押す

- アドレス入力画面が表示されます。

2 ▲▼・◀▶でアドレス入力欄を選び、決定を押す



- 入力履歴がある場合は入力欄下に履歴が表示されます。入力履歴から選ぶ場合は、▲▼選んで決定を押します。

「インターネット」で情報を見る つづき

3 見たいページのアドレスを入力する

- 文字入力画面で文字を入力します。文字入力のしかたは「55」をご覧ください。文字切替で「定型文」を選ばと、定型文を簡単に入力することができます。
- 入力できる文字数は、半角英数字と半角記号で254文字までです。
- 文字入力が終わったら「決定」を押して、文字入力画面から手順2のアドレス入力画面に戻ります。
- 新しいウィンドウで開く場合は、「新しいウィンドウで開く」を選んで「決定」を押して、☐を☒にします。「決定」を押すたびに、☒と☐が交互に切り換わります。

4 ▲▼・◀▶で「OK」を選び、「決定」を押す

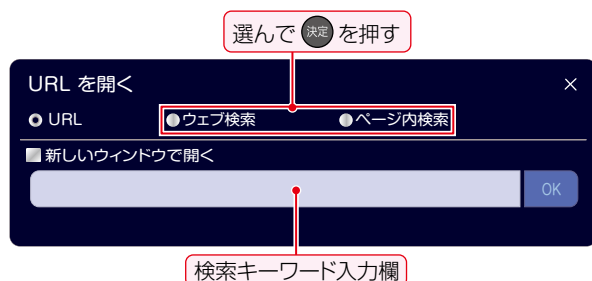
情報を検索する

- 検索サービスを使った検索ができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「URL/検索」を選んで「決定」を押す

- アドレス入力画面が表示されます。

2 ▲▼・◀▶で「ウェブ検索」または「ページ内検索」を選び、「決定」を押す



3 ▲▼・◀▶で入力欄を選び、「決定」を押す

4 検索キーワードを入力し、「決定」を押す

- 文字入力画面で検索キーワードを入力します。文字入力のしかたは「55」をご覧ください。
- 入力できる文字は、半角英数字・半角記号で254文字までです。

5 ▲▼・◀▶で「OK」を選び、「決定」を押す

「お気に入り」に登録する

- お買い上げ時に登録されているものを含めて50個までのページを「お気に入り」に登録できます。

1 登録したいページを開く

2 便利機能のメニューから、◀▶で「♡お気に入り」を選ぶ

3 ▲▼で「お気に入りに登録」を選び、「決定」を押す



- 「お気に入り」一覧に追加されます。

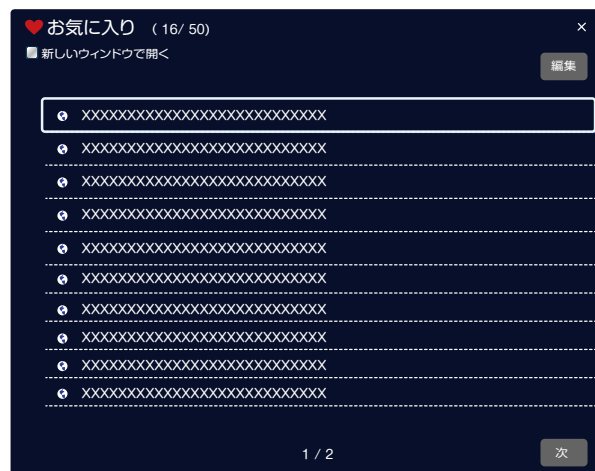
「お気に入り」からページを見る

1 便利機能のメニューから、◀▶で「♡お気に入り」を選ぶ

2 ▲▼で「お気に入り一覧」を選び、「決定」を押す



3 見たいページを▲▼で選び、「決定」を押す



- 見たいページを新しいウィンドウで開く場合は、先に「新しいウィンドウで開く」を選んで「決定」を押して、☐を☒にします。「決定」を押すたびに、☒と☐が交互に切り換わります。

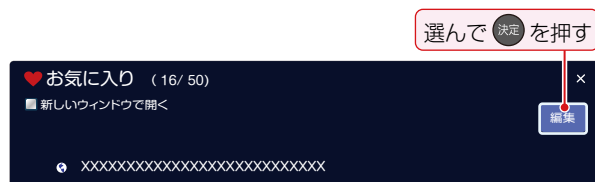
登録した「お気に入り」を削除する

- お気に入り登録したアドレスを整理することができます。

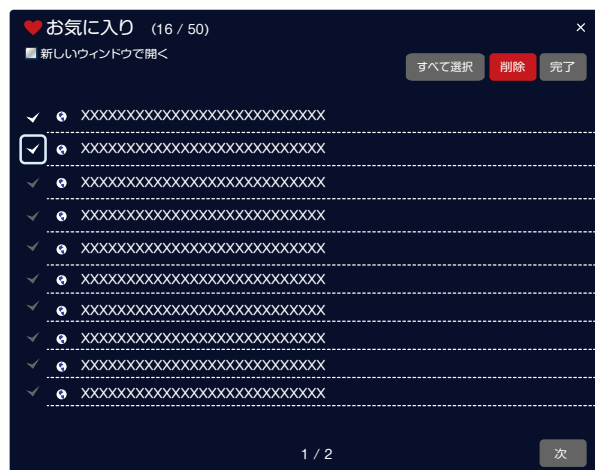
1 便利機能のメニューから、◀▶で「♡お気に入り」を選ぶ

- 「お気に入り」一覧が表示されます。

2 ▲▼◀▶で「編集」を選び、決定を押す



3 ▲▼で削除したいお気に入りを選び、決定を押す



- 決定を押して、✓を✓にします。決定を押すたびに、✓と✓が交互に切り換わります。
- すべて削除するときは「すべて選択」を選んで決定を押します。

4 ▲▼◀▶で「削除」を選び、決定を押す

- 選択したお気に入りが一覧から削除されます。

5 ▲▼◀▶で「完了」を選び、決定を押す

- 画面右上の「×」を選んで決定を押すと、ブラウザ画面に戻ります。

閲覧履歴から選んでページを見る

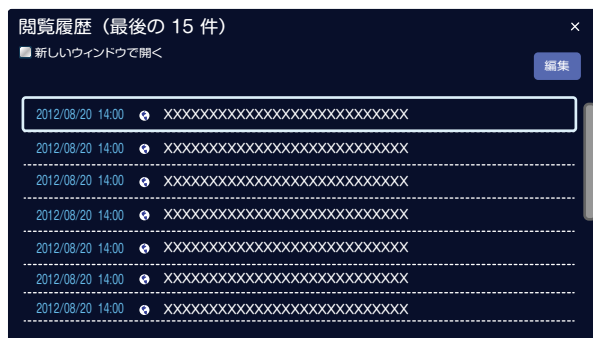
- 今までに見たページの履歴から選ぶことができます。
- 履歴は15件前まで記録されています。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「📄履歴表示」を選んで決定を押す



- 「閲覧履歴」の一覧が表示されます。

2 見たいページを▲▼で選び、決定を押す



閲覧履歴を削除する

- 閲覧履歴を削除することができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「📄閲覧履歴」を選んで決定を押す

2 ▲▼◀▶で「編集」を選び、決定を押す

3 ▲▼で削除したい閲覧履歴を選び、決定を押す

- 決定を押して、✓を✓にします。決定を押すたびに、✓と✓が交互に切り換わります。
- すべて削除するときは「すべて選択」を選んで決定を押します。

4 ▲▼◀▶で「削除」を選び、決定を押す

- 選択した閲覧履歴が一覧から削除されます。

5 ▲▼◀▶で「完了」を選び、決定を押す

- 画面右上の「×」を選んで決定を押すと、ブラウザ画面に戻ります。

「インターネット」で情報を見る つづき

ポインターを切り換える

- 画面を操作するときのツールを「ポインター」に変更することができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「ポインター」を選んで決定を押す



決定を押すたびに切り換わります



- 決定を押すたびに、「ON」と「OFF」が交互に切り換わります。

ブラウザの設定をする

1 便利機能のメニューから、◀▶で「設定」を選んで決定を押す

2 ▲▼◀▶で設定項目を選び、決定を押す

カテゴリ	設定項目
基本設定	ホームページ - 現在表示されているページをホームページとして設定します。 デザイン - ダイアログの背景の設定します。 検索エンジン - 使用する検索エンジンを設定します。
詳細設定	ウェブコンテンツ：エンコード - 文字が化けている場合は、文字コードを変更してみてください。一般的に日本語のページは「Shift-JIS」ですが、「EUC-JP」の場合があります。 ウェブコンテンツ：表示倍率 - ページの表示を拡大・縮小することができます。 ※ ページによっては拡大・縮小できない場合があります。 Cookie - Cookieを受信し、受信する/サードパーティーのCookieを受信しない/受信しない/受信前に確認する、のどれかに設定できます。 キャッシュ - 保存されている閲覧履歴データを削除することができます。 リセット - ブラウザの設定をお買い上げ時の設定に戻します。

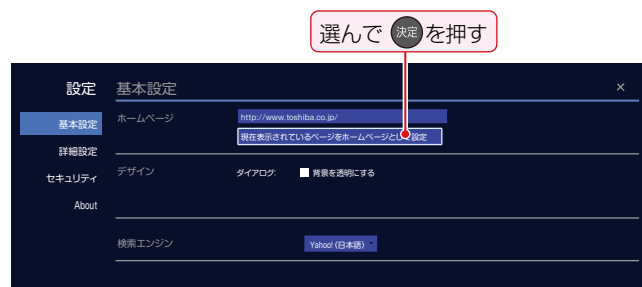
カテゴリ	設定項目
セキュリティ	HTTPS/SSL - 保護のないページに移動するときに、メッセージが表示されるように設定できます。 - 使用するSSLまたはTLSバージョンを選択できます。 - ルート証明書証明書の内容確認と有効/無効の設定ができます。
About	ブラウザについての情報などが表示されます。

3 終わったら、戻るを押す

基本設定をする

ホームページに設定する

- 1 ホームページにしたいページを開く
- 2 ◀▶で「設定」を選び、決定を押す
- 3 ▲▼で「基本設定」を選ぶ
- 4 ▲▼◀▶で「ホームページ」を選び、決定を押す



使用する検索エンジンを設定する

- 1 ▲▼で「基本設定」を選ぶ
- 2 ▲▼◀▶で「検索エンジン」を選び、決定を押す
- 3 ▲▼でお好みの検索サービスを選び、決定を押す

詳細設定をする

表示させたページが文字化けしているとき

- 1 ▲▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲▼◀▶でWebコンテンツの「エンコード」を選び、決定を押す



- 3 ▲▼で文字コードを選び、決定を押す

ページの表示倍率を変更する

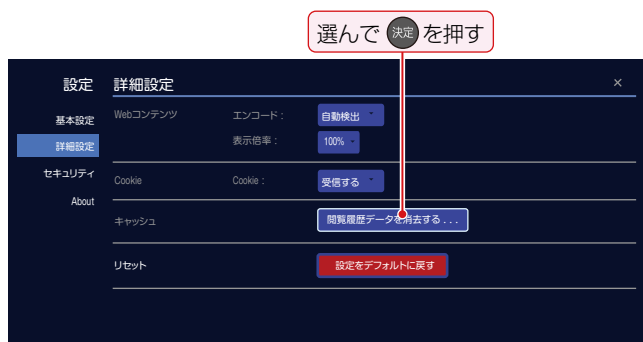
- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「表示倍率」を選び、決定を押す
- 3 ▲・▼でお好みの倍率を選び、決定を押す

Cookie (クッキー)の設定を変更する

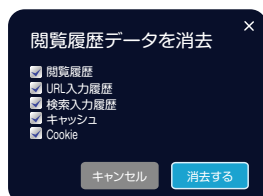
- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「Cookie」を選び、決定を押す
- 3 ▲・▼で設定を選び、決定を押す

閲覧履歴を消去する

- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶でWebコンテンツの「キャッシュ」を選び、決定を押す



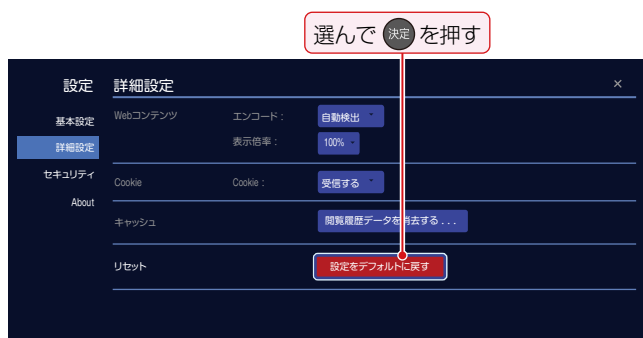
- 3 ▲・▼で消去する項目を選び、決定を押す



- 決定を押して、☐を☑にします。決定を押すたびに、☑と☐が交互に切り換わります。

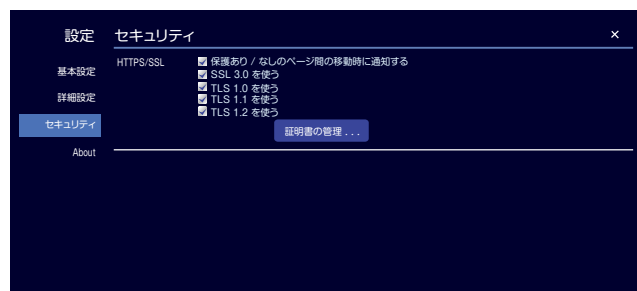
ブラウザの設定をお買い上げ時に戻す

- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「リセット」を選び、決定を押す

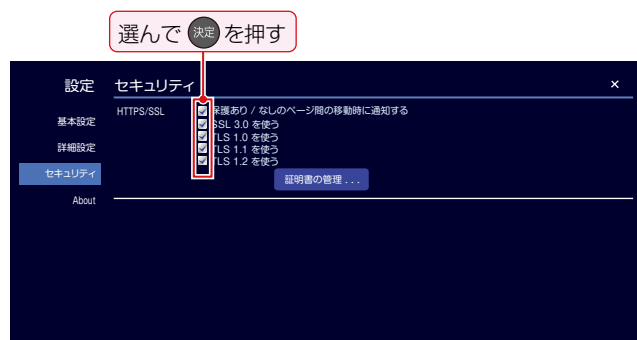


セキュリティ設定をする

- 1 ▲・▼で「セキュリティ」を選ぶ

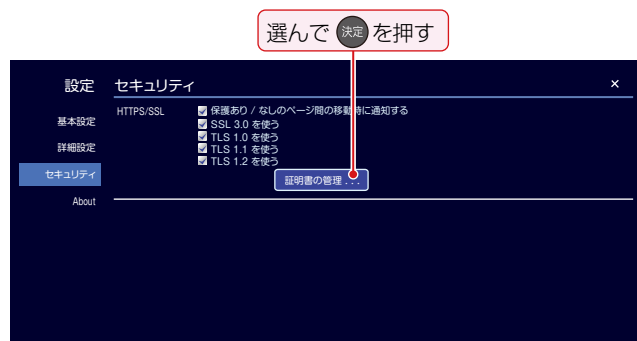


- 2 ▲・▼・◀・▶でセキュリティ設定を選び、決定を押す



証明書を管理する

- 1 ▲・▼で「セキュリティ」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「証明書の管理」を選び、決定を押す



- 証明書のリストが表示されます。(ルート証明書の例)



- 以降の操作で、証明書の内容確認、証明書の有効/無効の設定ができます。

※ この設定は一部のネットワークサービスでも有効です。

「インターネット」で情報を見る つづき

証明書の内容を確認する

- 1 確認する証明書をリストから▲・▼で選び、**決定**を押す
 - ルート証明書情報が表示されます
- 2 確認したら◀・▶で「閉じる」を選び、**決定**を押す

証明書の有効/無効を切り換える

- 1 設定する証明書をリストから▲・▼で選び、**決定**を押す
- 2 ◀・▶で「無効にする」を選び、**決定**を押す
 - **決定** を繰り返し押すと、「有効にする/無効にする」の切換えができます。
- 3 ◀・▶で「閉じる」を選び、**決定**を押す
 - リストに戻り、有効の場合は冒頭に☑が表示されます。

ブラウザの情報を見る

- 1 ▲・▼で「About」を選ぶ
- ブラウザ情報が表示されます。

ソフトウェアのオープンソースを確認する

- 1 ▲・▼で「About」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「オープンソース ソフトウェア」を選び、**決定**を押す
 - 本ブラウザで使用しているソフトウェアのオープンソース情報が表示されます。



■ Cookie (クッキー)

ユーザーの情報やアクセスした履歴などの情報をWebサーバーからの指示で本機内に自動的に受信、記録して、インターネットブラウザとWebサーバー間でやりとりをするための仕組み、またはその受信・記録されるファイルのことです。Netscape社によって開発され、本機をはじめ、各種のインターネットブラウザが対応しています。多くの場合、ユーザーがWebサイトをより使いやすくするために使用されますが、個人情報の流出につながるなどの指摘もされています。

※ Cookieを受信しないように設定すると、Webサイトによっては利用できない場合があります。

■ キャッシュ

以前表示したページを再度見る場合に、本機に保存されている過去のデータを表示して表示時間を短縮することです。

その他のネットサービス

- サブメニューからもネットサービスを利用することができます。
- 接続や設定などの準備については、「インターネットに接続する」**128** ~ **134** および、「インターネットの利用を制限する」**165**をご覧ください。

- 1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「ネットサービス」を選び、**決定** を押す

- 2 ネットサービスを▲・▼で選び、**決定** を押す
 - 以下のネットサービスが利用できます。

もっとTV	もっとTVに接続します。 ※ 「もっとTV」は株式会社電通によって運営されているVODサービスです。
YouTube	YouTubeに接続します。 ※ YouTubeは、YouTube, LLCによって運営されている動画共有サービスです。
TSUTAYA TV	TSUTAYA TVに接続します。 ※ 「TSUTAYA TV」は、株式会社T-MEDIAホールディングスが提供するテレビ向け動画配信サービスです。
スカパー！オンデマンド	スカパー！オンデマンドに接続します。
T's TV	T's TVに接続します。 ※ 「T's TV」は、ブロードメディア株式会社が提供するテレビ向け動画配信サービスです。
U-NEXT	U-NEXTに接続します。
アクトビラ	アクトビラに接続します。 ※ 「アクトビラ」は、株式会社アクトビラが提供するテレビ向けインターネット・サービスです。
ひかりTV	ひかりTVに接続します。 ※ ひかりTVはNTTの光回線を利用した有料サービスです。
Yahoo! JAPAN	Yahoo! JAPANに接続します。 ※ 「Yahoo! JAPAN」は、ヤフー株式会社が提供するインターネット・ポータルサイトです。
インターネット	「インターネット」のブラウザ画面が表示されます。 138

- ネットサービスによっては、有料または登録が必要な場合があります。

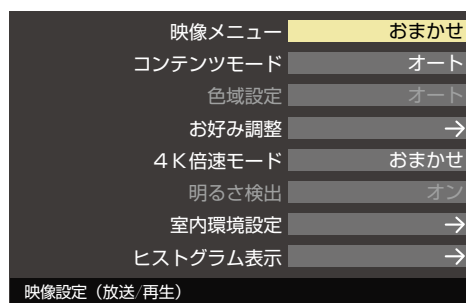


- YouTubeの場合、すべての動画コンテンツの再生を保証するものではありません。

お好みの映像メニューを選ぶ

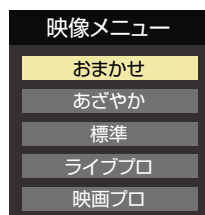
- 見る映像の種類に応じて、お好みの映像メニューを選ぶことができます。
- 映像メニューは、放送/再生の映像や各入力端子の映像、写真再生の映像などでそれぞれ記憶させることができます。

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「映像設定」 ⇒「映像メニュー」の順に進む



2 お好みの映像メニューを▲・▼で選び、決定 を押す

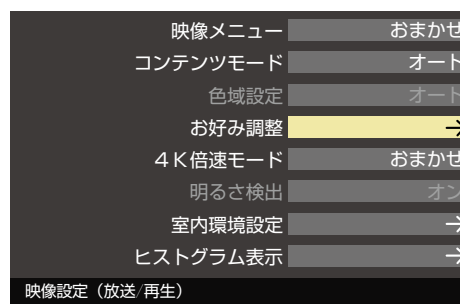
- 選択できる映像メニューは、視聴している映像の種類によって異なり、選択できない映像メニューは表示されません。



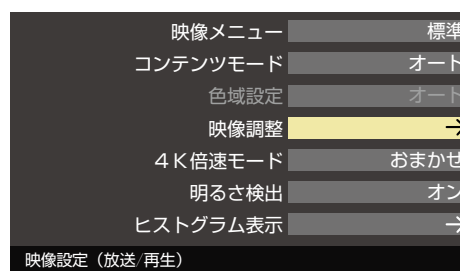
映像メニュー	内 容
おまかせ	映像の内容と周囲の明るさに合わせて、常に見やすい画質に自動調整されます。
あざやか	日中の明るいリビングで、迫力ある映像を楽しむときに適した設定です。
標準	室内で落ち着いた雰囲気を楽しむときに適した設定です。(日常、ご家庭で使用する際の推奨設定です)
ライブプロ	暗くした部屋でテレビ番組を見るときに適した設定です。
映画プロ	暗くした部屋で映画を見るときに適した設定です。(暖かみのある色合いが再現されます)
ゲーム	ゲームのレスポンスを重視した、ゲームをするのに適した設定です。(HDMI入力、ビデオ入力のときに選択できます)
写真	写真(JPEG画像)を表示するのに適した設定です。(写真再生のときに選択できます)
モニター D93	パソコンの画面を表示するのに適した設定です。お好みに合わせて設定してください。
モニター D65	(HDMI入力のときに選択できます)

お好みの映像に調整する

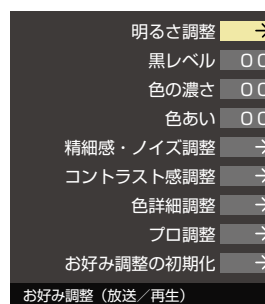
1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「映像設定」 ⇒「お好み調整」の順に進む



- 「映像メニュー」が「おまかせ」以外のときは、「映像調整」に進みます。



2 調整する項目を▲・▼で選び、決定 を押す



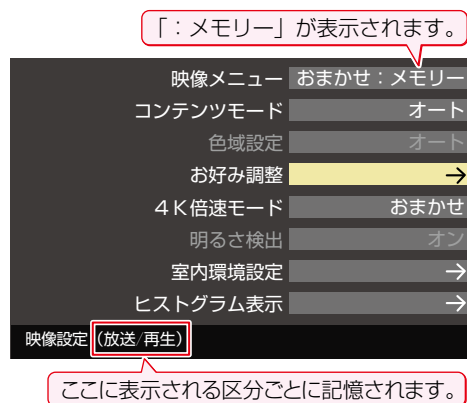
3 以降の手順(154頁まで)でお好みの映像に調整する

- 他の項目を調整するときは、手順2から繰り返します。「バックライト」、「黒レベル」、「色の濃さ」、「色あい」の調整時は、▲・▼を押せば調整項目を切り換えることができます)

お好みの映像に調整する つづき

「お好み調整」や「映像調整」をした場合

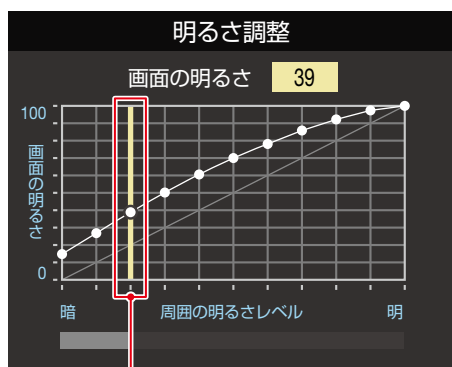
- 映像を調整すると、そのときに選択していた「映像メニュー」に調整状態が記憶され、「映像メニュー」の表示に「：メモリー」が加わります。
- 調整状態は、放送/再生や各入力端子、写真再生などの区分ごとに記憶されます。たとえば、(放送/再生)の「おまかせ：メモリー」と(HDMI1)の「おまかせ：メモリー」は、異なる調整をして記憶させることができます。



明るさ調整

- この調整項目は、「映像メニュー」が「おまかせ」の場合や、「明るさ検出」が「オン」に設定されているときに表示されます。
- 明るさ検出機能によって自動調整される画面の明るさを調整することができます。

- 1 **決定**を押す
- 2 明るさを変えたいレベルを◀▶で選び、▲▼で明るさを調整する
 - 必要に応じて異なるレベルの調整を繰り返します。
 - **青**を押すと、調整前のレベルに戻ります。
 - **赤**を押すと、お買い上げ時の調整に戻ります。



明るさセンサーで感知した明るさレベル部分が選ばれます。

- 3 調整が終わったら、**決定**を押す

バックライト

- この調整項目は、「明るさ検出」が「オフ」に設定されているときに表示されます。
- お好みの見やすい画面の明るさに調整できます。2D時に設定できます。

- 1 ◀▶でお好みの明るさに調整し、**決定**を押す

- 「00」～「100」の範囲で調整できます。(調整値が大きくなるほど画面が明るくなります)

黒レベル

- 映像の暗い部分(黒)の再現性(明るさ)を調整します。

- 1 ◀▶でお好みの明るさに調整し、**決定**を押す

- 「-50」(暗く)～「+50」(明るく)の範囲で調整できます。

色の濃さ

- 映像の色の濃さを調整します。

- 1 ◀▶でお好みの濃さに調整し、**決定**を押す

- 「-50」(淡く)～「+50」(濃く)の範囲で調整できます。

色あい

- 肌の色に注目して、色合いを調整します。

- 1 ◀▶でお好みの色あいに調整し、**決定**を押す

- 「-50」(紫を強く)～「+50」(緑を強く)の範囲で調整できます。

精細感・ノイズ調整

- 「精細感・ノイズ調整」を選択して**決定**を押すと、精細感・ノイズ調整のメニューが表示されます。

- 1 調整する項目を▲▼で選び、**決定**を押す

- 視聴する映像の種類および「映像メニュー」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。

微細テクスチャー復元	オート
シャープネス	00
レゾリューションプラス設定	→
カラーテクスチャー設定	→
輝度エッジ補正	オート
原画解像度	オート
Vエンハンサー	00
MPEG NR	オート
ダイナミックNR	オート
4Kノイズクリア	オート
グラフィックスNR	オート

精細感・ノイズ調整

- 2 以降の手順で調整する

- 他の項目を調整する場合は、手順1から繰り返します。



「明るさ調整」と明るさセンサーについて

- 調整中に照明をつけるなど、周囲の明るさを変えた場合は、調整後に画面の明るさが変わらないことがあります。
- 明るさセンサーの近くに物を置いたり、ふさいだりすると、明るさセンサーが正しく動作しなくなることがあります。明るさセンサーの位置は「18」をご覧ください。

微細テクスチャー復元

- 映像の微細な質感を復元します。
- ① ◀▶で好みの質感に調整し、**決定**を押す
 - ・ オート …… 映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - ・ 0～10 …… 数値が大きくなるほど、微細な質感が復元されます。

シャープネス

- 映像の鮮明さを調整します。
- ① ◀▶で好みの映像に調整し、**決定**を押す
 - 「-50」(やわらか)～「+50」(くっきり)の範囲で調整できます。

レゾリューションプラス設定

- 緻密で精細感のある映像を表示します。
- 「レゾリューションプラス設定」を選択して **決定** を押すと、「レゾリューションプラス」、「ゲイン調整」、「補正レベル」、「フィルムグレイン抑制」の選択メニューが表示されます。それぞれ以下の要領で設定します。
- ※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。

レゾリューションプラス

- レゾリューションプラスの機能を使うかどうかを設定します。「オフ」に設定した場合は、「ゲイン調整」、「補正レベル」、「フィルムグレイン抑制」は機能しません。
- ※ レゾリューションプラスと同じ高画質処理機能を持った機器を接続した場合、画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、本機のレゾリューションプラス、または、接続した機器の高画質処理機能をオフにしてください。
- ① ▲▼で「レゾリューションプラス」を選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で以下から選び、**決定**を押す
 - ・ オート …… 映像の種類に応じて自動的にレゾリューションプラスの機能が働きます。
 - ・ オフ …… この機能は働きません。

ゲイン調整

- レゾリューションプラスの効果(強さ)を調整します。
- ① ▲▼で「ゲイン調整」を選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で調整し、**決定**を押す

映像メニュー	調整範囲	
おまかせ	-05 ～ +05	数値が大きくなるほど、映像の精細感が強調されます。
おまかせ以外	00 ～ 10	

補正レベル

- レゾリューションプラスの効果が現われる映像細部の明暗差を設定します。
- ① ▲▼で「補正レベル」を選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で好みの設定を選び、**決定**を押す
 - ・ オート …… 映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - ・ 1～4 …… 数値が大きくなるほど、映像細部のより大きな明暗差に対してレゾリューションプラスの効果が現れます。

フィルムグレイン抑制

- フィルムグレイン(フィルム映像で見受けられる細かいランダムなノイズ)などの細かな画面ノイズを低減させます。
- ① ▲▼で「フィルムグレイン抑制」を選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で好みの設定を選び、**決定**を押す
 - ・ オート …… 映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - ・ 強、中、弱 …… フィルムグレイン抑制の効果が切り換わります。強くするほどグレインをより抑える方向に働きます。
 - ・ オフ …… この機能は働きません。

カラーテクスチャー設定

- 色鮮やかな花や果物など、色の濃い映像部分の精彩感や質感を復元する機能です。

カラーテクスチャー

- ① ▲▼で「カラーテクスチャー」を選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で以下から選び、**決定**を押す
 - ・ オート …… 映像に応じて自動的に切り換わります。
 - ・ オン …… この機能が常に働きます。
 - ・ オフ …… この機能は働きません。
- 「カラーテクスチャー」の機能を働かせる場合に、以下の詳細な設定・調整ができます。([カラーテクスチャー]が「オフ」のときは設定できません)
- 「カラーテクスチャー設定」を選択して **決定** を押すと、「Rゲイン」、「Gゲイン」、「Bゲイン」の選択メニューが表示されます。それぞれ以下の要領で設定します。

Rゲイン、Gゲイン、Bゲイン

- 「カラーテクスチャー」の復元効果を色別に調整できます。
- ① ▲▼で「Rゲイン」(赤)、「Gゲイン」(緑)、「Bゲイン」(青)から選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で以下から選び、**決定**を押す
 - ・ オート …… 映像に応じて自動調整されます。
 - ・ 0～10 …… 数値が大きいほど、効果が大きくなります。

お好みの映像に調整する つづき

輝度エッジ補正

- この調整項目は、「映像メニュー」が「おまかせ」以外のときに表示されます。
 - 映像の輝度成分(白黒映像成分)の輪郭を際立たせる機能です。アニメなどで輪郭をくっきりさせることができます。
- ① ▲・▼で以下から選び、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 0～10……「0」で補正がオフになります。「10」で効果が最大になります。

原画解像度

- 1080i/1080pに解像度変換された映像に対して設定できます。原画解像度を設定することで、各種解像度の原画に対して良好な画質が得られます。
- ① ▲・▼で以下から選び、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 3840×2160*、1920×1080、1440×1080、1280×720、960×540、720×480、640×480……原画解像度がわかる場合は、その解像度を選択します。原画解像度がわからない場合は、お好みの精細感になる値を選択します。
- *4K映像入力時
- ※ 960×540、720×480、640×480は、4K映像入力時は、選択できません。

Vエンハンサー

- 映像の横線の輪郭を、強調したり弱めたりできます。
- ① ◀▶で調整し、決定を押す
- 「おまかせ」以外のときは、▲・▼で設定を選びます。

映像メニュー	調整範囲	調整値が大きくなるほど、輪郭が強調されます。
おまかせ	-05 ~ +05	
おまかせ以外	オート/強/中/弱/オフ	

MPEG(エムペグ) NR

- デジタル放送やDVDなどの動きの速い映像のブロックノイズ(モザイク状のノイズ)と、モスキートノイズ(輪郭のまわりにつく、ちらつきノイズ)を減らす機能です。
- ① ▲・▼でお好みの設定を選び、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 強、中、弱……MPEG NRの効果が切り換わります。強くするほどノイズをより抑える方向に働きます。
 - オフ……この機能は働きません。
- ※ 効果を強くすると精細感を損なう場合があります。
- ※ 「オート」は「映像メニュー」が「おまかせ」のときにだけ選択できます。

ダイナミックNR

- 映像のざらつきやちらつきを減らす機能です。
- ① ▲・▼でお好みの設定を選び、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 強、中、弱……ダイナミックNRの効果が切り換わります。
 - オフ……この機能は働きません。
- ※ 通常は「オート」に設定してください。効果を強くすると残像が目立つ場合があります。

4Kノイズクリア

- 映像の輪郭部周辺に現れるモスキートノイズを減らす機能です。
- ① ▲・▼でお好みの設定を選び、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 強、中、弱……4Kノイズクリアの効果が切り換わります。
 - オフ……この機能は働きません。

グラフィックスNR

- アニメなどの平坦なカラーリング部分で目立つノイズを減らす機能です。
- ① ▲・▼でお好みの設定を選び、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 強、中、弱……グラフィックスNRの効果が切り換わります。
 - オフ……この機能は働きません。
- ※ 通常は「オート」に設定してください。効果を強くするとアニメーションの輪郭線が不鮮明になる場合があります。

コントラスト感調整

- 「コントラスト感調整」を選択して決定を押すと、コントラスト感調整のメニューが表示されます。
- ① 調整する項目を▲・▼で選び、決定を押す
- 視聴する映像の種類および「映像メニュー」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。

ハイダイナミックレンジ復元	オフ
輝き復元	オート
ユニカラー	100
LEDエリアコントロール	オフ
ガンマ調整	00
質感リアライザー	→
色質感リアライザー	オフ
色階調リアライザー	オフ
コントラスト感調整	

- ② 以降の手順で調整する
- 他の項目を調整する場合は、手順①から繰り返します。

ハイダイナミックレンジ復元

- 明るさの領域を復元し、表現領域を拡大する機能です。
- ① ▲・▼でお好みの映像に調整し、決定を押す
- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - オン……明るさの領域を復元し、表現領域を拡大します。
 - オフ……この機能は働きません。

輝き復元

- 映像の光沢を復元します。
- ① ◀▶で好みの映像に調整し、**決定**を押す
 - オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 0～10……数値が大きくなるほど、映像の光沢が復元されます。

ユニカラー

- この調整項目は、「映像メニュー」が「おまかせ」以外有的时候に表示されます。
- 映像のコントラスト、明るさ、色の濃さをバランスよく同時に調整します。
- ① ◀▶で好みの映像に調整し、**決定**を押す
 - 「00」～「100」の範囲で調整できます。(数値が大きくなるほど映像のコントラストが強くなります)

LEDエリアコントロール

- 映像の明るさに応じてエリアごとにバックライトの明るさを自動調整し、メリハリのある映像にします。
- ① ▲▼で好みの設定を選び、**決定**を押す
 - おまかせ…周囲の明るさに合わせて、LEDエリアコントロールの効果が自動調整されます。(「映像メニュー」が「おまかせ」のときに選択できます)
 - 強、中、弱…LEDエリアコントロールの効果の強さが切り換わります。
 - オフ……この機能は動きません。

ガンマ調整

- 映像の暗い部分と明るい部分の階調のバランスを調整することができます。
- ① ◀▶で調整し、**決定**を押す

調整範囲	調整値が大きくなるほど画面全体が明るくなります。
-04 ~ +04	

質感リアライザー

- 映像の白飛びや黒つぶれを抑えて、明るい部分や暗い部分の質感を豊かに再現します。
- 暗いシーンでの肌色の質感を豊かに再現します。

「映像メニュー」が「おまかせ」のとき

- ① ▲▼で「ゲイン調整」を選び、**決定**を押す
- ② ◀▶で調整し、**決定**を押す

調整範囲	調整値が大きくなるほど質感の再現性が強調されます。
-05 ~ +05	

- ③ ▲▼で「モード」を選び、**決定**を押す
- ④ ▲▼で「オート」、「節電オート*」、「ダイナミック」、「ナチュラル」から選び、**決定**を押す

※「節電オート」は「節電モード」が「節電1」または「節電2」のときに選択できます。

「映像メニュー」が「おまかせ」以外のとき

- 「質感リアライザー」を選択して**決定**を押すと、「ゲイン調整」と「モード」の選択メニューが表示されます。
- 「ゲイン調整」を「手動」にすると、「暗部ゲイン」と「明部ゲイン」の選択・調整ができるようになります。
 - ※「ハイダイナミックレンジ復元」で調整しているときは、「明部ゲイン」は調整できません。
- ① ▲▼で「ゲイン調整」を選び、**決定**を押す
- ② ▲▼で以下から選び、**決定**を押す
 - オート……映像の内容に応じて自動的に制御されます。
 - 手動……手動で調整します。
 - オフ……この機能は動きません。

「手動」にしたとき

- (1) ▲▼で「明部ゲイン」または「暗部ゲイン」を選び、**決定**を押す
- (2) ◀▶で調整し、**決定**を押す

項目	調整範囲	調整要領
明部ゲイン	00～10	映像の明るい部分の再現性に注目して調整します。
暗部ゲイン		映像の暗い部分の再現性に注目して調整します。

- ③ ▲▼で「モード」を選び、**決定**を押す
- ④ ▲▼で以下から選び、**決定**を押す
 - 「映像メニュー」によって選択できるモードが異なります。

映像メニュー	選択できるモード
あざやか、標準、ゲーム	オート/節電オート*
ライブプロ、映画プロ	オート/コンサート/フィルム/アニメ
モニター D93、モニター D65	選択できません。

※「節電モード」が「標準」のとき、「節電オート」は選択できません。「節電モード」を「節電1」または「節電2」にすると「節電オート」に切り換わりますが、「オート」を選択することもできます。「節電オート」のときに「節電モード」を「標準」にすると「オート」に切り換わります。

色質感リアライザー

- 緑色の階調を豊かに再現する機能です。サッカー観戦やゴルフ番組などで、芝目やコースの起伏などが鮮明に再現されます。
- ① ▲▼で以下から選び、**決定**を押す
 - オート…映像の種類に応じて自動的に制御されます。
 - 緑検出…緑色の階調が豊かに再現されます。
 - オフ……この機能は動きません。

お好みの映像に調整する つづき

色階調リアライザー

- 暗い部分の色の階調を正しく再現する機能です。アニメなどで暗い部分の色が正確に塗り分けられます。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

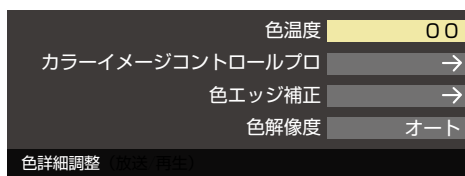
- オン……暗い部分の色階調が正しく再現されます。
- オフ……この機能は働きます。

色詳細調整

- 「色詳細調整」を選択して決定を押すと、色詳細調整のメニューが表示されます。

① 調整する項目を▲・▼で選び、決定を押す

- 視聴する映像の種類および「映像メニュー」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。



② 以降の手順で調整する

- 他の項目を調整する場合は、手順①から繰り返します。

色温度

- 画面全体の色味を調整します。

① ◀▶で調整し、決定を押す

映像メニュー	調整範囲	調整値が小さくなるほど暖色系、大きくなるほど寒色系になります。
おまかせ	-05 ~ +05	
おまかせ以外	00 ~ 10	

② ▲・▼で「Gドライブ」(緑)、「Bドライブ」(青)または「Rドライブ」(赤)を選び、◀▶で調整する

- 明るい部分の色温度を微調整します。

映像メニュー	調整範囲	調整値が大きくなるほど、選んでいる色の色味が強くなります。
おまかせ	調整できません	
おまかせ以外	-15 ~ +15	

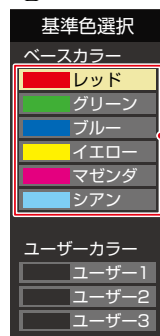
カラーイメージコントロールプロ

- 映像の色調を調整することができます。

ベースカラー

- レッド、グリーン、ブルーなどの色ごとに、色あいや色の濃さを調整することができます。

① 「ベースカラー」の中から調整する色を▲・▼で選び、決定を押す



この中から選びます。

② 青を押して静止画にする

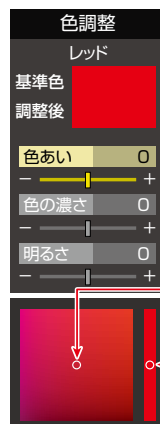
(もう一度青を押すと静止画が解除されます)

※ 4K映像の場合は、静止できません。

③ ▲・▼で「色あい」、「色の濃さ」、「明るさ」のどれかを選び、◀▶で調整する

- 調整範囲は-30 ~ +30です。

※ 元の色(初期状態)に戻すには、赤を押します。



調整した「色あい」や「色の濃さ」を表します。

調整した「明るさ」を表します。

④ 選んだ色の調整が終わったら、戻るを押す

- 他の色を調整する場合は、手順①から繰り返します。

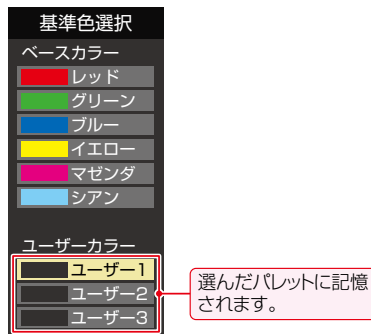


● テレビを公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどで、カラーイメージコントロールプロの機能を利用して、本来の映像と異なる色の画面を表示すると、著作権法上で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。

ユーザーカラー

- 画面に表示されている色を指定して、お好みの色あいや色の濃さ、明るさに調整することができます。調整した結果は、指定した色と同じ色すべてに反映されます。

- ① 「ユーザーカラー」の中から▲・▼でどれかを選び、**決定**を押す

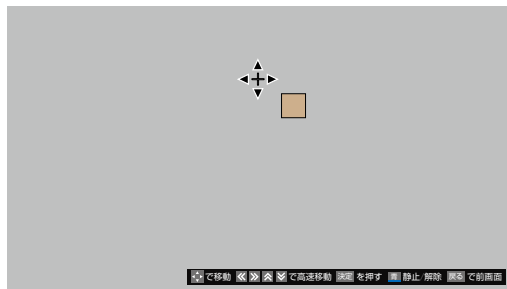


- ② **青**を押して静止画にする
- ③ ▲・▼で「基準色変更」を選び、**決定**を押す

- カーソルが表示されます。

- ④ 調整したい色の部分まで▲・▼・◀・▶でカーソルを移動し、**決定**を押す

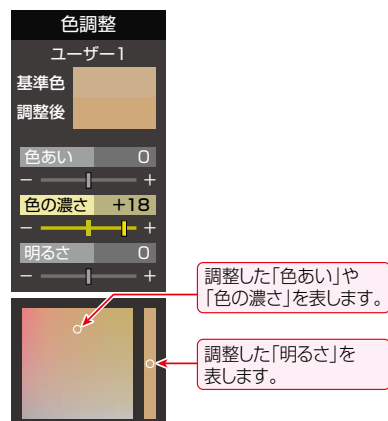
- 画面から選択した色がパレットに登録されます。



- ⑤ ▲・▼で「色あい」、「色の濃さ」、「明るさ」のどれかを選び、◀・▶で調整する

- 調整範囲は-30 ~ +30です。

- ※ 元の色（初期状態）に戻すには、**赤**を押します。



- ⑥ 選んだ色の調整が終わったら、**戻る**を押す

- ほかのユーザーカラーを調整する場合は、手順①から繰り返します。

色エッジ補正

- 映像の色の輪郭を際立たせる機能です。アニメなどで色の輪郭をくっきりさせることができます。

- ※ 映像メニューが「おまかせ」のときは表示されません。

- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す

- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
- 00~10……「0」で補正がオフになります。「10」で効果が最大になります。

色解像度

- 外部入力を選択した場合に設定できます。
- 色の周波数帯域を広げ、色をきめ細かく再現することができます。

- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す

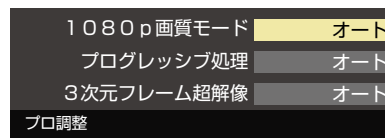
- ワイド……色の周波数帯域を広げることで、きめ細かな色が再現されます。
- スタンダード……色の周波数帯域を抑えます。DVD再生時などに垂直方向の色抜けが目立つ場合に、スタンダードに設定します。

プロ調整

- 「プロ調整」を選択して**決定**を押すと、プロ調整のメニューが表示されます。

- ① 調整する項目を▲・▼で選び、**決定**を押す

- 視聴する映像の種類および「映像メニュー」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。



- ② 以降の手順で調整する

- 他の項目を調整する場合は、手順①から繰り返します。

1080p画質モード

- 「レグザコンビネーション高画質」に対応したHDMI機器から入力される映像の情報に応じて、映像に適した画質にする機能です。

- ※ 映像メニューが「ゲーム」、「モニター D93」、「モニター D65」のときは設定できません。

- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す

- オート……「レグザコンビネーション高画質」対応機器からの情報に従って画質が制御されます。
- ピュアダイレクト……機器から入力される映像を、そのままの画質で映し出します。

お好みの映像に調整する

つづき

プログレッシブ処理

- 24p/30pで制作されたインターレース方式の映像を2-3/2-2プルダウン処理する機能です。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- ・オート……プルダウン処理が自動的に行われます。
- ・ビデオ……ビデオ処理が行われます。
- ・30p処理……30pで制作された映像に適した設定です。
- ・24p処理……24pで制作された映像に適した設定です。

3次元フレーム超解像

- 動画のちらつきやノイズを低減させる機能です。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- ・オート……映像に応じて自動的に機能が働きます。
- ・オン……3次元フレーム超解像の機能が働きます。
- ・オフ……この機能は働きません。

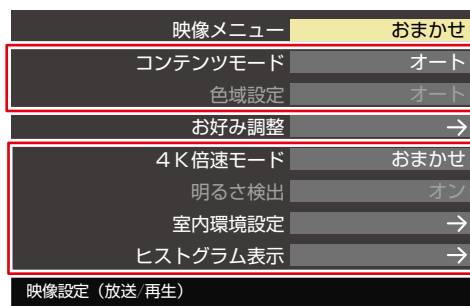
お好み調整の初期化／映像調整の初期化

- 「お好み調整」、「映像調整」の内容を、お買い上げ時の設定・調整に戻します。

① ◀▶で「はい」を選び、決定を押す

その他の映像設定

- 「映像設定」のメニューに表示されている「コンテンツモード」、「色域設定」、「4K倍速モード」、「明るさ検出」、「室内環境設定」、「ヒストグラム表示」は、項目を選択してから以下の手順で設定します。



コンテンツモード

- 視聴する映像のコンテンツに合った画質になるように設定することができます。
- ※ 「映像メニュー」が「モニター D93」、「モニター D65」のときはコンテンツモードは設定できません。

放送、IPTVのとき

- 選択できる項目は、視聴している映像の種類や解像度によって異なり、選択できない項目は表示されません。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

・オート	本機が自動的に切り換えます。
・ビデオ	放送されたビデオ番組に適した画質で表示されます。
・シネマ	映画など、高解像度でノイズの少ない映像に適した画質で表示されます。

・アニメ	高解像度でノイズの少ないアニメに適した画質で表示されます。
・サッカー/ゴルフ	サッカー観戦やゴルフ番組などに適した画質で表示されます。
・写真	写真再生に適した画質で表示されます。

外部入力するとき

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

・オート	本機が自動的に切り換えます。
・ビデオ	ビデオ番組に適した画質で表示されます。 サブメニューで、4Kネイティブ/4K放送/4KマスターBD/BD/放送/ネット動画が選択できます。
・シネマ	映画に適した画質で表示されます。 サブメニューで、4Kネイティブ/4K放送/4KマスターBD/BD/放送/ネット動画が選択できます。
・アニメ	高解像度でノイズの少ないアニメに適した画質で表示されます。 サブメニューで、4Kネイティブ/4K放送/ハイビットBD/BD/放送/ネット動画が選択できます。
・サッカー/ゴルフ	サッカー観戦やゴルフ番組などに適した画質で表示されます。
・写真	写真再生に適した画質で表示されます。

- ・4Kネイティブ……4K映像をそのままの画質で再生するモードです。
- ・4KマスターBD……4Kマスターのブルーレイディスクの再生に適したモードです。
- ・4K放送……4K放送に適したモードです。
- ・ハイビットBD……高階調(36ビット)で記録されたブルーレイディスクの再生に適したモードです。
- ・BD……通常のブルーレイディスクの再生に適したモードです。
- ・放送……テレビ放送の映像に適したモードです。
- ・ネット動画……低解像度のネット動画の再生に適したモードです。

「映像メニュー」が「ゲーム」のとき

- 「映像メニュー」が「ゲーム」のときは、以下のモードから選びます。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

・HDゲーム	高解像度映像のゲーム機に適したモードです。
・ポータブルゲーム	ポータブルタイプのゲーム機に適したモードです。
・SDゲーム	ゲーム機に適したモードです。
・カラオケ	ゲーム機のカラオケに適したモードです。

色域設定

- 鮮やかな色の再現方法について設定します。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- オート ……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
- 色域復元 ……鮮やかな色が再現されます。
- x.v.Color入力 ……x.v.Color対応のBD視聴時に最適な表示となります。
- 標準 ……標準的な色による表示となります。
※ "x.v.Color"とは従来以上の広色域表現を規定した国際規格のひとつ「xvYCC」に対応した機器に付す名称として提案されたものです。

4K倍速モード

- 「映像メニュー」に合わせて倍速処理をします。
- ※ 設定したモードの映像に違和感がある場合は、別のモードに設定してください。

「映像メニュー」が「ゲーム」のとき

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- ゲームダイレクト ……補間映像の挿入は行わず、元のゲーム映像をそのまま表示します。
- ゲームインパルス ……バックライトを抑えて動きのある映像の残像感を軽減します。
※ このモードはバックライトを抑えるため、画面が暗くなり、シーンによってはちらつきを感じる場合があります。
- ゲームスムーズ ……補間映像を挿入することで倍速処理を行い、ゲーム映像をなめらかな動きで表示します。

「映像メニュー」が「モニター D93」、「モニター D65」のとき

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- モニターダイレクト ……補間映像の挿入は行わず、元のソース機器の映像をそのまま表示します。
- モニターインパルス ……バックライトを抑えて動きのある映像の残像感を軽減します。
※ このモードはバックライトを抑えるため、画面が暗くなり、シーンによってはちらつきを感じる場合があります。
- モニタースムーズ ……補間映像を挿入することで倍速処理を行い、ソース機器の映像をなめらかな動きで表示します。

「映像メニュー」が上記以外のとき

- ※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- おまかせ ……映像に応じて自動的に切り換わります。
(「映像メニュー」が「おまかせ」のときに選択できます)
- クリアスムーズ ……映画やアニメが最もなめらかな動きで表示されます。
- スムーズ ……映画やアニメがなめらかな動きで表示されます。

- フィルム ……映画やアニメのオリジナルの動きを忠実に再現します。
- インパルス ……バックライトを抑えて動きのある映像の残像感を軽減します。
※ このモードはバックライトを抑えるため、画面が暗くなり、シーンによってはちらつきを感じる場合があります。
- オフ ……補間映像の挿入は行わず、元の入力映像をそのまま表示します。

明るさ検出

- 明るさセンサーで検出した周囲の明るさに応じて、画面の明るさが自動で調整されます。
- ※ 「映像メニュー」が「おまかせ」に設定されている場合は「オン」になり、設定を変えることはできません。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- オン ……明るさ検出機能が働きます。
- オフ ……この機能は動きません。

室内環境設定

① ▲・▼で「室内環境設定」を選び、決定を押す

② ▲・▼で「照明の色」を選び、決定を押す

③ ◀▶で室内の照明の色を選び、決定を押す

- 電球色 ……電球など、暖か味のある色の照明の場合に選択します。
- 蛍光灯色 ……クールな白色の照明の場合に選択します。

④ ▲・▼で「外光設定」を選び、決定を押す

⑤ ◀▶で「外光あり(通常)」または「外光なし」を選び、決定を押す

- 外光あり(通常) ……日中、屋外から光がはいる場合に選択します。
- 外光なし ……日中、屋外からはいる光が少なく、室内照明を使用している場合に選択します。

- 「外光あり」に設定した場合、③で設定した照明の色と外光に合わせた画質に自動調整されます。(この機能にはデジタル放送の時刻情報が利用されます)

- 「外光なし」に設定した場合、③で設定した照明の色に合わせた画質に自動調整されます。

⑥ ▲・▼で「壁の色」を選び、決定を押す

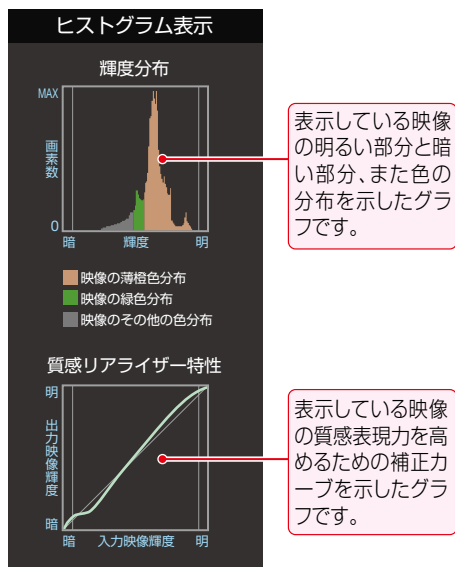
⑦ 一覧の中から室内の壁の色に近い色を、▲・▼・◀▶で「外光設定」を選び、決定を押す

- テレビ背後の壁(テレビ視聴時に視野にはいる壁)の色に近い色を選びます。

お好みの映像に調整する つづき

ヒストグラム表示

- 映像のヒストグラムが表示されます。
- 表示を消すには、**終了**を押します。



テレビの電源ランプを消灯する

- テレビの視聴中に、電源ランプの明かりが気になる場合に設定します。
- ※ テレビの状態を知りたい場合は、「点灯」(お買い上げ時の設定)で使用することをおすすめします。

1 **設定** を押し、**▲・▼**と **決定** で「機能設定」
⇒「電源LED表示設定」に進む

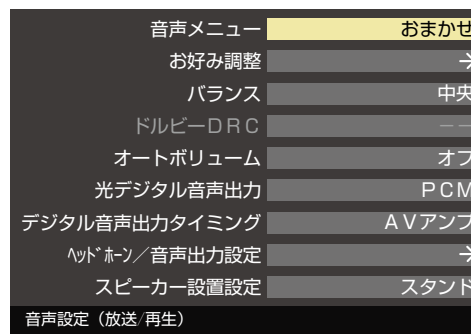
2 **▲・▼**を押して「消灯」を選び、**決定** を押す

- 「消灯」に設定すると、テレビの電源ランプが消灯します。次回電源を入れたときは、電源ランプが点灯し、その後消灯します。

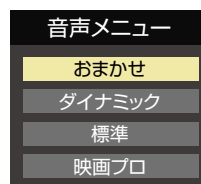
お好みの音声メニューを選ぶ

- 見る番組の種類に応じて、お好みの音声メニューを選ぶことができます。
- 音声メニューは、放送/再生の音声、各外部入力端子の音声、音楽再生の音声でそれぞれ記憶させることができます。

1 **設定** を押し、**▲・▼**と **決定** で「音声設定」
⇒「音声メニュー」の順に進む



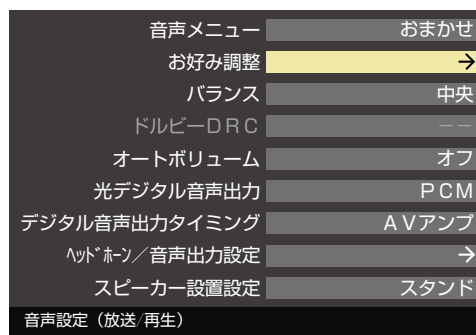
2 お好みの音声メニューを **▲・▼**で選び、**決定** を押す



音声メニュー	内 容
おまかせ	番組のジャンルに合わせて本機が音質を自動調整します。放送を視聴するときに選択できます。
ダイナミック	音楽やドラマなどを楽しむときに適した設定です。(イコライザー、サラウンド、低音強調が調整されます)
標準	ニュースや情報番組などを楽しむときに適した設定です。(イコライザー、サラウンド、低音強調が調整されます)
映画プロ	映画を鑑賞するときに適した設定です。(イコライザー、サラウンド、低音強調が調整されます)

お好みの音声に調整する

- 1 **設定** を押し、**▲・▼**と **決定** で「音声設定」
⇒「お好み調整」の順に進む



- 「音声メニュー」が「おまかせ」以外に設定されているときは、「音声調整」に進みます。

- 2 調整項目を **▲・▼** で選んで **決定** を押す

- 3 以下の手順でお好みの音声に調整する

「お好み調整」や「音声調整」をした場合

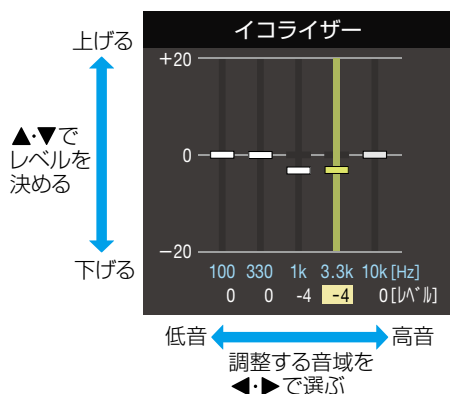
- 調整や設定をすると、そのときに選択していた「音声メニュー」に調整・設定状態が記憶され、「音声メニュー」の表示に「：メモリー」が加わります。
- 調整・設定状態は、入力端子などの区分ごとに記憶されます。たとえば、（放送/再生）の「ダイナミック：メモリー」と（HDMI1）の「ダイナミック：メモリー」は、異なる調整をして記憶させることができます。

イコライザー

- イコライザーで、より詳細に音質を調整できます。
- ① 調整する音域を **◀▶** で選び、**▲・▼** でレベルを変える
 - 調整前の音に戻すには、**青** を押します。
 - お買い上げ時の調整に戻すには、**赤** を押します。

調整例①… 人の声がこもって聞き取りにくい場合は、330Hzのレベルを上げます。

調整例②… バラエティ番組などのにぎやかな感じを抑えたいときは、1kHzと3.3kHzのレベルを下げます。



- 「音声メニュー」が「おまかせ」のときは、音域の選択が「低」、「中」、「高」になります。

サラウンド

- スピーカーのステレオ音声に、広がりを持たせます。
- ※ 「音声メニュー」が「おまかせ」のときは、設定できません。
- ※ 音声多重放送の視聴時に、「主：副」**50%** を選んでいる場合は、効果が得られません。

- ① **▲・▼**でお好みの設定を選び、**決定** を押す
 - ライブサラウンド…ステレオ放送で音に広がりが出ます。
 - シネマサラウンド…ステレオ放送や、接続機器からのドルビーサラウンド信号で、左右への広がりに合わせて、奥行きも加わります。
 - オフ ……………この機能は働きません。

低音強調

- 低音域の強さを設定します。
- ① **▲・▼**でお好みの設定を選び、**決定** を押す

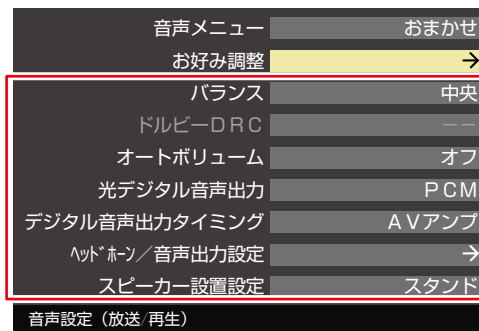
音声メニュー	設定
おまかせ	おまかせ/オフ
おまかせ以外	強/弱/オフ

お好み調整の初期化／音声調整の初期化

- 「お好み調整」、「音声調整」の内容を、お買い上げ時の設定・調整に戻します。
- ① **◀▶**で「はい」を選び、**決定** を押す

その他の音声調整・設定

- 「音声設定」のメニューに表示されている「バランス」、「ドルビーDRC」、「オートボリューム」、「光デジタル音声出力」、「デジタル音声出力タイミング」、「ヘッドホン/音声出力設定」は、項目を選択したあと以下の手順で設定します。



バランス

- 左右のスピーカーの音量バランスを調整します。
- ① **◀▶**でお好みのバランスに調整し、**決定** を押す

お好みの音声に調整する つづき

ドルビー DRC

- コンテンツなどの違いで生じる音量差を減らして聞きやすくなるように、音声レベルが自動的に補正されます。
- HDMI入力端子やホームネットワークに接続した機器から、ドルビーデジタルで記録されたコンテンツが入力された場合にだけ機能します。(機器からドルビーデジタルの音声信号が出力されるよう接続機器側で設定してください)

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- ・ 強…… 音声レベルの補正効果が強く働きます。
- ・ 弱…… 音声レベルの補正効果が弱く働きます。

オートボリューム

- コンテンツなどの違いで生じる音量差を減らして聞きやすくなるように、音声レベルが自動的に補正されます。
- スピーカーで聴く音声に対して効果が得られます。(ヘッドホンが挿入されていて、「ヘッドホン用出力モード」が「主画面モード」のときや、または「コンテンツモード」が「カラオケ」のときは「オフ」になり、設定できません)

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

- ・ オン…… オートボリュームの機能が働きます。
- ・ オフ…… この機能は働きません。

光デジタル音声出力

- 光デジタル音声出力端子から出力する音声信号の設定です。
- オーディオ機器が対応している音声信号については、オーディオ機器の取扱説明書でご確認ください。
- 「デジタルスルー」や「サラウンド優先」の設定でオーディオ機器から音声が出ない場合は、「PCM」に設定してください。

① ▲・▼で信号を選び、決定を押す

光デジタル音声出力

- PCM
- デジタルスルー
- サラウンド優先

- PCM…… 常にリニアPCM信号が出力されます。オーディオ機器がリニアPCM信号のみに対応している場合は、この設定にします。
- デジタルスルー…… コンテンツの音声信号がMPEG-2 AACやドルビーデジタルの場合にその信号が出力されます。それ以外の場合にはリニアPCM信号が出力されます。オーディオ機器がMPEG-2 AACやドルビーデジタル信号に対応している場合に、この設定にすることができます。
- サラウンド優先…… コンテンツの音声信号がMPEG-2 AACやドルビーデジタルのサラウンド音声(5.1chや4.1chサラウンド音声など)の場合にそれらの信号が出力されます。それ以外の場合はリニアPCM信号が出力されます。オーディオ機器がMPEG-2 AACやドルビーデジタルのサラウンド音声に対応している場合は、この設定にすることでサラウンド音声を楽しめます。



- 光デジタル音声出力設定が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC音声の場合には、データ放送の一部の音声(効果音など)が光デジタル音声出力端子から出力されないことがあります。
- ビデオ入力を選択しているときは、光デジタル音声出力端子からは設定にかかわらずリニアPCM信号が出力されます。
- HDMI入力の選択時に、HDMI入力端子が対応していない音声信号が入力された場合は、設定にかかわらず光デジタル音声出力端子から信号は出力されません。(HDMI入力端子が対応している音声信号については、97ページをご覧ください)

デジタル音声出力タイミング

- 光デジタル音声出力端子から出力するデジタル音声信号のタイミングを設定することができます。

① ▲・▼で以下から選び、決定を押す

デジタル音声出力タイミング

- AVアンプ
- アクティブスピーカー

- AVアンプ…… 音声のタイミングを若干早めて出力するモードです。DSP(デジタル信号処理)によって音声が遅れるAVアンプなどのオーディオシステムに接続する場合に選択します。
- アクティブスピーカー…… 映像と音声のタイミングが同時になるモードです。音声が遅れないアクティブスピーカーなどに接続する場合に選択します。



- 映像の遅延が小さい場合、設定を変えても音声のタイミングは変わりません。
- アクティブスピーカーなどでも一部のDSPを搭載している機器は、音声が遅れる場合があります。

ヘッドホン／音声出力設定

- ヘッドホン／音声出力端子の設定をします。
- ① ▲・▼で「ヘッドホン／音声出力設定」を選び、**決定**を押す
 - 以下、「出力モード設定」、「ヘッドホン用出力モード」、「外部スピーカー用出力モード」を設定します。

出力モード設定

- ヘッドホン／音声出力端子に接続する機器にあわせて設定します。
- ※ ヘッドホンで聴くときは、必ず「ヘッドホン用出力モード」に設定してください。
- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す
 - **ヘッドホン用出力モード**：

ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続する場合に選択します。
 - **外部スピーカー用出力モード**：

ヘッドホン／音声出力端子に外部スピーカーなどのアンプを接続する場合に選択します。

ヘッドホン用出力モード

- 「出力モード設定」で「ヘッドホン用出力モード」を選んだときに設定します。
- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す
 - **主画面モード**……ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーからの音が消え、ヘッドホンから音が聞こえます。
 - **副画面モード**……ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーとヘッドホンから音が聞こえます。二画面のときは、副画面の音がヘッドホンから出ます。
 - **親切モード**……ヘッドホン／音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーとヘッドホンから音が聞こえます。二画面のときは、主画面の音がスピーカーとヘッドホンから出ます。

外部スピーカー用出力モード

- 「出力モード設定」で「外部スピーカー用出力モード」を選んだときに設定します。
- ① ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す
 - **固定出力モード**……ヘッドホン／音声出力端子から一定の音量レベルで音声出力されます。
 - **可変出力モード**……ヘッドホン／音声出力端子からの音量をリモコンで調整することができます。

スピーカー設置設定

- テレビの設置状況に合わせた音質に設定します。
- ① ▲・▼で「スピーカー設置設定」を選び、**決定**を押す
- ② ▲・▼で「スタンド」または「壁掛け」を選び、**決定**を押す

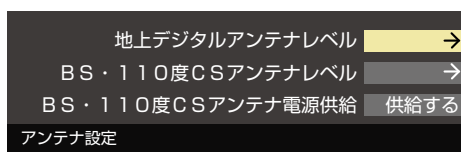
アンテナを調整する

電波の強さ(信号強度)を確認する

- テレビが全く映らない、または画面が乱れるなどの場合は、以下の手順でアンテナレベルを確認します。

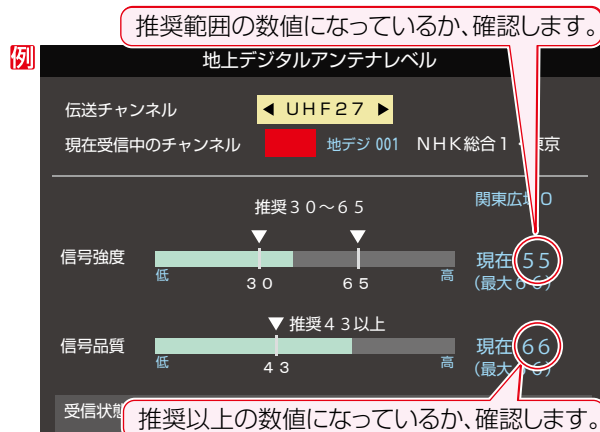
地上デジタル用アンテナの場合

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「地上デジタルアンテナレベル」の順に進む



- 2 **◀▶** で「伝送チャンネル」を選ぶ

- お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選びます。(お買い上げの販売店などにお聞きください)
- **◀▶** を押すたびに以下のように切り換わります。
VHF1~VHF12 ↔ UHF13~UHF62 ↔ CATV13~CATV63
- 信号強度(○印の数値)が推奨範囲内になっているか、信号品質(○印の数値)が推奨の数値以上になっているかを確認します。



BS・110度CS用アンテナの場合

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「BS・110度CSアンテナレベル」の順に進む

- 2 **BS** または **CS** で放送の種類を選ぶ

- 3 **↑↓** でチャンネルを選ぶ

- 無料チャンネルまたは契約済チャンネルを選びます。
- アンテナレベルの数値が推奨の数値以上になっているか確認します。

アンテナを調整する

- アンテナレベルが不足している場合は、「アンテナレベル」の画面を確認しながらアンテナの調整をします。
- ※ 高所での作業は危険です。アンテナの調整については、販売店にご相談ください。

- 1 アンテナをゆっくり動かして、アンテナレベルの数値が最大となるように調整する

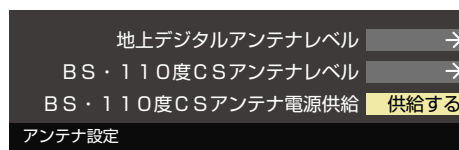
- アンテナレベルが増えると **↗** が表示され、減ると **↘** が表示されます。
- 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認します。

- 2 アンテナを固定して、**決定** を押す

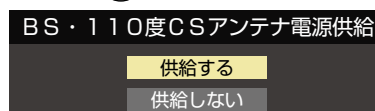
BS・110度CS用アンテナの電源供給の設定を変更する

- BS・110度CS用アンテナは電源を必要とします。
- お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。マンションなどで、他の機器からアンテナに電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「BS・110度CSアンテナ電源供給」の順に進む



- 2 ▲・▼で「供給する」または「供給しない」を選び、**決定** を押す



お知らせ

- 地上デジタルアンテナレベルの信号強度の数値は、受信入力電力を換算したものです。
- 地上デジタルアンテナレベルの信号品質の数値は、受信C/Nを換算したものです。(「受信C/N」とは放送電波と雑音電波の比を表すもので、電波の品質を知るときを目安となります)
- BS・110度CS用アンテナのレベル表示画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示された場合は、電源を切ってから電源プラグを抜き、ショートの原因を取り除いてからもう一度電源を入れてアンテナレベル表示の操作をしてください。
- 「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「切」または「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外はアンテナ電源が供給されません。(BS・110度CSデジタル放送を録画機器単独で録画するときなどは、録画機器からアンテナ電源を供給する必要があります)

チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき

地上デジタルチャンネルを自動で設定する

- 地上デジタル放送には以下の3種類のチャンネル自動設定機能があります。

- 初期スキャン……「はじめての設定」の「① 地上デジタルチャンネル設定」で行われる「初期スキャン」だけをやり直すことができます。
- 再スキャン……放送局が増えたなど、放送チャンネルに変更があったときに、ワンタッチ選局ボタンに設定できます。
- 自動スキャン……本機の電源が「切」や「待機」のときに自動的に探し、変更されたチャンネルがあればワンタッチ選局ボタンに自動で設定されます。

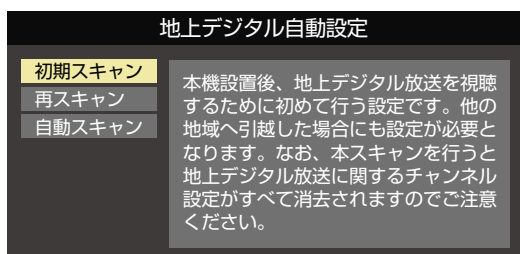
※ 初期スキャンをしていないと、再スキャンや自動スキャンはできません。

初期スキャンをするとき

- 受信可能なチャンネルを本機が探し、ワンタッチ選局ボタン(1～12)に放送の運用規定に基づいて設定します。

- 1 「設定」を押し、▲・▼と決定で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地上デジタル自動設定」⇒「初期スキャン」の順に進む

- 画面の説明をよくお読みください。



- 2 お住まいの地方を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押し

- 3 お住まいの都道府県または地域を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押し

- 下図の画面が表示された場合は「データ放送用メモリの割当て」1637をしてください。

例

放送局の数がデータ放送用のメモリの数を超過しています。メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。			
リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☒ 11	テレ玉	○	あり
☒ 12	テレビ東京	○	あり
☐ --	NHK総合・新潟	○	あり
☐ --	NHKEテレ新潟	○	あり
☐ --	BSN	○	あり

選択した放送局の数：12

- 4 初期スキャン終了の画面が表示されたら、◀・▶で「はい」を選んで決定を押し

- 5 設定内容を確認したら、決定を押し

再スキャンをするとき

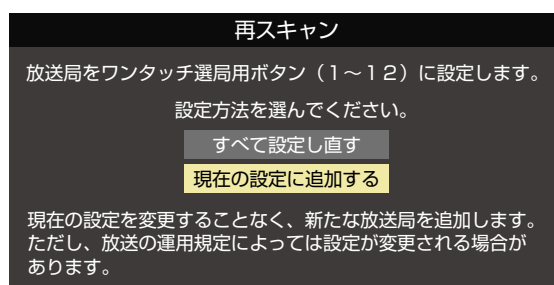
- 新たに放送局が開局してチャンネルが増えた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすればチャンネルを追加設定することができます。

- 1 「設定」を押し、▲・▼と決定で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地上デジタル自動設定」⇒「再スキャン」の順に進む

- データ放送用のメモリー割当画面(左記手順3 参照)が表示された場合は1637をご覧ください。

- 2 下図の画面が表示されたら、▲・▼でどちらかを選び、決定を押し

- 画面の説明を読んで、1～12への設定方法を選びます。



- 3 再スキャン終了の画面が表示されたら、◀・▶で「はい」を選んで決定を押し

- 4 設定内容を確認したら、決定を押し

自動スキャンの設定を変えるとき

- お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定の内容が自動変更されないようにする場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。

- 1 「設定」を押し、▲・▼と決定で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地上デジタル自動設定」⇒「自動スキャン」の順に進む

- 2 ▲・▼で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、決定を押し

チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき つづき

チャンネルをお好みに手動で設定する

- お好みに、リモコンのワンタッチ選局ボタン(**1** ~ **12**)で選局するチャンネルを変更したり、空いているワンタッチ選局ボタンに設定を追加したりすることができます。
- はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、前ページの「初期スキャン」をしてください。「初期スキャン」をしていない状態では「手動設定」はできません。

1 設定 を押し、▲・▼と 決定 で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「手動設定」の順に進む

- 放送の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定するデジタル放送の種類を▲・▼で選び、決定 を押す

3 設定するボタン(**1** ~ **12**)の番号を▲・▼で選び、決定 を押す

- 図は手順2で「地上デジタル」を選んだ場合の例です。



- 地上デジタル以外の放送の場合は、リモコン列の左にグループ列が表示されます。
グループのA、B(BSデジタル放送)、A～F(110度CS)は選局ガイドのグループになります。
グループAはワンタッチ選局ボタンになります。

4 ▲・▼で「チャンネル」を選び、◀・▶で受信チャンネルなどを選ぶ



- ◀・▶を押すと次のように切り換わります。
 - ・「地上デジタル」の場合
「テレビ」↔「データ」
地デジのチャンネルを順に選択
 - ・「BS」の場合
「テレビ」↔「ラジオ」↔「データ」
BSデジタルのチャンネルを順に選択
 - ・「110度CS」の場合は放送メディア(テレビ/ラジオ/データ)の指定はできません。
 - ・ ◀・▶を押し続けると、チャンネルを速く切り換えることができます。

放送メディアを選んだ場合

- 放送メディア(テレビまたはデータまたはラジオ)を選んだ場合は、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルまたは複数のラジオ放送チャンネルが、手順3で選んだ番号のボタンにまとめて設定されます。
- 以下の操作で放送局名を設定します。
- ① ▲・▼で「放送局」を選ぶ
- ② 設定したい放送局名を◀・▶で選ぶ

例 手順2で「地上デジタル」を選び、手順3で「6」を選び、ここで「テレビ」を選んで「放送局」を「TBS」に設定すると、地上デジタル放送視聴時の操作で「6」を押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次に選局できます。

チャンネルを選んだ場合

- 手順3で選んだ番号のボタンに、ここで選んだチャンネルだけが設定されます。
- ※ 「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(放送局名を変えることはできません)。
- 例 手順2で「地上デジタル」を選び、手順3で「6」を選び、ここで「地デジ061」を選ぶと、地上デジタル放送視聴時の操作で「6」を押したときに061チャンネルだけが選局できます。

地デジ難視対策衛星放送を登録する場合

- 手順2で「BS」を選び、手順3で選んだ番号のボタンに地デジ難視対策衛星放送のチャンネルを設定します。
- 例 手順2で「BS」を選び、手順3で「4」を選び、ここで「BS294」を選ぶと、「BS グループA」視聴時の操作で「4」を押したときに地デジ難視対策衛星放送の「日本テレビ」が選局できます。
- ※ お買い上げ時に設定されていた「BS日テレ」のワンタッチ選局はできなくなります。

5 設定が終わったら▲・▼・◀・▶で「設定完了」を選び、決定 を押す

- ※ 「設定削除」を選ぶと、そのボタンの設定を削除することができます。「チャンネル」の欄が「---」の表示になります)
- 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3～5を繰り返します。

視聴しないチャンネルをスキップする

-  で選局するときに、視聴しないチャンネルを飛ばすことができます。
- 「スキップ」に設定したチャンネルは番組表  に表示されません。また、番組検索  の対象になりません。

1 を押し、▲・▼と で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「チャンネルスキップ設定」の順に進む

- 放送の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定する放送の種類を▲・▼で選び、 を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを▲・▼で選び、 を押す

 チャンネルスキップ設定 地上デジタル

チャンネル	放送局	スキップ
 地デジ011	NHK総合1・東京	 受信
 地デジ012	NHK総合2・東京	 受信
 地デジ021	NHKEテレ1東京	 受信
 地デジ022	NHKEテレ2東京	 スキップ
 地デジ023	NHKEテレ3東京	 スキップ
 地デジ031	テレ玉1	 受信

手順2で「地上デジタル」を選んだ場合

-  を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。
- 放送メディア(テレビ／ラジオ／データ)を変えるときは  を押します。
- 他のチャンネルの設定をする場合は、手順3の操作を繰り返します。(違う放送のチャンネルを設定する場合は  を押し、手順2からの操作を繰り返します)

チャンネル設定を最初の状態に戻すには

- すべてのチャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。
- チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。受信するには、「初期スキャン」 をしてください。
- この操作をしても、「データ放送用メモリーの割当て」 や、双方向サービスの利用で本機に記憶された住所・氏名、ポイント数などの利用者個人の情報はそのままです。

1 を押し、▲・▼と で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「チャンネル設定の初期化」の順に進む

- 確認画面が表示されます。

2 ◀▶で「はい」を選び、 を押す



■ チャンネルスキップ設定について

- 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。
- 放送局の代表チャンネルを「スキップ」に設定すると、その放送局の代表チャンネル以外のチャンネルもスキップされます。代表チャンネル以外のチャンネルを「スキップ」に設定した場合は、代表チャンネルは選局できます。

データ放送の設定をする

郵便番号と地域を設定する

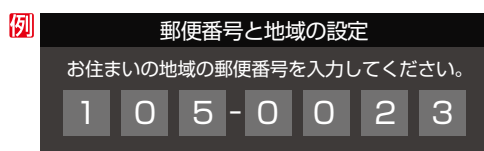
- お住まいの地域に応じたデータ放送や緊急警報放送などを視聴するための設定です。
- 「はじめての設定」で設定した状態から変更したいときに以下の操作をします。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「データ放送設定」⇒「郵便番号と地域の設定」の順に進む

- 郵便番号の入力画面が表示されます。

2 お住まいの地域の郵便番号を **1** ~ **10** (0) で入力し、**決定** を押す

- 上3ケタを入力して **決定** を押すと、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。



3 該当する地方を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押す

- 「設定しない」を選んだ場合は、これで終わりです。

4 該当する地域を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押す

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

災害発生時に文字情報を表示させる

- デジタル放送には文字スーパー表示機能があり、災害時の速報などに使用されます。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、表示する言語を選択することができます。
- お買い上げ時は、文字スーパーが日本語優先で表示されるように設定されています。

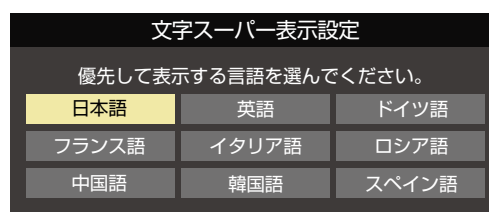
1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「データ放送設定」⇒「文字スーパー表示設定」の順に進む

- 「文字スーパー表示設定」の画面が表示されます。

2 ▲・▼で「表示する」を選び、**決定** を押す

- 「表示しない」を選んだ場合、操作はこれで終わりです。災害時などの速報は表示されません。

3 優先する言語を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押す



ルート証明書の番号を確認する

- 地上デジタル放送の双方向サービスで、本機と接続するサーバーの認証をする際に使用されるルート証明書の番号を確認することができます。
- ルート証明書は地上デジタル放送で放送局から送られます。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「データ放送設定」⇒「ルート証明書番号」の順に進む

- ルート証明書番号のリストが表示されます。

2 ルート証明書番号を確認し、**決定** を押す



- **ルート証明書** サーバーを認証する第三者機関(認証局)を証明するものです。この証明書をもとにして、「サーバ証明書」のデジタル署名を検証し、「サーバ証明書」が信頼できることを確認します。



郵便番号と地域の設定について

- データ放送を視聴している状態で設定を変更した場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を選局し直してください。

文字スーパー表示の設定について

- 設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示されます。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。
- 「表示しない」を選択した場合でも、災害時などの速報は、放送局指定により放送受信時に強制表示することがあります。

データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら

- 「はじめの設定」の「地上デジタルチャンネル設定」や、「初期スキャン」**159**の手順**3**、「再スキャン」**159**の手順**1**でデータ放送用メモリーの割当画面が表示された場合は、以下の手順で設定します。

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割当てについて

- 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があります、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当画面（下の手順**1**の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。
- メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。

1 メモリーを割り当てる放送局を▲▼で選び、決定を押す

- 選んだ放送局にチェックマーク☑がつきます。もう一度決定を押すと、指定が取り消されます。
- ワンタッチ選局ボタン（**1**～**12**）に設定されている放送局については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。
- このあと、手順**2**～**4**の操作をすると、メモリー割当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。

例

初期スキャン			
放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。			
リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☒ 11	テレ玉	○	あり
☒ 12	テレビ東京	○	あり
☐ --	NHK総合・新潟	○	あり
☐ --	NHKEテレ新潟	○	あり
☐ --	BSN	○	あり
選択した放送局の数：12			

2 手順1を繰り返し、九つの指定をする

- **1**～**12**については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

3 ▶を押す

- 手順**4**の画面になります。（確認メッセージが表示されます）
- 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。
決定を押したあと、手順**1**～**2**の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀▶で「はい」を選び、決定を押す

- 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、ここでの設定をする前の場面に自動的に戻ります。
指定以外の放送局の個人の情報はすべて消去されます。



5 このページの設定をする前の操作を続ける

- 「初期スキャン」の場合
「初期スキャン」**159**の手順**4**へ
- 「再スキャン」の場合
「再スキャン」**159**の手順**2**へ

視聴できる番組を制限する

制限するために暗証番号を設定する

- 暗証番号は、インターネット利用時の閲覧制限機能を使用したり、視聴年齢制限のある番組を見たりするときに必要です。
- 暗証番号を設定した場合には、暗証番号の変更・削除および「すべての初期化」[167]をするときにも暗証番号の入力が必要になります。



- 暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にご連絡ください。
- ※ 必要としない場合は、登録しないことをおすすめします。

1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「機能設定」⇒「視聴制限設定」⇒「暗証番号設定」の順に進む

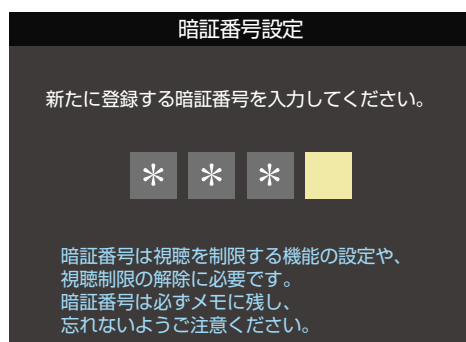
- 暗証番号の入力画面が表示されます。

2 暗証番号を変更する場合は、変更前の暗証番号を [1] ～ [10] (0) で入力する

- 新規設定の場合、この手順はありません。

3 登録したい暗証番号を [1] ～ [10] (0) で入力する

- 間違えて入力した場合は、◀を押し、もう一度入力します。
- 入力した数字は画面には「*」で表示されます。



重要

登録した暗証番号はメモするなどして、なくさないように保管してください。

4 [1] ～ [10] (0) でもう一度同じ暗証番号を入力する

5 確認画面で [決定] を押す

暗証番号を削除するとき

1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「機能設定」⇒「視聴制限設定」⇒「暗証番号削除」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 [1] ～ [10] (0) で暗証番号を入力する

3 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、[決定] を押す

番組の視聴を制限する

- デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されています。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
- お買い上げ時には、番組の視聴制限は設定されていません。
- 暗証番号を設定していない場合は、先に暗証番号を設定します。

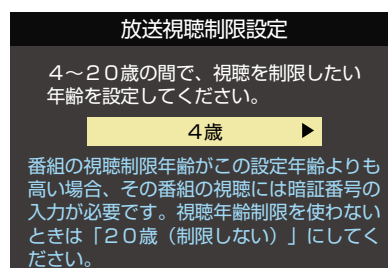
1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「機能設定」⇒「視聴制限設定」⇒「放送視聴制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 [1] ～ [10] (0) で暗証番号を入力する

3 ◀▶で年齢を設定し、[決定] を押す

- 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
- 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳(制限しない)」に設定します。



- 視聴時の動作および必要な操作は以下のとおりです。

番組の制限年齢が設定した年齢よりも上の場合

- メッセージが表示されます。
- [決定] を押し、[1] ～ [10] (0) で暗証番号を入力します。

視聴年齢制限が設定されていない場合

- 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
- [決定] を押し、設定が必要な項目を設定します。

インターネットの利用を制限する

- ネットワークサービスを使用する際に、青少年を有害サイトから保護することを意図した以下の閲覧制限機能を使用することができます。
- 「レグザ版あんしんねっと」のフィルタリングによるアクセス制限(プロキシ制限機能)と、アクセス先にかかわらずブラウザ起動時にパスワードで利用を制限する機能(パスワードロック機能)の2種類があります。
- 暗証番号を設定していない場合は、先に前ページの手順で暗証番号を設定します。

レグザ版あんしんねっと設定(プロキシ制限機能)

- 閲覧できるサイトを制限することができます。
- 右記の「ブラウザ制限設定」を「制限する」に設定している場合は、この設定はできません。

1 を押し、▲・▼と で「機能設定」⇒「視聴制限設定」⇒「インターネット制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 1 ~ 10 (0) で暗証番号を入力する

3 ▲・▼で「レグザ版あんしんねっと設定」を選び、 を押す

4 ▲・▼で「レグザ版あんしんねっと」を選び、 を押す

5 ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、 を押す

- 「使用しない」に設定した場合は、 を押します。

6 「ご利用上の注意」を読み、同意する場合は◀▶で「はい」を選んで を押す

- 「いいえ」を選択した場合は、 を押します。

7 ▲・▼で「閲覧設定」を選び、 を押す

8 制限するレベルを▲・▼で選び、 を押す

- 設定するレベルに応じて、それぞれ以下のサイトの閲覧が制限されます。
- 小学生以下……有害サイト、ウェブメール、掲示板、チャット、ブログ、ショッピング
- 中学生……有害サイト、ウェブメール、掲示板、チャット
- 高校生……有害サイトのみ
- 大人……フィッシング詐欺サイトのみ

※ インターネットの利用時に、パスワードを使って一時的に閲覧設定を「大人」に変更することができます。詳しくは、「一時的に閲覧制限を変更するとき」 をご覧ください。

「レグザ版あんしんねっと」について

「レグザ版あんしんねっと」はYahoo! JAPANが運営する「Yahoo!あんしんねっと」のフィルタリング用URLデータベースを使用したサービスです。

有害サイトの判定にあたっては、利用者がリクエストしたURL情報がYahoo! JAPANに送付されることをあらかじめご了承ください。(Yahoo! JAPANのプライバシーの考え方については、<http://privacy.yahoo.co.jp/> をご参照ください)

ブラウザ制限設定(パスワードロック機能)

- ネットワークサービスを使用する際に、暗証番号の入力が必要となるように設定することができます。
- 左記の「レグザ版あんしんねっと」を「使用する」に設定している場合は、この設定はできません。

1 を押し、▲・▼と で「機能設定」⇒「視聴制限設定」⇒「インターネット制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 1 ~ 10 (0) で暗証番号を入力する

3 ▲・▼で「ブラウザ制限設定」を選び、 を押す

4 ▲・▼で「制限する」または「制限しない」を選び、 を押す

- 制限する……ネットサービスを起動したときに、暗証番号の入力が必要です。
- 制限しない……暗証番号入力不要です。

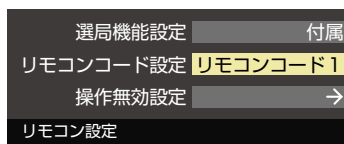
リモコンの設定を変更する

2台のREGZAをそれぞれのリモコンで操作する

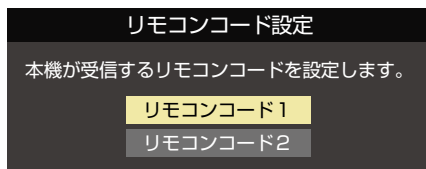
- 同じ室内で東芝製のテレビを2台使用している場合などに、リモコンを操作すると2台とも反応してしまうことがあります。このような場合、リモコンコードの設定を変えれば1台だけが操作できるようになります。

※ 必ず以下の手順で操作してください。手順が異なるとリモコン操作ができなくなります。

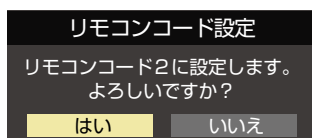
- 1 **設定** を押し、**▲・▼**と**決定**で「機能設定」⇒「リモコン設定」⇒「リモコンコード設定」の順に進む



- 2 **▲・▼**で「リモコンコード1」または「リモコンコード2」を選び、**決定**を押す



- 3 **◀▶**で「はい」を選び、**決定**を押す



- 今までと異なるコードに設定した場合、次の手順4で終わるまでの間リモコン操作ができなくなります。

- 4 **決定**を押したままで、**1**または**2**を約2秒間以上押し続ける

- 手順2～3で「リモコンコード1」に設定した場合は**1**を、「リモコンコード2」に設定した場合は**2**を押し続けます。

※ この操作ができるのは、付属のリモコンだけです。

- 5 リモコンでテレビが操作できることを確認する

リモコンの乾電池を取りはずした場合(電池交換などの際)、「リモコンコード1」になることがあります。

- ※ 右記のBS・CSワンタッチ選局ボタン付リモコンを使用する場合、テレビ本体側は「リモコンコード1」(お買い上げ時の設定)にしてください。



- テレビ本体とリモコンのリモコンコードが一致していない場合、電源が「待機」のときにリモコンの**電源**を押すと、本体の「電源」表示が赤色に点滅します。その場合は、リモコンまたは本体のリモコンコードを変更してください。

テレビ本体のボタンで設定するとき

- テレビ本体のリモコンコードを、本体の操作ボタンを使って以下の手順で設定することもできます。

- 1 本体の**機能切換**を押し続ける
 - 「リモコンコード設定」のメニュー画面が表示されたらボタンから手を離します。

- 2 **音量**でリモコンコードを選び、**機能切換**を押す

- 3 **音量**で「はい」を選び、**機能切換**を押す

使わない放送選択ボタンの操作を無効にする

- リモコンの放送選択ボタン**地デジ**、**BS**、**CS**のうち、使用しないボタンの操作を無効にすることができます。

- 1 **設定** を押し、**▲・▼**と**決定**で「機能設定」⇒「リモコン設定」⇒「操作無効設定」の順に進む

- 2 **▲・▼**でボタンを選び、**決定**を押す

操作無効設定	
ボタン	操作
地デジ	有効
BS	有効
CS	有効

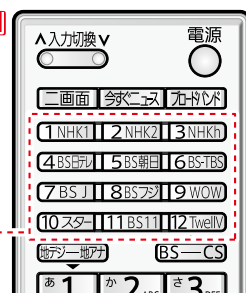
- **決定**を押すたびに「有効」と「無効」が交互に切り換わります。

BS・CSワンタッチ選局ボタン付リモコンで選局できるようにする

- 東芝レグザシリーズ用のBS・CSワンタッチ選局ボタン付リモコンがある場合に、そのリモコンで選局できるように設定できます。

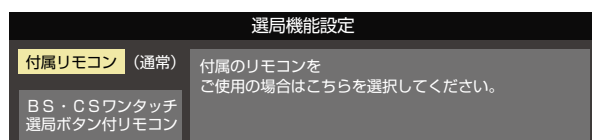
- ※ 本機に機能のないボタンは使用できません。

BS・CSワンタッチ選局ボタン



- 1 **設定** を押し、**▲・▼**と**決定**で「機能設定」⇒「リモコン設定」⇒「選局機能設定」の順に進む

- 2 **▲・▼**でどちらかを選び、**決定**を押す



お買い上げ時の設定に戻すには（設定内容を初期化するには）

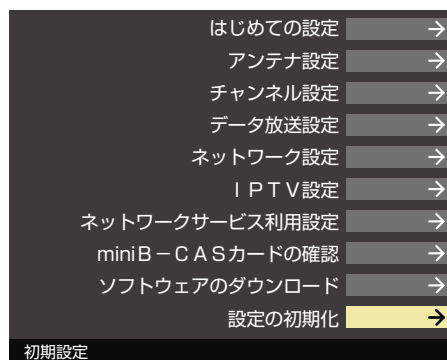
● お買い上げ時の設定(工場出荷設定)に戻す方法は3種類あります。目的に合わせて操作してください。



※ 初期化をすると初期化前の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

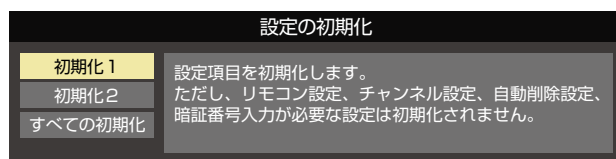
項 目	内 容
初期化1	● 以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の設定に戻します。 ・「チャンネル設定」 ・「視聴制限設定」の「暗証番号設定」、「放送視聴制限設定」 ・「リモコンコード設定」 ・USBハードディスクの「自動削除設定」
初期化2	● 以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の設定に戻します。 ・「視聴制限設定」の「暗証番号設定」、「放送視聴制限設定」 ・「リモコンコード設定」 ・USBハードディスクの「自動削除設定」
すべての初期化	● 本機に設定された「リモコンコード設定」以外のすべての内容をお買い上げ時の状態に戻します。 ※ この初期化は、データ放送の個人情報(住所、氏名、視聴ポイント数など)、ネットワークサービスの登録情報などについてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合にのみ行ってください。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」
⇒「設定の初期化」の順に進む



2 ▲・▼で「初期化1」、「初期化2」、または「すべての初期化」を選び、**決定** を押す

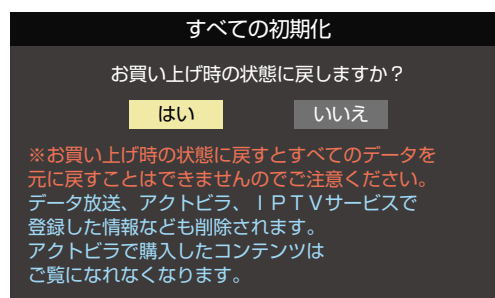
● 初期化される項目の内容は、上の表をご覧ください。



すべての初期化をする場合

● 暗証番号を設定している場合は暗証番号入力画面が表示されます。暗証番号を入力します。

3 初期化する場合は◀▶で「はい」を選び、**決定** を押す

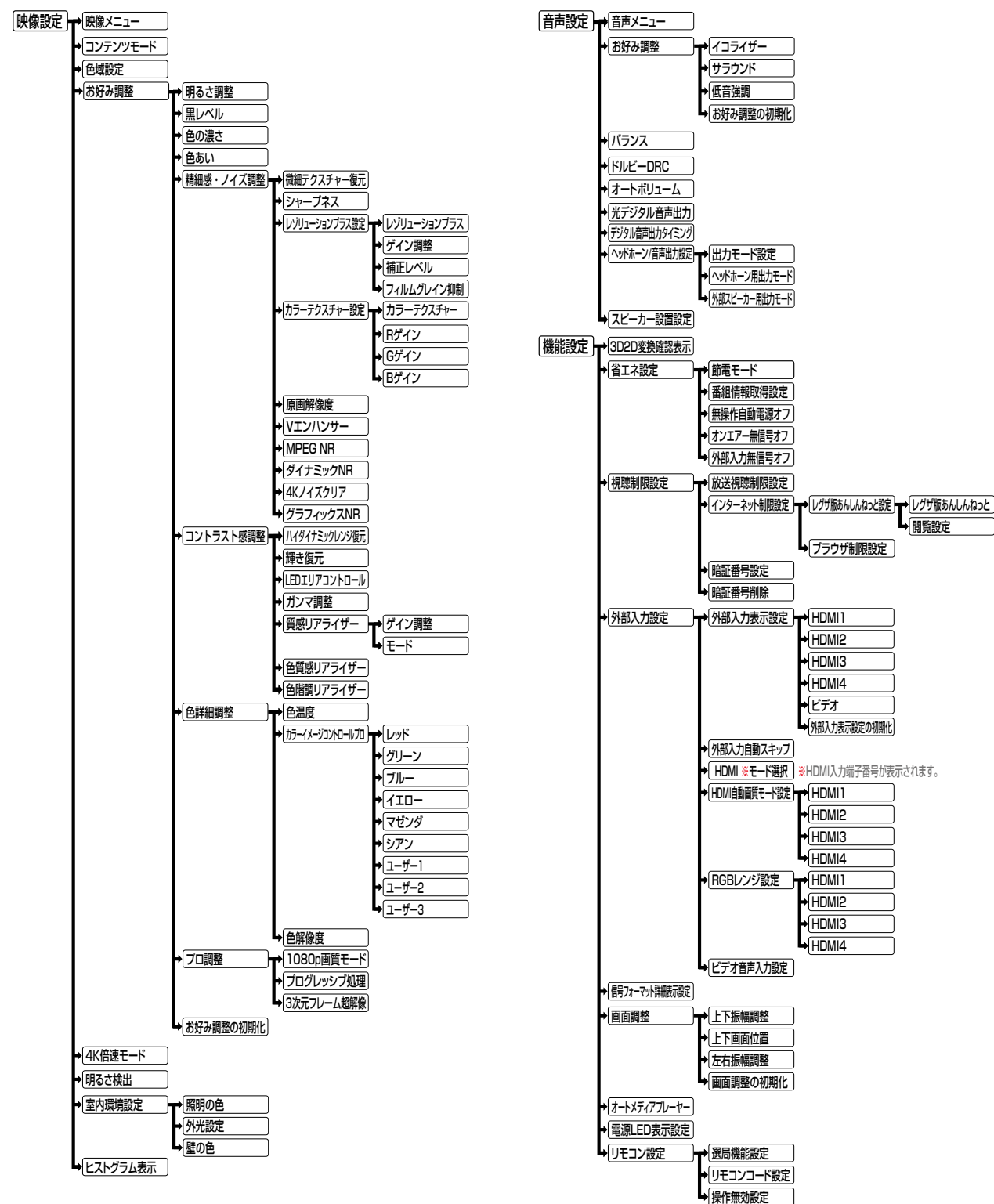


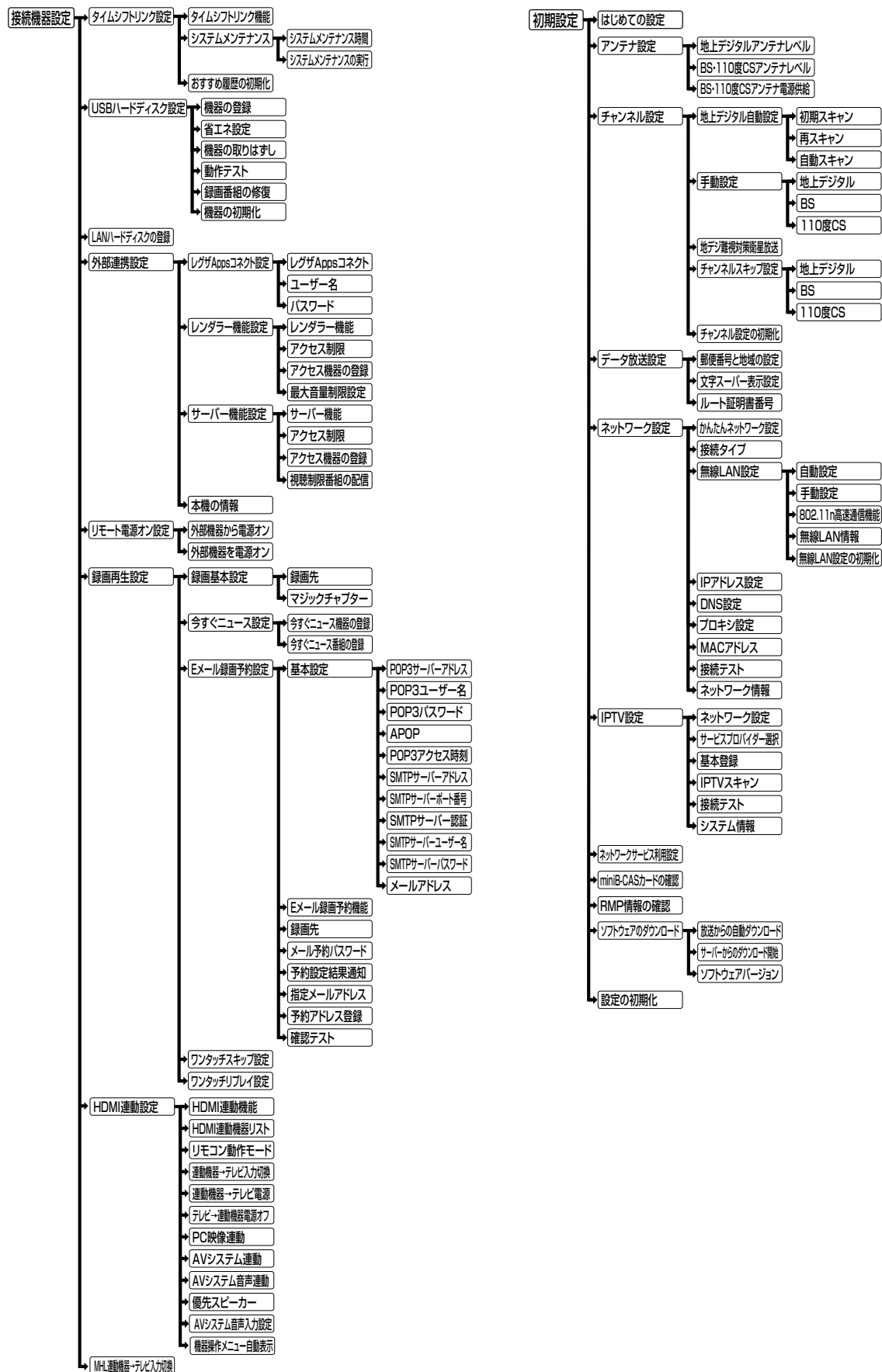
4 初期化終了の画面が表示されたら、以下の操作をする

- 「初期化1」、「初期化2」の場合は **決定** を押します。
- 「すべての初期化」の場合は電源を切ります。

設定メニュー 一覧

- 設定メニュー 一覧を下図に示します。
- メニューに表示される項目や項目名、選択できる項目などは、設定状態や接続機器の有無などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄くなって表示されます。
- 「映像設定」のメニューは、「映像メニュー」で「おまかせ」を選んでいる場合の内容です。





こんな場合は故障ではありません

悪天候でのBS・110度CSデジタル放送の受信障害

- 降雨や降雪などで電波が弱くなったときには、映像にノイズが多くなったり、映らなくなったりすることがあります。
- 天候が回復すれば正常に映るようになります。

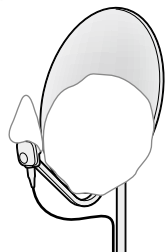
大雨が降っている



大雪が降っている

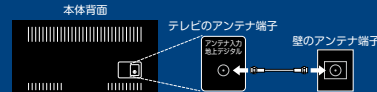


アンテナに雪が積もっている



放送が受信できません。

1. テレビ背面と壁面のアンテナ線の接続を確認してください。



BS・110度CSアンテナ線を接続する場合は、地デジのアンテナ線と接続先を間違えないようにご注意ください。

2. リモコンで見たい放送（**地デジ** **BS** **CS**）ボタンを押してください
3. リモコンの**音**ボタンを押してアンテナレベルを確認してください

詳細は取扱説明書のエラーメッセージの項目をご確認ください。

コード：E202

本機内部からの動作音

- 電源待機時に番組情報取得などの動作を開始する際、「カチッ」という音が聞こえることがあります。
- 「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえることがあります。

キャビネットからの「ピシッ」というきしみ音

- 「ピシッ」というきしみ音は、部屋の温度変化でキャビネットが伸縮するときに発生する音です。画面や音声などに異常がなければ心配ありません。

使用していないのに温まる

- 使用していない場合でも、番組情報取得などの動作をしているときなどは、本機の温度が多少上昇します。

症状で調べる

症状に合わせて解決法を調べる

- テレビが正しく動作しないなどの症状があるときは、以降の記載内容から解決法をお調べください。
- 解決法の対処をしても症状が改善されない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 表の「ページ」の欄は関連事項が記載されているページです。

テレビが操作できなくなったとき—テレビをリセットする

- リモコンでもテレビ本体の操作ボタンでも操作できなくなった場合は、以下の操作を試してみてください。

電源プラグを抜いてリセットする	本体の電源ボタンを長押ししてリセットする
① 電源プラグをコンセントから抜く ② 1分間以上待つ ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける 4秒以上押し続ける ② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す ● しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。

操作

電源がはいらない

確認すること	解決法・その他	ページ
電源プラグが抜けていませんか。	• 電源プラグをコンセントに差し込みます。	—
「電源」表示が消えていませんか。	• 本体の電源ボタンを押して電源を入れます。 ※「電源」表示が消えているときは、リモコンで電源を入れることはできません。	28
「電源」表示が赤色に点滅していますか。	• 電源プラグをコンセントから抜き、一分以上たってからもう一度コンセントに差し込みます。	—

リモコンで操作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
リモコンとテレビ本体のリモコン受光部の間に障害物はありませんか。	• 障害物を取り除きます。 リモコン受光部の位置は、右記のページでご確認ください。	27
リモコンの乾電池が消耗していませんか。	• 新しい乾電池に交換します。	27
リモコンの乾電池の向き(+、-)が合っていますか。	• 向き(+、-)を確認し、正しく入れてください。	27
本体のボタンでは操作ができますか。	• 上記の対処をした上で、なおリモコンだけで操作ができない場合は、リモコンの故障が考えられます。	—

映像

放送の映像が出ない、またはきれいに映らない

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナ線がはずれていたり、切れていたり、ショートしたりしていませんか。	• アンテナ線を確認して正しく接続します。 ※屋外の接続については、販売店にご相談ください。	25
アンテナ線プラグの芯線が曲がっていませんか。	• 確認して、まっすぐにします。(折らないようにご注意ください)	—
アンテナ線プラグの芯線が折れたり、短くなっていたりしていませんか。	• アンテナ線を交換します。	—
レコーダーなどを經由してアンテナ線を接続していませんか。	• アンテナ線を本機に直接接続して映像が出る場合は、本機の故障ではありません。 • アンテナ線を分配して接続します。	—
電波が弱くありませんか	• アンテナレベルを確認します。 • アンテナの向きを調整してみます。(販売店にご相談ください)	158
アンテナ線の差込みがゆるんでいたたり、接触不良になっていたたりしていませんか。	• 確認して、しっかりと接続します。	25
アンテナ線(端子)がさびていませんか。	• 販売店にご相談ください。	—

接続した機器の映像が出ない、またはきれいに映らない

確認すること	解決法・その他	ページ
機器が正しく接続されていますか。	• 確認して正しく接続します。	96
機器の電源がはいっていますか。	• 機器の電源を入れます。	—
接続した機器の入力に切り換えましたか。	• リモコンの 入力切換 で、外部機器を接続した入力端子を選びます。	46
HDCP2.2で著作権保護されている映像信号を、HDMI入力1、2、4端子で入力していませんか。	• 著作権保護技術HDCP2.2に対応しているのは、HDMI入力3端子になります。 HDCP2.2で著作権保護されているコンテンツを再生する4K映像機器(4Kチューナーなど)は、本機のHDMI入力3端子に接続します。	97

症状に合わせて解決法を調べる つづき

画面が暗い、または暗くなるときがある

確認すること	解決法・その他	ページ
部屋の明るさに合った適切な映像メニューや調整になっていますか。	- 明るい部屋では、「あざやか」や「おまかせ」を選択してみます。 「バックライト」や「明るさ調整」で適切な明るさに調整します。	145 146
映像メニューが「おまかせ」の場合、明るさセンサーの前に障害物がありませんか。	- 明るさセンサーの前から障害物を取り除きます。 ※ 映像メニューが「おまかせ」の場合は、明るさセンサーで検出した周囲の明るさに合わせて、画面の明るさが自動調整されます。	18

色がおかしい

確認すること	解決法・その他	ページ
お好みの映像メニューや映像調整になっていますか。	- 視聴している番組や映像に合わせて、お好みの映像メニューを選択します。 - お好みの映像に調整することもできます。	145

音声

音が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
音量が最小になっていませんか。	 で音量を上げます。	34
画面に「消音」マークが表示されていませんか。	 を押すと消音を解除できます。 ( でも解除されます)	34
「外部スピーカーで聴く」になっていませんか。	サブメニューの「スピーカー切替」で「テレビのスピーカーで聴く」に設定します。	53

地上デジタル放送

地上デジタル放送が映らない、または映像が乱れる

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナレベルが推奨値以下ではありませんか。	- サブメニューの「その他の操作」の「アンテナレベル表示」でアンテナレベルを確認します。 ※ 推奨値よりも低い場合は、放送を受信できない場合があります。お買い上げの販売店にご相談のうえ、アンテナの向きを確認・調整してください。	158
「初期スキャン」をしましたか。	「初期スキャン」をします。	159
お住まいの地域は地上デジタル放送の受信可能エリアですか。	社団法人デジタル放送推進協会のホームページ(www.dpa.or.jp/)で確認することもできます。	—
共聴システムやCATVをご利用の場合、地上デジタル放送のパススルー方式に対応していますか。	CATVの場合はご契約のCATV会社に、その他の場合は共聴システムの管理者にお問い合わせください。(CATVがパススルー方式でない場合はCATV用チューナーが必要な場合があります)	—

引越しをしたら、地上デジタル放送が映らなくなった

確認すること	解決法・その他	ページ
引越し後、「初期スキャン」または「再スキャン」をしましたか。	- 県外に引越しをした場合は、「初期スキャン」をします。 - 県内で引越しをした場合は、「再スキャン」をします。	159

BS・110度CSデジタル放送

BS・110度CSデジタル放送が映らない、または映像が乱れる

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナ接続に分配器を使用していますか。	・ 分配器は「全端子通電型」のものを使用します。	26
有料放送ではありませんか。	・ 有料放送を視聴するには契約が必要です。視聴の申込みや視聴料金などについては、放送事業者にご相談ください。 ※ 同梱の「ファーストステップガイド」をご覧ください。	—
マンションなどで、壁のアンテナ端子が一つだけになっていますか。	・ 視聴できる放送の種類についてマンションなどの管理会社にご確認ください。 ・ ご自身で確認する場合は、アンテナ線を本機のBS・110度CSアンテナ入力端子に直接接続してみます。(地上デジタル放送を確認する場合は、地上デジタルアンテナ入力端子へ) ・ BS・110度CSデジタル放送と地上デジタル放送の両方が受信できる場合は、分波器を使用してアンテナ線をBS・110度CSアンテナ入力端子と地上デジタルアンテナ入力端子に接続します。	26

番組表

番組表に内容が表示されない

確認すること	解決法・その他	ページ
電源プラグを抜いていませんか。	・ 電源プラグをコンセントに差し込んでおきます。 ・ 「番組表を更新する」の操作をします。	— 39

番組表の文字が小さい

確認すること	解決法・その他	ページ
—	・ 番組表を表示中に 赤 を押して、文字の大きさを変更することができます。	40

放送局のすべてのチャンネルが表示されない

確認すること	解決法・その他	ページ
「1チャンネル表示」にいませんか。	・ 番組表のサブメニューで「マルチ表示」を選択します。	40
「チャンネルスキップ設定」で「スキップ」に設定していませんか。	・ 「チャンネルスキップ設定」で「受信」に設定します。	161

お知らせアイコン が消えない

確認すること	解決法・その他	ページ
「お知らせ」の内容を確認しましたか。	・ サブメニューの「その他の操作」⇒「お知らせ」で内容を確認します。 ※ 未読のお知らせが1件でも残っていると、アイコンは消えません。	183

録画・再生

USBハードディスクが使用できない(認識されない)

確認すること	解決法・その他	ページ
本機で接続確認済のUSBハードディスクですか。	・ 本機で接続確認済のUSBハードディスクはホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) でお知らせしています。 ※ 本機で接続確認済の機器でない場合は、使用できないことがあります。	—
機器が正しく接続されていますか。	・ 「USBハードディスクを接続する」に従って、正しく接続します。	57
機器の電源がはいっていますか。	・ USBハードディスクの電源を入れます。 ※ USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。	—
機器が本機に登録されていますか。	・ USBハードディスクを本機に登録します。	58

症状に合わせて解決法を調べる つづき

確認すること	解決法・その他	ページ
USBハブを使用している場合、本機で使えるようになっていませんか。	- ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)でUSBハブが推奨機器であることを確認します。 ※ 推奨機器でない場合は使用できないことがあります。「USBハードディスクを接続する」の「お知らせ」をご覧ください。 ※ USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。	—

録画ができない、または録画されなかった

確認すること	解決法・その他	ページ
USBハードディスクの残量が足りていませんか。	- 残量を確認する。 - 不要な番組を削除する。 「自動削除設定」を「削除する」に変更する。	88 87
コピー禁止の番組ではありませんか	録画はできません。	—
外部入力からの番組、独立データ放送番組、外部機器からの映像、ネットサービスの映像などではありませんか。	本機は左記の番組や映像の録画には対応していません。	—
予約した番組の放送時間が繰り上げられませんでしたか。	- 本機は放送時間が繰り上げられた番組の録画はできません。 ※ 「詳細設定」の「放送時間」を「連動する」に設定した場合でも、放送時間の繰り上げには対応できません。	78
連ドラ予約の場合、「追跡基準」、「追跡キーワード」は正しく設定されていますか。	「詳細設定」で「追跡キーワード」を正しく設定します。 ※ 1回限りのキーワード(「第〇〇話」や出演者名など)を削除します。	78
「お知らせ」のアイコンが表示されていませんか。	- サブメニューの「その他の操作」⇒「お知らせ」で内容を確認します。 ※ 番組の重複や、放送時間の変更などで録画できなかった場合は、「本機に関するお知らせ」が発行されます。	183

録画した番組が消えた

確認すること	解決法・その他	ページ
「自動削除設定」が「削除する」になっていませんか。	「自動削除設定」を「削除しない」に設定する。 - または、消したくない番組を保護する。	87
録画中に電源プラグや接続ケーブルを抜きましたか。	- 録画中や録画設定をしたときは電源プラグを抜かない。 ※ 左記の場合、録画中の番組は残りません。また、録画したすべての番組が消えることがあります。 「録画番組を修復する」の操作をすれば、録画された内容を再生できるようになることがあります。	84

ホームネットワークの機器が認識されない、再生できない、映像が止まったりノイズが出る

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	- ルーターを通して正しく接続します。 - 配信機器と本機を無線LANで接続しているときに、配信機器からの映像が止まったり、ノイズが出たりする場合は、無線LANのアクセスポイントと本機の設定が正しく設定しているか確認します。設定が正しいと確認できたあとも、映像が止まったり、ノイズが出る場合は、以下の操作を試みてください。 ① 本機と無線LANアクセスポイントの電源を「切」にする ② 本機と無線LANアクセスポイントの電源プラグ(またはACアダプター)をコンセントから抜く ③ 1分間以上待つ ④ 本機と無線LANアクセスポイントの電源プラグ(またはACアダプター)をコンセントに差し込む ⑤ 本機と無線LANアクセスポイントの電源を「入」にする - 映像が止まったり、ノイズが出たりしないか確認します。 それでも解消されない場合は、有線LANで接続してください。	65
ルーターから機器に対してプライベートアドレスが割り当てられるようになっていませんか。	ルーターの取扱説明書を参照し、プライベートアドレスが機器と本機に割り当てられるように設定します。	—
本機のネットワーク設定および接続機器はIPアドレスを自動取得する設定になっていますか。	「IPアドレス自動取得」を「する」に設定します。 ※ 機器側については、機器の取扱説明書に従って確認・設定してください。	132

確認すること	解決法・その他	ページ
ネットワークメディアサーバーのアクセス制限は正しく設定されていますか。	- 機器がMACアドレスによるアクセス制限をしている場合は、機器の取扱説明書を参照し、本機のMACアドレスを許可するように設定します。 ※ 本機のMACアドレスは、ネットワーク設定のメニューで確認することができます。	— 133
無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」になっていませんか。	無線LANをご使用の場合、暗号設定が「暗号なし」のときにはデジタル放送などの著作権保護付コンテンツをホームネットワーク上で視聴することができません。著作権保護無しのコンテンツを取り扱う場合も無線LANのセキュリティ設定を行うことを強く推奨します。	—
本機が再生できる種類のコンテンツですか。	本機で対応しているフォーマットで機器から出力できるか、機器の取扱説明書で確認します。	190

ほかのレグザで再生できない

確認すること	解決法・その他	ページ
—	USBハードディスクに録画した番組は、録画したテレビでしか再生できません。(同じ形名のほかのテレビでも再生できません)	—

録画番組が伏せ字で表示された

確認すること	解決法・その他	ページ
録画中やダビング中に電源プラグや接続ケーブルを抜きませんでしたか。	録画やダビングが正しく終了しなかった場合、録画番組に暗証番号を設定することがあります。暗証番号を入力して、視聴制限一時解除を行ってください。	164

レグザリンク機能(HDMI連動)

機器を接続しても連動動作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	- HDMIロゴ表示のついた規格に合ったHDMIケーブルで正しく接続します。 ※ はじめてレグザリンク対応のHDMI連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。	96
推奨機器(対応機器)ですか。	- ホームページ www.toshiba.co.jp/regza/ でお知らせしています。 ※ 推奨機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。本機のリモコンで操作できないときは、機器のリモコンで操作してください。	—
本機と接続機器の設定は正しいですか。	- 接続機器側の連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください) - 本機の「接続機器設定」にある「HDMI連動機能」を確認します。	—

オーディオ機器に接続されているスピーカーから音が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続機器側の設定は正しいですか。	オーディオ機器側の連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください)	—
本機の設定やスピーカーの選択は正しいですか。	「HDMI連動設定」の「AVシステム連動」を「使用する」に設定します。また、「HDMI連動設定」の「優先スピーカー」を「AVシステムスピーカー」に設定しておくと、オーディオ機器の電源が「入」のときは、オーディオ機器のスピーカーから音声が出力されます。 - サブメニューの「スピーカー切替」で「AVシステムのスピーカーで聴く」に切り換えます。	105 109

症状に合わせて解決法を調べる つづき

クラウドサービスやネットワークサービスが利用できない

確認すること	解決法・その他	ページ
プロバイダーなどとのインターネット利用契約はお済みですか。	- 契約、費用などについては、プロバイダーまたはお買い上げの販売店にご相談ください。 - ネットワークサービスの「ひかりTV」の場合は申込みが必要です。	— 135
接続や設定は正しいですか。	確認して、正しく接続・設定します。	128 134
ルーターから機器に対してプライベートアドレスが割り当てられるようになっていませんか。	ルーターの取扱説明書を参照し、プライベートアドレスが機器と本機に割り当てられるように設定します。	—
本機のネットワーク設定はIPアドレスを自動取得する設定になっていますか。	「IPアドレス自動取得」を「する」に設定します。	132
ネットワークサービス利用設定を「利用する」にしていますか。	「利用する」に設定します。	133
本機のソフトウェアバージョンが該当のクラウドサービス(機器側の機能へのリンクや、他社サービスを除く)を利用できるソフトウェアバージョンですか。	- ソフトウェアのバージョンによっては、ご利用いただけないサービスがあります。クラウドサービスについて、詳しくは、ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)をご覧ください。 ※「インターネット」を利用しているときに、本機の電源状態を「切」にしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。クラウドメニューの更新に失敗する可能性があります。クラウドメニューが正しく表示されない場合、本機を初期化すると、正しく表示されるようになります。	— 167

無線LANが使えない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続や設定は正しいですか。	確認して、正しく設定します。	128 134
お使いのルーターは、無線LAN対応のブロードバンドルーターですか。	無線LANに対応していない場合は、無線LANでの接続はできません。その場合、無線LANアクセスポイントが必要です。	—
複数の無線LANアクセスポイントがありませんか。	無線LANは、近くで複数の無線LANアクセスポイントがある、複数の周波数帯が使われてる、また近くに電波を出す機器がある場合などは、電波の干渉が起こることがあります。周波数帯を変更するか、電波を出す機器の近くで使わないようにします。市販の無線LANコンバーターをお使いの場合は、お使いの無線LANコンバーターの取扱説明書で確認するか、メーカーにお問い合わせください。	—

PPPoE設定ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
—	本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。(設定にはパソコンが必要です)。	134

IPアドレスが取得できない

確認すること	解決法・その他	ページ				
IPアドレスの表示が空欄ですか。	「ネットワーク設定」の「IPアドレス設定」を確認します。 - 上記の確認でIPアドレスが取得できていない場合(すべて空欄になっている場合)は以下を確認をします。 ① 有線の場合、本機とルーターが接続されているか確認する ② ルータのアクセスランプ(ルータのLANポートにある小さなランプ)が点滅しているか確認する(正常に通信できていればランプが点滅します) ③ ルータに他のネットワーク機器(パソコンなど)があるときは、機器からインターネット接続が可能か確認する - 有線LANで接続しているときに可能であれば、以下のテストをします 接続できたとき 最初に本機と接続されていたLANケーブルまたはルータの不具合の可能性が高いです。 接続できなかったとき ルータ、LANケーブルに問題がある可能性は低いです。 ④ インターネット接続可能なその他の機器(パソコンなど)のIPアドレスを確認し、本機のIPアドレスを手動で設定する ⑤ 「クラウドサービス」など、ネットワークを利用する機能が使用できるか確認する - 上記の確認をしても接続できない場合は、本機をリセットします。 <table><tr><th>リセットのしかた</th><th>操作で対処したいとき</th></tr><tr><td> ① 電源プラグをコンセントから抜く ② 1分間以上待つ ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる </td><td> ① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける ② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す ③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。 </td></tr></table> - リセットをしても接続できない場合は、本機の初期化をします。 - 上記の確認をすべてしても接続できないときは、東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。	リセットのしかた	操作で対処したいとき	① 電源プラグをコンセントから抜く ② 1分間以上待つ ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける ② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す ③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。	132 170 167
リセットのしかた	操作で対処したいとき					
① 電源プラグをコンセントから抜く ② 1分間以上待つ ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける ② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す ③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。					

IPアドレスが取得できているのに接続できない

確認すること	解決法・その他	ページ								
取得しているIPアドレスが「192.168.～」から始まっていますか。	- お使いのルーターは、ブロードバンドルーターまたは、無線LAN使用のときは、無線LAN対応のブロードバンドルーターか確認します。 「ネットワーク設定」の「IPアドレス設定」を確認します。 - 取得しているIPアドレスが「192.168.～」から始まっているればルータから正常にアドレスを取得できています。「クラウドサービス」など、ネットワークを利用する機能が使用できるか確認します。接続できずエラーメッセージで「DNSからの応答がありません」と表示されるときは、ルータにPPPoE設定が必要なため、ご契約の回線事業者（NTT東日本、NTT西日本）など）にご相談ください。 「169.254.～」から始まっているときは、本機がルーターからのIPアドレスの取得に失敗しています。その場合は、以下の操作をしてみてください。 - ルーターを再起動する。 - 本機をリセットする <table><tr><th>リセットのしかた</th><th>操作で対処したいとき</th></tr><tr><td>① 電源プラグをコンセントから抜く</td><td>① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける</td></tr><tr><td>② 1分間以上待つ</td><td>② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す</td></tr><tr><td>③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる</td><td>③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。</td></tr></table> - 本機のIPアドレスを確認する	リセットのしかた	操作で対処したいとき	① 電源プラグをコンセントから抜く	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける	② 1分間以上待つ	② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す	③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。	132 170 132
リセットのしかた	操作で対処したいとき									
① 電源プラグをコンセントから抜く	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける									
② 1分間以上待つ	② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す									
③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。									

エラーメッセージが表示されたとき

● 代表的なエラーメッセージについて説明しています。

全般

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「電波の受信状態が良くありません。サブメニューから降雨対応放送に切り換えられます。コード：E201」	気象条件などによって信号レベルが下がり、降雨対応放送切換が可能な状態になった。	降雨対応放送に切り換えることができます。	50
「放送が受信できません。 1. テレビ背面と壁面のアンテナ線の接続を確認してください 2. リモコンで見たい放送(【地デジ】【BS】【CS】)ボタンを押してください 3. リモコンの 青 ボタンを押して、アンテナレベルを確認してください コード：E202」	- アンテナが放送に適合していない。 - アンテナ線がはずれたり、切れたりしている。 - BS・110度CSアンテナの場合、アンテナ電源が供給されていない。 - アンテナの方向ずれや故障。 - 電波が弱くて視聴できない。 - 雨や雷、雪などの気象条件によって一時的に受信できない。 ※ 放送が休止中の場合も表示されることがあります。	- 放送に適合したデジタル放送用アンテナであることを確認します。 - アンテナとアンテナ線の状態や接続を確認します。(販売店にご相談ください) - BS・110度CSアンテナに電源が供給されるようにします。	25 26 158
「現在放送されていません。コード：E203」	選局したチャンネルでの放送が休止中、または放送が終了している。 ※ 雨や雷、雪などの気象条件によって一時的に受信できない場合も表示されることがあります。	番組表などで放送時間を確認します。	—
「該当するチャンネルはありません。コード：E204」	放送のないチャンネルを選局した。	番組表などでチャンネルを確認します。	—
「miniB-CASカードが挿入されていません。カードが挿入されている場合には取扱説明書の『miniB-CASカードを挿入する』を見ながら向きと裏表を確認して、もう一度奥まで入れ直してください。」	- miniB-CASカードが挿入されていない。 - miniB-CASカードが正しく挿入されていない。 - miniB-CASカードが抜けている。	miniB-CASカードを正しく挿入します。	24
「miniB-CASカードが認識できません。カードの金属端子部に汚れがある場合には、取扱説明書の『miniB-CASカードを挿入する』を見ながら汚れをふき取ってください。」	miniB-CASカードが接触不良を起こしている。	miniB-CASカードをカチッと音が鳴るまで押して取り出し、金色端子部に汚れが無いか確認し、乾いた布でふき取り、もう一度入れ直します。	24
「このminiB-CASカードはご使用になれません。カードをご確認ください。」	無効なminiB-CASカードが挿入されている。	付属のminiB-CASカードの所有権は、ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ社にあります。 認識しないなど、破損した場合の再発行については、付属のminiB-CASカード台紙の記載されている、ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ社にお問い合わせください。	—

USBハードディスクに関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「機器に接続できません。」	接続ケーブルがはずれている。	接続を確認します。	—
	USBハードディスクの電源が切れている。	USBハードディスクの電源を入れます。	—
	USBハードディスクにエラーが発生した。	USBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
「再生できません。」	視聴制限のある番組を録画した。	「放送視聴制限設定」で、録画した番組が視聴できる設定にします。	164
	録画中になんらかの原因でコピーワンスなどの情報が破損した。	再生できません。	—
	再生時にテレビとUSBハードディスクと通信に障害があった。または、接続ケーブルがはずれてしまった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。また、接続を確認します。	—
「録画機器のエラーにより録画を中止しました。詳しくは取扱説明書をご覧ください。」	テレビとUSBハードディスクと通信に障害があった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
「録画機器のエラーにより指定した録画品質で録画できません。」	テレビとUSBハードディスクの通信に障害があった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
	USBハードディスクにエラーが発生した。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
「情報取得中にエラーが発生しました。」	録画した番組が正常に保存されなかった。	「録画番組を修復する」の操作をしてみます。	84
「USB端子の電源容量を越えました。接続機器をはずし、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れてください。」	USBバスパワーで動作するUSBハードディスクを本機に接続し、使用電力が本機の供給限界を超えた。	以下の手順で復帰させます。 ① 本体の電源ボタンで電源を切る ② USBハードディスクの接続ケーブルを抜く ③ 本機の電源プラグをコンセントから抜き、約10秒後に差し込む ④ 本機の電源を入れる ⑤ USBハードディスクを接続する ※ 再び同じエラーメッセージが表示される場合は、USBハードディスクにACアダプターを接続してください。	—

東芝レコーダーに録画・予約をするときのエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「録画機器で設定が変更されました。録画機器で設定内容をご確認ください。」	レコーダー側で録画設定が変更されている。	レコーダーで録画設定の内容を確認します。	—
「録画機器の動作により設定できません。しばらく待ってからもう一度操作してください」	レコーダーの動作との競合(何らかの操作、動作、表示をしている)がある。	しばらくしてからやり直すか、または、レコーダーの操作などを中止します。	—
「録画機器の予約数がいっぱいです。」	レコーダーの予約数が制限を超えている。	レコーダーで予約を取り消します。	—
「指定した時刻情報では予約を設定できません。」	レコーダーが対応していない形式で時刻を設定した。	指定できる時刻の形式をレコーダーの取扱説明書で確認します。	—
「録画機器の予約時間と重複するため、設定できません。」	レコーダー側の予約と、本機からの予約時間が重なっている。	レコーダーで予約している時間帯は、本機からの予約はできない場合があります。	—
「録画機器に時刻が設定されていません。」	レコーダーの時刻設定をしていない。	レコーダーの時刻設定をします。	—
「予約を設定できませんでした。」 または 「録画を設定できませんでした。」	レコーダーの電源プラグが抜けている。	レコーダーの電源プラグをコンセントに差し込みます。	—
	レコーダーが正しく接続されていない。	本機とレコーダーを正しく接続します。HDMIケーブルは、規格に合ったケーブルを使用してください。	96 97

エラーメッセージが表示されたとき つづき

LAN端子を使った通信に関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「サーバーと通信できませんでした。詳しくは取扱説明書をご覧ください。」	サーバーからのソフトウェア・ダウンロードに失敗した。	接続・設定の状態を確認します。	128 ~ 134
	回線が混みあっている。	しばらくたってから、もう一度操作します。	—
「本機にルート証明書が設定されていないため、サーバーに接続できません。」	本機にルート証明書が設定されていない。	ルート証明書番号を確認し、東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。	162
「現在設定されているルート証明書ではサーバーの安全性を確認できないため、接続できません。」	ルート証明書は本機内に設定されているが、接続先のサーバー証明書との検証ができない。	ルート証明書番号を確認し、正しいルート証明書であるかを東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。	162
「現在設定されているルート証明書の有効期限が切れているため、サーバーに接続できません。」	ルート証明書の有効期限が切れている。		
「サーバーの証明書の有効期限が切れているため、接続できません。」	接続先の証明書が有効期限切れになっている。	接続先の安全性に問題があります。本機は、一部の接続先については、安全性の確認ができない場合、接続は行われません。(本機の動作は正常です)	—
「サーバーの証明書には表示するページの名前が含まれていないため、接続できません。」	サーバー証明書に表示しようとしているページの名前がない。		
「サーバーの証明書の不正が検出されたため、接続を中断します。」	接続先の証明書が改ざんされている。		
「サーバーの証明書に問題があるため、接続を中断します。」	認証エラーが発生した。		

ホームネットワークに関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「検索に失敗しました。」	機器が正しく接続されていない。	確認して、ルーターを通して正しく接続します。	65
「機器(メディア)にアクセスできません。」	ネットワークメディアサーバーのアクセス制御が正しく設定されていない。	機器がMACアドレスによるアクセス制限をしている場合は、機器の説明書を参照し、本機のMACアドレスを許可するように設定します。 ※ 本機のMACアドレスは、「ネットワーク設定」のメニューで確認できます。	— 133
「再生できません。」	コンテンツが本機で対応しているフォーマットではない。	非対応フォーマットについては本機では再生できません。	190
	無線LANの暗号設定が「暗号なし」になっている。	著作権保護付きコンテンツの場合には無線LANアクセスポイントのセキュリティに関する設定を行った上で本機の暗号設定を「暗号なし」以外で設定して接続してください。	132
「サーバー側の設定やアクセス状態により現在アクセスできません。しばらくしてからやり直してください。」	- 機器が起動準備中。 - 機器が他の機器で使用中。	しばらくしてからやり直します。	—
「システム情報にエラーが発生したため、番組を再生できません。」	コンテンツ再生処理に使用する内部情報が壊れている。	お買い上げの販売店にエラー表示をご説明のうえ、修理をご相談ください。	—

インターネットに関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「アドレスが正しくありません。」	処理できないスキーム(ftp, mailto, fileなど)を開こうとした。	URLを確認します。正しいURLを入力しても同様のメッセージが表示される場合、このページを見ることはできません。	—
「サーバが見つかりません。」	HTTPリクエスト、リゾルプ中にDNSサーバが見つからない。	「ネットワーク設定」の「DNS設定」が正しく設定されているか確認します。	133
「サーバからの応答に含まれている認証パラメータが正しくありません。」	認証の際にHTTPヘッダが不正である。	左記の原因でこのページを表示できません。(もう一度接続しても同様の場合は、このページは見ることができません)	—
「サーバからの応答が正しくありません。リダイレクトできません。」	リダイレクトの際にHTTPヘッダが不正である。		—
「ページの安全性を確認できません。サーバが証明書をサポートしていません。接続しますか?」	証明書認証時にブラウザの証明DBに発行元のルートCA証明書がない。	このページが安全であることを確認できませんでした。問題があるかわからない場合は、「キャンセル」を選びます。「OK」を選んだ場合は、そのままページが表示されます。	—
「ページの安全性を確認できません。ルートCA 証明書の有効期限が切れています。接続しますか?」	ルートCA証明書の有効期限が切れている。		—
「ページの安全性を確認できません。サーバ証明書のCN(一般名)がホスト名と一致しません。接続しますか?」	サーバ証明書のCN(一般名)がホスト名と一致しない。		—
「ページの安全性を確認できません。サーバ証明書の有効期限が切れています。接続しますか?」	サーバ証明書の有効期限が切れている。		—
「メモリ不足のため、コンテンツを表示できませんでした。」	極度のメモリ不足状態から強制復帰した。	他のウィンドウを閉じてから「再読み込み」をします。「再読み込み」をしても同様のメッセージが出る場合は、このページを見ることはできません。	—
「ページがありません。」	コンテンツが見つからなかった。	このページを見ることはできません。	—

これらの症状で訪問修理を依頼され、テレビに原因がないと判明した場合は、保証期間中であっても出張料などを申し受けますので、あらかじめご承知おきください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアの更新機能について

- 本機は、内部に組み込まれたソフトウェア(制御プログラム)で動作するようになっています。
- お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、ソフトウェアを更新する場合があります。
- 更新用のソフトウェアはBSデジタルや地上デジタルの放送電波で送られてきます。本機は、放送電波で送られてくる更新用のソフトウェアを自動的にダウンロードし、内部ソフトウェアを自動的に更新する機能を備えています。
- ソフトウェアダウンロード情報をホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/support/>)でお知らせしています。
 - ・ 放送電波を利用したソフトウェアのダウンロードは、都度、限られた日時に行われます。
- 電源プラグが抜かれていたなどの事情で自動ダウンロードができなかった場合は、都合のよいときにインターネットを利用して東芝サーバーから更新用のソフトウェアを入手することができます。

放送電波で送信されるソフトウェアを自動ダウンロードする

- 「放送からの自動ダウンロード」の設定を「ダウンロードする」(お買い上げ時の設定)にしておき、日常的にデジタル放送を視聴し、視聴しないときにも電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておけば、特別に意識する必要はありません。常に最新のソフトウェアで使うことができます。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「ソフトウェアのダウンロード」⇒「放送からの自動ダウンロード」の順に進む

2 ▲・▼で「ダウンロードする」または「ダウンロードしない」を選び、**決定** を押す

- **青** を押せば、自動ダウンロードの日時を一覧で確認することができます。

東芝サーバーからダウンロードする

- インターネットを利用して東芝サーバーからソフトウェアをダウンロードし、本機内部のソフトウェアを更新することができます。
- インターネットへの接続と設定(**128** ~ **133**)が必要です。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「ソフトウェアのダウンロード」⇒「サーバーからのダウンロード開始」の順に進む

- ソフトウェア更新が始まります。
- ソフトウェアの更新中は操作できません。そのまま終了するまでお待ちください。

2 「ソフトウェアを更新しました。」のメッセージが表示されたら、**決定** を押す

- 電源が「待機」になってから再び「入」になり、通常の視聴ができるようになります。

ソフトウェアのバージョンを確認するには

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「ソフトウェアバージョン」の順に進む

- **設定** ⇒「初期設定」⇒「ソフトウェアのダウンロード」⇒「ソフトウェアバージョン」でも確認できます。
- ソフトウェアのバージョンが表示されます。



用語

ダウンロード

放送波やインターネットを使って、ソフトウェアなどを端末(この場合は本機)に転送することです。

お知らせ

- 更新用のソフトウェアがある場合は、ダウンロード情報が放送電波で送られます。本機は、BSデジタル放送または地上デジタル放送を視聴しているときにダウンロード情報を取得します。(情報を確認する操作はありません)
- 更新用ソフトウェアの自動ダウンロードと自動更新は、本機の電源が「待機」(リモコンで電源を切った状態)のときに行われます。
- 電源プラグがコンセントから抜かれていると、自動ダウンロードができないため、ソフトウェアの自動更新は行われません。
- ダウンロードによって、一部の設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったり、予約やお知らせが削除されたりする場合があります。
- 悪天候などでダウンロードが取り消された場合は、「本機に関するお知らせ」でお知らせします。

お知らせ

東芝サーバーからのダウンロードについて

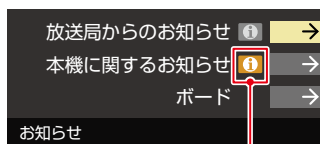
- 回線の速度が遅いと正しくダウンロードできないことがあります。このとき、「通信エラー」が表示されます。サーバーが一時的に停止していることもありますので、インターネットへの接続や設定を確認し、しばらくたってからもう一度ダウンロードしてみてください。

お知らせを見る

- お知らせには、「放送局からのお知らせ」、「本機に関するお知らせ」、「ボード」の3種類があります。
- 未読のお知らせ（「ボード」を除きます）があると、チャンネル切替時や「画面表示」を押したときに、画面に「お知らせアイコン」が表示されます。

1 を押し、▲・▼とで「その他の操作」⇒「お知らせ」の順に進む

2 ▲・▼でお知らせの種類を選び、を押す



未読のお知らせはオレンジ色で表示されます。

- 放送局からのお知らせ…デジタル放送局からのお知らせです。
- 本機に関するお知らせ…本機が発行したお知らせです。
- ボード……………110度CSデジタル放送の視聴者に向けたお知らせです。

3 読みたいお知らせを▲・▼で選び、を押す

- 選択したお知らせの内容が表示されます。

画面に「本機のお知らせを確認」が表示されたときは



1 を押す

- 「本機に関するお知らせ」が表示されます。
- お知らせが複数件ある場合は、「本機に関するお知らせ」一覧が表示されます。▲・▼で確認するお知らせを選び、を押して表示させます。

「本機に関するお知らせ」を削除するには

※ 削除できるのは「本機に関するお知らせ」のみです。

1 「本機に関するお知らせ」の画面で、を押す

2 ◀▶で「はい」を選び、を押す

※ 本機に関するお知らせがすべて削除されます。



■「お知らせ」について

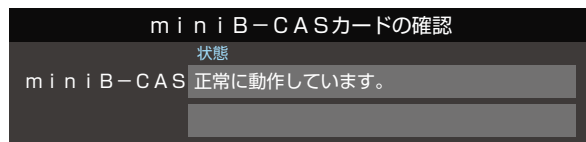
- 「放送局からのお知らせ」は、地上デジタル放送が7通まで記憶され、BSデジタル放送と110度CSデジタル放送は、合わせて24通まで記憶されます。放送局の運用によっては、それより少ない場合もあります。記憶できる数を超えて受信した場合は、古いものから順に削除されます。
- 「本機に関するお知らせ」は、既読の古いものから順に削除される場合があります。
- 「ボード」は110度CSデジタル放送のそれぞれに対し、今送信されているものが50通まで表示されます。
- 「お知らせアイコン」は、未読のお知らせが1件でも残っていると表示されます。

miniB-CASカード情報を確認する

- miniB-CASカードの状態やID番号などをテレビ画面で確認することができます。

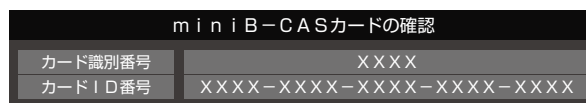
1 を押し、▲・▼とで「初期設定」⇒「miniB-CASカードの確認」の順に進む

- miniB-CASカードの状態確認結果が表示されます。



2 を押す

- miniB-CASカードの情報が表示されます。



3 情報を確認したら、を押す

miniB-CASカードID番号記入欄

- 下欄にminiB-CASカードのID番号を記入しておくと、有料放送のご契約やminiB-CASカードのお問い合わせの際などに役立ちます。

miniB-CAS

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

お手入れについて



注意

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。



お手入れの際のご注意

ベンジン・アルコールなどは使わない

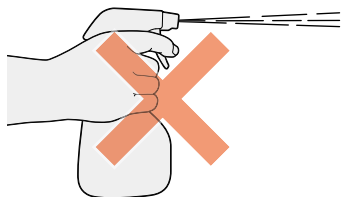
- ベンジン・アルコールなどの揮発性のもののほか、アセトンなどケトン類やキシレン、トルエンなどの溶剤は使わないでください。キャビネットや画面(液晶パネル)が溶けたり、破損したりするおそれがあります。
- クレンザーなど、研磨剤が含まれた洗剤は使わないでください。表面が傷つきます。

化学ぞうきんやウェットタイプのクリーニングクロス/クリーニングペーパーなどは使わない

- 含まれている成分によっては、キャビネットや画面の表面が溶けたり、破損したりするおそれがあります。

水やスプレータイプの洗剤などを直接かけない

- 洗剤などの液体がテレビの内部に垂れたり、しみこんだりすると、故障の原因になります。



ぬれた手でお手入れをしない

- ぬらした布などを絞ってお手入れをするときは、手についた水滴をよくふき取ってください。水滴がテレビの内部に垂れたり、しみこんだりすると、故障の原因になります。



画面のお手入れは特にやさしく

- 画面の表面は樹脂でできています。固い布や紙でふいたり、強くこすったりすると表面が傷つき、映像の品位が低下します。やさしくふくようにしてください。
- 画面の内面はガラスでできています。たたいたり、押ししたりして力を加えると、画面が割れてテレビが見られなくなってしまいます。やさしく取り扱ってください。
- ※ ふだん、小さなお子様などが画面に触れたり、たたいたりしないようにご注意ください。

キャビネットと画面のお手入れ

1 キャビネットや画面に付着しているゴミ、ホコリを払う

- 柄つきの柔らかいモップなどで、やさしく払ってください。
- ※ ゴミやホコリがついたままでふいたり、こすったりすると、表面が傷ついてしまいます。

2 乾いた脱脂綿または柔らかい布(綿、ガーゼなど)でやさしくふき取る

よごれが落ちにくいときは

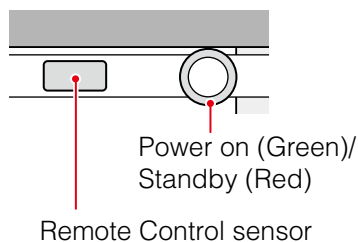
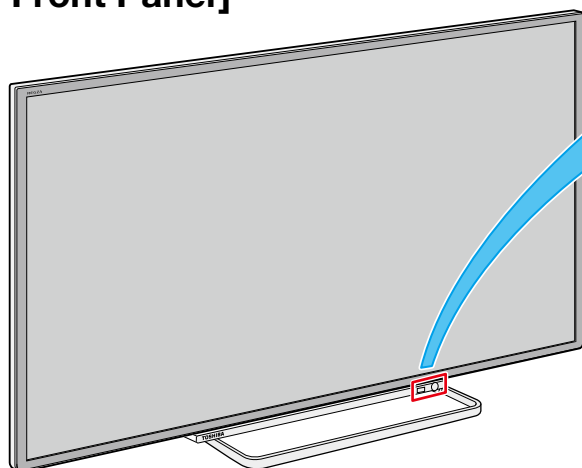
- 水で1000倍程度に薄めた中性洗剤(中性洗剤1ミリリットルあたり1リットルの水で薄める)に脱脂綿または柔らかい布を浸してから固く絞り、よごれをやさしくふき取ってください。そのあと、乾いた脱脂綿または柔らかい布で水分をふき取ってください。



- ※ 手に水滴がついているときは、テレビに触れる前にふき取ってください。
- ※ 洗剤が濃いと画面などに残ってしまいます。その場合は、水だけで固く絞った脱脂綿または柔らかい布でやさしくふき取ってください。
- ※ 画面をぬらしたまま放置しないでください。吸湿劣化やシミの原因になることがあります。水分が残っているときは、乾いた脱脂綿または柔らかい布でやさしくふき取ってください。

Basic Operations

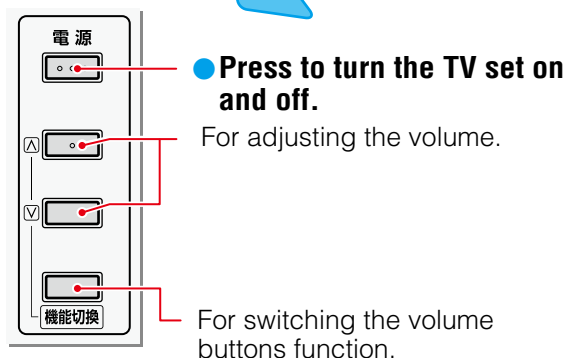
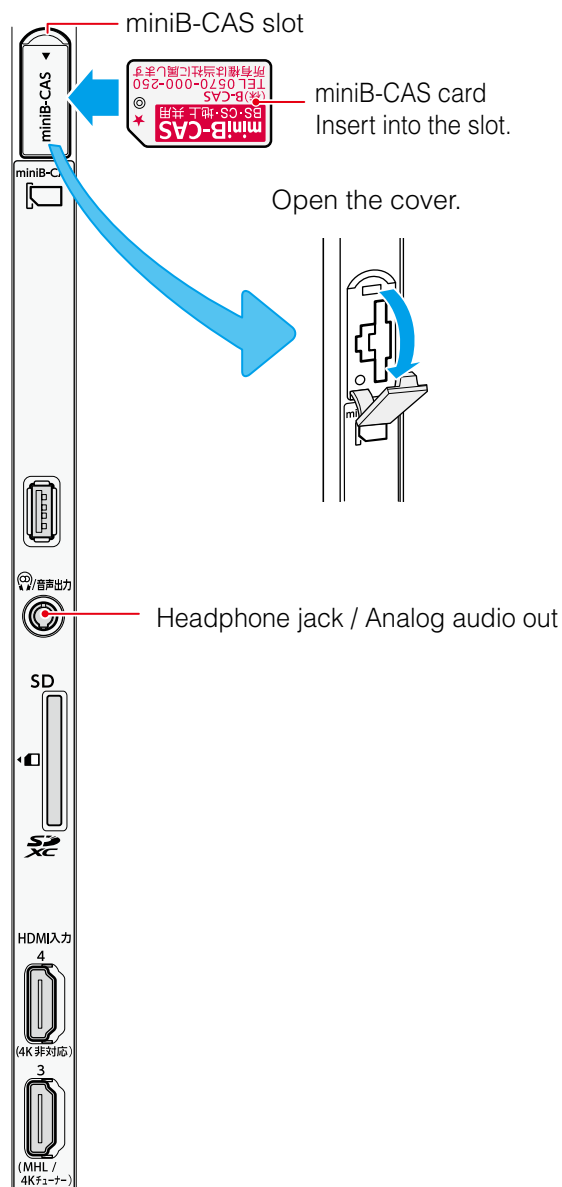
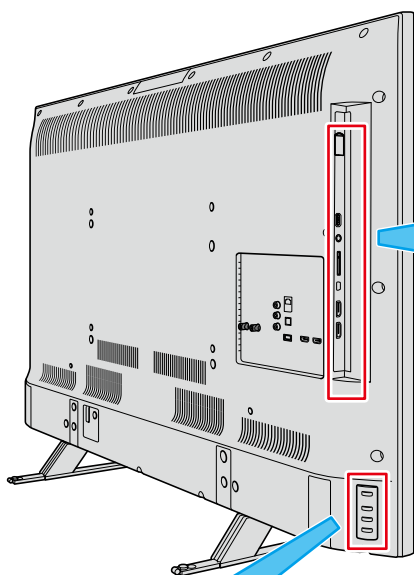
[TV Front Panel]



- For optimum performance, aim the remote control **DIRECTLY** at the TV remote sensor. (within 16 ft from the TV set)

[TV Rear Panel]

- To view digital broadcasting programs, insert the miniB-CAS card into the card slot. (Without miniB-CAS card, you **CANNOT** receive digital broadcasting.)



- For more information on operations, safety instructions, maintenance, etc., please contact your local dealer.

Basic Operations つづき

[Remote controller]

Input selection button

Power button (ON/STANDBY)

● For selecting Digital terrestrial broadcasting programs.

● For selecting Digital satellite broadcasting programs.

● For selecting program channels.

Channels sequential access button (Up / Down)

Sound volume adjustment button

● For exiting menus or EPG mode.

● For returning to the previous screen when in menu or EPG mode.

EPG button

● For accessing to the Electronic Program Guide (EPG).
EPG provides you with a chart of the schedule of all available digital channels.

Multi-sound mode selection button

multi-sound mode

Japanese

Second-language

Japanese + Second-language

TOSHIBA
デジタルテレビ
CT-90463

仕様

種 類	型 名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ		
形 名		43J10X	49J10X	55J10X
受信機型サイズ		43V	49V	55V
電 源		AC 100V 50/60Hz共用		
消費電力		194W 電源「待機」時 0.2W、 電源「切」時 0.17W、 (機能動作時 37W)※1	210W 電源「待機」時 0.2W、 電源「切」時 0.17W、 (機能動作時 37W)※1	230W 電源「待機」時 0.2W、 電源「切」時 0.17W、 (機能動作時 37W)※1
年間消費電力量 [標準] 時		154kWh/年	158kWh/年	160kWh/年
区 分 名		DG1 (FHD、液晶倍速、付加機能1)		
スタンドを含む 外形寸法 ()は本体のみ	幅	97.2(97.2)cm	110.5(110.5)cm	124.1(124.1)cm
	高さ	62.1(57.6)cm	69.5(65.0)cm	77.2(72.6)cm
	奥行	23.2(7.6)cm	24.7(7.6)cm	24.7(7.5)cm
スタンドを含む質量 ()は本体のみ		14.0(12.2)kg	16.5(14.6)kg	19.0(17.2)kg
壁取付金具の取付寸法		幅20cm x 高さ20cm、M6ねじ	幅40cm x 高さ20cm、M6ねじ	幅40cm x 高さ40cm、M6ねじ
液晶画面	画面寸法	幅94.1cm、高さ52.9cm、 対角 108.0cm	幅107.4cm、高さ60.4cm、 対角 123.2cm	幅121.0cm、高さ68.0cm、 対角 138.8cm
	駆動方式	TFTアクティブマトリクス		
	画素数	水平3840×垂直2160		
受信チャンネル		地上デジタル：VHF(1～12)、UHF(13～62)、CATV(C13～C63) BSデジタル：BS000～BS999、110度CSデジタル：CS000～CS999		
スピーカー		3.0cm×9.6cm 2個		
音声出力		実用最大出力 15W+15W (総合音声出力 30W) (JEITA)		
入出力端子	HDMI入力1～4	HDMI (Lip Sync、ARC※2)		
	ビデオ入力	映像(ピンジャック)：1V(p-p)、75Ω、同期負 音声(ピンジャック)：200mV(rms)、22kΩ以上		
	USB(録画専用)端子	USB2.0		
	USB端子	USB2.0		
	光デジタル音声出力	トスリンク		
	ヘッドホン/音声出力端子	口径3.5mmステレオミニジャック、音声出力：最大2V (rms)、10kΩ以上		
	LAN端子	RJ-45		
使用環境条件	付属品	温度：0℃～35℃、相対湿度：20%～80% (結露のないこと)		
		「付属品を確認する」 9 をご覧ください。		

※1：電源「待機」時または電源「切」時に以下の動作をしているときの消費電力です。

- 番組情報などを取得しているとき
- Eメール録画予約機能で設定した「POP3アクセス時刻」に、メールサーバーにアクセスしているとき

※2：ARC機能はHDMI入力1端子のみ対応しています。

無線LANの仕様

規格	IEEE802.11n / IEEE802.11a / IEEE802.11g / IEEE802.11b準拠 ARIB STD-T71 / ARIB STD-T66 ※ 従来の無線規格であるJ52には対応していません。
伝送方式	OFDM方式 / DSSS方式
周波数範囲(中心周波数) およびチャンネル	IEEE802.11n / IEEE802.11a : 5.18GHz～5.24GHz (36、40、44、48) [W52] 5.26GHz～5.32GHz (52、56、60、64) [W53] 5.50GHz～5.70GHz (100、104、108、112、116、120、124、128、132、 136、140) [W56] IEEE802.11n / IEEE802.11g / IEEE802.11b : 2.412GHz～2.472GHz (1～13)
動作モード	インフラストラクチャーモード(アドホックモードは対応していません。)

その他

仕様 つづき

インターネットブラウザの仕様

記述言語	HTML5.01, XHTML1.1, XHTML Basic
動作記述言語	ECMAScript (ECMA-262 3rd Edition)
DOM	DOM1.0, DOM2.0
Ajax	XMLHttpRequest
スタイルシート	CSS1.0, CSS2.0
セキュア通信	SSL3.0, TLS1.0, TLS1.1, TLS1.2
プラグイン	なし

- 意匠・仕様・ソフトウェアは製品改良のため予告なく変更することがあります。
- 受信機型サイズ(55Vなど)は、有効画面の対角寸法を基準とした大きさの目安です。
- このテレビを使用できるのは日本国内だけで、外国では放送方式、電源電圧が異なるため使用できません。
(This television set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.)
- 本商品は、ご愛用終了時に再資源化の一助としておもなプラスチック部品に材質名表示をしています。
- 本商品の改造は感電、火災などのおそれがありますので行わないでください。
- イラスト、画面表示などは、見やすくするために誇張や省略などで実際とは多少異なります。
- 省エネルギーのため長時間テレビを見ないときは電源プラグを抜いてください。
- 区分名：「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」では、テレビの画素数、表示素子、動画表示および付加機能の有無等に基づいた区分を行っています。その区分名称をいいます。
- 年間消費電力量：年間消費電力量とは、省エネ法に基づいて、1日あたり4.5時間の動作時間/19.5時間の待機時間(電子番組表取得時間を含む)で算出した、1年間に使用する電力量です。
- 「JIS C 61000-3-2 適合品」 - JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相当当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。
- 液晶画面は非常に精密度の高い技術で作られており、微細な画素の集合で表示しています。99.99%以上の有効画素があり、ごく一部(0.01%以下)に光らない画素や、常時点灯する画素などがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。
- 静止画をしばらく表示したあとで映像内容が変わった時に、前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。(故障ではありません。)
- ※ 国外で本品を使用して有料放送サービスを楽しむことは有料放送契約上禁止されています。
(It is strictly prohibited, as outlined in the subscription contract, for any party to receive the services of scrambled broadcasting through use of this television set in any country other than Japan and its geographic territory as defined by international Law.)



グリーンマークは、「JIS C0950電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法」(通常J-Moss)での、特定の化学物質の含有率が基準値以下であることを表すマークです。

USBハードディスクに録画できる時間の目安

- USBハードディスクで録画できる時間の目安は以下のようになります。
- ※ 「自動削除設定」が「する」に設定されている場合、約2時間分の録画領域を確保するために、録画できる時間が下表よりも少なくなることがあります。

例 500GBのハードディスクの場合

放送番組の種類	録画できる時間の目安
地上デジタルハイビジョン放送番組(HD 最大17Mbps)だけを録画する場合	約62時間
BS/110度CSデジタルハイビジョン放送番組(HD 最大24Mbps)だけを録画する場合	約44時間

- 放送番組の種類は、**番組説明**を押して番組説明画面に表示されるアイコンで確認することができます。
- ハードディスクの残量(録画設定画面に表示される「録画可能時間」および、録画リストのサブメニューの「ハードディスク残量表示」**88**は、BSデジタルハイビジョン放送(24Mbps)を基準に算出しています。そのため、地上デジタルハイビジョン放送(約17Mbps)の録画番組などを削除した場合、残量の増加分は削除した番組の時間よりも少なくなります。

対応機器について

- 接続できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。(www.toshiba.co.jp/regza/)

ライセンスおよび商標などについて

-  **DOLBY DIGITAL** この製品はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
-  **ACCESS™ NetFront** 本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browserを搭載しています。ACCESS、NetFrontは、日本国およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。© 2009 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.
-  **HDMI** HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。
-  **MHL** MHL、Mobile High-Definition Link およびMHLロゴは、MHL, LLC の商標または登録商標です。
- **x.v.Color** "x.v.Color"および"x.v.Color"ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fi Protected Setup、WPA、WPA2はWi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- トスリンクは株式会社東芝の登録商標です。
- Blu-ray Disc™(ブルーレイディスク)、Blu-ray™(ブルーレイ)はブルーレイディスク アソシエーションの商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- 本製品の一部分に Independent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- この製品に含まれているソフトウェアをリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、分解またはその他の方法で解析、及び変更することは禁止されています。

● **AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE**

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.MPEGLA.COM)

対応フォーマット

本機で対応しているHDMI入力信号フォーマット

- 「VESA規格」の欄に「○」が記載されている信号フォーマットは、本機のHDMI入力端子ではVESA規格に準拠する信号フォーマットにのみ対応しています。機器によっては本機の画面に映像が表示されないか、または正しく表示されないことがあります。その場合は下表に示した入力信号のどれかに合うようにパソコンや映像機器の設定を変更してください。一部のパソコンでは有効画面領域を「解像度」と表記する場合があります、その場合は本機が表示する解像度と異なることがあります。
- 下表すべての信号に対応していますが、パソコンを接続する場合はリフレッシュレートが60Hzの信号を推奨します。

フォーマット名	表示解像度	リフレッシュレート	水平周波数	ピクセルクロック	VESA規格
480i	720×480	59.94 / 60Hz	15.734 / 15.750kHz	27.000 / 27.027MHz	
480p	720×480	59.94 / 60Hz	31.469 / 31.500kHz	27.000 / 27.027MHz	
1080i	1920×1080	59.94 / 60Hz	33.716 / 33.750kHz	74.176 / 74.250MHz	
720p	1280×720	59.94 / 60Hz	44.955 / 45.000kHz	74.176 / 74.250MHz	
1080p	1920×1080	59.94 / 60Hz	67.433 / 67.500kHz	148.352 / 148.500MHz	
		23.98 / 24Hz	26.973 / 27.000kHz	74.176 / 74.250MHz	
		29.97 / 30Hz	33.716 / 33.750kHz	74.176 / 74.250MHz	
2160p ^{※1}	3840×2160	59.94 / 60Hz	134.866 / 135.000kHz	296.703 / 297.000 / 593.407 ^{※2} / 594.000 ^{※2} MHz	
		23.98 / 24Hz	53.946 / 54.000kHz	296.703 / 297.000MHz	
		29.97 / 30Hz	67.433 / 67.500kHz	296.703 / 297.000MHz	
2160p ^{※1} (SMPTE)	4096×2160	23.98 / 24Hz	53.946 / 54.000kHz	296.703 / 297.000MHz	
		29.97 / 30Hz	67.433 / 67.500kHz	296.703 / 297.000MHz	
VGA	640×480	59.94 / 60Hz	31.469 / 31.500kHz	25.175 / 25.200MHz	○
SVGA	800×600	60Hz	37.879kHz	40.000MHz	○
XGA	1024×768	60Hz	48.363kHz	65.000MHz	○
WXGA	1280×768	60Hz	47.776kHz	79.500MHz	○
	1360×768	60Hz	47.712kHz	85.500MHz	○
SXGA	1280×1024	60Hz	63.981kHz	108.000MHz	○
WQHD	2560×1440	60Hz	88.787kHz	241.500MHz	○

※1 HDMI入力4端子は対応していません。

※2 HDMI入力3端子は対応していません。

本機で再生できる動画のフォーマット

対応機器	ファイルフォーマット	映像フォーマット	音声フォーマット	最大解像度	最大ファイル数
USB機器、 SDメモリーカード、 LANハードディスク ネットワークメディア サーバー	MPEG2-TS	MPEG2 Video	AAC、 MPEG-1 Layer II	1920×1080	3000/フォルダ
	MPEG2-TS	H.264/MPEG4-AVC	AAC、 ドルビーデジタル(AC3)	1920×1080	3000/フォルダ
USB機器、 SDメモリーカード、 LANハードディスク ネットワークメディア サーバー	MPEG2-PS	MPEG2 Video	リニアPCM、 ドルビーデジタル(AC3)、 MPEG-1,2 Layer II	1920×1080	3000/フォルダ
				720×480	
USB機器、 SDメモリーカード、 LANハードディスク ネットワークメディア サーバー	MP4	H.264/MPEG4-AVC	AAC	1920×1080	3000/フォルダ
USB機器、 SDメモリーカード	3GPP	H.264/MPEG4-AVC	AAC	1920×1080	3000/フォルダ
	3GPP	MPEG-4 Visual	AAC	1920×1080	3000/フォルダ

※ 一部の動画は再生ができない場合があります。特にMP4動画については、対応機器によっては再生できない場合があります。

※ 音声がついていない映像のみの動画は再生できません。

本機で再生できる写真(静止画ファイル)のフォーマット

圧縮方式	JPEG準拠
フォーマット	Exif ver2.2準拠、JFIF ver1.02準拠
画素数	4096×4096ピクセル以内
ファイルサイズ	USB機器についてはファイルサイズ24MB以内

※ 一部の写真は再生ができない場合があります。

本機で再生できる音楽のフォーマット

対応機器	音声フォーマット	サンプリング周波数	ビットレート	最大ファイル数
ネットワークメディア サーバー USB機器、 SDメモリーカード	MP3	16kHz、22.05kHz、24kHz、 32kHz、44.1kHz、48kHz	8 ～ 320kbps	1000/フォルダ
USB機器、 SDメモリーカード	MP4 (AAC)	16kHz、22.05kHz、24kHz、32kHz、 44.1kHz、48kHz	32 ～ 640kbps	1000/フォルダ
ネットワークメディア サーバー	リニアPCM	44.1kHz、48kHz	—	1000/フォルダ

※ WAVファイルについては、ネットワークメディアサーバーがリニアPCMに変換している場合にのみ再生が可能です。

アイコン一覧

番組についてのアイコン

アイコン	説明	アイコン	説明
	テレビ放送		放送フォーマットが480pのデジタル標準テレビ放送
	ラジオ放送		複数の映像、または音声またはデータがある番組
	データ放送		視聴年齢制限が設定されている番組。〇〇は4～20の数字が入ります。
	画面の横と縦の比が16：9の番組の放送		録画回数が制限されている番組
	画面の横と縦の比が4：3の番組の放送		デジタル録画ができる番組
	ステレオ音声放送		有料でデジタル録画ができる番組
	サラウンドステレオ放送		デジタル録画ができない番組
	二重音声放送		光デジタル録音ができる番組
	字幕放送		1回のみ光デジタル録音ができる番組
	マルチビューサービス(複数の映像・音声が あり、映像・音声が連動して切り換わる番組)		有料で光デジタル録音ができる番組
	デジタルハイビジョン放送		光デジタル録音ができない番組
	放送フォーマットが1080iのデジタルハイビジョン放送		アナログ録画ができる番組
	放送フォーマットが720pのデジタルハイビジョン放送		有料でアナログ録画ができる番組
	デジタル標準テレビ放送		アナログ録画ができない番組
	放送フォーマットが480iのデジタル標準テレビ放送		

● ダビング、コピー関係のアイコンの中には、本機の機能とは無関係に番組の情報として表示されるものがあります。

お知らせ、予約、その他についてのアイコン

アイコン	説明	アイコン	説明
	録画予約		録画番組が「保護」対象
	連ドラ予約		録画番組が「上書き」対象
	視聴予約		未読の「お知らせ」
	録画中		既読の「お知らせ」
	録画準備中 録画の約1分前に表示されます。		データの取得中です。
	録画確認中 前番組の放送延長などで録画番組の放送時間 が変更されたときなどに表示されます。		非リンク型サービス(通信番組)
	連ドラ予約番組の追跡結果や放送時間変更で、 予約が重なったときなどに表示されます。		SSLなどの暗号通信をしている場合

東芝デジタルテレビJ10Xで使われるソフトウェアのライセンス情報

東芝デジタルテレビ43/49/55J10X (J10Xと略して記載します)に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに東芝または第三者の著作権が存在します。

東芝デジタルテレビJ10Xは、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知(以下、「EULA」といいます)に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧くださいようお願いいたします。

ホームページアドレス
www.toshiba.co.jp/regza/LZ1/eula/

また、東芝デジタルテレビJ10Xのソフトウェアコンポーネントには、東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、東芝の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項及び他の準拠法によって保護されています。「EULA」の適用を受けない東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた東芝デジタルテレビJ10Xは、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になられることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、“as is” (現状)の状態、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます(データの消失、又はその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません)。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

東芝デジタルテレビJ10Xに組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため、原文(英文)を記載します。

東芝デジタルテレビJ10Xで使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文)

対応ソフトウェアモジュール		対応ソフトウェアモジュール		対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel busybox parted xfsprogs mtd-utils netfilter/iptables u-boot Wireless Tools Samba mount.cifs bt_ctrl bt-usb e2fsprogs dbus bonnie++ libtool valgrind ntfs-3g exfat	Exhibit A	eglibc Cairo libwebsockets gcc DirectFB ALSA LIVE555 Media Server ffmpeg eina	Exhibit B	RTL8192D USB Software Package - Linux Driver	Exhibit L
		libupnp	Exhibit C	wpa_supplicant and hostapd	Exhibit M
		WIDE-DHCPv6	Exhibit D	dtoa	Exhibit N
		jquery	Exhibit E	tftp-hpa	Exhibit O
		fuse glib	Exhibit G	pixman	Exhibit P
		FreeType	Exhibit H	cJSON	Exhibit Q
		OpenSSL	Exhibit J	expat	Exhibit R
		mongoose	Exhibit K	libxml2	Exhibit S
				ecore	Exhibit T
				flac	Exhibit U
				icu	Exhibit V
				dropbear	Exhibit W



● ブラウザで使用しているオープンソースは、「ブラウザの情報を見る」で確認することができます。

東芝デジタルテレビJ10Xで使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文)

Exhibit A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright © 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do

not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<One line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © 19yy <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © 19yy name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type 'show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type 'show c' for details.

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items – whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program; if necessary, Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

Exhibit B

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright © 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the “Lesser” General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in nonfree programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a “work based on the library” and a “work that uses the library”. The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called “this License”). Each licensee is addressed as “you”.

A “library” means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The “Library”, below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A “work based on the Library” means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”).

“Source code” for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- The modified work must itself be a software library.
- You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful. (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the

ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License. 12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License

東芝デジタルテレビJ10Xで使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser
General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at
your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the
implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser
General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not,
write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
```

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library “Frob” (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

```
<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice
```

That's all there is to it!

Exhibit C

under an open source software distribution license in 2000.

Copyright (c) 2000-2003 Intel Corporation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither name of Intel Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL INTEL OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit D

Copyright (C) 1998-2004 WIDE Project.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit E

Copyright 2012 jQuery Foundation and other contributors
http://jquery.com/

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit G

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.

59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed. [This is the first released version of the library GPL. It is numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users.

This license, the Library General Public License, applies to some specially designated Free Software Foundation software, and to any other libraries whose authors decide to use it. You can use it for your libraries, too. When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things. To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights.

These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library, or if you modify it. For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link a program with the library, you must provide complete object files to the recipients so that they can relink them with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights. Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library. Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all. Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the Library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a “work based on the library” and a “work that uses the library”. The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called “this License”). Each licensee is addressed as “you”. A “library” means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables. The “Library”, below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A “work based on the Library” means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”). “Source code” for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library. Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library. You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- The modified work must itself be a software library.
- You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful. (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application.

Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.) These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the

Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library. In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices. Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy. This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange. If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the Library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables. When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.) Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications. You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable. It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances. It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice. This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. END OF TERMS AND CONDITIONS

Exhibit H

Portions of this software are copyright (C) <2007> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Exhibit J

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
- Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License -----

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (ey@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscape's SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgment: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publicly available version or derivative of this code cannot be changed, i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

東芝デジタルテレビJ10Xで使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

Exhibit K

Copyright (c) 2004-2011 Sergey Lyubka

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit L

Copyright(c) 2007 - 2012 Realtek Corporation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer, without modification.
2. Redistributions in binary form must reproduce at minimum a disclaimer similar to the "NO WARRANTY" disclaimer below ("Disclaimer") and any redistribution must be conditioned upon including a substantially similar Disclaimer requirement for further binary redistribution.

NO WARRANTY

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Exhibit M

Copyright (c) 2002-2011, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors
All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name(s) of the above-listed copyright holder(s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit N

Copyright (C) 1998, 1999 by Lucent Technologies
All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that the copyright notice and this permission notice and warranty disclaimer appear in supporting documentation, and that the name of Lucent or any of its entities not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

LUCENT DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL LUCENT OR ANY OF ITS ENTITIES BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Exhibit O

Copyright (c) 1983 Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit P

Copyright 1987, 1988, 1989, 1998 The Open Group
Copyright 1987, 1988, 1989 Digital Equipment Corporation
Copyright 1999, 2004, 2008 Keith Packard
Copyright 2000 SuSE, Inc.
Copyright 2000 Keith Packard, member of The XFree86 Project, Inc.
Copyright 2004, 2005, 2007, 2008, 2009, 2010 Red Hat, Inc.
Copyright 2004 Nicholas Miel
Copyright 2005 Lars Knoll & Zack Rusin, Trolltech
Copyright 2005 Trolltech AS
Copyright 2007 Luca Barbato
Copyright 2008 Aaron Plattner, NVIDIA Corporation
Copyright 2008 Rodrigo Kumpera
Copyright 2008 André Tupinambá
Copyright 2008 Mozilla Corporation
Copyright 2008 Frederic Plourde
Copyright 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Copyright 2009, 2010 Nokia Corporation

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice (including the next paragraph) shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit Q

Copyright (c) 2009 Dave Gamble

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit R

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper
Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit S

Copyright (C) 1998-2012 Daniel Vaillard. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit T

Copyright notice for Ecore:

Copyright (C) 2000-2011 Carsten Haitzler and various contributors (see AUTHORS)
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit U

Copyright (C) 2000,2001,2002,2003,2004,2005,2006,2007 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit V

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1995-2014 International Business Machines Corporation and others

All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in supporting documentation.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

Exhibit W

Copyright (c) 2002-2008 Matt Johnston

Portions copyright (c) 2004 Mihnea Stoenescu

All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

さくいん

数字

3次元フレーム超解像	152
4Kノーマル	49
4K倍速モード	153
4Kフル	49
802.11n高速通信機能	132
1080p画質モード	151

アルファベット

A

AVシステム音声設定	109
AVシステム音声入力設定	105
AVシステム音声連動	105
AVシステムのスピーカーで聴く	109
AVシステム連動	105

B

Basic Operations	185
BS・110度CSアンテナ電源供給	158
BS・110度CSアンテナレベル	158

D

DNS設定	133
DTCP-IP対応サーバー	64
DVDファイン	49

E

Eメール録画予約設定	74
------------	----

H

HDMI自動画質モード設定	99
HDMI連動機能	104
HDMI連動設定	105
HDスーパーライブ	49
HDズーム	49

I

IPTV設定	135
IPアドレス設定	132

L

LANハードディスク	119
LANハードディスクの登録	66
LEDエリアコントロール	149

M

MACアドレス	133
MHL対応機器を操作する	102
miniB-CAS (ミニビーカス)カードを挿入する	24
MPEG NR	148

P

PC映像連動	105
PINコード接続(WPS)	31, 130

R

RGBレンジ設定	99
----------	----

U

USBキーボードを接続する	101
USBハードディスクが使用できない	173
USBハードディスク設定	58
USBハードディスクの設定をする	58
USBハードディスクを接続する	57
USBハードディスクを本機に登録する	58

V

Vエンハンサー	148
---------	-----

W

Wake on LAN	69
-------------	----

かな

あ

アーティスト別	124
アイコン一覧	192
明るさ検出	153
明るさセンサー	146
明るさ調整	146
アクセスポイント選択	30, 129
あざやか	145
頭出し再生	82
アドレスを入力してページを見る	139
アルバム別	124
暗証番号削除	164
暗証番号設定	164
アンテナを接続する	25
アンテナを調整する	158

い

イコライザー	155
今すぐニュース	86
今すぐニュース機器の登録	60
今すぐニュース設定	60
今すぐニュース番組登録	41
今すぐニュース番組の登録	60
色あい	146
色エッジ補正	151
色温度	150
色解像度	151
色階調リアライザー	150
色がおかしい	172
色質感リアライザー	149
色の濃さ	146
「インターネット」	138
インターネットに接続する	128

う

上書き録画	78
-------	----

え

映画字幕	49
映画プロ	145
映像、音声、データを切り換える	51
映像が出ない	171
映像信号切換	51
映像の詳細情報を表示させる	51
映像メニュー	145
映像を静止させる	51
閲覧履歴	141
エラーメッセージ	178

お

オーディオ機器で聴く	109
オートボリューム	156
オートメディアプレーヤー	101, 119, 121, 124
「お気に入り」	140
「お気に入り」を削除する	141
お好みの映像メニューを選ぶ	145
お好みの音声に調整する	155
お知らせアイコンが消えない	173
お知らせを見る	183
おすすめ履歴の初期化	118
追っかけ再生	82
お手入れについて	184
音を一時的に消す	34
オフタイマーを使う	54
おまかせ	145
おまかせ録画	81
音楽フォーマット	191

音楽を再生する	124
音声が出ない	172
音声切換	50
音声出力設定	157
音声信号切換	51
音声多重番組で聴きたい音声を選ぶ	50
音声メニュー	154
音多切換	51
音量を調節する	34

か

外部機器を接続する	96
外部機器を電源オン	69
外部入力	46
外部入力自動スキップ	99
外部入力設定	99
外部入力の機能を設定する	99
外部入力表示設定	99
外部連携設定	67
各部のなまえ-前面	18
各部のなまえ-背面	18
各部のなまえ-リモコン	20
過去番組表-週間過去番組表	112
画面が暗い	172
画面サイズ切換	48, 50
画面調整	50
画面の位置や幅を調整する	50
カラーイメージコントロールプロ	150
乾電池を入れる	27
ガンマ調整	149

く

クラウドサービスとネットワークサービス	136
グラフィックスNR	148
黒レベル	146

け

携帯電話やパソコンから録画予約をする	76
ゲイン調整	147
ゲーム	145
原画解像度	148

こ

降雨対応放送	50
コンテンツモード	152
こんな場合は故障ではありません	170

さ

サーバー機能設定	68
再スキャン	159
再生タイムバー	84
再生中のリモコン操作	83
サウンドイコライザー	53
左右振幅調整	50
サラウンド	155
サラウンドメニュー	109
ざんまいスマートアクセス	115

し

シームレス	124
システムスタンバイ	103
システムメンテナンス時間	118
システムメンテナンスの実行	118
視聴予約	71
質感リアライザー	149
室内環境設定	153
指定した日時の番組表を表示させる	39
自動削除設定	87
自動スキャン	159
シネマ4Kシステム	53

字幕を表示させる	34
シャープネス	147
写真	145
写真フォーマット	191
写真を再生する	121
「ジャンル」を追加する	116
週間番組表	39
主画面モード	52
仕様	187
省エネ設定	52
上下画面位置	50
上下振幅調整	50
詳細設定	78
症状で調べる	170
消費電力	187
商標	189
情報を検索する	140
初期スキャン	159
信号フォーマット詳細表示設定	51
親切ヘッドホーン音量	52
親切モード	52

す

スーパーライブ	49
ズーム	49
スカパー！プレミアムサービスLink（録画）	126
スピーカー切換	109

せ

接続ケーブルの種類と画質・音質の関係	97
接続タイプ	131
設定の初期化	167
設定メニュー 一覧	168
節電モードを切り換える	52
選局機能設定	166

そ

操作ガイド	35
操作無効設定	166
双方向サービス	44
ソフトウェアのバージョン	182
ソフトウェアを更新する	182

た

対応機器について	188
ダイナミックNR	148
タイムシフトマシン再生中にできるリモコン操作	114
タイムシフトリンク機能を使う	110
ダビング	92

ち

地上デジタルアンテナレベル	158
地上デジタルチャンネルを自動で設定する	159
地上デジタル放送が映らない	172
地デジ難視対策衛星放送を受信する場合	32
地デジ表示	41
チャプター編集をする	89
チャンネルスキップ設定	161
チャンネル並び順	41
チャンネルをお好みに手動で設定する	160

つ

追跡キーワード	78
追跡基準	78

て

低音強調	155
データ信号切換	51
データ放送終了	44
データ放送の設定をする	162
データ放送やラジオ放送を楽しむ	44

さくいん っづき

データ放送用メモリーの割当画面	163
デジタル放送の種類と特徴	25
デモンストレーション	53
テレビが操作できなくなったとき	170
テレビのスピーカーで聴く	109
テレビ番組を楽しむ	33
テレビ→連動機器電源オフ	105
テレビを設置する	22
電源がはいらない	171
電源を入れる	28
転倒・落下防止のしかた	22
と	
動画の並べ替え	120
動画フォーマット	190
動画を再生する	119
東芝サーバーからダウンロード	182
独立データ放送	44
ドルビー DRC	156
に	
二画面で楽しむ	47
日時を指定して予約をする	73
入力切換	46
入力文字一覧	55
入力文字種	55
ね	
ネットワークサービス	136
ネットワーク情報	133
ネットワーク設定	129
ネットワークメディアコントローラー	127
ネットワークメディアサーバー	64
年間消費電力量	187
の	
ノーマル	49
は	
倍速モード	153
ハイダイナミックレンジ復元	148
「はじめての設定」	29
「はじめての設定」をやり直すとき	32
バックライト	146
早送り再生	83, 114, 120
早見早聞	83, 114, 120
早戻し再生	83, 114, 120
バランス	155
番組概要表示	41
番組検索	85
番組検索(番組を探す)	42
番組情報を見る	37
番組説明を見る	37
番組表	38
番組表-1チャンネル表示とマルチ表示	40
番組表-更新	39
番組表-ジャンル色分け	40
番組表-週間番組表	39
番組表で録画・予約をする	71
番組表-日時切換	39
番組表に内容が表示されない	173
番組表の文字が小さい	173
番組表-番組記号一覧	40
番組表-番組情報の取得	39
番組表-放送メディア切換	41
番組表-文字サイズ変更	40, 112
番組表を便利に使う	39
番組を検索して録画・予約をする	73
番組を並べ替える	88

ひ	
光デジタル音声出力	156
ヒストグラム表示	154
ビデオ音声入力設定	99
表示チャンネル数	41
標準	145
ふ	
フィルムグレイイン抑制	147
副画面ヘッドホーン音量	52
副画面モード	52
付属品を確認する	9
プッシュボタン接続(WPS)	31, 130
ブラウザ制限設定	165
フル	49
プロキシ設定	133
プログレッシブ処理	152
へ	
ベースカラー	150
ヘッドホーンで聴く	52
ヘッドホーン用出力モード	157
便利機能	139
ほ	
ポインターを切り換える	142
放送局からのお知らせ	183
放送時間(連動)	78
放送視聴制限設定	164
ボード	183
ほかのグループに移動する	91
ほかのレグザで再生できない(USBハードディスク)	175
補正レベル	147
本機から起動する機器を登録する	69
本機に関するお知らせ	183
本機の情報	68
本機の特長	2
本機の入出力対応信号	97
本機のリモート電源オン機能を設定する	69
本機のリモコンで対応機器を操作する	106
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき	17
ま	
マイフォルダ	78
マイフォルダの変更	91
マイフォルダ別	90
マイフォルダ名の変更	90
マジックチャプター	60, 78
み	
ミニ番組表	39
む	
無線LAN情報	132
無線LAN設定	131
無線LAN設定の初期化	132
め	
メニュー操作手順の表記について	28
免責事項について	17
も	
文字切換	55
文字スーパー表示設定	162
文字入力モード	55
文字を入力する	55

ゆ

ユーザーカラー.....	151
優先スピーカー.....	105
郵便番号と地域の設定.....	162
ユニカラー.....	149
ユニボリューム.....	109

よ

予約の確認.....	79
予約の動作.....	80
予約の取消し.....	79
予約の変更.....	79
予約・録画の優先順位について.....	80

ら

ライセンス.....	189
ライブプロ.....	145
ラジオ放送.....	44

り

リピート再生.....	88
リモート電源オン設定.....	69
リモコンコード設定.....	166
リモコン設定.....	166
リモコンで操作ができない.....	171
リモコンで番組を選ぶ.....	33
リモコン動作モード.....	105
リモコンの準備をする.....	27
リモコンの使用範囲について.....	27
履歴から選んでページを見る.....	141

る

ルート証明書番号.....	162
---------------	-----

れ

レグザAppsコネクト設定.....	67
レグザ版あんしんねっと設定.....	165
レグザリンク.....	103
レグザリンクダビングの接続・設定.....	62
レジューム再生.....	82
レゾリューションプラス.....	147
レゾリューションプラス設定.....	147
連続ドラマを予約する.....	72
レンドラー機能設定.....	67
連動機器→テレビ電源.....	105
連動機器→テレビ入力切換.....	105
連動データ放送.....	44
連ドラグループ名の変更.....	90
連ドラ予約.....	88

ろ

録画ができない、または録画されなかった.....	174
録画基本設定.....	60
録画再生設定.....	60, 83
録画先.....	78
録画した番組が消えた.....	174
録画した番組を再生する.....	82
録画できる機器と番組.....	56
録画できる時間の目安.....	188
録画番組の修復.....	84
録画番組を消す.....	87
録画番組を保護する.....	87
録画品質.....	78
録画用USBハードディスクの接続をする.....	57
録画予約.....	71
録画・予約機能について.....	56
録画・録音について.....	15
録画を中止するとき.....	70

わ

ワンタッチスキップ.....	83, 114, 120
ワンタッチスキップ設定.....	83
ワンタッチプレイ.....	103
ワンタッチリプレイ.....	83, 114, 120
ワンタッチリプレイ設定.....	83

保証とアフターサービス

必ずお読みください

① 基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご確認

ホームページの<お客様サポート>に、ご確認いただきたい情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

www.toshiba.co.jp/regza/

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

② 商品選びのご相談、お買い上げ後の基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご相談

「東芝テレビご相談センター」【受付時間】365日/9:00~20:00

メモ 形名 製造番号

形名と製造番号は、保証書および本体背面に表示されています。

【一般回線・PHSからのご利用は】（通話料：無料）

フリーダイヤル
0120-97-9674

●IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用にならない場合は、
03-6830-1048（通話料：有料）

【携帯電話からのご利用は】（通話料：有料）

ナビダイヤル
0570-05-5100

【FAXからのご利用は】（通話料：有料）
03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する株式会社東芝を含む東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

修理・お取り扱いについてご不明な点は

お買い上げの販売店にご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、上記の「東芝テレビご相談センター」にご相談ください。

保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
miniB-CASカードは、保証の対象から除きます。

- 保証期間中の故障は、保証書の内容に基づき無料修理となります。無償商品交換ではありません。
- 訪問修理を依頼され、テレビに原因がないと判明した場合は、保証期間中であっても出張料などを申し受けますので、あらかじめご承知おきください。

補修用性能部品の保有期間

- 液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

- 「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

■ご連絡いただきたい内容

品名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ
形名	43J10X、49J10X、55J10X
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等もあわせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入しておくとう便利です。
	TEL() -

廃棄時にご注意願います

- 家電リサイクル法では、ご使用済の液晶テレビを廃棄する場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金（リサイクル料金）をお支払いの上、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。



長年ご使用のテレビの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

ご使用の際
このような症状は
ありませんか？

- 電源を入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源を切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物がはいった。

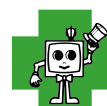
ご使用中

このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。
ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

東芝ライフスタイル株式会社

〒198-8710 東京都青梅市末広町2-9

※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。



ちょっとした
心づかいで
テレビの安全

- 製品に付属されている取扱説明書はモノクロ印刷です。

(TD)O

VX1A00312700

©TOSHIBA LIFESTYLE PRODUCTS & SERVICES CORPORATION 2014